

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第581集

う　の　き　み　な　み　だ　い　ち  
**鶴ノ木南台地遺跡発掘調査報告書**

緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査

2011

岩手県県南広域振興局土木部  
(財)岩手県文化振興事業団

# 鶴ノ木南台地遺跡発掘調査報告書

緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査

## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことの出来ない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、岩手県奥州市水沢区黒石町の緊急地方道路整備事業に関連して平成21年度に発掘調査を実施した、鶴ノ木南台地遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査で本遺跡は、縄文・平安時代には集落が営まれ、中世以降には堀跡が築かれていたことが明らかとなりました。特に縄文時代の捨て場から出土した豊富な遺物は、縄文時代後期初頭～晩期の様相を考える上で貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての关心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県県南広域振興局土木部、奥州市教育委員会、(財)奥州市埋蔵文化財調査センターをはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成23年3月

財團法人 岩手県文化振興事業団

理事長 池田克典

## 例　　言

- 1 本報告書は、岩手県奥州市水沢区黒石町字鶴ノ木 50-3 ほかに所在する鶴ノ木南台地遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、緊急地方道路整備事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県県南広域振興局土木部と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、岩手県県南広域振興局土木部の委託を受けた財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 本遺跡の岩手県遺跡台帳における遺跡コードは、NE27-1248、遺跡略号は UKM-09 である。
- 4 野外調査及び室内整理期間、調査担当者は次のとおりである。

野外調査 期間 平成 21 年 8 月 3 日～10 月 30 日

面 積 1,736m<sup>2</sup>

担当者 北田 熟・小林弘卓

室内整理 期間 平成 21 年 11 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日／北田 熟・小林弘卓

平成 22 年 6 月 1 日～8 月 31 日／北田 熟

- 5 本報告書の作成は、北田・小林が本文原稿、遺構・遺物図化を行った。また、I 調査に至る経過は岩手県県南広域振興局土木部に原稿を依頼した。全体の編集は北田が行った。

- 6 分析・鑑定は、次の機関等に委託した。

石 材 鑑 定………花崗岩研究会

炭 化 材 同 定………本炭協会

放射性炭素年代測定………株式会社加速器分析研究所

テ フ ラ 分 析………株式会社火山灰考古学研究所

黒曜石産地同定分析………株式会社第四紀地質研究所・明治大学文化財研究施設

- 7 座標原点の測量、空中写真撮影は次の機関に委託した。

座 標 原 点 の 测 量………株式会社東開技術

航 空 写 真 摄 影………東邦航空株式会社

- 8 本書では以下の地形図と地質図を使用した。

「1/25,000 地形図 水沢」、「1/50,000 地形図 水沢」（国土地理院）

「東北地方デジタル地質図 3」『建設技術者のための東北地方の地質』（㈱東北建設協会・（独）産業技術総合研究所）承認番号第 60635500-A-20100326-002 号

「地形分類図 水沢」『土地分類基本調査 地形・表層地質・土じょう調査』（経済企画庁）

- 9 野外調査及び本報告書の作成にあたり、次の機関から御指導・ご協力をいただいた（敬称略・五十音順）。

菊池強一（岩手大学非常勤講師）、佐藤良和（財奥州市埋蔵文化財調査センター）

- 10 発掘調査資料は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

- 11 調査成果の一部については、現地説明会資料・平成 21 年度発掘調査報告書（岩垣文第 571 集）等に発表してきたが、本書の記載内容が優先するものである。

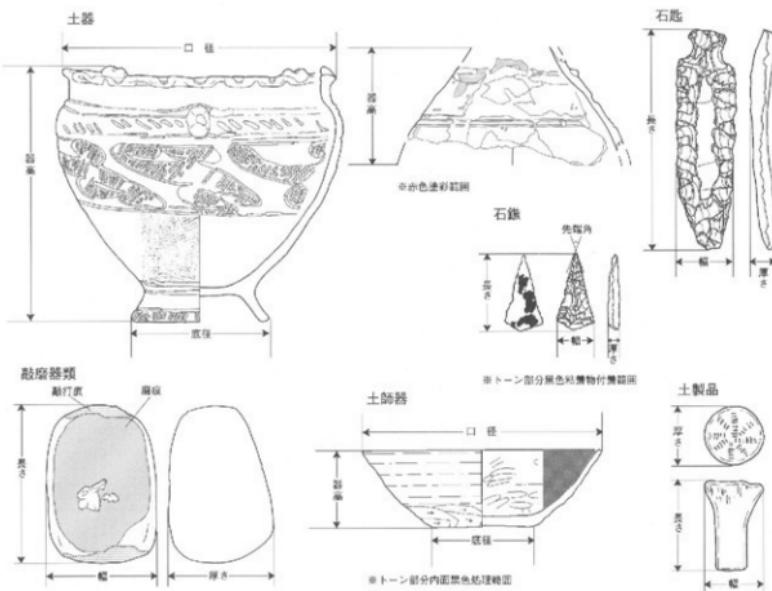
## 凡　例

1 遺構図の用例は次の通りである（凡例図参照）。

- (1) 遺構実測図の縮尺は堅穴住居跡の平面・断面図 1/50、カマド平面・断面図 1/25、土坑・焼上・埋設土器・配石遺構・ピット平面・断面図 1/20 を表した。ただし規模の関係上これに合わないものもあるため、各図版にスケール及び縮尺を付した。
- (2) 推定線は破線で表した。また、遺構同士の切り合いは線種を変えて表現した。
- (3) 層位は、基本層序にローマ数字、各遺構堆積土などにアラビア数字を使用した。
- (4) 土層色調観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。
- (5) 遺構図中の「RP」は土器、「S」は石器または礫、「RC」は炭化物を表している。

2 遺物実測図の用例は次の通りである（凡例図参照）。

- (1) 遺物実測図の縮尺は土器 1/3、石器・土製品・石製品 2/3 で表した。ただしサイズの関係上これに合わないものもあるため、各図版にスケール及び縮尺を付した。
- (2) 土器のうち、須恵器は断面を黒色とした。黒色処理は内外面にスクリーントーンで示した。
- 3 写真図版の用例は次の通りである。
- (1) 遺構写真図版については、基本的に平面及び断面写真をセットとし掲載した。
- (2) 遺物写真図版については、縮尺は基本的に遺物実測図に準じている。



遺物凡例図

## 目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地と環境	1
1 遺跡の位置	1
2 遺跡の地形環境	3
(1) 遺跡の成立過程	3
(2) 調査区と周辺の地形	4
(3) 調査区の層序	6
3 歴史的環境・過去の調査	7
III 調査・整理の方法	10
1 野外調査方法	10
(1) グリッド設定	10
(2) 調査方法	10
(3) 調査経過	10
2 整理方法	13
(1) 遺構の整理	13
(2) 遺物の整理	13
(3) 遺物写真撮影	13
(4) 整理経過	13
3 広報活動	14
IV 検出した遺構と遺物	17
1 全体の概要	17
2 繩文時代	17
(1) 垂穴住居跡	17
(2) 土坑	18
(3) 焼土遺構	18
(4) 墳設土器	20
(5) 配石遺構	22
(6) 遺物包含層	23
3 平安時代	30
(1) 垂穴住居跡	30
(2) 土坑	32
(3) 焼土遺構	32
4 平安時代以降・時期不明	33
(1) 堀跡	33
(2) 柱穴状ピット	33

V	自然科学的分析	143
1	放射性炭素年代測定（AMS 測定）	143
2	火山灰同定分析	146
3	黒曜石産地同定分析（1）	149
4	黒曜石産地同定分析（2）	152
VI	調査のまとめ	158
1	縄文時代	158
2	平安時代	205
3	平安時代以降	205
	報告書抄録	273

## 図版目次

第 1 図 遺跡位置図	2	南区遺物包含層土器 (1)	65
第 2 図 遺跡周辺の地形図 (昭和 38 年調査)	3	南区遺物包含層土器 (2)	66
第 3 図 地質分類図	5	南区遺物包含層土器 (3)	67
第 4 図 地形分類図	5	南区遺物包含層土器 (4)	68
第 5 図 基本層序柱状模式図	6	南区遺物包含層土器 (5)	69
第 6 図 周辺の遺跡図	8	南区遺物包含層土器 (6)	70
第 7 図 遺構配置図 (全体)・グリッド配置図	11	南区遺物包含層土器 (7)	71
第 8 図 遺構配置図 (北区)	15	南区遺物包含層土器 (8)	72
第 9 図 遺構配置図 (南区北側)	16	南区遺物包含層土器 (9)	
第 10 図 3 号竪穴住居跡	34	土器底部 (1)	73
第 11 図 2・3・5 号土坑、1～6 号焼土遺構	35	土器底部 (2)	74
第 12 図 7～13 号焼土遺構、1・2 号壙設土器	36	土器底部 (3)	75
第 13 図 3～9 号埋設土器、1・2 号配石遺構	37	出土石器 (1)	76
第 14 図 遺物包含層平面図・断面ベルト設定図	38	出土石器 (2)	77
第 15 図 北区遺物包含層断面図	39	出土石器 (3)	78
第 16 図 南区遺物包含層断面図	40	出土石器 (4)	79
第 17 図 1 号竪穴住居跡、1 号土坑	41	出土石器 (5)	80
第 18 図 2 号竪穴住居跡	42	出土石器 (6)	81
第 19 図 1 号堀跡	43	出土石器 (7)	82
第 20 図 南区北側柱穴状ビット群	44	出土石器 (8)	83
第 21 図 3 号竪穴住居跡 (1)	45	出土石器 (9)	84
第 22 図 3 号竪穴住居跡 (2)	46	出土石器 (10)	85
第 23 図 3 号竪穴住居跡 (3)、3・5 号土坑、 2・4 号埋設土器	47	出土石器 (11)	86
第 24 図 1・3・5・6 号壙設土器	48	出土石器 (12)	87
第 25 図 7・8 号壙設土器、1・2 号竪穴住居跡、 1 号堀跡 (1)	49	出土石器 (13)	88
第 26 図 1 号掘跡 (2)、9 号埋設土器	50	出土土製品 (1)	89
第 27 図 北区遺物包含層土器 (1)	51	出土土製品 (2)	90
第 28 図 北区遺物包含層土器 (2)	52	出土土製品 (3)	91
第 29 図 北区遺物包含層土器 (3)	53	出土土製品 (4)	92
第 30 図 北区遺物包含層土器 (4)	54	出土土製品 (5)	93
第 31 国 北区遺物包含層土器 (5)	55	出土土製品 (6)	94
第 32 国 北区遺物包含層土器 (6)	56	出土土製品 (7)	95
第 33 国 北区遺物包含層土器 (7)	57	出土土製品 (1)	96
第 34 国 北区遺物包含層土器 (8)	58	出土土製品 (2)	97
第 35 国 北区遺物包含層土器 (9)	59	出土土製品 (3)	98
第 36 国 北区遺物包含層土器 (10)	60	出土土製品 (4)	99
第 37 国 北区遺物包含層土器 (11)	61	1 号竪穴住居跡 (1)	100
第 38 国 北区遺物包含層土器 (12)	62	1 号竪穴住居跡 (2)、1 号土坑、 2 号竪穴住居跡、遺構外遺物	101
第 39 国 北区遺物包含層土器 (13)	63	北区遺物包含層土器個体数分布図	167
第 40 国 北区遺物包含層土器 (14)	64	北区遺物包含層土器出土量分布図	168
第 41 国 北区遺物包含層土器 (15)		南区遺物包含層土器個体数分布図	169
		南区遺物包含層土器出土量分布図	170

第 82 図	土器集成図 (1).....	171
第 83 図	土器集成図 (2).....	172
第 84 図	土器集成図 (3).....	173
第 85 図	土器集成図 (4).....	174
第 86 図	土器集成図 (5).....	175
第 87 図	土器集成図 (6).....	176
第 88 図	土器集成図 (7).....	177
第 89 図	土器集成図 (8).....	178
第 90 図	北区遺物包含層石器個数分布図 .....	182
第 91 図	北区遺物包含層石器重量分布図 .....	183
第 92 図	南区遺物包含層石器個数分布図 .....	184
第 93 図	南区遺物包含層石器重量分布図 .....	185
第 94 図	尖頭器長幅比率 .....	186
第 95 図	石鍛長幅比率 .....	187
第 96 図	石錐長幅比率 .....	188
第 97 図	石匙長幅比率 .....	189
第 98 図	施状石器長幅比率 .....	190
第 99 図	楔形石器長幅比率 .....	191
第 100 図	スクレイバー類長幅比率 .....	192
第 101 図	二次加工ある剥片長幅比率 .....	192
第 102 図	微細剥離痕ある剥片長幅比率 .....	193
第 103 図	石核長幅比率 .....	194
第 104 図	北区遺物包含層剥片個数分布図 .....	195
第 105 図	北区遺物包含層剥片重量分布図 .....	196
第 106 図	南区遺物包含層剥片個数分布図 .....	197
第 107 図	南区遺物包含層剥片重量分布図 .....	198
第 108 図	石斧類長幅比率 .....	199
第 109 図	敲磨器類長幅比率 .....	201
第 110 図	土器片円盤長幅比率 .....	203

## 目 次

第 1 表	周辺の遺跡表 .....	9
第 2 表	柱穴状ビット計測表 .....	44
第 3 表	縄文土器観察表 .....	102
第 4 表	上師器・須恵器観察表 .....	130
第 5 表	尖頭器観察表 .....	132
第 6 表	石錐観察表 .....	132
第 7 表	石錐観察表 .....	133
第 8 表	石匙観察表 .....	133
第 9 表	施状石器観察表 .....	133
第 10 表	楔形石器観察表 .....	134
第 11 表	スクレイバー類観察表 .....	134
第 12 表	二次加工ある剥片観察表 .....	134
第 13 表	微細剥離痕ある剥片観察表 .....	135
第 14 表	石核観察表 .....	135
第 15 表	楔形石器観察表 .....	135
第 16 表	石斧類観察表 .....	135
第 17 表	蝶器類観察表 .....	136
第 18 表	敲磨器類観察表 .....	136
第 19 表	砥石観察表 .....	136
第 20 表	石錘観察表 .....	136
第 21 表	石皿台石類観察表 .....	137
第 22 表	土製品観察表 .....	137
第 23 表	石棒類観察表 .....	140
第 24 表	独鈆状石器観察表 .....	140
第 25 表	有孔石製品観察表 .....	140
第 26 表	不明石製品観察表 .....	140
第 27 表	円盤状石製品観察表 .....	141
第 28 表	板状石器観察表 .....	141
第 29 表	球石観察表 .....	141
第 30 表	石器石材分類別組成表 .....	181
第 31 表	尖頭器分類別石材表 .....	186
第 32 表	尖頭器分類別先端角集計表 .....	186
第 33 表	石鍛分類別先端角集計表 .....	187
第 34 表	石鍛分類別石材表 .....	188
第 35 表	石錐分類別先端角集計表 .....	189
第 36 表	石錐分類別石材表 .....	189
第 37 表	石匙分類別石材表 .....	190
第 38 表	施状石器分類別石材表 .....	190
第 39 表	楔形石器分類別石材表 .....	191
第 40 表	スクレイバー類分類別石材表 .....	191
第 41 表	二次加工ある剥片分類別石材表 .....	193
第 42 表	微細剥離痕ある剥片分類別石材表 .....	193
第 43 表	石核分類別石材表 .....	194
第 44 表	石斧類分類別石材表 .....	200
第 45 表	蝶器類分類別石材表 .....	200
第 46 表	敲磨器類分類別石材表 .....	201
第 47 表	石皿台石類分類別石材表 .....	202

## 写真図版目次

写真図版 1	航空写真	211	写真図版 30	北区遺物包含層出土土器 (7) …	240
写真図版 2	遺跡近景、北区遺物包含層	212	写真図版 31	北区遺物包含層出土土器 (8) …	241
写真図版 3	3号竪穴住居跡	213	写真図版 32	北区遺物包含層出土土器 (9) …	242
写真図版 4	2～5号土坑、2号焼土遺構	214	写真図版 33	北区遺物包含層出土土器 (10) …	243
写真図版 5	3～6号焼土遺構	215	写真図版 34	北区遺物包含層出土土器 (11) …	244
写真図版 6	7～10号焼土遺構	216	写真図版 35	北区遺物包含層出土土器 (12) …	245
写真図版 7	11～13号焼土遺構、 1号埋設土器	217	写真図版 36	北区遺物包含層出土土器 (13) …	246
写真図版 8	2～5号埋設土器	218	写真図版 37	北区遺物包含層出土土器 (14)、 南区遺物包含層出土土器 (1) …	247
写真図版 9	6～9号埋設土器	219	写真図版 38	南区遺物包含層出土土器 (2) …	248
写真図版 10	1・2号配石遺構、作業風景、 現地公開風景	220	写真図版 39	南区遺物包含層出土土器 (3) …	249
写真図版 11	北区遺物包含層 (1)	221	写真図版 40	南区遺物包含層出土土器 (4) …	250
写真図版 12	北区遺物包含層 (2)	222	写真図版 41	南区遺物包含層出土土器 (5) …	251
写真図版 13	北区遺物包含層 (3)	223	写真図版 42	南区遺物包含層出土土器 (6) …	252
写真図版 14	南区遺物包含層 (1)	224	写真図版 43	南区遺物包含層出土土器 (7)、 土器底部 (1) …	253
写真図版 15	南区遺物包含層 (2)	225	写真図版 44	南区遺物包含層出土土器 (8)、 土器底部 (2) …	254
写真図版 16	遺物包含層出土狀況、 1号焼土遺構	226	写真図版 45	土器底部 (3) …	255
写真図版 17	1号竪穴住居跡 (1)	227	写真図版 46	上器底部 (4)、出土石器 (1)	256
写真図版 18	1号竪穴住居跡 (2)、1号土坑	228	写真図版 47	出土石器 (2) …	257
写真図版 19	2号竪穴住居跡 (1)	229	写真図版 48	出土石器 (3) …	258
写真図版 20	2号竪穴住居跡 (2)、1号廻跡、 南区南側ピット群	230	写真図版 49	出土石器 (4) …	259
写真図版 21	3号竪穴住居跡出土遺物 (1)	231	写真図版 50	出土石器 (5) …	260
写真図版 22	3号竪穴住居跡 (2)、3・5号土坑、 2・3号埋設土器出土遺物	232	写真図版 51	出土石器 (6) …	261
写真図版 23	1・4号埋設土器、 1・2号竪穴住居跡、 1号廻跡出土遺物	233	写真図版 52	出土石器 (7) …	262
写真図版 24	5～7号埋設土器出土遺物、 北区遺物包含層出土土器 (1)	234	写真図版 53	出土石器 (8)、出土土製品 (1)	263
写真図版 25	8号埋設土器、 北区遺物包含層出土土器 (2)	235	写真図版 54	出土土製品 (2) …	264
写真図版 26	9号埋設土器、 北区遺物包含層出土土器 (3)	236	写真図版 55	出土土製品 (3) …	265
写真図版 27	北区遺物包含層出土土器 (4)	237	写真図版 56	出土土製品 (4) …	266
写真図版 28	北区遺物包含層出土土器 (5)	238	写真図版 57	出土土製品 (5)、 出土石製品 (1) …	267
写真図版 29	北区遺物包含層出土土器 (6)	239	写真図版 58	出土石製品 (2) …	268
			写真図版 59	出土石製品 (3)、 1号竪穴住居跡出土遺物 (1)	269
			写真図版 60	1号竪穴住居跡出土遺物 (2)	270
			写真図版 61	1号竪穴住居跡出土遺物 (3)、 1号土坑、2号竪穴住居跡、 遺構外出土遺物	271

## I 調査に至る経過

鶴ノ木南台地遺跡は、「緊急地方道路整備事業黒石工区」の歩道設置工事に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

本路線は、一関市を起点とし奥州市を経由し、北上市に至る主要幹線道路であり、国道4号を補完する路線である。事業対象地域である「黒石工区」は、奥州市立羽田小学校に通学する児童の通学路や地元住民の生活道路として利用されているが、大型車交通量が多く道路の見通しも悪いため非常に危険な状況となっている。また橋梁には歩道がなく、新設から50年以上経過し老朽化も著しく補修も困難なため、歩行者・自動車共に危険な状況にさらされている。このため、歩道整備、橋梁新設、線形改良を行い、通学児童、地区住民、通行車両の安全を確保することを目的に事業着手したものである。

当事業の施工に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、県南広域振興局土木部から平成20年4月8日付県南広上第106号「埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成20年5月20日および平成20年6月5日に試掘調査を実施し、工事に着手するには鶴ノ木南台地遺跡（試掘調査時点では鶴ノ木浜遺跡）の発掘調査が必要となる旨を平成20年6月18日付教生第406号「緊急地方道路整備事業における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により回答があった。

その回答を踏まえて岩手県教育委員会と協議を行い、平成21年7月10日付けで財團法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（岩手県県南広域振興局土木部）

## II 遺跡の立地・環境

### 1 遺跡の位置

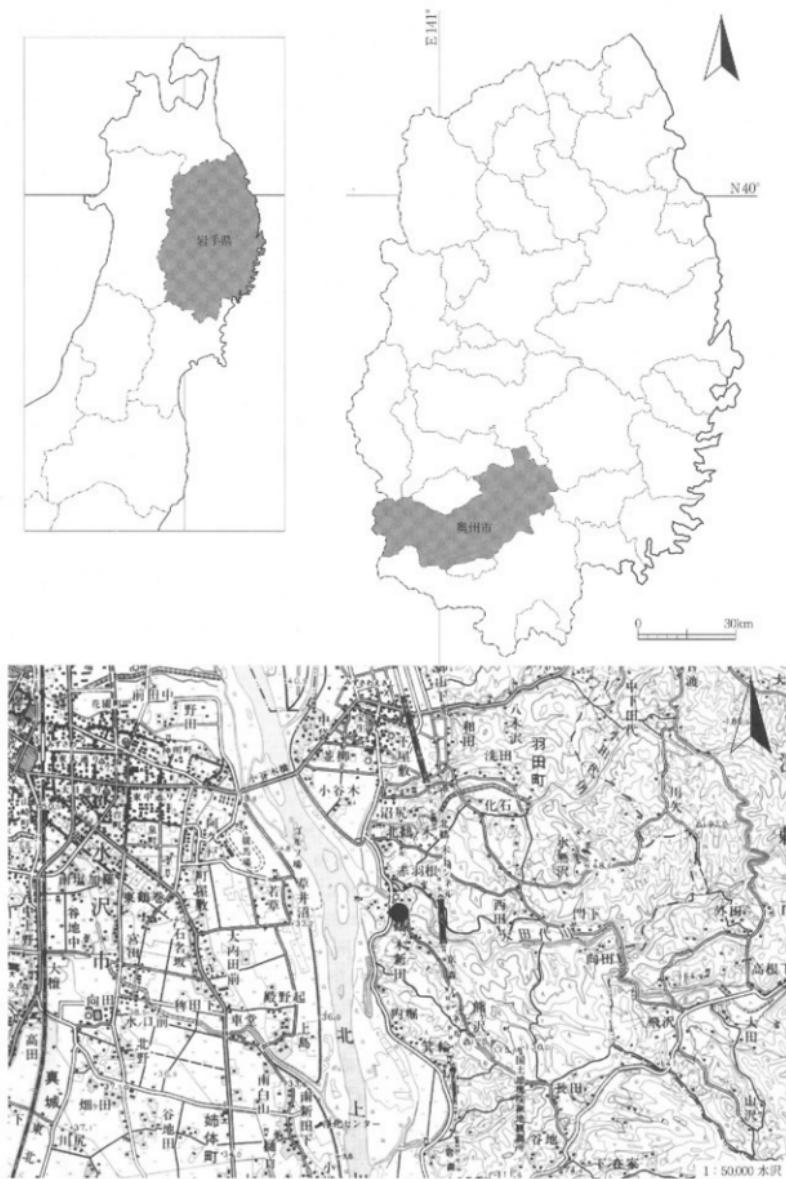
鶴ノ木南台地遺跡は、岩手県奥州市水沢区黒石町字鶴ノ木50-3に所在し、国土地理院発行50,000分の1地形図「水沢」の図幅に含まれ、北緯39度07分28秒、東經141度11分16秒に位置する。

遺跡は、奥州市役所水沢総合支所の南東約4.9kmの場所にあり、大田代川によって開析された河岸段丘の低位面に立地している。標高は34m前後、現況は宅地であり、ほぼ平坦な地形である。

奥州市は岩手県の内陸南部に位置している。現在の奥州市は平成18(2006)年2月20日に、水沢市・江刺市・胆沢町・前沢町・衣川村の2市2町1村が合併し誕生した。奥州市の総面積は993.35km<sup>2</sup>と広大で、東西は約57km、南北は約37kmある。土地利用の状況は、総面積のうち44.1%が山林、次いで水田が17.7%、畑が4.8%、宅地が3.5%となっており、岩手県内で見れば農地の割合が高く、稲作を中心とした複合型農業により、県内屈指の農業地帯である。人口は13万171人（平成17年国勢調査）で、岩手県全体の9.4%を占めている（奥州市HPから引用）。

奥州市の中でも本遺跡の所在する水沢区（旧水沢市）はほぼ中央に位置し、面積96.92km<sup>2</sup>、人口は6万239人（平成17年国勢調査）が多い。北側は北上市、東側は江刺区（旧江刺市）、南側は一関市、

1 遺跡の位置



第1図 遺跡位置図

西側は胆沢区（旧胆沢町）・前沢区（旧前沢町）と隣接している。遺跡は黒石町の北端、赤羽橋の袂に位置し、調査区北側を西流する大田代川を境に北側は羽田町となる。

## 2 遺跡の地形環境

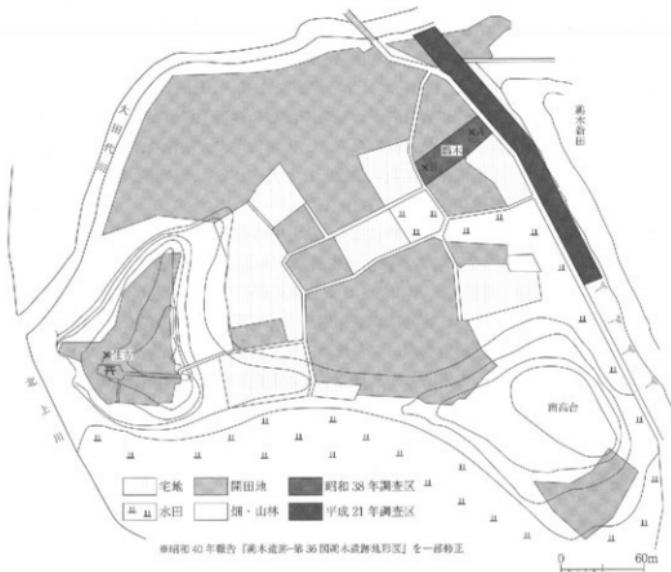
### （1） 遺跡の成立過程

北上低地帯は、東の北上山地と西の奥羽山脈との間に形成された南北約90kmの低地帯で、ここを北上川がほぼ北から南へ流下している。低地帯の東西幅は約10~20kmであり、北上川中流域の奥州市水沢区付近から南方では平地は狭小となる傾向にある。

低地帯の中には数段の河成段丘面が認められるが、それらの大部分は奥羽山脈から流下する諸河川が形成した扇状地性の河岸段丘面である。これらの影響により、胆沢扇状地周辺では、北上川の流路が奥羽山脈から流入する支流河川に押しあられるように、低地帯東縁に片寄っている（渡辺2005）。

また、花巻東方から水沢東方までの北上山地西縁域はとくに標高が低く、標高300m以下で、北上川東岸丘陵を呈している。この丘陵は深層まで風化した花崗岩を主とする基盤岩と、それを不整合に覆う中新世の火山岩・火碎岩がつくる低い山地と、その間を埋める亜炭層をはさむ鮮新世非海成砂泥層がつくるなどらかな丘陵からなる（鎮西2005）。

本遺跡は上記の低地帯東縁に偏った北上川本流が形成した河成段丘面（L1~2面）の左岸にあり、北上川東岸丘陵から西流する大田代川によって開析された北向きの緩斜面地に立地している。標高は約30~37mと低く、旧沢跡が確認された北区北側は大田代川の河床面とほぼ同じ標高となる。



第2図 遺跡周辺の地形図（昭和38年調査）

遺跡周辺の地質を観察すると（第3図）、遺跡が所在する箇所は中新世～鮮新世に形成された堆積物・堆積岩に区分される砂・砂岩に覆われており、また大田代川流域は変成岩類片岩が認められている。北上川流域は沖積層として区分される。

小池一之・田村俊和・鎮西清高・宮城豊彦編 2005 「日本の地形3 東北」 緯三秀舎  
 鎮西清高 2005 「3-2 北上山地西縁部の丘陵地」『日本の地形3 東北』 緯三秀舎  
 渡辺清久 2005 「3-3 北上低地帯の扇状地面群」『日本の地形3 東北』 緯三秀舎  
 北東北建設協会・(独)産業技術総合研究所 2006 「東北地方デジタル地質図3」建設技術者のための東北地方の地質

## （2）調査区と周辺の地形

調査区の現況は宅地及び畑地、県道法面である。宅地部分は県道14号脇で平坦となっており、調査区の大部分を占める。大田代川側の北区は盛土、南区北側は切土後に盛土が成されている。畑地部分は南区南端に一部あり、宅地部分よりも一段上位の段丘面の縁辺で、元来段丘崖であったと見られるが、県道抜幅の際にさらに開削されたものと考えられる。県道法面も同様で、県道抜幅の際に開削された部分と工事により残地となった部分であるが、元米谷地形であり、V字状の急斜面であったと考えられる。谷部は北側の大田代川まで続いており、現況の宅地部分は北向きの緩斜面を形成していたと思われる。

現表土を除去し残存した旧地形を観察すると、宅地があった平坦部では7B区付近が最も標高が高く、南には緩傾斜、北には急傾斜となる。特に大田代川に接する3B・C区付近では崖状となり、急激に標高が下がる地形となる。

東から下る市道と同方向には旧沢が流れていたと考えられる。旧沢跡は3B・C区で確認された。走向は北西～南東方向である。旧沢跡は縄文時代晚期～平安時代中期の間には幅6～7mの沢を形成していたが、洪水など水の影響で南側の斜面が崩落を繰り返した。平安時代中期に至り、十和田の噴火によって流入した十和田a火山灰（To-a テフラ）が沢底に40～70cmほど二次堆積した。これにより沢は大半が埋没したが、平安時代以降も若干の崩落や堆積の掘削上の堆積などを繰り返しながらも小沢として機能したと考えられる。中世以降になると、大田代川の大規模な氾濫により一度に大量的の土砂が流入した。これにより、旧沢跡は完全に埋没したと見られる。その後も自然流入土と氾濫による水成堆積土の堆積が進み、造構全体は埋没した。

奥州市水沢区黒石町や羽田町付近は地形的に低く、北上川の支流である人首川や伊手川、大田代川、小田代川が合流するため、逆流などにより度々洪水被害がある。近年の例では1947（昭和22）年9月のカスリーン台風や1948（昭和23）年のアイオン台風の際には北上川及び支流が氾濫し、大規模な洪水被害をもたらしたそうである。当時は調査区周辺まで氾濫し、舟で救助などを行ったと聞いた。

また、縄文時代に形成された遺物包含層には多量の人頭大の花崗岩礫が含まれていた。礫はⅢa～d層まで含まれており流入したものもあるが、確認される範囲が川側の急斜面に限定的であるため、大半は人為的に廃棄されたものと考えられる。調査区の南東は河岸段丘面の変換点であり、段丘崖が存在することから、ここから産出したものが多いと見られる。

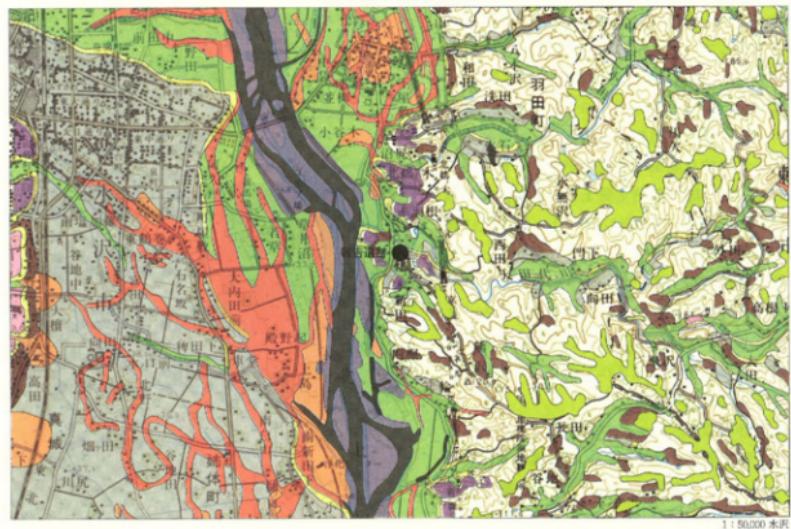
## （3）調査区の層序

本遺跡全体の基本層序は、以下の通りである。第5図に基本層序柱状模式図を示した。

I層 表土（耕作土・宅地造成土・盛土） 30～200cm



第3図 地質分類図



第4図 地形分類図

II 層 暗褐色土	20cm	上面は平安時代の遺構検出面
III a 層 碳化黒色土	20cm	遺物包含層（縄文晩期中～後葉主体）
III b 層 碳化黒褐色土	60～90cm	遺物包含層（縄文後期前～後葉主体）
III c 層 暗褐色土	10～20cm	遺物包含層（縄文後期初頭主体）
III d 層 碳化黒褐色粘土	30～50cm	遺物包含層（縄文早期中葉～前期前葉主体）
IV 層 黄褐色粘土	層厚不明	地山
V 層 砂礫	層厚不明	地山

I 層は畑地の耕作土や宅地を造成・撤去した際の擾乱土、北区埋め立てに用いられた岩砾による盛土（新幹線北鶴ノ木トンネル工事の際に出た岩盤掘削土）である。北区盛土は層厚 150～200cm 以上敷き詰められており、現況からは旧地形は全く確認できない。また、中世以前の検出面まではさらに北区北側のみに堆積する河川堆積層（層厚 50～150cm）である砂～砂質土を除去しなければならない状況であった。

II 層褐色土は 1 号竪穴住居跡周辺に残存するもので、主に平安時代の遺物を含む。本来は遺跡全体に形成されていたと思われるが、後世の擾乱や流出により南向きにやや傾斜する 9・10 区付近に残存したものと考えられる。

III 層は黒色～黒褐色主体で、縄文時代の遺物包含層として確認されたものである。III a～d 層の計 4 層に細分される。

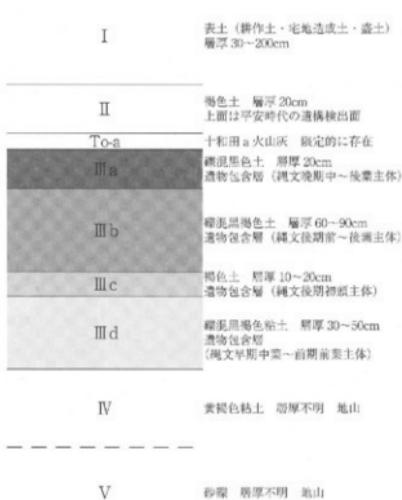
III a 層は 5～10cm 大の亜角礫を多量に含む黒～黒褐色土で、北区南側の一部と南区中央～北側に認められた。層厚は約 20cm で、主に縄文時代後期中～後葉の遺物を包含している。

III b 層は 5～30cm 大の亜角礫を多量に含む黒褐色土で、調査区全域に認められた。層厚は 60～90cm で、主に縄文時代後期前葉～後葉の遺物を包含している。川側の北区は特に礫の含有が著しく、堆積土より多い状態が確認された。これらの礫は流入したものもあるが、これだけの量がすべて自然に堆積したとは考えにくく、人為的な廃棄の可能性が考えられる。

III c 層は暗褐色粘土質土で、北区南側のみに認められた。層厚は 10～20cm で、主に縄文時代後期初頭の遺物を包含している。本層位は黒褐色を主体とする上下層とは不整合であり、人為的に整地された可能性もある。北区で検出した 7・9・10・12・13 号焼土遺構は本層位上面に形成されており、同時期に帰属すると考えられる。

III d 層は 5～20cm 大の亜円礫を多量に含む黒～黒褐色粘土質土で、北区南側のみに認められた。層厚は 30～50cm で、主に縄文時代早期中葉～前期前葉の遺物を包含している。

III d 層上位の黒色粘土は北区南西端に限定され、下位層よりも遺物を多く含有する。また、



第 5 図 基本層序柱状模式図

III d 層は遺物の出土は上位に集中しており、下位はほとんど認められなかった。

IV 層は黄褐色粘土で、調査区の大半で確認される。本層位に至ると遺構・遺物は確認されないため、最終遺構検出面と考えられる。層厚は不明であるが、沢跡付近では約 50cm 認められた。IV 層が希薄な南区北側～中央には下位層の V 層砂礫が確認されている。

V 層は砂礫層で、北区沢跡底面や南区北側～中央、開削された県道法面などで認められた。層厚は不明で、段丘崖の状況から下位に岩盤層があると考えられる。堆積は水平ではなく、南区北側のように IV 層と交互に露出する箇所も確認されている。

また、上述の基本層位には記さなかったが、標高の低い旧沢跡や 1 号竪穴住居跡堆積土からは限定的に十和田 a 火山灰 (To-a テフラ) の堆積が確認されている。詳細は V-2 火山灰同定分析に譲るが、旧沢跡からは二次的に水成堆積した火山灰が 40～70cm の厚さで確認されている。降下した層位は、1 号竪穴住居跡に II 層起源土がある程度堆積した後であることから、II 层上面に捉えられる。

### 3 歴史的環境・過去の調査

岩手県遺跡台帳(平成 20 年 12 月 31 日)によると、奥州市水沢区には 326 箇所の遺跡が登録されている。

その中で、第 6 図の図幅に含まれる計 60 箇所を掲載した。遺跡の立地を概観すると、中央を南流する北上川の東西によって様相を異にする。北上川の西側は北上低地帯の一部で、広大な段丘群を形成する胆沢扇状地が広がっている。遺跡は水沢段丘の高位面に多く立地しており、姉町周辺には平安時代の遺跡を主体に認められる。また、佐倉河周辺の平安時代の遺跡は、水沢段丘の低位面を臨む段丘縁辺部に立地する傾向が見られ、段丘崖を境界として高位面や低位面の微高地に居住域、低位面に生産域を有する土地利用が看取される (岩垣文 2006)。高位面縁辺部に立地する杉の堂遺跡は縄文時代晩期の集落跡として著名である。

一方、北上川の東側は北上山地の西縁が迫り、丘陵を呈しているため西側のような平坦面は極僅かである。遺跡の多くは標高 100 m 以下の緩斜面地に立地することが多い傾向にあり、特に水沢段丘高位面と近い標高値である 30～40 m 付近の沖積低地に面する箇所に密集している。これよりもやや標高があり、見通しの良い南向きの場所には中世城館が占地している。

また、大田代川流域には遺跡が密集成しておらず、縄文時代の鵜ノ木住吉遺跡や鵜ノ木新田遺跡、鵜ノ木新田上遺跡、日坂森遺跡、日坂森東遺跡、中世の鵜ノ木館跡、梵沢館跡、黒田助城跡、鵜ノ木新田法師塚などがある。

本遺跡及び隣接する鵜ノ木住吉遺跡は昭和 38 年 10 月下旬～11 月中旬に水沢市教育委員会主体で調査が行われている (水沢市教委 1965)。調査担当者は草間俊一・伊藤鉄夫・及川二男・菊池郁雄によって行われた。

鵜ノ木南台地遺跡は鵜木遺跡及び鵜ノ木南高台遺跡の 2 遺跡として報告されており、後に遺跡範囲拡大として本遺跡に統合されている。

鵜木遺跡の調査では、縄文時代後期及び晩期 2 枚の遺物包含層が確認されている。層厚約 25cm の黒褐色土の第 2 層からは縄文時代晩期の遺物が出土し、完形土器や復元可能な土器が含まれていた。縄文土器は大洞 B 式を中心で、西側に至ると大洞 C2 式、大洞 A 式が認められた。その他に各種石器、土偶・土版などの土製品、石棒類・石製円盤など石製品も多量に出土している。また、層厚 30cm の暗褐色土の第 3 層からは縄文時代後期の宝ヶ峯式期と思われる遺物が出土している。また、平安時代の住居跡も 1 棟確認されており、ロクロ成形の土師器や須恵器が出土している。鵜ノ木南高台遺跡で



第6図 周辺の遺跡図

表1 周辺の遺跡

は詳細な調査は行われずに表面採集のみ行われており、弥生時代前期の遺物が少量出土している。

岩手県 2007 『岩手県遺跡台帳』

岩垣文 2006 『杉の堂遺跡第13次調査・跡呂井遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第473集

永沢市教育委員会 1965 『水沢の原始・古代遺跡 外浦・中島・鰐木三遺跡調査報告』

### III 調査・整理の方法

#### 1 野外調査方法

##### (1) グリッド設定

鶴ノ木南台地遺跡の調査区域は北から南の直線上に約185m、幅4~35mで、道路幅分（2車線+歩道分）の帯状の形状を呈している。このうち、北区と南区の間に市道2車線分が通っている。

グリッドは調査区が南北に長い形状のため、調査区全域をカバー出来るように長方形に設定した。大グリッド（10×10m）は南北方向に算用数字1~19、東西方向にアルファベット大文字A~Dである。また、小グリッドは大グリッドを2×2mで25分割し、北西隅を起点として、東西方向に1~5・6~10・11~15・16~20・21~25とした（例：1 A 1 グリッド）。なお、基準点の成果値は第7図の通りである。

##### (2) 調査方法

調査方法については、大型遺構の調査は四分法で、その他の遺構については原則的に二分法で行い、それぞれ堆積土層観察用のセクションベルトを設け、土層を観察しながら精査を進めた。この際、土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の完掘状況を中心に戸別撮影及び実測を随時行った。実測はCUBIC社製造構実測ソフト「遺構くん」を用いて光波トランシットによる測量を行った。

遺跡・遺構・現場出土遺物の写真撮影については、キヤノンEOS 5D（デジタルカメラ・1200万画素）とニコンFM2（35mmモノクローム）、中判マミヤ6×4.5cm（モノクローム）を使用した。また、平成21年10月25日には調査区域全体の航空写真撮影を実施した。

遺構実測図の縮尺は1/20を基本としたが、堀跡は1/50、微細図は1/10、その他の遺構や土層断面なども種類や規模により1/50、1/100などの縮尺を用いて遺構実測図（第一原図）を作成した。なお調査の進行上、土層断面の写真や実測を省略し、状態の記録や計測等のみに留めた遺構もある。

遺物の取り上げ方は、遺構内出土分については出土遺構名と出土層位を記した。遺物包含層出土分はグリッドと出土層位を記し、1A1・Ⅲ a層上位などを記入して取り上げた。ただし1層現表土出土及び表採は大グリッドのみのものもある。

##### (3) 調査経過

調査は調査の進行上、市道より北側を北区、南側を南区として設定した。

8月3日から調査を開始した。調査区の大半が県道に面しているため、調査に先立って草刈り・砂石敷き・防護柵設置など安全対策を実施した。調査は委託者との現地会議の際に北区から着手することを要望されていた。これに合わせて、北区の雑物撤去・試掘・表土除去作業を進めていたが8月6日に東北電力水沢営業所が来跡し、北区北東隅にある電柱を8月21日に移設撤去したい旨を申し受け、



第7図 遺構配置図(全体)・グリッド配置図

再度確認し電柱移設を優先することになった。このため、北区表土除去は調査区東側に工事車両が進入する分を確保した上で8月21日までの期間、一時中断し南区の表土除去に着手した。また、県道14号の路面東端にNTT光ケーブルが埋設されていることを伝えられていたことから、8月4日にNTT立会で埋設位置の確認を行っている。調査の障害になる可能性があり、懸念されたが廃線となっていることが確認された。加えて、南区中央の11区付近と県道脇に水道管が埋設されているため、8月11日・19日に奥州市水道部の立会を行って頂き、詳細な位置の確認を行っている。11区の水道管は現在も住宅引き込みに使用しているため、周囲の調査に留める形を取った。北区は電柱移設が8月21日にあるため、工事車両進入路を残してその他は盛土を除去した。北区は盛土除去した部分にトレーナーを設定して検出面を確認したところ、北側は河川堆積物1~1.5m下の黒色~暗褐色土中に縄文時代の遺物を確認し、南側は縄文後期~晩期の遺物包含層を検出し、多量の遺物が認められた。この時点で、予想を超える土量と遺物量となる可能性が確認された。当初は北区調査を終了後、南区の排土場とする予定であったが困難となり、隣接地に排土場が確保できないことから全排土を約1.3km離れた北鶴ノ木の排土仮置き場に搬出することとなった。

狭小な調査区のため、北区及び南区北側の表土除去・運搬を重機で行っている間、人員は南区南側斜面及び南端畠地部分の調査を行った。斜面部分は傾斜60度ほどで下に通路・排土場が確保できないため困難を極めた。すぐ下は県道となり車の往来が著しい。斜面に3箇所のトレーナーを設定した。各トレーナーは多量の礫が混入する黒褐色土で覆われており、層厚60~100cmの深さがある。礫混黒褐色土の直下は岩盤となり、遺構・遺物は確認されなかった。この部分は県道14号工事の際に開削された箇所と考えられ、写真記録のみで調査を終了した。南端は民家入口部分となり重機の使用が出来ないことから、人力による表土除去を行った。層厚20~30cmの表土直下にⅣ層地山面が認められた。当初、住居状の黒褐色プランがあり遺構と思われたが、精査の結果、ゴミ坑や工事の際の掘削など現代の擾乱であることが確認された。

8月24日から南区北半の精査を開始した。Ⅲa層上面で遺構検出を行ったところ、10B区で1号竪穴住居跡、7B区で2号竪穴住居跡を検出した。検出から南区の北半区域も縄文時代の遺物包含層に覆われていることが分かり、平安時代の竪穴住居跡2棟の精査とトレーナーによる包含層の層厚・層序の確認に着手した。8月27日には中断していた北区の表土除去が終了した。

遺物包含層の層厚・層序の確認作業は北区・南区ともに9月4日まで行った。この結果、南区の層厚は30~60cm、北区の層厚は1m以上掘削しても地山に到達しなかった(最終的に約1.5mまで到達)。層序は南区で計2層(Ⅲa・b)、北区で計4層(Ⅲa~d)が確認された。また、南区北側は河川堆積による砂や砂質土が1.5~2m前後堆積していることが分かった。旧地形は旧沢跡に向かって急激に落ち込んでいると考えられたため、9月8~11日の期間内で度重複により掘り下げ作業を行った。その後は北区・南区遺物包含層掘削、各遺構精査を継続。9月17日13~15時に現地公開を実施し、一般の方73名が参加して頂いた。9月28日(月)9時から県生涯学習文化課・県南広域振興局土木部・当センターによる三者協議を行い、予想を上回る遺物量であることから調査を1ヶ月延長し、10月末までとされた。この間に、工事着工時期から北区を10月16日に引き渡すことになった。これを受けて、10月前半は北区を中心に包含層精査を進めた。北区は10月7日までに掘削、15日までに断面精査・ベルト除去を終了した。10月16日15時から北区の部分終了確認を行った。10月後半は南区の包含層精査を中心に進め、10月22日16時15分~終了確認を行った。終了確認後、10月23~30日に埋め戻し作業を行った。精査は10月28日で終了し、10月29日に撤収、10月30日にすべての調査を終了した。

## 2 整理方法

### (1) 遺構の整理

遺構は現場で図化してきた遺構図データを元に、註記や遺構の切り合い、配置などを検討しながら担当調査員が遺構ごとに修正データを作成し、レイアウトを行った。

遺構図版は時代ごとに堅穴住居跡、土坑、焼土遺構、土器埋設遺構、配石遺構、遺物包含層、掘跡、ピット群の順で掲載した。遺構名は現場段階で命名しており、登録抹消となった場合は欠番としている。

### (2) 遺物の整理

遺物は種類ごとに大別し、掲載遺物・要観察遺物を選別した上で登録番号を付けた。登録番号は整理で混乱が起きないよう、種類別に百・千番台の番号とした。

縄文土器・土師器 5001～・石器 7001～・土製品 6001～・石製品 9001～・炭化物・種実

本報告書掲載にあたっては、これらに掲載番号を付し、図版番号・写真図版番号も合わせて記載している。観察表の（ ）内数値は残存値、〔 〕内数値は推定値である。

土器は水洗乾燥後、縄文土器・土師器に仕分けし、収納袋ごとに破片数及び重量計測を行った。次に註記、遺構・層位・グリッドごとに仕分けを行い、接合作業を行った。その後、復元作業、掲載遺物の選別、登録、実測、拓影、トレス、写真撮影といった手順で行った。土器は完形に復元できたものが少ないため、口縁・底部について残存率を観察表に示した（完形を 100% とし、5% 刻みで表したもの）。

掲載土器は、遺構内出土は遺構帰属時期決定のため細片でも登録した。遺構外出土は種類・器種別に仕分けした上で、器形を推定できるものを優先して掲載した。底部外面に糸切り痕など痕跡がある場合は拓影を作成し、掲載した。

石器は、水洗・註記を行った後、担当調査員が全点を観察し、分類・計測・登録作業を行い、一覧表を作成した。その後、分類ごとに代表的な形状を抽出して掲載した。

土製品は、登録した遺物すべてについて図化または拓影し、掲載した。

石製品は、登録した遺物について可能な限り図化を行い、掲載した。

炭化物は、肉眼による炭化物同定用にサンプルを持ち帰り、同定した種類のみを記載した。

### (3) 遺物写真撮影

遺物写真是、当センター写場にて写真技師岩間和幸が撮影を行った。撮影にはデジタルカメラ(EOS 1ds)を使用した。

### (4) 整理経過

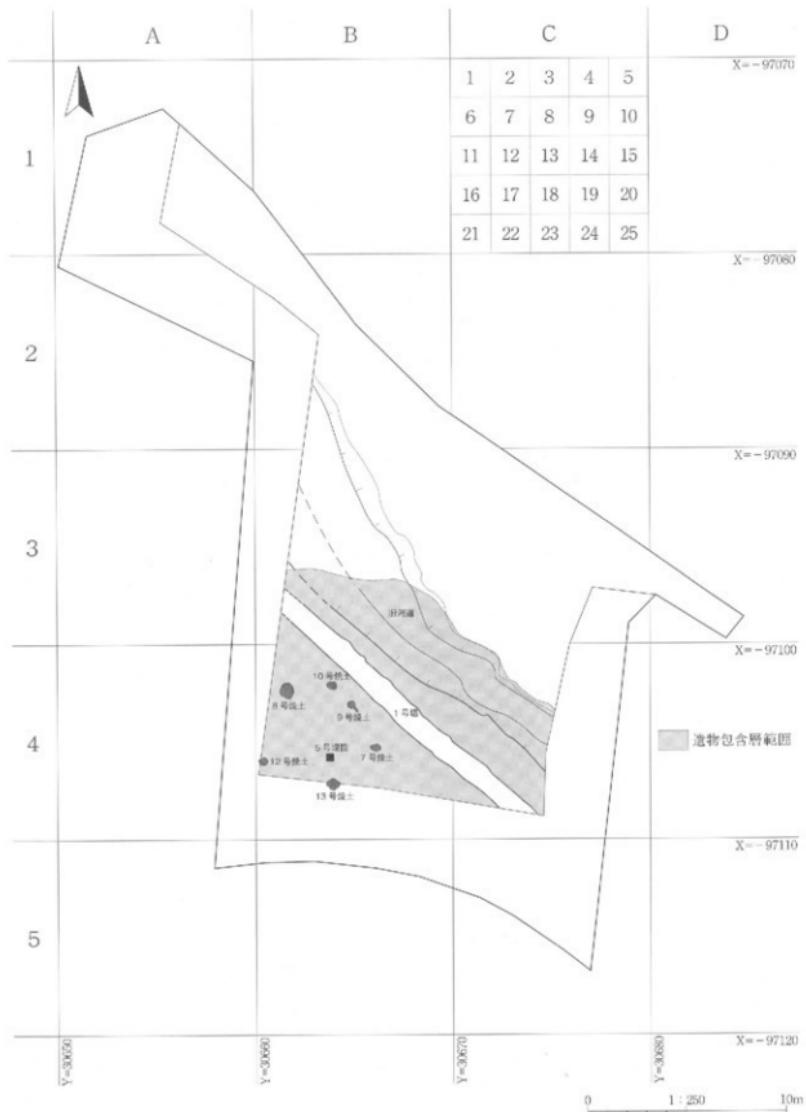
平成 21 年 11 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日、平成 22 年 6 月 1 日～8 月 31 日の期間で室内整理作業を行った。冬場は 6 人体制、夏場は 5 人体制で行った。冬場の作業は、遺物洗浄・註記・接合・復元、土製品・石製品の実測、土器拓影・断面実測、遺構図作成、原稿執筆、夏場は遺物トレス、版組、計測、原稿執筆、収納など報告書作成全般である。

### 3 広 報 活 動

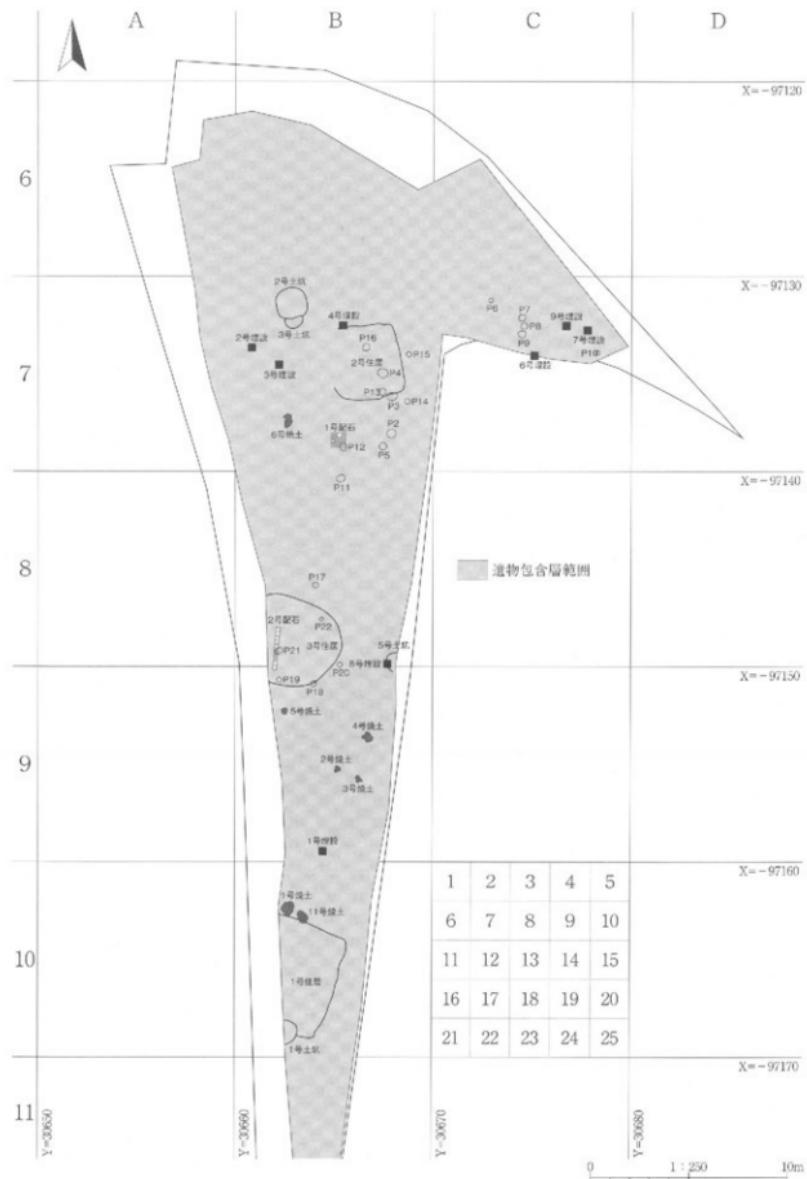
現地公開 平成 21 年 9 月 17 日(木) 13~15 時 一般 73 名参加

奥州市遺跡発掘調査報告会 平成 22 年 3 月 7 日(日)

調査概報 「平成 21 年度発掘調査報告書」岩埋文第 571 集 2010 年 3 月発行



第8図 遺構配置図（北区）



第9図 濟構配置図（南区北側）

## IV 検出した遺構と遺物

### 1 全体の概要

検出した遺構は縄文時代、平安時代、平安時代以降の3時期に区分される。縄文時代は堅穴住居跡1棟・土坑3基・焼上遺構13基・埋設土器9基・配石遺構2基・遺物包含層2箇所(本来は1箇所か)、平安時代は堅穴住居跡2棟・土坑1基・焼土遺構1基、平安時代以降は堀跡1条、ピット21個である。

調査区は前述の通り、市道を挟んで大田代川側を北区、住宅跡地などを南区としており、遺構の大半は平垣地である南区に集中する。北区には平安時代以降の堀跡1条が東西方向に確認されている。堅穴住居跡3棟はいずれも緩傾斜の南区から検出されている。縄文時代の遺物包含層は調査区の半分以上を占めており、北区と南区にまたがっているが本来は一連の遺構と考えられる。

本章では、時代・遺構別に記載し、出土遺物についても触れる。各遺物については次章を参照されたい。なお、記載上の土器器種は「深鉢形土器」などと呼称すべきだが、「形土器」を省略し、「深鉢」などと記した。

### 2 縄文時代

#### (1) 堅穴住居跡

##### 3号堅穴住居跡

###### 遺構(第10図、写真図版3)

南区中央の8B22付近に位置する。IV層黄褐色土上面で遺構底面を確認したが、実際の遺構はIIIb層上面付近から掘り込まれていると考えられる。調査区西壁にかかる検出された。

平面形は南北壁がやや長い楕円形を呈しており、規模は残存値で南北方向に4.6m以上、東西方向に3.8m以上である。壁高は包含層ベルトから北壁20cm、南壁30cm、東壁32cmが残存で、南・東壁は腰が外傾しながら急斜度に立ち上がり、北壁は比較的緩やかに立ち上がる。

堆積土は計2層で、主体は5~10cmの大粒の礫を5~10%混入する黒褐色土である。2層に関しては3層と同じと考えられるが、すぐ西側に水道管が埋設されており、工事の際に陥没したものと考えられる。

床面はIV層黄褐色粘土で堅く締まっており、部分的にV層砂砾層が露出している。床面の中央よりやや東寄りに地床炉1基を検出した。62×52cmの楕円形で、伴う床面施設はない。暗赤褐色に被覆しており、厚さ3cmほど影響を受けている。

柱穴・壁溝などこの他の床面施設は確認されなかった。

###### 遺物(第21~23図、写真図版21・22)

遺物の大半は堆積土から出土している。縄文土器24.955g、石器425点、土製品1点、石製品3点のうち、計26点を掲載した。1~14縄文土器、15尖頭器、16石鏃、17・18石錐、19・20砲状石器、21石斧類、22敲磨器類、23石錘、24石皿台石類、25土偶、26有孔石製品。石器の内訳(尖頭器2・石鏃11・石錐3・石錐3・竪状石器4・楔形石器3・スクレイバー類3・二次加工ある剥片10・微細剥離痕ある剥片2・剥片371(うち黒曜石4)・石核4・石斧類3・敲磨器類3・石錘2・石皿台石類1)。石製品は石棒類1・有孔石製品1。遺構が南区遺物包含層に作られているため、堆積土には縄文後期~晩期の遺物が混在している。

このうち、最も床面に近い箇所から1箇が潰れた状態で出土しており、元位置を留めている。唐草風入組文が施されており、晩期中葉と考えられる。破片数の多い一括資料としては4・5深鉢、9鉢が出土しており、同時期と見られる。24石皿台石類も伴出資料と考えられる。

## (2) 土 坑

### 2・3号土坑

遺構（第11図、写真図版4）

南区北側の7B2に位置する。IV層黄褐色土上面で遺構検出したところ、2基の円形黒褐色プランとして確認した。北側の2号土坑が南側の3号土坑より新期である。

平面形はいずれも円形で、規模は2号土坑の開口部が $2.0 \times 1.54$ m、底部が $1.27 \times 1.23$ mである。3号土坑は2号土坑に切られているため残存値で、開口部が $90 \times (51)$ cm、底部が $78 \times (35)$ cmである。断面形は皿形を呈し、壁は外傾しながら緩やかに立ち上がる。

堆積土はいずれも単層で、2号土坑は大槻を多量に含む黒褐色土、3号土坑は黄褐色土を微量に含む黒色土である。堆積の様子から2号土坑は一括の可能性も考えられる。

遺物（第23図、写真図版22）

2号土坑は大きめの自然殻が多量に出土しており、遺物は見つからなかった。3号土坑からは縄文土器4,708g出土しており、このうち27~29縄文土器を掲載した。27は粗製の縄文土器で、土坑の南壁に立てかけられた状態で出土。28は連続刺突が施される後期前葉の深鉢、29は单軸絡条体第1類L地文の粗製深鉢である。この他に3号土坑からは石器30点が出土しており、内訳は石鎌1・スクレイパー類2・剥片26・敲撲器類1である。

### 5号土坑

遺構（第11図、写真図版4）

南区中央の8B25に位置する。IV層黄褐色土の下層であるV層砂礫上面で調査区東境にかかる円形の黒褐色プランを確認した。

平面形は円形で、規模は残存値で開口部が $(100) \times (47)$ cm、底部が $(100) \times (47)$ cm。断面形は袋形を呈し、開口部から外側に膨らみを持つ形状である。

堆積土は炭化物（径1cm）を1~2%含む黒褐色土の単層である。下部には拳大の殻を少量含む。底面付近から縄文土器を出土している。

遺物（第23図、写真図版22）

堆積土～底直上から縄文土器885g・剥片5点が出土しており、30~34の縄文土器5点を掲載した。底直上からは30粗製深鉢形土器、その他は堆積土から見つかった。31は晩期中葉の鉢、32は粗製の深鉢、33・34は鉢の底部である。

## (3) 焼 土 遺 構

### 2号焼土遺構

遺構（第11図、写真図版4）

南区中央南の9B13に位置する。III b層中位で検出した。規模は $36 \times 36$ cmの不整形で、深さ4cmまで部分的に被熱している。焼土は赤褐色を呈しており、被熱状況から現地性と考えられる。

**3号焼土遺構****遺構**（第11図、写真図版5）

南区中央南の9B14に位置する。Ⅲ b層中位で検出した。規模は38×33cmの不整形で、深さ5cmまで被熱している。1層は植物痕と思われる。焼土は赤褐色を呈しており、被熱状況から現地性と考えられる。

**4号焼土遺構****遺構**（第11図、写真図版5）

南区中央南の9B9に位置する。Ⅲ b層中位で検出した。規模は54×45cmの不整形で、深さ4cmまで被熱している。焼土は赤褐色を呈しており、被熱状況から現地性と考えられる。

**5号焼土遺構****遺構**（第11図、写真図版5）

南区中央の9B7に位置する。Ⅲ b層上位で検出した。規模は33×33cmの不整な方形で、深さ7cmまで被熱している。焼土は明赤褐色を呈しており、部分的に黒褐色部分を含む。被熱状況から現地性と考えられる。

**6号焼土遺構****遺構**（第11図、写真図版5）

南区中央北の7B17に位置する。Ⅲ b層中位で検出した。規模は75×48cmの不整形で、深さ18cmまで被熱している。焼土は明赤褐色を呈しており、部分的に黒褐色部分を含む。被熱状況から現地性と考えられる。

**7号焼土遺構****遺構**（第12図、写真図版6）

北区南側の4B13に位置する。Ⅲ c層上面で検出した。規模は57×38cmの不整な梢円形で、深さ4cmまで被熱している。焼土は暗赤褐色を呈しており、被熱状況から現地性と考えられる。

**8号焼土遺構****遺構**（第12図、写真図版6）

北区南西側の4B6に位置する。Ⅲ b層下位で検出した。規模は82×71cmの不整な凹形で、深さ6cmまで被熱している。焼土は明赤褐色を呈しており、被熱状況から現地性と考えられる。

**9号焼土遺構****遺構**（第12図、写真図版6）

北区南西側の4B8に位置する。Ⅲ c層上面で検出した。規模は西側が41×39cmの円形、東側が28×13cmの不整形で、深さ4cmまで被熱している。焼土は赤褐色を呈しており、被熱状況から現地性と考えられる。

### 10号焼土遺構

遺構（第12図、写真図版6）

北区南西側の4B7~8に位置する。Ⅲc層上面で検出した。規模は51×(41)cmの不整な円形で、深さ4cmまで被熱している。焼土は暗赤褐色を呈しており、被熱状況から現地性と考えられる。

### 11号焼土遺構

遺構（第12図、写真図版7）

南区中央南の10B7に位置する。Ⅲb層下位で検出した。規模は70×47cmの不整な橢円形で、深さ3~7cmまで被熱している。焼土は暗赤褐色を呈しており、被熱状況から現地性と考えられる。

### 12号焼土遺構

遺構（第12図、写真図版7）

北区南端の4B16に位置する。Ⅲc層上面で検出した。規模は47×39cmの不整な円形で、深さ4~11cmまで被熱している。焼土は暗赤褐色～にぶい黄褐色を呈しており、被熱状況から現地性と考えられる。

### 13号焼土遺構

遺構（第12図、写真図版7）

北区南端の4B17~18に位置する。Ⅲc層上面で検出した。規模は69×62cmの不整形で、深さ5cmまで被熱している。焼土は明赤褐色を呈しており、被熱状況から現地性と考えられる。

## （4）埋設土器

### 1号埋設土器

遺構（第12図、写真図版7）

南区中央南の9B23に位置する。Ⅲb層上位で検出した。規模は33×26cmで、埋設土器北東側に21×12cmの亜角礫1個が設置されている。本来は対向する位置にも礫が設置されていた可能性があるが、トレンチ掘削時に抜き去ってしまったものと思われる。土器は倒立した状態で設置されているが、掘り方は確認できなかった。

遺物（第24図、写真図版23）

埋設土器の35深鉢を掲載した。粗製土器で地文（L.R.）のみが施文されている。

### 2号埋設土器

遺構（第12図、写真図版8）

南区北側の7B6に位置する。Ⅲb層下位で検出した。埋設土坑の規模は24×20cmで、ちょうど土器を設置する大きさである。平面形は不整な円形を呈し、IV層まで掘り込まれている。土坑の南側には23×7cmの亜角礫1個が設置されており、西側にも設置痕跡が認められることから、石囲いされていた可能性がある。土器は正位に設置されており、口縁部が露出するように整地されていた。

遺物（第23図、写真図版22）

埋設土器の36台付鉢を掲載した。截痕列と大腿骨文が施され、晩期中葉と考えられる。

**3号埋設土器****遺構（第13図、写真図版8）**

南区北側の7B11に位置する。Ⅲ b層中位で検出した。埋設土坑部分の掘り方は確認できなかったため、規模は不明。土器は直径15cm・器高9cmで、正位に設置されている。土器底部のみが出土した。

**遺物（第24図、写真図版22）**

埋設土器の37深鉢を掲載した。底部資料であるが、胴下位までの磨消繩文であり、後期初頭と考えられる。

**4号埋設土器****遺構（第13図、写真図版8）**

南区北側の7B8に位置する。Ⅲ b層中位で検出した。埋設土坑部分の掘り方は確認できなかったため、規模は不明。土器の北半及び南半の一部に円形に並ぶ縞を検出した。おそらく、埋設土器に伴つて設置された石囲い部分と思われる。縞が抜けているが、本来は全周するものと考えられる。北側の亜角縞3個は他に比べて大きい。設置された縞は計8個認められる。

**遺物（第23図、写真図版23）**

埋設土器の38單孔土器を掲載した。弧線文に充填繩文（0段多条R）がなされており、胴下位に貫通孔が1箇所穿たれている。孔は焼成以前に空けられている。後期中葉と考えられる。また、南区7B8Ⅲ a層から同一個体と思われる胴上半破片320が出土している。本資料は奥州市江刺区久田遺跡（岩文埋2003）に類例がある。

**5号埋設土器****遺構（第13図、写真図版8）**

北区南側の4B12に位置する。Ⅲ b層上面で検出した。埋設土坑部分の掘り方は確認できなかったため、規模は不明。土器は直径33cm・器高28cmで、正位に設置されている。胴～底部のみが出土した。土器内部にはⅢ b層起源の土が入っている。

**遺物（第24図、写真図版24）**

埋設土器の39深鉢を掲載した。粗製土器で異方向繩文（L R・L R）が施されており、後期中葉～後葉と考えられる。

**6号埋設土器****遺構（第13図、写真図版9）**

南区北東側の7C8に位置する。Ⅲ a層上面で検出した。埋設土坑の規模は29×26cmで、埋設した土器よりもやや大きめに掘り込んでいる。平面形は円形を呈し、深さは検出面から10cm程度である。土器は直径15cm・器高10cmで、胴～底部のみが出土している。土器の下側には設置時に敷いた5cm大の小縞が数個認められる。土器はⅢ a層起源の黒色土で一括に埋められている。

**遺物（第24図、写真図版24）**

埋設土器の40深鉢を掲載した。粗製土器で異方向繩文（R L・R L）が施されており、後期中葉～後葉と考えられる。また、土器内の堆積土から剥片6点が出土している。

### 7号埋設土器

#### 遺構（第13図、写真図版9）

南区北東側の7C10に位置する。IV層上面で検出した。埋設土坑の規模は38×33cmで、埋設した土器よりもやや大きめに掘り込んでいる。平面形は略円形を呈し、深さは検出面から18cm程度である。土器は直径28cm・器高22cmで、胴～底部のみが出土している。黒色の一括土で埋められているため、本来はⅢa層付近から掘り込まれていたと考えられる。9号埋設土器と隣接することから同時期に埋設されたと考えられる。

#### 遺物（第25図、写真図版24）

埋設土器の41深鉢を掲載した。粗製土器で地文（L.R）のみが施されている。

### 8号埋設土器

#### 遺構（第13図、写真図版9）

南区中央東の9B5に位置する。Ⅲb層上位で検出した。埋設土坑の規模は平面では確認できなかつたが、断面から直径45cm前後で、埋設した土器とはほぼ同じ大きさである。平面形は円形を呈し、深さは検出面から30cm前後である。土器は直径41×33cm・器高25cmで、胴～底部のみが出土している。黒褐色の一括土で埋められているため、本来はⅢb層上面付近から掘り込まれたと考えられる。

#### 遺物（第25図、写真図版25）

埋設土器の42深鉢を掲載した。口縁部に短沈線と平行沈線4条、胴部に地文（R.L）が施されており、晩期中葉と考えられる。また、土器内の堆積土から剥片28点が出土している。

### 9号埋設土器

#### 遺構（第13図、写真図版9）

南区北東側の7C9に位置する。IV層上面で検出した。埋設土坑の規模は38×33cmで、埋設した土器よりもやや大きめに掘り込んでいる。平面形は略円形を呈し、深さは検出面から26cm程度である。土器は直径30cm・器高20cmで、胴～底部のみが出土している。黒色の一括土で埋められているため、本来はⅢa層付近から掘り込まれていたと考えられる。7号埋設土器と隣接することから同時期に埋設されたと考えられる。

#### 遺物（第26図、写真図版26）

埋設土器の43深鉢を掲載した。粗製土器で、地文（R.L）が施されている。

## （5）配石遺構

### 1号配石遺構

#### 遺構（第13図、写真図版10）

南区北側の7B23に位置する。Ⅲb層上面で検出した。規模は80×65cmで、亜角礫が円形になるように設置されている。南側は削平の影響か確認できなかった。北側には20cm大の大きめの礫が設置されている。据え方は確認できなかった。

### 2号配石遺構

#### 遺構（第13図、写真図版10）

南区中央西の8B22付近に位置する。Ⅲb層上面で検出した。規模は約2.2mで、一直線に配置され

ている。計9個の人頭大の亜角礫を使用したと考えられるが、南から3・4個目は調査中に誤って外してしまった。南側は調査区外となり、さらに延びている可能性もある。

### (6) 遺物包含層

#### 北区遺物包含層

遺構（第14・15図、写真図版11～13）

北区南側の135m<sup>2</sup>で確認された。1.5～2mあるI層盛土を除去後、初めに包含層範囲と層厚、層序確認のためにE-Wベルト、S-Nベルト1、S-Nベルト2の3本（第14図）と3B11から3C13グリッドを通るW-Eベルトの計4本に沿うトレンチを設定した。トレンチを掘削した結果、大田代川側の3B11グリッドラインに設定したW-Eベルトでは河川堆積による砂質土及び砂が厚く堆積しており、約2m掘削してようやく地山に到達した。また、S-Nベルト2北側も同様で3C21付近から急激に落ち込み、2.0～2.3mの深さで地山に達している。後に分かったがこの箇所からは旧沢跡が確認されており、大田代川に向かって急激に落ち込んでいたと考えられる。S-Nベルト1北側は3B8付近まで掘削し、約2mの深さで地山に達した。こちらも3B18付近から急激に落ち込む地形となっている。これらの観察により包含層の範囲は、旧沢跡に向かって落ち込む斜面から旧沢跡によって浸食され、包含層が崩落した3B16～20・4C1・7～8グリッドラインまでの15×11mの範囲、135m<sup>2</sup>と想定された。また、上記前3本の幅50cmトレンチをベルト脇に設定して層厚を確認したところ、最も厚い4B13付近で地山まで1.55mの深さがあり、土質・土色からⅢa～dの計4層に区分される。

Ⅲa層は5～10cm大の亜角礫を多量に含む黒～墨褐色土である。層厚は約20cmで、4B1～3・6～8・11～14・16～19の範囲、約20m<sup>2</sup>に分布している。遺物は層全体に多量に含まれ、押し潰された土器も多く、ほぼ元位置にあると見られる。

Ⅲb層は5～30cm大の亜角礫を多量に含む墨褐色土である。包含層の中では最も厚く層厚は60～90cmで、3B21～22、4B1～3・6～20・25、4C1・6～7・11～13の範囲、約86m<sup>2</sup>に分布している。大田代川側は特に礫の含有が著しく、堆積土より礫が多い状態が認められた。これらの礫は流入したものもあるが、これだけの量がすべて自然に堆積したとは考えにくく、人為的な廃棄の可能性が考えられる。遺物は層全体に含まれており、4層の中で最も多量に包含する。層は部分的に42～44層の計3層に細分される。

Ⅲc層は暗褐色粘土質土である。層厚は10～20cmで、4B1～3・6～8・11～14・16～19の範囲、約44m<sup>2</sup>に分布している。本層位は黒褐色を主体とする上下層とは不整合であり、川側に向かって低くなるⅢd層の傾斜を埋め立てもしくは緩やかにするように堆積しているため、人為的に整地された可能性もある。7・9・10・12・13号焼土・遺構は本層位上面に形成されており、本層位が堆積した直後の時期に帰属すると考えられる。本層位は北区南側のみに認められる。層は部分的に45・46層の計2層に細分される。

Ⅲd層は5～20cm大の亜角礫を多量に含む墨～黒褐色粘土質土である。層厚は30～50cmで、3B21・23、4B1～3・6～9・11～14・16～20、4C1・6～7・12・16・21・23の範囲、約80m<sup>2</sup>に分布している。Ⅲd層上位の黒色粘土は北区南西端4B11～12・16～18の範囲に限定され、下位よりも遺物を多く包含する。また、Ⅲd層に含まれる遺物は上位に集中しており、下位はほとんど認められない。上～中位はⅢb層と同様に亜角礫が多量に含まれており、粘土質土と相まって極めて縮まった堆積土となっている。

また、3B17～4C17グリッドには1号堀跡が検出されている。本来であれば、遺物包含層が旧沢跡

に接するまで堆積していたと考えられるが、北西から南東方向に一直線に延びる堀跡が築かれたために破壊されている。堀跡構築の際に掘削された包含層堆積土は沢跡のある北側に排土されたと考えられ、S-Nベルト2の27~32層として堆積または大出代川に流出したものと思われる。この排土はⅢa~d層起源上で構成され、包含していた各層位の遺物も同時に廃棄されている。

加えて、Ⅳ沢跡には北側に向かって落ち込む斜面から旧沢跡の水流によって浸食され、崩落した包含層が3B16~20・23~25、4B4~5・10、4C1~2・6~8・12~13・18グリッドの約40m<sup>2</sup>に認められる。W-Eベルトからは35~39層、S-Nベルト1からは40層、S-Nベルト2からは34~39層が確認され、ブロック状に崩落した土が折り重なって観察される。堀跡で掘削された排土同様、Ⅲa~d層で構成される崩落土中には多量の遺物が含まれている。

各層位の境界にはⅢc層上面に7・9・10・12・13号焼土遺構、Ⅲb層上面には5号土器埋設遺構が形成されており、各時期の生活面として機能していたことを示している。

#### 遺物（第27~41図ほか、写真図版24~37ほか）

北区包含層を構成するⅠc・Ⅱ・Ⅲa・Ⅲb・Ⅲc・Ⅲd層から合計452,722.6gの繩文土器、石器6,308点、上製品3点、石製品30点が出土している。繩文土器は崩落土であるⅢa・Ⅲb・Ⅲd対応層が70,427.5g、1号堀跡が40,512.5g、排土が405gであるため、総計は564,067.6gとなる。1号堀跡堆積土から出土した繩文土器は元来遺物包含層を形成していたものが自然流入したものであるため、包含層分として換算した。崩落土分も同様である。

各層位別では、Ⅰc層20,935g、Ⅱ層7,097g、Ⅲa層70,309.9g、Ⅲb層294,325.5g、Ⅲc層35,588.2g、Ⅲd層29,542gとなり、Ⅲb層が突出した数値となる。繩文時代に形成された純粹な遺物包含層は盛土層であるⅠc層、平安時代以降と考えられるⅡ層を除いたⅢ層である。また、崩落土であるⅢa対応層は4,416.5g、Ⅲb対応層は59,246g、Ⅲd対応層は6,765gである。

以下、出土遺物を各層位ごとに記載する。記載順序は、最下層であるⅢd層から順に新しくなるようにⅢd層→Ⅲc層→Ⅲb層→Ⅲa層→Ⅱ層→Ⅰ及びⅠc層とし、崩落土分の対応層は各層位に含めることとする。遺物の取り上げについては、層位を基本として行っている。しかし、包含層の精査を進めるにあたって、初段階に層位の混乱があり、1号堀跡に含まれる崩落堆積した分を包含層分として取り上げてしまった遺物が少なからずある。本来ならば、サンプリングエラーを除去した状態で掲載すべきであるが、掲載遺物の選定に加えて、さらに恣意的な要素が含まれることとなる懼れから現場取り上げを優先して掲載することとした。

Ⅲd層からは繩文土器24,467g・石器564点、Ⅲd対応層からは繩文土器6,765g・石器161点・石製品1点が出土した。石器内訳はⅢd層が尖頭器3・石鏸13・石錐2・石匙8・箇状石器10・楔形石器6・スクレイバー類11・二次加工ある剥片9・微細剥離痕ある剥片4・剥片494（うち黒曜石12）・石核3・敲磨器類3。Ⅲd対応層が石鏸8・石錐1・石匙1・箇状石器4・スクレイバー類3・二次加工ある剥片6・微細剥離痕ある剥片2・剥片130（うち黒曜石1）・石核2・石斧類1・敲磨器類2・砥石1。石製品はⅢd対応層から円盤状石製品1点が出土。このうち、Ⅲd層中位出土の54~65繩文土器、497石鏸、Ⅲd層上～中位出土の66~72繩文土器、530箇状石器、564石核、Ⅲd層上位出土の73繩文土器、Ⅲd層出土の77繩文土器、502~504石鏸、523石匙、534楔形石器、665粘土塊、Ⅲd対応層出土の74~76繩文土器、508石鏸、574石斧類を掲載した。61・62・66・68~70は早期中葉の貝殻文系の深鉢である。底部は伴っていないが、おそらく尖底となる資料である。54・55・60・64・67は植物纖維を混入する前期初頭～前葉の深鉢。

Ⅲc層からは繩文土器39,023.2g・石器391点・土製品1点、Ⅲc層対応層から石器7点が出土し

た。石器内訳はⅢ c 層が石錐 14・石錐 1・石匙 6・鏃状石器 1・楔形石器 4・スクレイバー類 6・二次加工ある剥片 6・微細剥離痕ある剥片 2・剥片 344（うち黒曜石 11）・石核 2・石斧類 1・敲磨器類 4、Ⅲ c 対応層が鏃状石器 1・楔形石器 1・剥片 5。このうち、78~82 繩文上器、526 鏃状石器、560 石核、586 敲磨器類、668 不明土製品の計 9 点を掲載した。繩文土器は大半が粗製土器であるが、胴幅がなく、器高のある土器が多く 80 や 82 などは後期初頭と思われる。81 は波状線に押引平行沈線・斜線文を施文する壺で、後期前葉に比定される。

Ⅲ b 層からは繩文土器 353・571.5g、石器 3,876 点、土製品 42 点、石製品 18 点が出土した。遺物の取り上げはⅢ b 層を下位、中～下位、中位、上～中位、上位の 5 区分、また全体をⅢ b 層、崩落土分をⅢ b 対応層で取り上げを行っている。これに基づいて各区分の出土状況・掲載遺物を記す。

Ⅲ b 層下位は繩文土器 60,243g、石器 700 点、石製品 1 点、土製品 7 点が出土。石器内訳は石錐 23・石錐 1・石匙 2・楔形石器 7・スクレイバー類 8・二次加工ある剥片 12・微細剥離痕ある剥片 3・剥片 634（うち黒曜石 17）・石核 6・敲磨器類 4。石製品は石棒類 1。このうち、83~102 繩文土器、481・482・484・491・495・505 石錐、563・565 石核、593 土偶、614 土製腕輪、642・651・655・656・661 上器片円盤の計 35 点を掲載した。出土土器は後期中～後葉主体である。84・85・89・93・97・101 は中空の大形突起で 3 または 5 単位が上器に装飾される。後期中葉と思われる。95 は横位平行沈線を継位蛇行沈線で区切る深鉢で、後期中葉。87 は胴中央から大きく開く深鉢で、入組風帯状文が描かれる。後期後葉。100 は注口部を欠いているが注口土器と思われ、入組文と瘤状小突起 3 単位が配される。上半欠損部には黒色粘着物が確認される。同じく後期後葉。86 は連鎖状隆線が施される中空突起で、後期初頭。

Ⅲ b 層中～下位は繩文土器 51,951.5g、石器 518 点、土製品 9 点が出土。石器内訳は石錐 15・石錐 3・石匙 1・鏃状石器 1・楔形石器 2・スクレイバー類 10・二次加工ある剥片 8・微細剥離痕ある剥片 5・剥片 460（うち黒曜石 10）・石核 4・異形 1・石斧類 2・敲磨器類 4・砥石 1・石皿台石類 1。このうち、103~111 繩文土器、489 石錐、511 石錐、539・543 スクレイバー類、552 微細剥離痕ある剥片、567 异形石器、578 石斧類、584・588 敲磨器類、590 砥石、594・595 土偶、628・645~647・650・654・658 土器片円盤の計 28 点を掲載した。後期中～後葉主体である。103・107 は中空の大形突起で、後期中葉。106 は横位平行沈線に段違いの弧線で反転する文様の深鉢。後期中葉。109 は三叉文風の入組帶状文が描かれる台付きの深鉢で、後期最終末に比定される。108 はクランク文に刺突が伴う後期前葉の深鉢。111 は 2 個一対の貼彫を伴う沈線間に連続刺突する深鉢で、後期後葉。

Ⅲ b 層中位は繩文土器 55,263g、石器 494 点、土製品 4 点、石製品 1 点が出土。石器内訳は尖頭器 2・石錐 14・石錐 1・石匙 2・鏃状石器 2・楔形石器 6・スクレイバー類 11・二次加工ある剥片 11・微細剥離痕ある剥片 5・剥片 429（うち黒曜石 9）・石核 5・石斧類 1・敲磨器類 5。石製品は円盤状石製品 1。このうち、112~133 繩文土器、478 尖頭器、487・501 石錐、518・524 石匙、533 楔形石器、551・554 微細剥離痕ある剥片、558 石核、596・597 土偶、610 動物形土製品、613 土製腕輪、686 円盤状石製品の計 36 点を掲載した。後期中～後葉主体であるが、やや晚期の遺物も混じる。125・131 は後期初頭の中空突起で、連鎖状隆線が施される。112・124 は後期中葉の中空大形突起。127 は入組帶状文の深鉢で後期中葉。128 は大波状線の山形波頭部、130 は二叉状突起を伴うもので後期後葉。113 は入組風弧線文が施される台付浅鉢で後期後葉。121 は沈線底に刺突列を伴う鉢。122 は C 字モチーフの雲形文が描かれる浅鉢で、いずれも晚期中葉。117~120 は同時期の深鉢。129 は台付浅鉢の台部で、赤色塗彩されている。晚期後葉か。

Ⅲ b 層上～中位は繩文土器 76,612g、石器 635 点、石製品 7 点が出土。石器内訳は石錐 17・石錐

2・石匙3・範状石器2・楔形石器4・スクレイバー類5・二次加工ある剥片21・微細剥離痕ある剥片3・剥片569（うち黒曜石14）・石核1・石斧類3・敲磨器類5。このうち、134～164繩文土器、506石錐、522石匙、538楔形石器、549二次加工ある剥片、577石斧類、674・678石棒類、682独鈷状石器、691・692球石の計41点を掲載した。晩期中～後葉主体。141・142・145・146・154・158は鉢。いずれも晩期中葉に比定される。142・145・154は平行沈線間の截波列、146・158は平行沈線に溝底の刺突を伴う。135・143・151・156・157は浅鉢。151・156・157は雲形文が配される晩期中葉。143は2個一対の粘土粒を付した工字文で晩期後葉に比定される。135は無文で、製作時の指痕が明瞭。136・144は彫形土器。136は地文のみで晩期中葉、144は工字文が施され、晩期後葉に属する。155は注口で口縁～胴のみであるが、鉢巻状の雲形文が施される。晩期中葉。他に晩期中～後葉の深鉢がある。その他に円形文・（ ）文などが描かれる後期前葉の162深鉢、後期中葉の大形突起137深鉢、斜線文が描かれる153・161深鉢などがある。

Ⅲ b層上位は繩文土器32,331g、石器347点、土製品4点、石製品2点が出土。石器内訳は石錐10・石錐2・石匙3・範状石器1・楔形石器1・スクレイバー類3・二次加工ある剥片7・剥片315（うち黒曜石6）・異形石器1・石斧類1・敲磨器類2・石皿台石類1。石製品は石棒類2。このうち、165～175繩文土器、514石錐、568異形石器、572石斧類、634・638・652土器片円盤、676石棒類の計18点を掲載した。晩期中～後葉主体であるが、混在している。167・169はC字モチーフの雲形文が描かれる浅鉢。晩期中葉。175は2個一対の粘土粒を付した変形工字文が描かれる浅鉢もしくは蓋。晩期後葉。166は晩期中～後葉と思われる深鉢。172・173は刺突充填・曲線的モチーフが配される後期前葉の深鉢。171は閉端環付LRが施され、胎上に植物纖維が混入する前期初頭の深鉢。

Ⅲ b層は繩文土器17,925g、石器335点、土製品8点、石製品1点が出土。石器内訳は石錐3・石錐2・石匙2・範状石器6・楔形石器2・スクレイバー類3・二次加工ある剥片3・剥片312（うち黒曜石5）・疊器類1・石皿台石類1。このうち、179～181・184・185・189～192繩文土器、521石匙、527範状石器、559石核、591石皿台石類、623・635・636・641・644・649・657土器片円盤、664粘土塊の計21点を掲載した。Ⅲ b層全体の遺物を含んでおり、後期～晩期が混在する。後期中葉と思われるのが179・180・191・192。179中空の大形突起、180渦巻状突起、192は曲線帶状文が描かれる。181・189は後期後葉。181は瘤状小突起が貼り付けられる二叉状突起、189は壺形。184・185は晩期後葉の浅鉢で、185は2個一対の粘土粒貼付を付した変形工字文が配される。

Ⅲ b対応層は繩文土器59,246g、石器847点、石製品7点が出土。石器内訳は尖頭器2・石錐22・石錐1・石匙1・範状石器7・楔形石器10・スクレイバー類11・二次加工ある剥片18・微細剥離痕ある剥片8・剥片749（うち黒曜石8）・石核7・石斧類6・疊器類1・敲磨器類4。石製品は石棒類6・円盤状石製品1。このうち、176～178・182・183・186～188繩文土器、477尖頭器、485・498石錐、517石匙、529範状石器、536楔形石器、553・556微細剥離痕ある剥片、557・561・566石核、579石斧類、581敲磨器類、615土版、622・625・629・633・643・648土器片円盤、673・681石棒類の計30点を掲載した。崩落土層であるため、所属時期は混在している。176～178は晩期中葉。176・178は平行沈線間に截波列を伴う。183・186・188は後期中葉と思われる。188は中空の大形突起。187は植物纖維を多量に混入する前期初頭～前葉の深鉢。

Ⅲ a層は繩文土器70,309.9g、石器400点、土製品6点、石製品4点が出土。石器内訳は石錐14・石錐6・石匙1・範状石器2・楔形石器1・スクレイバー類5・二次加工ある剥片12・微細剥離痕ある剥片4・剥片346（うち黒曜石5）・石核2・石斧類6・疊器類1。石製品は石棒類4。このうち、193～224繩文土器、513石錐、570・576石斧類、599・600土偶、624・627・637・653土器片円盤の

計41点を掲載した。晩期中～後葉土器。194・195・197・211・212・218・220・222～224鉢。194・197・218・222・224は晩期中葉、雲形文が配される。211・212は晩期後葉、工字文が施される。214台付鉢形土器。晩期中葉。200・201・204・208・209・216浅鉢。200・204・216はいずれもC字状モチーフの雲形文が施される。晩期中葉。201は丸底窓で全面にミガキがされ無文であるが、晩期中葉であろう。209は浅鉢もしくは蓋。2個一対の粘土粒貼付を付した変形工字文。晩期後葉。198・199・202・203・205・215壺。198・199はC字状モチーフの雲形文。205は平行沈線による直線的モチーフと菱形文。晩期中葉。202・203は晩期後葉、202は工字文が配される。深鉢は193・196・210・217で、196を除く3点は口縁部に無文帯を持ち、196は全面に地文が施される。炭化物の付着が著しい。晩期中～後葉と見られる。他に三角形突起・瘤状小突起貼付がされる後期後葉の221深鉢。219は沈線間の刻み・2個一対の貼縫から後期後葉と思われる。

Ⅲa対応層は縄文土器4,416.5g、石器61点が出土。石器内訳は石鏃2・二次加工ある剥片3・微細剥離痕ある剥片1・剥片54（うち黒曜石1）・石核1。掲載遺物はなし。

Ⅱ層は縄文土器7,097g、石器330点、土製品2点、石製品4点が出土。石器内訳は石鏃12・石錐3・楔形石器3・スクレイパー類1・二次加工ある剥片8・剥片297（うち黒曜石4）・石斧類3・礫器類1。石製品は石棒類3・円盤状石製品1。このうち、225～228縄文土器、545スクレイパー類、548・550二次加工ある剥片、601土偶、616土版、671・672・679石棒類、571石斧類の計13点を掲載した。縄文時代以降に堆積した層位であるため、二次的な混入遺物である。226・228は壺で、四脚付である。晩期後葉か。227鉢はやや直線的なC字状モチーフの雲形文。晩期中葉。

I層は縄文土器20,935g、石器4点が出土。石器はすべて剥片。このうち、229～234縄文土器の計6点を掲載した。229・234は注口土器で、229には黒色粘着物による補修痕が認められる。234はC字文が配される晩期前葉。230鉢は晩期後葉。231・232は大形突起で後期中葉である。

#### 南区遺物包含層

##### 遺構（第14・16図、写真図版14・15）

南区北側の455mで確認された。I層表土を除去した後、初めに包含層範囲と層厚、層序確認のためにW-Eベルト1～4、S-Nベルトの計5本に沿うトレントを設定した。トレントを掘削した結果、平均で約50cm、深さ10～60cmで地山に達した。北区遺物包含層は厚い盛土に守られて良好な状態で遺存していたが、南区遺物包含層は道路工事や水道工事、宅地造成、住宅の建築・解体の影響を大きく受けている状態であった。特に6A～C区、7A区、7C区東、8B区東は地山であるIV層及びV層まで破壊されており、重機の痕跡が残る箇所も見られた。それでもその他の区域ではⅢa・b層の堆積が確認され、10B区では1号堅穴住居跡が検出された周辺でⅡ層の堆積も認められた。

Ⅲa層は5～10cm大の亜角礫を多量に含む黒褐色土である。層厚は10～30cmで、7A10・15、7B3～6・8・10～24、7C1～3・6～8、8B1～3・6～7・11～12・14・16～19・21～24、9B2～4・7～9・12～14・17～19・22～24、10B2～4・7～8・12～13・17～18・22～23、11B7の範囲、約260m<sup>2</sup>に分布している。包含層中に含まれる亜角礫は北側の7B区付近では10cm大のサイズが中心であるが、南側の10・11B区付近では20～30cm大が中心となり礫サイズに違いがある。これは調査区の南東側には段丘崖が存在し、ここから産出された距離により近い箇所には大きいサイズ、遠い箇所には小さいサイズの礫が認められたためと考えられる。遺物は層全体に含まれており、層厚は薄いが遺物量は多い。平面的な分布を見ると8～10B区に2kg以上の土器出土量が集中しており、7B4・5・10、7C1・6や7B21、8B1・6、また8B17～19・22～24・9B2～4などに集中域が確認できる。グリッド別で

最も出土量が多いのは9B3で7,526g、次いで9B4の5,185g、8B23の4,815g、10B23の4,580gなどである。8B23や9B3・4は下層に3号竪穴住居跡があり、Ⅲa層堆積時には開口していたと考えられるため、周囲の包含層起源土が流入し、埋没する過程で遺物も流れ込んだ可能性と、人为的に廃棄された住居に遺物が投棄された可能性が考えられる。

Ⅲb層は10~20cm大の亜角礫を多量に含む黒褐色土である。層厚は5~50cmで、6C22、7A5・10・15、7B1~5・6~10・11~15・16~20・21~24、7C1~4・6~10、8B1~3・6~8・11~14・24、9B4・7~9・12~14・17~19・22~24、10B2~4・7・8・12・13・17・18・22・23、11B7の範囲、約292mlに分布している。6A~C区及び8B4・5・9・10などは住宅解体時に重機によって掘削された擾乱がIV及びV層まで達しており、包含層は残存していない。また、8B16~18・21~23、9B1~3には3号竪穴住居跡が構築されている。

遺物の大半は層位中の上位に集中する傾向にある。最も多いのはⅢa層からⅢb層上面へ上位で、この面から3号竪穴住居跡や5号土坑、1・8号埋設土器、1・2号配石遺構などが確認されており、生活面が形成されていた可能性がある。平面的な分布をみると、7B5・9・10、7C1・6・7や8B24、9B4・7~9、また9B17~19、23・24、10B2~4・7・8に集中域が認められる。グリッド別で最も多いのは、7B9で6,620g、次いで10B7の6,365g、9B4の5,975g、7C1の5,805g、8B24の5,665gなどである。Ⅲa層と同様に3号竪穴住居跡周辺は出土量が多い。集中域はⅢa層とほぼ同じ傾向が認められるが、7B区の北~西半のような希薄なグリッドが増加し、Ⅲa層よりも全体に東側に密度が濃い傾向にある。

#### 遺物（第41~49図ほか、写真図版37~44ほか）

南区包含層を構成するⅡ・Ⅲa・Ⅲb層から合計275,456.7gの縄文土器、石器2,230点、土製品42点、石製品23点が出土している。縄文土器は南区のその他擾乱などから出土した5,110.5gを加えると、総計は280,567.2gとなる。各層位別では、Ⅱ層3,900g、Ⅲa層151,747g、Ⅲb層119,529.7gとなる。Ⅲb層は遺物の出土が上位に集中する傾向が見られるため、包含層の主体はⅢa層からⅢb層上位までと考えられる。縄文時代に形成された純粋な遺物包含層はⅡ層を除いたⅢ層である。

以下、出土遺物を各層位ごとに記載する。記載順序はⅢb層→Ⅲa層→Ⅱ層とする。北区遺物包含層で述べた通り、遺物の取り上げは層位を基本として行っている。しかし、包含層の精査を進めるにあたって、初段階にⅢa層とⅢb層の区分に混乱があり、誤った区分で取り上げてしまった遺物が少なからずある。本来ならば、サンプリングエラーを除去した状態で掲載すべきであるが、掲載遺物の選定に加えて、さらに恣意的な要素が含まれることとなる恐れから現場取り上げを優先して掲載することとした。

Ⅲb層からは縄文土器119,429.7g、石器993点、土製品3点、石製品10点が出土した。遺物の取り上げはⅢb層を下位、中~下位、中位、上位の4区分、また全体をⅢb層として取り上げている。これに基づいて各区分の出土状況・掲載遺物を記す。

Ⅲb層下位は縄文土器14,271g、石器170点が出土。石器内訳は石鏃5・石錐1・箇状石器2・楔形石器2・スクレイバー類4・二次加工ある剥片12・剥片140（うち墨曜石2）・石核2・石斧類1・敲磨器類1。このうち、235~249縄文土器、532箇状石器、592石皿台石類の計17点を掲載した。出土土器は後期中葉主体である。一部、後期初頭~前葉も認められる。244は複合口縁にボタン状貼付と縦位蛇行隆線、240にも連鎖状隆線が付され、後期初頭と思われる。236は深鉢の大波状縁で口端に豆粒状突起を伴い、多重沈線が施される。245はクランク文と刺突が施文される。後期前葉。

238・247・248は後期中葉。247は波頂部に大形突起が付される深鉢で、弧線文・連続刻突が見られる。248は口縁無文帯、口縁と胴部の間に段差があり、横位平行沈線が施される。後期中葉。

Ⅲ b 層中～下位は縄文土器 19,638g、石器 171 点、石製品 1 点が出土。石器内訳は石錐 3・石錐 1・範状石器 4・楔形石器 2・スクレイバー類 2・二次加工ある剥片 5・剥片 153（うち黒曜石 11）・石核 1。石製品は石棒類 1。このうち、250～258 縄文土器、544 スクレイバー類、546 二次加工ある剥片の計 11 点を掲載した。Ⅲ b 層下位とほぼ同じ様相で、出土土器は後期前～中葉主体である。255 は曲線的な沈線区画が施された深鉢。後期前葉。250～252・254・256～258 は後期中葉、254・256 は中空の大形突起、250・258 は口縁と胴部文様帯の間に段差のある器形で、横位平行沈線が引かれる。252 は大波状線の口縁部で、刻目が付けられる。257 は壺の口縁部。

Ⅲ b 層中位は縄文土器 19,298g、石器 62 点、土製品 1 点が出土。石器内訳は石錐 4・石錐 1・範状石器 1・スクレイバー類 1・二次加工ある剥片 1・剥片 54（うち黒曜石 1）。このうち、259～270 縄文土器、525 石錐、666 粘土塊の計 14 点を掲載した。出土土器は後期中葉主体であるが、晩期も混在する。263・264・267・268・270 は後期中葉に属する。263 は横位平行沈線に段違いの弧線が反転する文様、267 は類似するが横位平行沈線に蛇行沈線による縦位区切り線が施される、264 は平行沈線に刻目・区画沈線曲線文が施文される。他に全面ミガキ調整の 266 壺、270 は入組帶状文の筒形単孔土器がある。

Ⅲ b 層上位は縄文土器 64,839.7g、石器 525 点、土製品 2 点、石製品 8 点が出土。石器内訳は尖頭器 2・石錐 17・石錐 3・石錐 2・範状石器 3・楔形石器 2・スクレイバー類 8・二次加工ある剥片 21・微細剥離痕ある剥片 6・剥片 453（うち黒曜石 11）・石核 1・石斧類 2・敲磨器類 5。石製品は石棒類 1・不明石製品 1・円盤状石製品 5・球石 1。このうち、271～312 縄文土器、480 尖頭器、490 石錐、520 石錐、528 範状石器、537 楔形石器、541 スクレイバー類、547 二次加工ある剥片、555 微細剥離痕ある剥片、587 敲磨器類、639・660 土器片円盤、685 不明石製品、687～689 円盤状石製品、693 球石の計 58 点を掲載した。出土土器は後期中～後葉と晩期前～中葉の遺物が約半数の割合で混在している。279 は三十稻葉式系統の指痕による列点が施文される。後期初頭。278 深鉢底部も同時期か。289 深鉢は沈線 4 条による弧線文などが施されており、後期前葉と見られる。282～286・288・295・296・306～308・311・312 は後期中葉。282・284 は櫛齒状沈線を施す深鉢。286 は口縁に刻目、胴には弧線文を配置する。283・295 は刻目のある大波状線。312 も同様で、5 単位の大波状線に口縁無文帯、胴には横位平行沈線を縦位平行沈線で区切る。285・307 は底部が外に張り出す器形。288 は S 字状入組文を配する。296 は列点・斜線文を施す。306・308 は大波状線の波頂部に大形突起を施す器形の口縁波底部に付く鶴冠状突起部分。280・281・305 は後期後葉。280・281 は大波状線の波頂部に三角形突起及び二叉状小突起を付す。280 は入組帶状文。305 は注口で、上部に瘤状小突起が付く。271・274・298・299 は晩期前葉。271 は深鉢、山形突起下から始まる平行沈線 3 条・縦位短沈線 2 条による文様表現。274 鉢は咬み合わない直線的な羊歯状文。298 鉢は右傾して咬み合う羊歯状文が配される。299 注口は二溝間の截痕列の間に三爻文・羊歯状文。272・273・276・290・301・302 は晩期中葉。272・290 は鉢。272 は平行線化した雲形文、290 は胴部上半に付く二叉状突起。273・276 は浅鉢。273 は C 字状モチーフの雲形文、276 は大腿骨文を配する。302 深鉢は口縁に多重平行沈線を施す。300 浅鉢は平行沈線 3 条、胴はミガキ調整。他に 287 深鉢は結束なしの羽状縄文が施されており、胎土には植物纖維が含まれる前期初頭と考えられる。

Ⅲ b 層からは縄文土器 1,483g、石器 65 点、石製品 1 点が出土。石器内訳は石錐 3・石錐 1・二次加工ある剥片 4・微細剥離痕ある剥片 1・剥片 56・石斧類 1・敲磨器類 1。石製品は石棒類 1。このうち、313 縄文土器、580 敲磨器類、670 石棒類の計 3 点を掲載した。313 は異方向縄文を施す深鉢。

Ⅲ a 層からは縄文土器 151,747g、石器 1,184 点、土製品 14 点、石製品 11 点が出土。石器内訳は尖頭器 3・石鎌 58・石錐 10・石匙 2・甕状石器 3・楔形石器 9・スクレイパー類 22・二次加工ある剥片 20・微細剥離痕ある剥片 8・剥片 1,018 (うち黒曜石 25)・石核 6・石斧類 13・敲磨器類 11・石皿台石類 1。石製品は石棒類 7・有孔石製品 1・円盤状石製品 2・板状石器 1。このうち、314~363・365~378 縄文土器、479 尖頭器、483・486・488・492~494・496・499・500・507・509・510 石鎌、512・515 右錐、519 石匙、531 甕状石器、562 石核、569 石斧類、582・585・589 敲磨器類、604~608 土偶、611 スタンプ状土製品、612 耳栓、617・618 土版、632・639・662・663 土器片円盤、669・677 石棒類、684 有孔石製品、690 板状石器の計 99 点を掲載した。出土土器は晩期中~後葉主体であるが、後期中~後葉の遺物も相当量混在している。314・332・345 は後期初葉。314・332 は連鎖状隆線が施文される。345 は大波状線に付く突起。327・360 は後期前葉。いずれも波状線、327 は平行沈線による渦巻文、360 は曲線モチーフと刺突充填が見られる。320・321・326・344・346・358・367~369・375・376・378 は後期中葉。346・367・368 深鉢は中空の大形突起、369・376 深鉢は口縁無文帶の大波状線。375 深鉢は 369・376 のような器形底部で、底部が外側に張り出す器形である。320 は 4 号埋設土器である 38 単孔土器と同一個体の可能性がある。沈線に沿う刻目が施される。326 瓢は口端に刻目がある。344 は S 字状入組文。342・373 は後期後葉。342 は耳状突起・瘤状小突起、373 は波状隆線・平行沈線が施され、赤色塗彩されている。316・349・355・359・372 は晩期前葉。355・372 注口は注口部分。316 鉢は右傾して末端の咬み合う羊歯状文、349 鉢は末端の咬み合わない羊歯状文が施される。359 深鉢は山形突起下に平行沈線。318・322・328~330・337・338・340・350・351・357 は晩期中葉。318・328・330・337・340・350 は鉢。318 は平行沈線の溝底に刺突列、328 は口端に刻目、平行沈線間は無文帶、330・337 は途切れる平行沈線と匹字文、340 は C 字状モチーフの雲形文、350 は右傾した咬み合う直線的な羊歯状文。322・338・357 は浅鉢。322 は K 字状モチーフの雲形文、357 は C 字状モチーフの雲形文が連結する。351 注口は C 字文・二溝間の斜稜列が施される。324・339・341 は晩期後葉。324 鉢は上字文・匹字文、339・341 は工字文が施文される。

II 層からは縄文土器 3,900g、石器 53 点、石製品 2 点が出土。石器内訳は二次加工ある剥片 3・剥片 48 (うち黒曜石 1)・石核 2。石製品は石棒類 1・独鉛状石器 1。このうち、379・380 縄文土器、516 石鎌、609 鐸形上製品、680 石棒類、683 独鉛状石器の計 6 点を掲載した。380 瓢は横位連續弧線文・刺突が施され、後期前葉。379 台付浅鉢は S 字状入組文。後期後葉。

この他に、地点不明であるが 381 縄文土器、7C7 風飼木原から 675 石棒類を掲載した。381 深鉢は横位平行沈線に縱位弧線反転区切りがあり、後期中葉。

### 3 平 安 時 代

#### (1) 壊 穴 住 居 跡

##### 1号竪穴住居跡

遺構 (第 17 図、写真図版 17・18)

南区南側の 10B12 付近に位置する。1 a・b 層表土を除去したⅢ b 層上面で調査区西に延びる方形の褐色プランとして検出した。1 号土坑と重複し、本遺構が出現期である。

平面形は隅丸方形を呈していると見られ、規模は東壁 5.2m、北壁 (3.68) m、南壁 (1.54) m、西壁は調査区外である。北壁の西端がやや弧を描いていることから、東西壁がやや長い形状の可能性がある。壁高は東壁 8cm、北壁 6cm で南壁は重複のため不明である。壁は残存から外傾しながら急斜

度に立ち上がる。

堆積土は6層に細分され、3層褐色土主体で形成される。3層が床面から厚さ約12cm堆積した後に小和田aテフラと思われる2層にぶい黄褐色土が流入している。4層はぶい黄褐色土、5層はピット3の堆積土でぶい黄褐色土と黒褐色土の混合土、6層はピット4の堆積土で暗褐色土であり、若干の層相変化は見られるがいずれも自然堆積と考えられる。7層は床面に形成された焼成面の焼土である。床面はほぼ平坦で、縄文時代の遺物包含層であるⅢb層疊混黒褐色土で構成され、堅緻である。

カマドは東壁南寄りに1基設置されている。遺存状態は悪く、燃焼部のみが確認された。燃焼部の規模は70×70cmの不整形で、深さ8cmまで被熱している。焼土は赤褐色を呈しており、厚みがある。燃焼部は床面よりも深んでおり、上部に炭化物・黄褐色土ブロックを含む赤褐色土やにぶい黄褐色土が堆積していることからカマドが崩落したものと考えられる。また、燃焼部上に亜角砾4個が認められ、カマド施設を構成していた可能性もある。

床面にはピット4基が作られている。東壁際に85×79cmのピット1、南東隅に98×96cmのピット2、南壁寄りに102×(42)cmのピット3、北西隅に83×(26)cmのピット4があり、ピット1~3は円形基調、ピット4は方形基調である。このうちピット2は多量に遺物を含んでおり、人為的に埋めた形跡がある。また、柱穴は確認されなかった。

堆積状況から、廃棄後まもなく小和田aテフラが降下した時期の遺構で、平安時代中期と考えられる。  
遺物（第76・77図、写真図版59~61）

堆積土下位及びピットを中心に遺物が出土している。土器出土量は堆積土下位7,635g、ピット1は1,150g、ピット2は3,924g、ピット3は160g、ピット4は65gである。前述通り、ピット2は人為的な埋納遺構の可能性があり、遺存状態は良好である。ピット2出土土器を中心に計17点を掲載した。710のみが須恵器大甕で、その他はロクロ使用の土師器である。ピット2からは694~701壺・704高台付壺・707鉢・709甕などが一括で出土。ピット1からは705・706高台付壺・710須恵器大甕が出土。堆積土からは702・703壺、カマド堆積から708小型甕が出土している。土師器壺・高台付壺は大半が内面黒色処理されたもので、699・702壺などは底面に手持ちヘラケズリ内調整が行われている。高台付壺は口端が鋭角に外反する端反りの器形が主で、器高がやや低く皿形を呈するものがある。接合部分に指状工具による刺突を加えて接地面を広くする工夫がされている。鉢は内面黒色処理されており、器高がある大形鉢といった趣がある。甕もロクロ成形されており、胴下半に縱位ヘラケズリ調整が施される。他に土鉢1点が床面から出土している。

また、縄文時代の遺物も堆積土から出土しており、縄文土器、石器76点が出土している。石器内訳は石鏸5・石錐1・楔形石器1・スクレイバー類1・剥片67（うち黒曜石1）・石斧類1。

## 2号竪穴住居跡

遺構（第18図、写真図版19・20）

南区北側の7B9付近に位置する。I層を除去したⅢb層上面で方形の暗褐色プランとして検出した。西壁は遺物包含層の土層確認のために設定した南区NSベルトによって壊されている。

平面形は隅丸方形を呈していると見られ、規模は東壁3.5m、北壁(2.72)m、南壁(3.52)mである。壁高は東壁12cm、北壁3cm、南壁10cmが残存している。壁は外傾しながら緩やかに立ち上がる。

堆積土は近年の住宅取り壊しのために削平されており、1層暗褐色土のみが残存している。床面は縄文時代の遺物包含層であるⅢb層疊混黒褐色土で構成され、軟質である。

床面には部分的に焼土と炭化物のまとまりが確認された。焼土は床面の燃焼ではなく、上屋や壁材

### 3 平安時代

が燃焼したものと思われる。炭化物はすべてクリ材である（炭化材同定）。炭化物は材の一部を成していると思われるが、何の部材かは不明である。

カマドは東壁南寄りに1基設置されている。遺存状態は悪く、袖部と思われる部分と燃焼部のみが確認された。燃焼部の規模は $60\times 58\text{cm}$ の不整形で、深さ3cmまで被熱している。焼土は赤褐色を呈しているが、薄く弱い被熱痕である。袖部は左側のみが一部残存しており、にぶい橙色の粘土質土で形成されている。袖は壁からほぼ垂直に46cm延びており、先端部付近が燃焼部となり、焚き口を成していたと考えられる。カマドは黒褐色土の床面ににぶい橙色粘土を貼り付けて構築していることから、住居構築後に取り付けられたと考えられる。

床面の南東隅にピット1基が作られている。規模は $90\times 88\text{cm}$ で、円形を呈する。床面からの深さは16cm、住居の堆積土と同じく、黄褐色土・ブロック・炭化物・焼土粒を含むにぶい黄褐色が認められることから、同時に堆積したものと思われる。また、柱穴は確認されなかった。

#### 遺物（第77図、写真図版61）

検出面がすでに堆積土下位まで下がっていたため、出土遺物は床面～堆積土下位が大半である。上器出土量は、堆積土下位～堆積土から5,740g、床面から532gである。このうち、計4点を掲載した。いずれもロクロ使用の土師器坏である。714～716坏は内面黒色処理、体部下半に手持ちヘラケズリ再調整が施されている。717は回転糸切り無調整である。

この他に、堆積土中から縄文時代の遺物が出土している。計1点を掲載した。46は大波状線に突帯が内面に施される深鉢形土器で後期後葉と思われる。石器は106点が出上。内訳は石鎚4・石錐1・二次加工ある剥片3・微細剥離痕ある剥片1・剥片97（うち黒曜石2）。

### （2） 土 坑

#### 1号土坑

##### 遺構（第17図、写真図版18）

南北区南側の10B22に位置する。I a・b層表土を除去したⅢ b層上面で、1号竪穴住居跡と重複する暗褐色の円形プランとして検出した。調査区西境に接している。1号竪穴住居跡と重複し、本遺構が新期である。

平面形は円形を呈していると思われ、規模は $126\times(64)\text{ cm}$ 、底部が $78\times(50)\text{ cm}$ で、深さは32cmである。断面形は皿形である。

堆積土は暗褐色主体の単層で、炭化物を少量含む。

##### 遺物（第77図、写真図版61）

堆積土から平安時代の土器750gが出土している。計2点を掲載した。712・713はロクロ使用の土師器坏である。内面は黒色処理が施されており、713は手持ちヘラケズリ再調整、712は回転糸切り無調整である。この他に縄文時代の石器3点（スクレイバー類1・微細剥離痕ある剥片1・剥片1）が出土。

### （3） 焼 土 遺 構

#### 1号焼土遺構

##### 遺構（第11図、写真図版16）

南北区中央南の10B7に位置する。Ⅲ b層上面で検出した。規模は $71\times 64\text{cm}$ の不整な円形で、深さ4～7cmまで被熱している。焼土は暗赤褐色を呈しており、被熱状況から現地性と考えられる。

## 4 平安時代以降

### (1) 堀 跡

#### 1号堀跡

##### 遺構（第19図、写真図版20）

北区南側の3B17～4C17に位置する。2m弱の岩ズリ層で構成される1層盛土を除去した後、1次検出を行ったが厚い河川堆積土のため確認できず、遺物包含層を精査する中で検出した。

平面形は北西から南東方向に延び、直線的である。前述の通り、遺構上面で確認できずに縄文時代の遺物包含層を掘削してしまったため、堀上端部は破壊してしまった。遺構の確認については調査区西壁（セクションB）及び北区包含層NSベルト、北区中央のセクションAで行っている。よって、堀の開口部幅、深さはセクションBのみに依る。規模は長さ17.5m以上、開口部幅は2.6m前後（実効掘幅）、底部幅0.85～1.0m、深さ1.22～1.36m（垂直高）、底面レベルは31.67～31.78mではほぼ平坦に構築されている。断面形は逆台形である。

堆積土はセクションBの計19層が確認されている。堀跡の堆積層は10～12層の計3層。12層黒褐色粘土質土は堀跡使用時からの13層崩落土、11層は遺構廃絶後間もない14層崩落土。10層暗褐色粘土質土は自然流入土。1層岩ズリ層は近年の新幹線トンネル工事で排出された岩盤層を盛土した人為堆積層。2層黒褐色砂質土は旧表土。3～9層は洪水など水成堆積による粘土質土と砂質土の互層と自然流入土。13～16層黒褐色土は縄文時代の遺物包含層。17・18層黒褐色土と褐色粘土質土の混合土は1号堀跡構築以前の河川活動による崩落土。19層黄褐色～褐色粘土が地山である。

遺構は旧沢跡に下る斜面部に形成されており、沢跡に並行するように構築されていると考えられる。土壘は築かれていながら、鵜ノ木館に関連する外郭線の防御的な性格を有すると考えられる。

##### 遺物（第25・26図、写真図版23）

遺構の時期に伴うと思われる遺物は出土していない。出土遺物は遺物包含層起源の自然流入土に含まれる縄文時代の遺物で、包含層Ⅲa～d層に対応するものである。

堆積土から縄文土器40・512.5g、石器402点、土製品3点、石製品3点が出土している。石器内訳は右鍬8・石錐3・石匙3・楔形石器4・スクレイパー類4・二次加工ある剥片11・微細剥離痕ある剥片1・剥片359（うち黒曜石3）・石核6・石斧頭1・礫器類1・敲磨器類1。石製品は独鉛状石器1・円盤状石製品2。このうち、47石錐、48二次加工ある剥片、49石核、50・51土偶、52土器片円盤、53独鉛状石器の計7点を掲載した。

### (2) ピット

#### 南区ピット群

##### 遺構（第20図、写真図版20）

7～9B・7C区に位置する。南区遺物包含層を精査後のIV層上面で円形の柱穴状ピットを21個検出した。本来はⅢa層より上層から掘り込まれていると考えられるが、検出されずに最終面で確認した。P2～P22である（P1は欠番）。

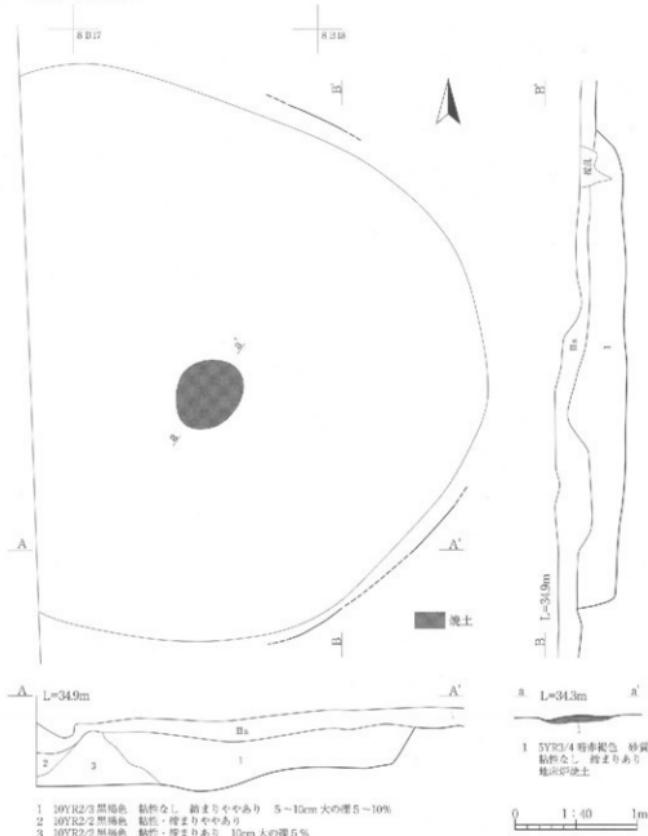
規模は開口部径20～40cm前後、深さ10～40cm前後である。底面標高は33.955～34.746mの範囲であるが、東側のP6～10は標高値が大きい。平面形は円形・略円形で、断面形は逆台形を呈するものが多い。堆積土はいずれも単層であり、黒褐色土主体で構成される。柱痕・柱あたりなどは観察さ

れなかった。

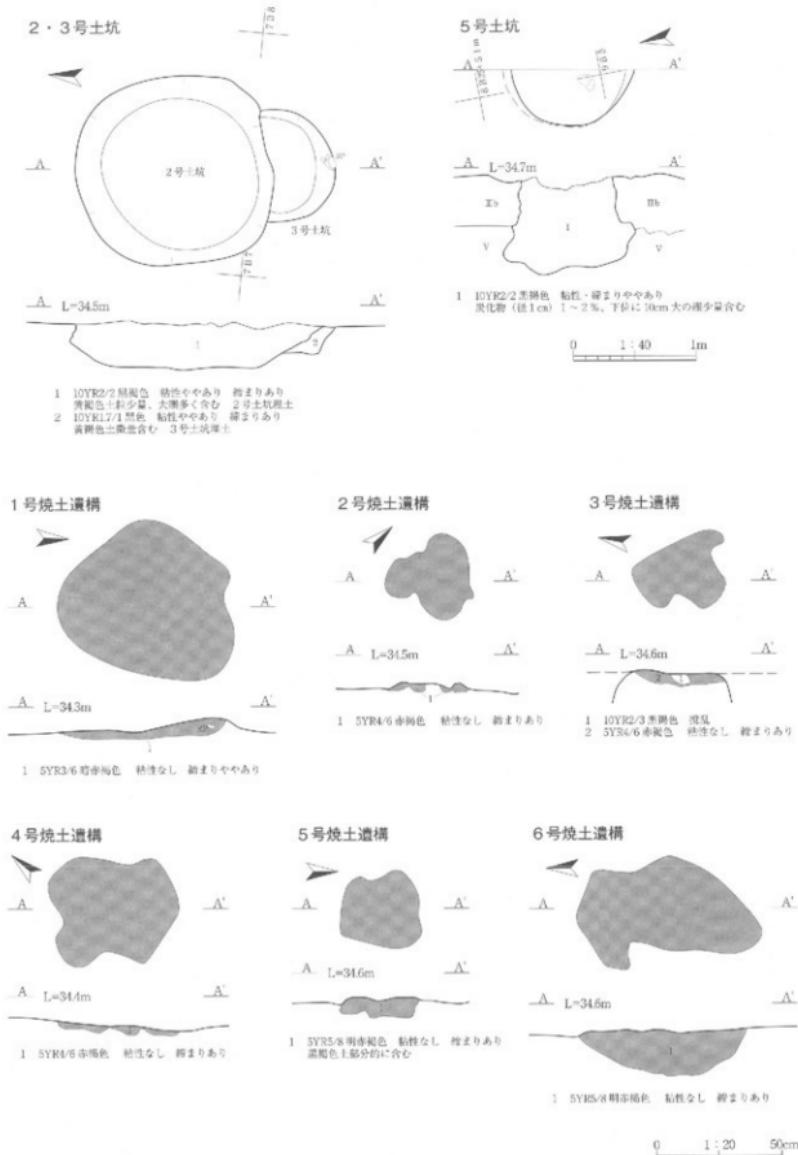
何らかの遺構の一部と思われるが、配置に規則性は認められない。時期は出土遺物が縄文時代に限られるため、不明である。

遺物は、P 3・14・18 は 20g、P 8 は 40g、P 9・12・21 は 10g、P19 は 3g の縄文土器が出土。  
掲載遺物はなし。

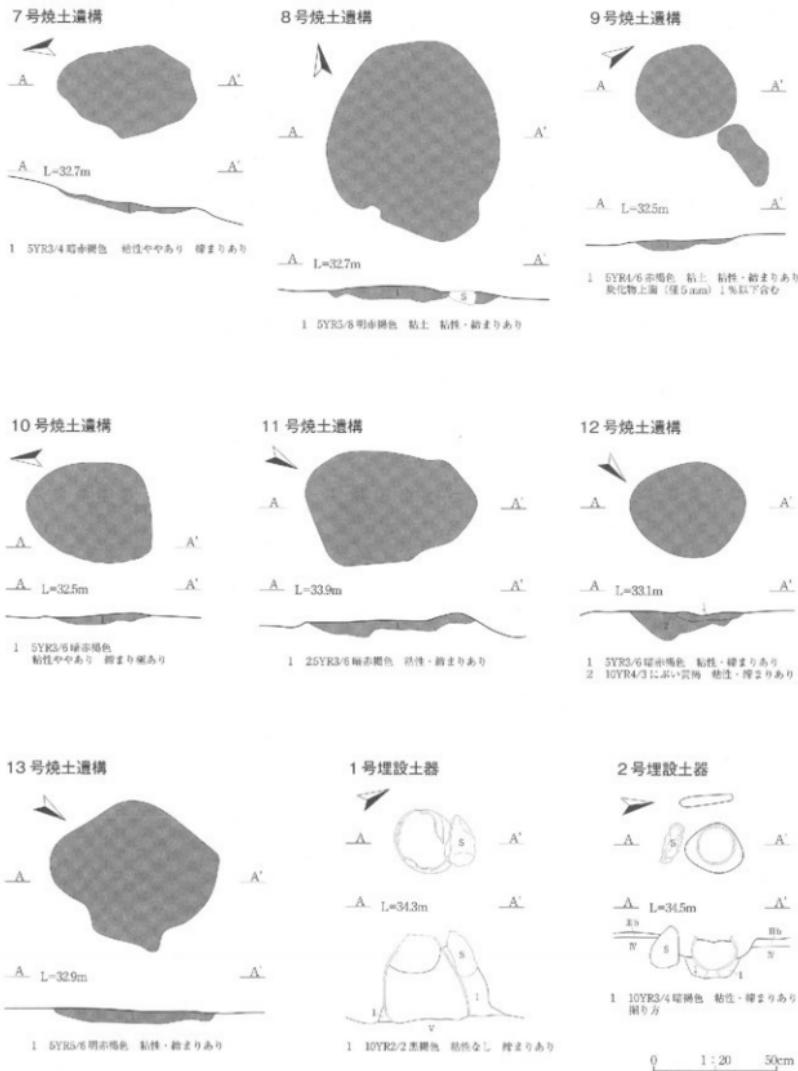
3号竪穴住居跡



第 10 図 3号竪穴住居跡

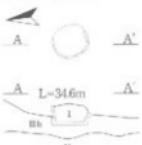


第11図 2・3・5号土坑、1～6号焼土遺構



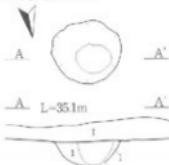
第12図 7~13号焼土遺構、1・2号埋設土器

## 3号埋設土器



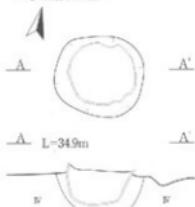
1 10YR2/3 黒褐色  
粘性なし 硬まりあり  
※握り方は確認できない

## 6号埋設土器



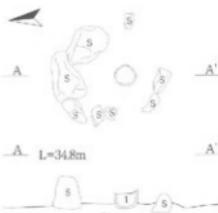
1 10YR2/1 黑色  
粘性あり 硬まりややあり  
握り方

## 7号埋設土器



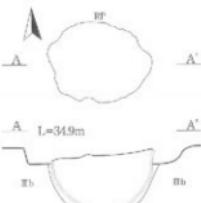
1 10YR2/1 黑色 粘性・硬まりややあり  
3~5 cm 大の小破片 2~3% 含む 握り方

## 4号埋設土器



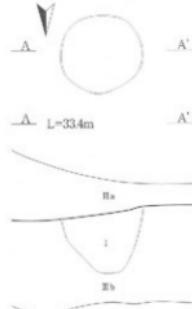
1 10YR2/3 黑褐色  
粘性なし 硬まりあり  
※握り方は確認できない

## 8号埋設土器



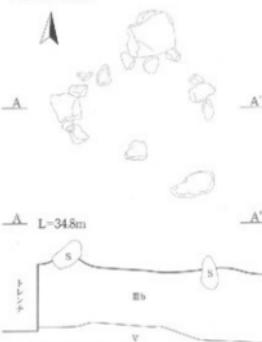
1 10YR2/1 黑色  
粘性なし 硬まりあり  
握り方

## 5号埋設土器



1 10YR2/3 黑褐色  
粘性なし 硬まりあり  
※握り方は確認できない

## 1号配石遺構

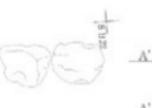


※握り方は確認できない

## 2号配石遺構

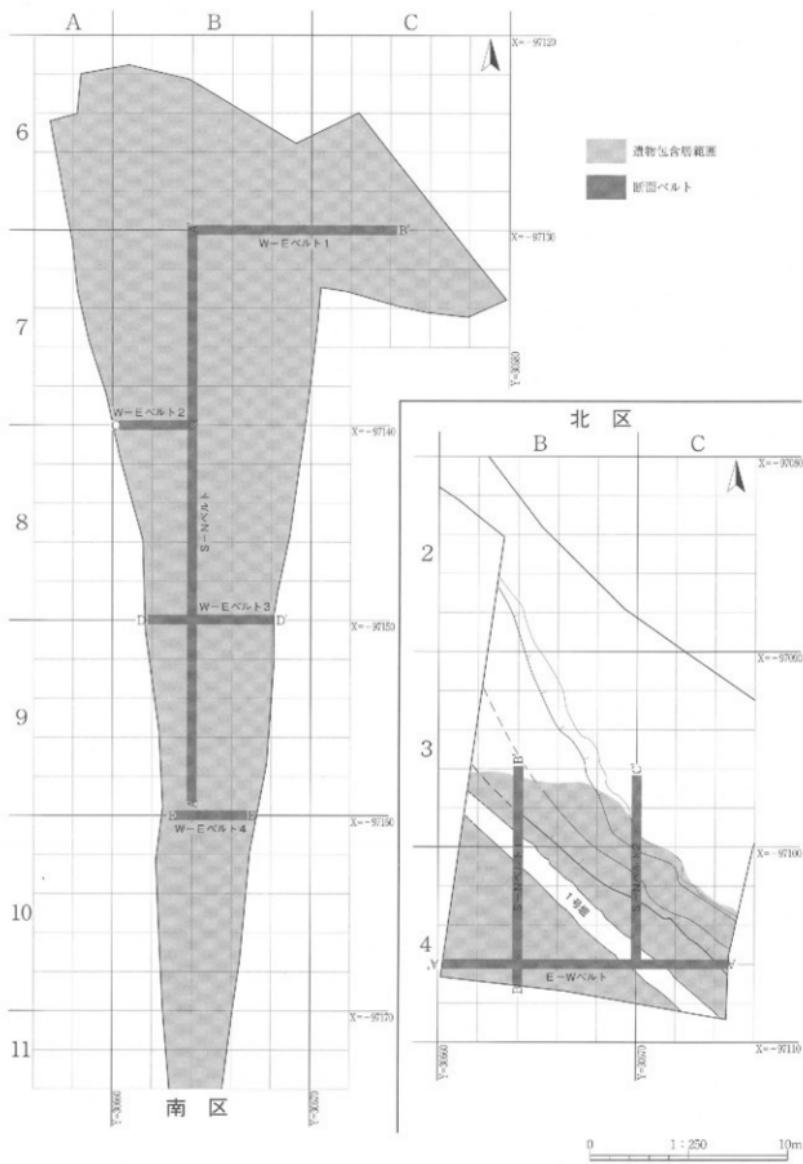


1 L=34.8m

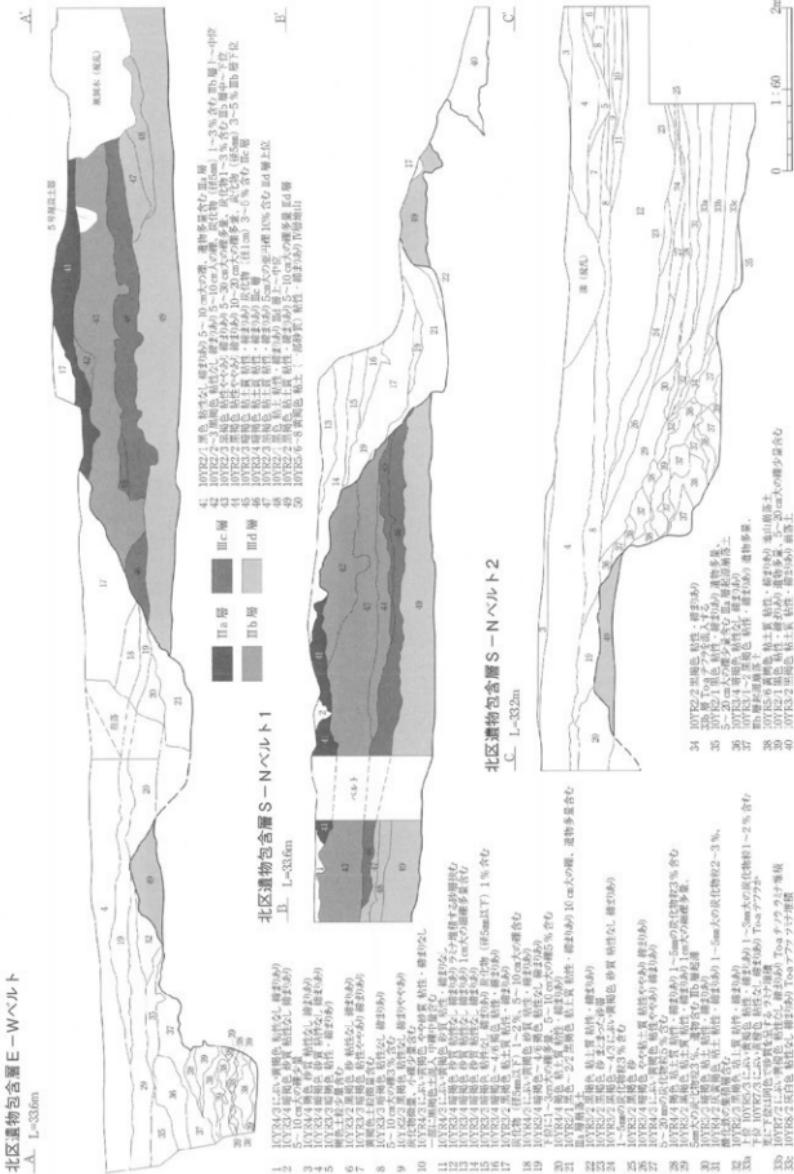


0 1:20 50cm

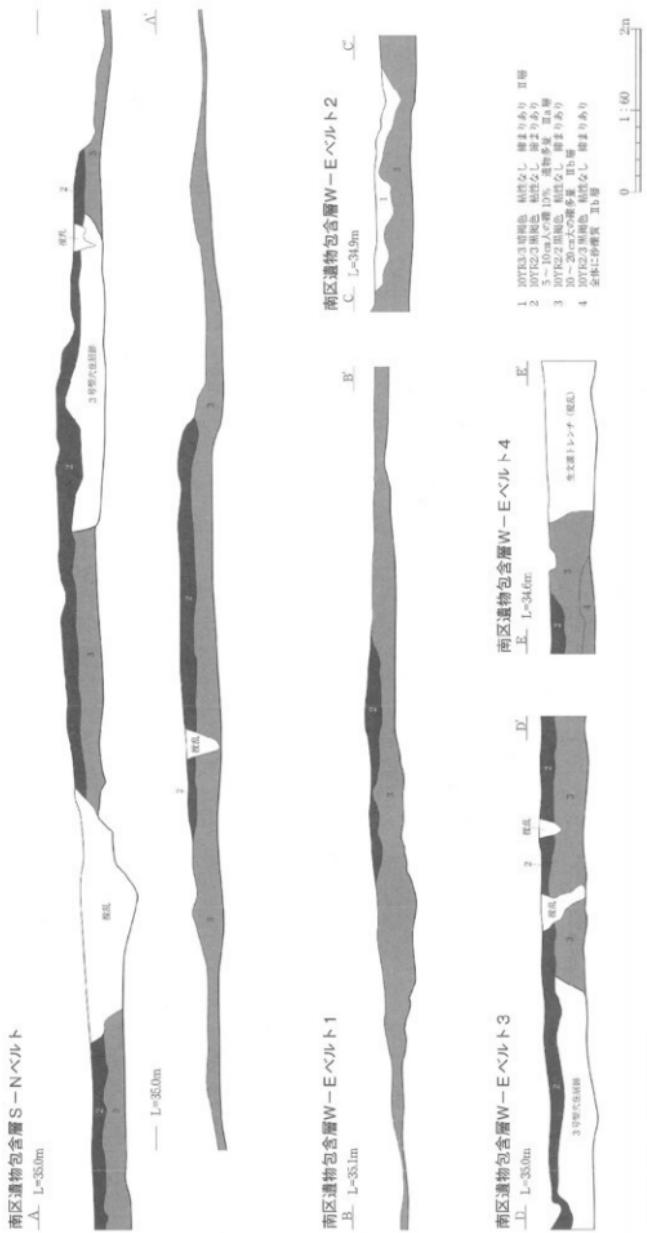
第13図 3~9号埋設土器、1・2号配石遺構



第14図 遺物包含層平面図・断面ベルト設定図

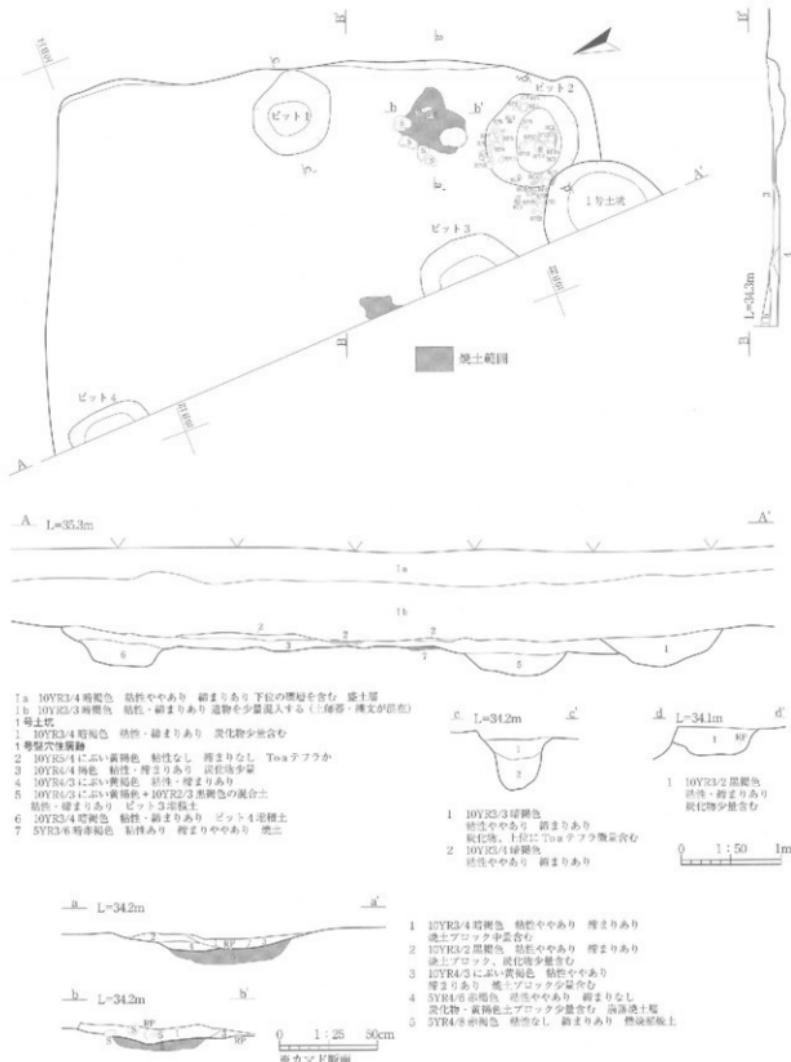


第15図 北区遺物包含層断面図



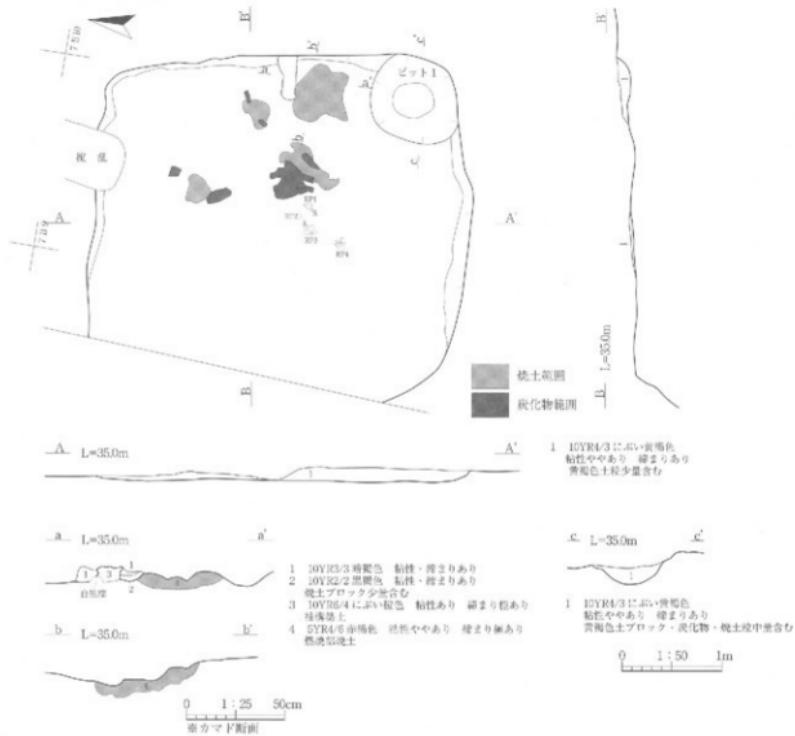
第16図 南区遺物包含層断面図

1号竪穴住居跡、1号土坑

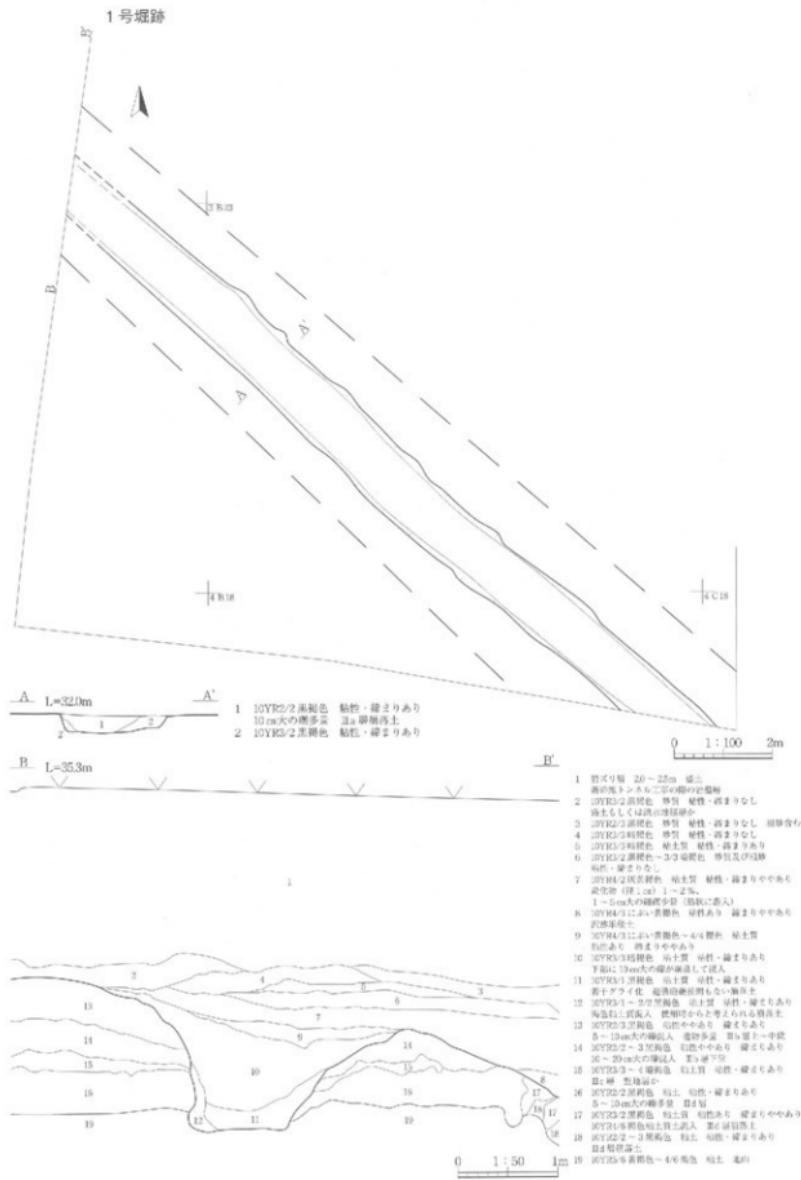


第17図 1号竪穴住居跡、1号土坑

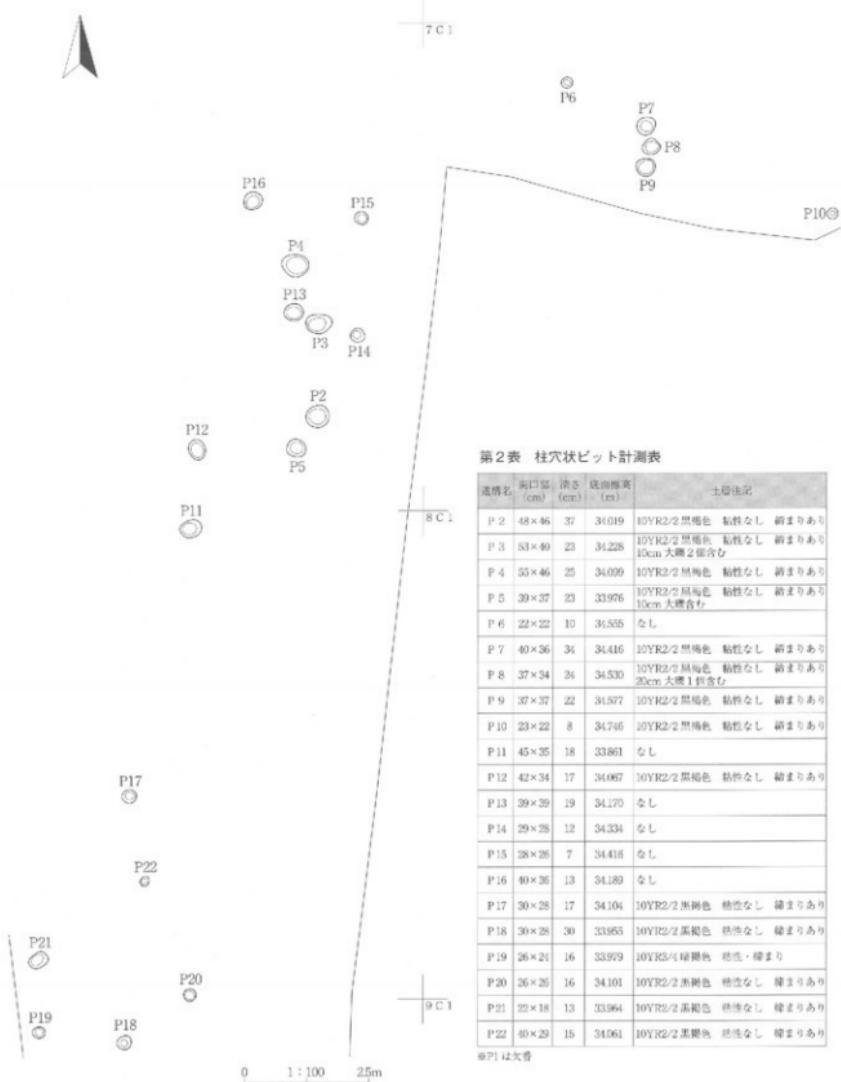
2号竪穴住居跡



第18図 2号竪穴住居跡

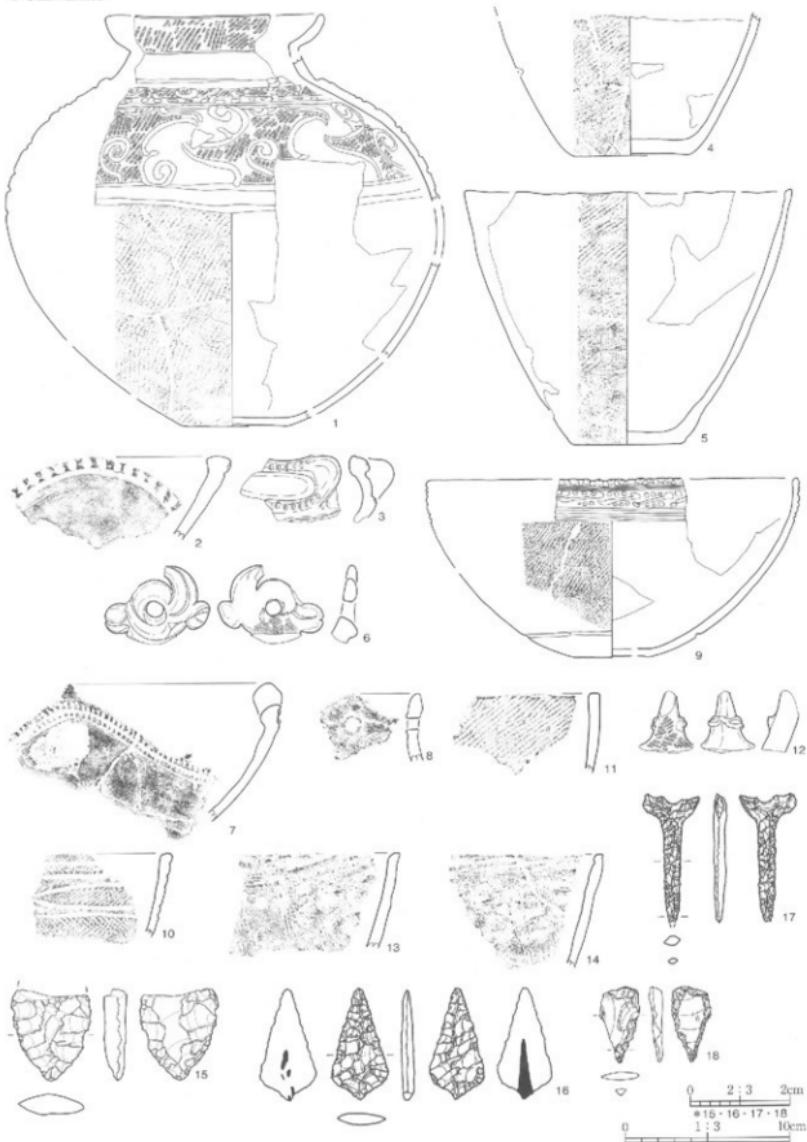


第19図 1号堀跡

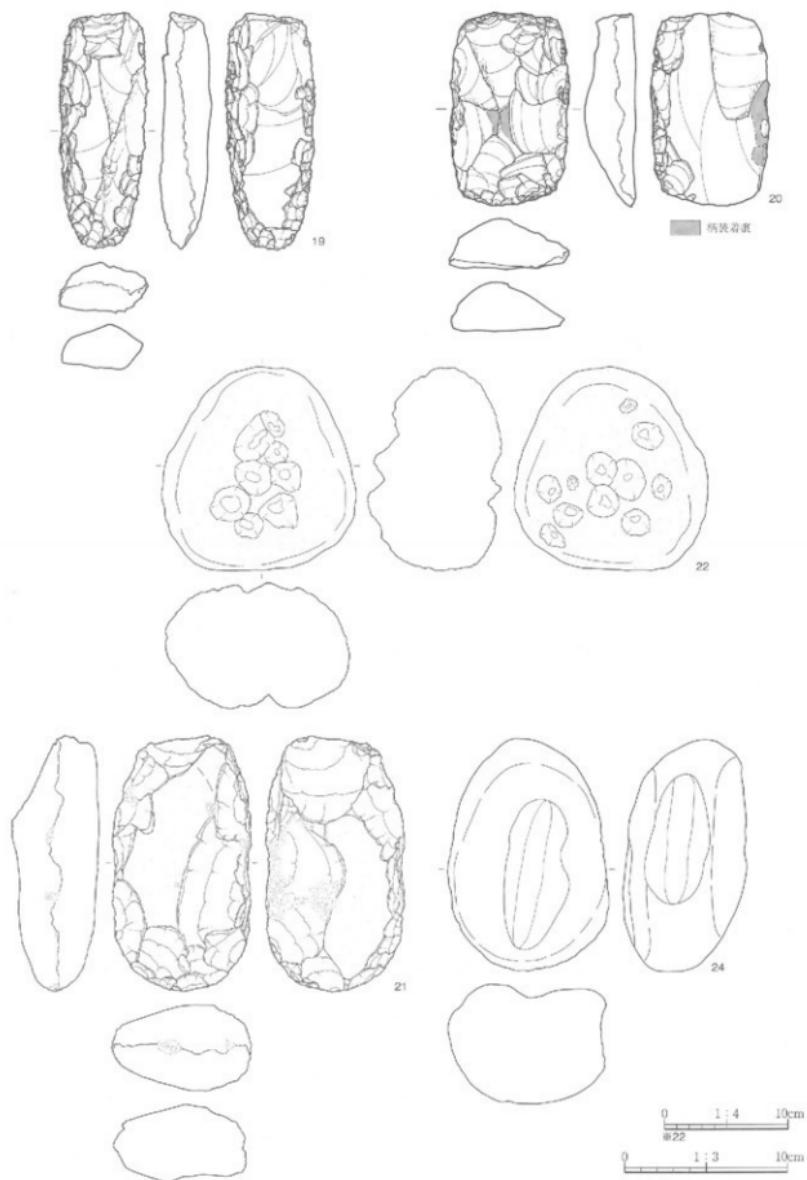


第20図 南区北側柱穴状ビット群

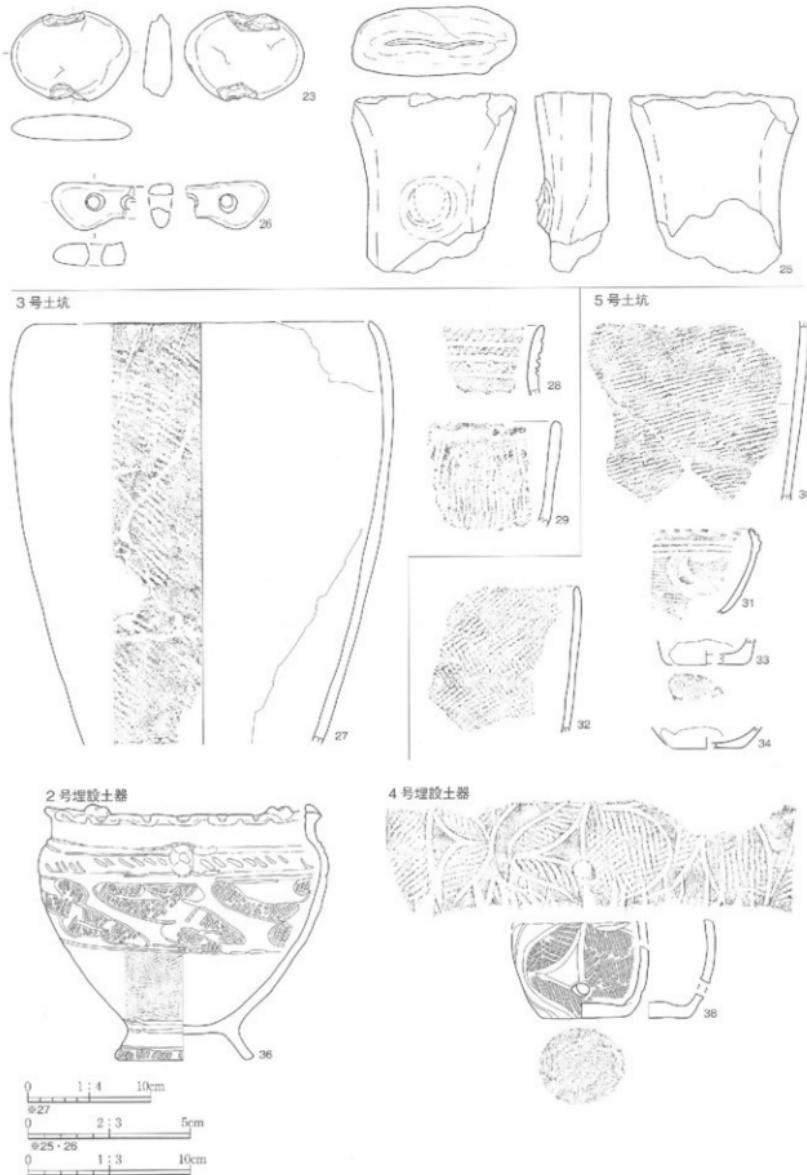
3号竪穴住居跡



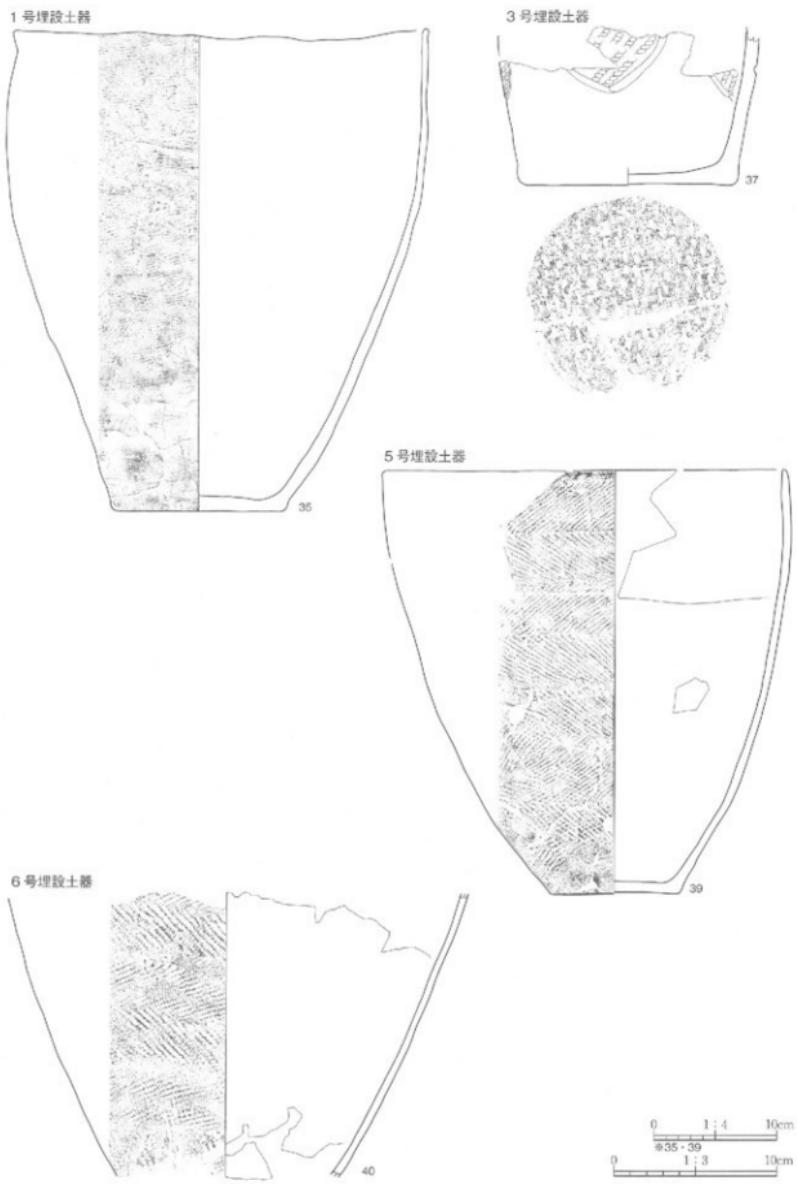
第21図 3号竪穴住居跡 (1)



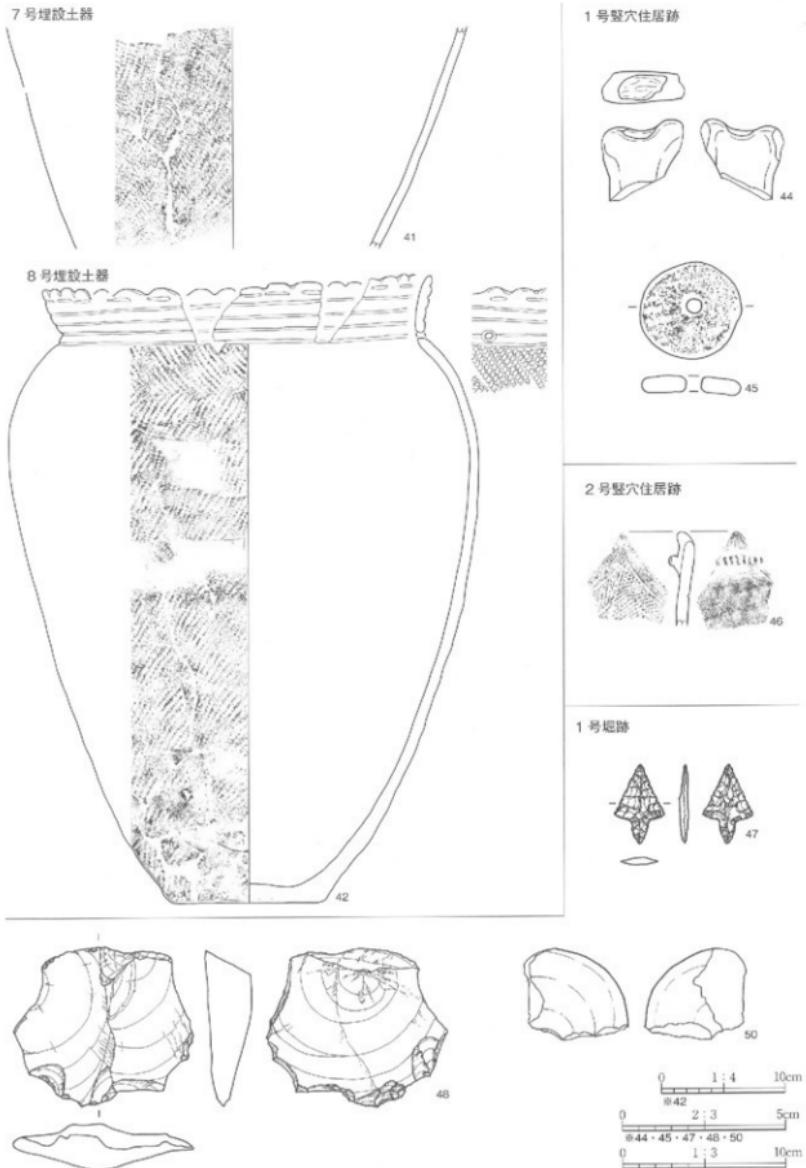
第22図 3号堅穴住居跡（2）



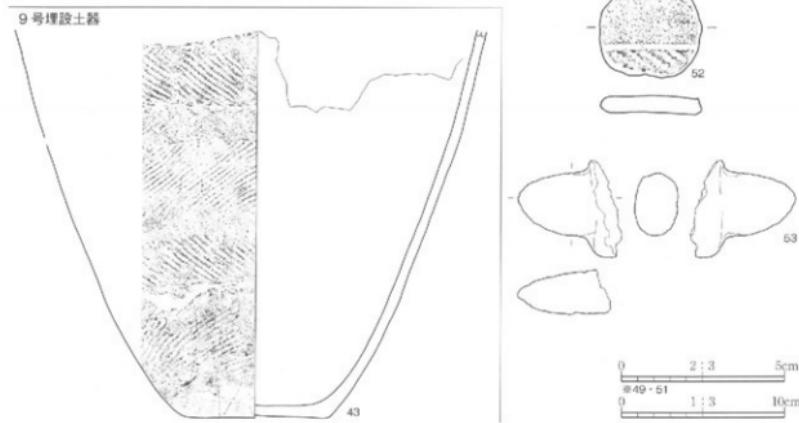
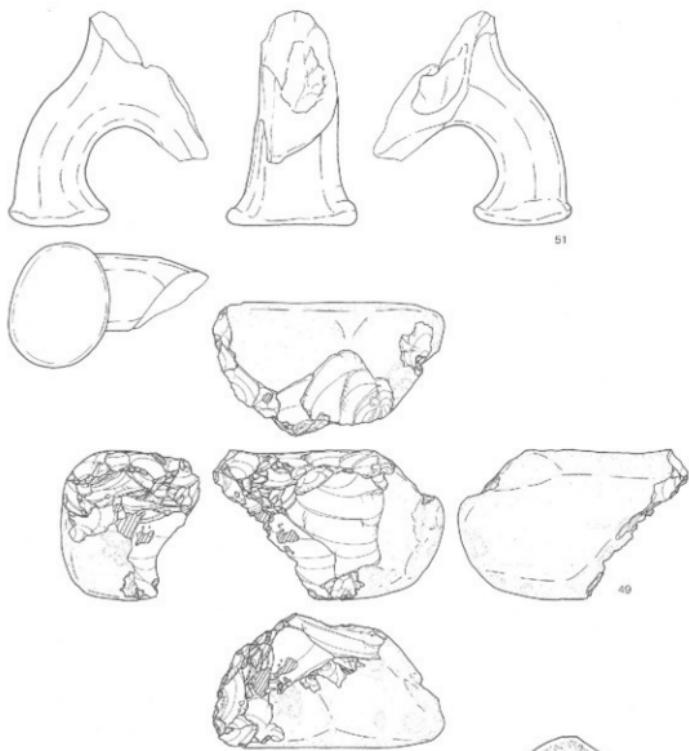
第23図 3号竪穴住居跡(3)、3・5号土坑、2・4号埋設土器



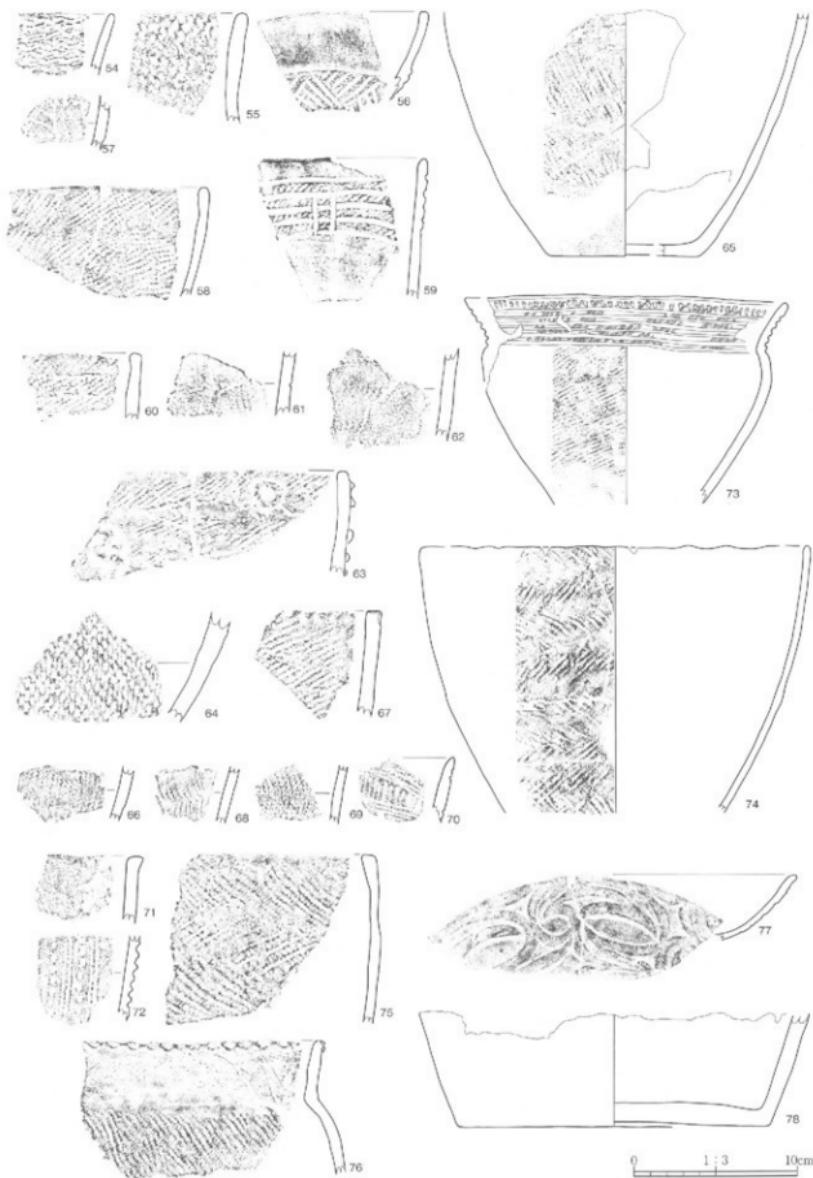
第24図 1・3・5・6号埋設土器



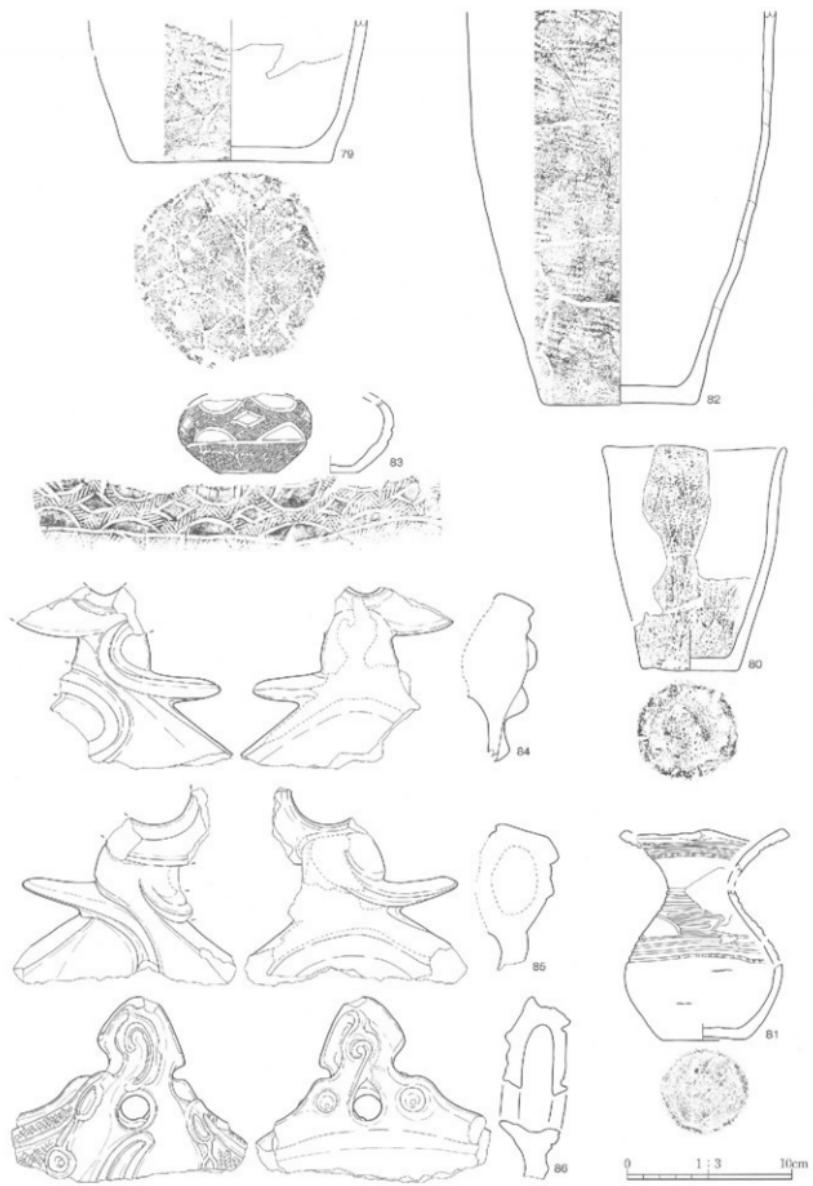
第25図 7・8号埋設土器、1・2号整穴住居跡、1号堀跡（1）



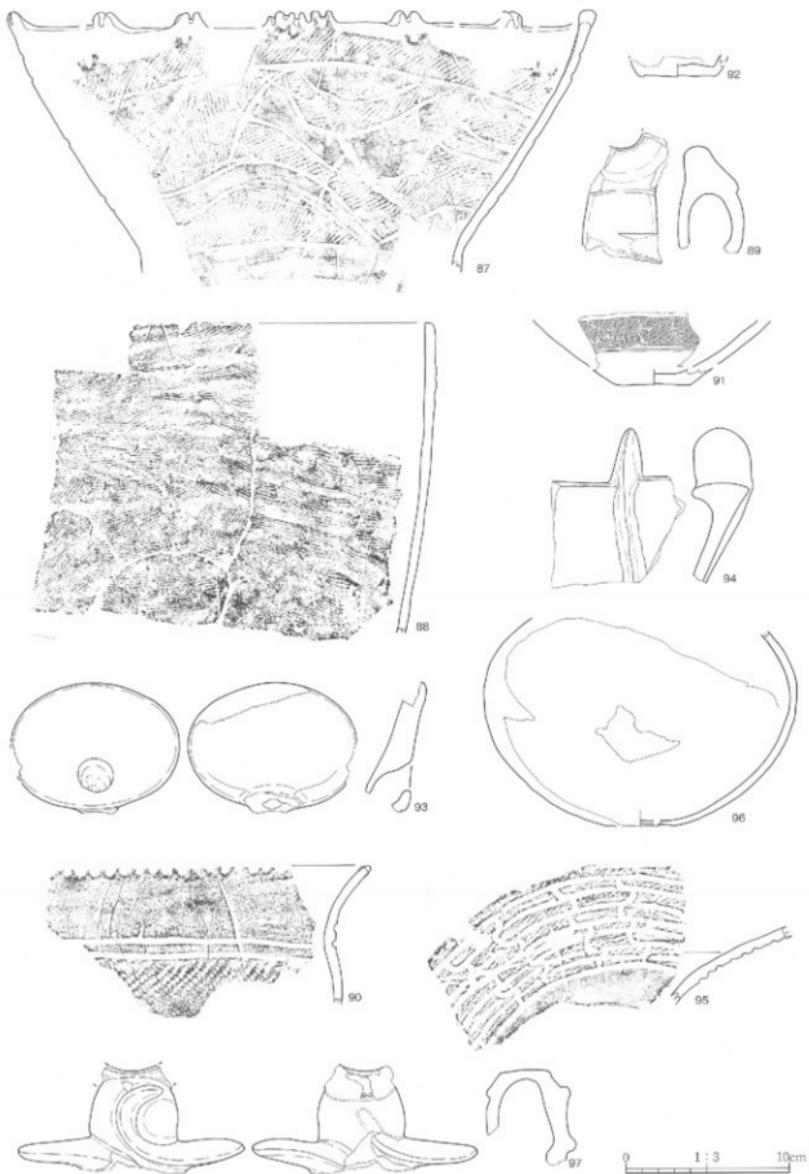
第26図 1号埋跡(2)、9号埋設土器



第27図 北区遺物包含層土器（1）



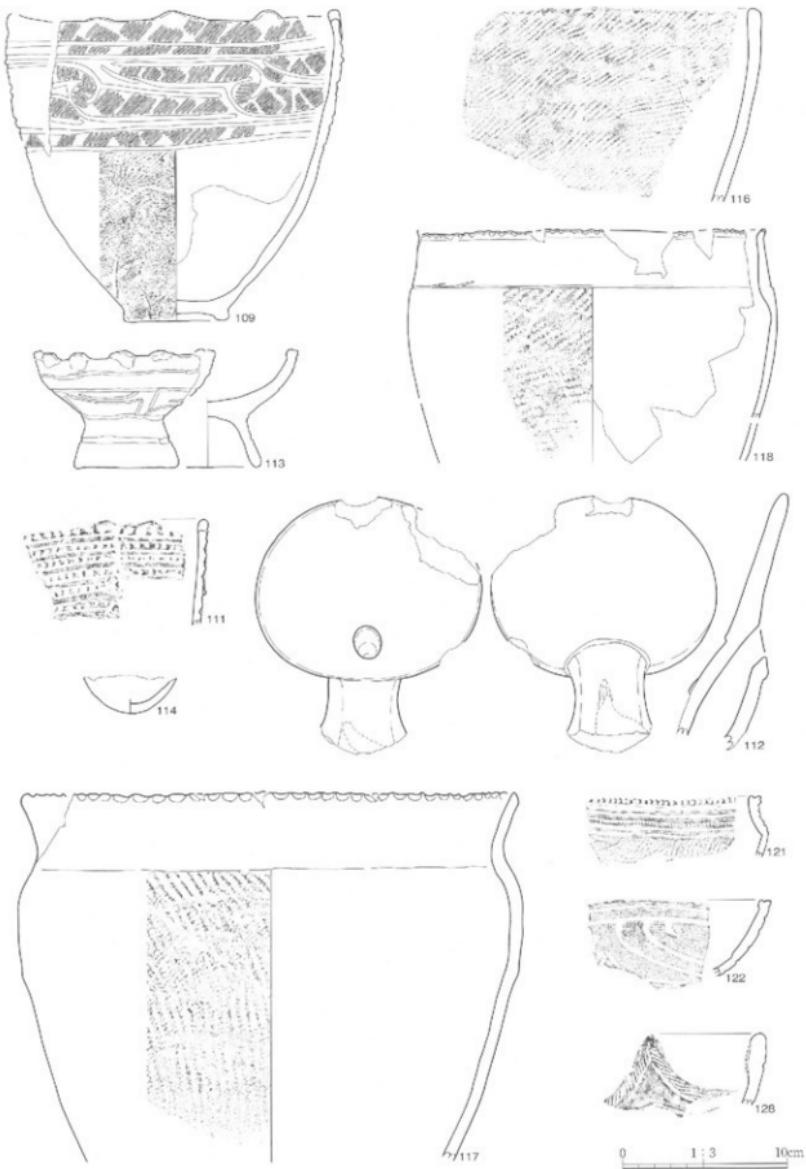
第28図 北区遺物包含層土器（2）



第29図 北区遺物包含層土器（3）



第30図 北区遺物包含層土器（4）



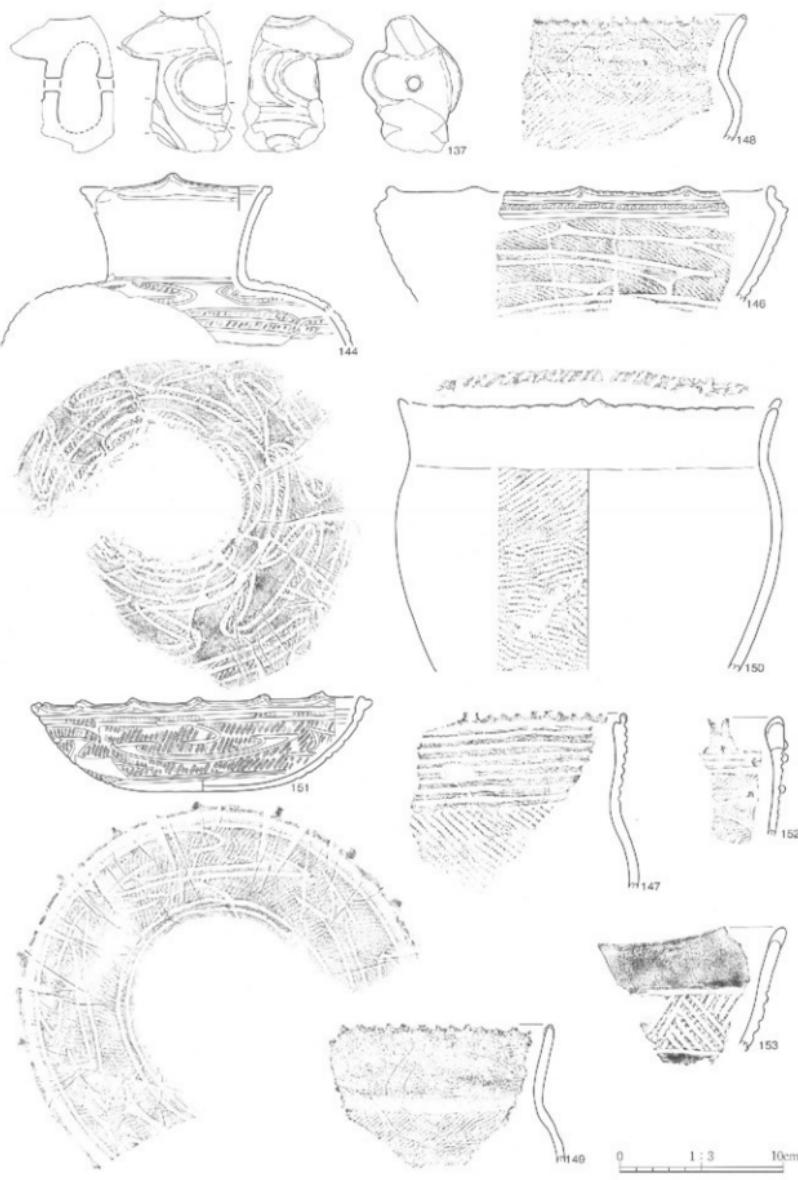
第31図 北区遺物包含層土器（5）



第32図 北区遺物包含層土器（6）



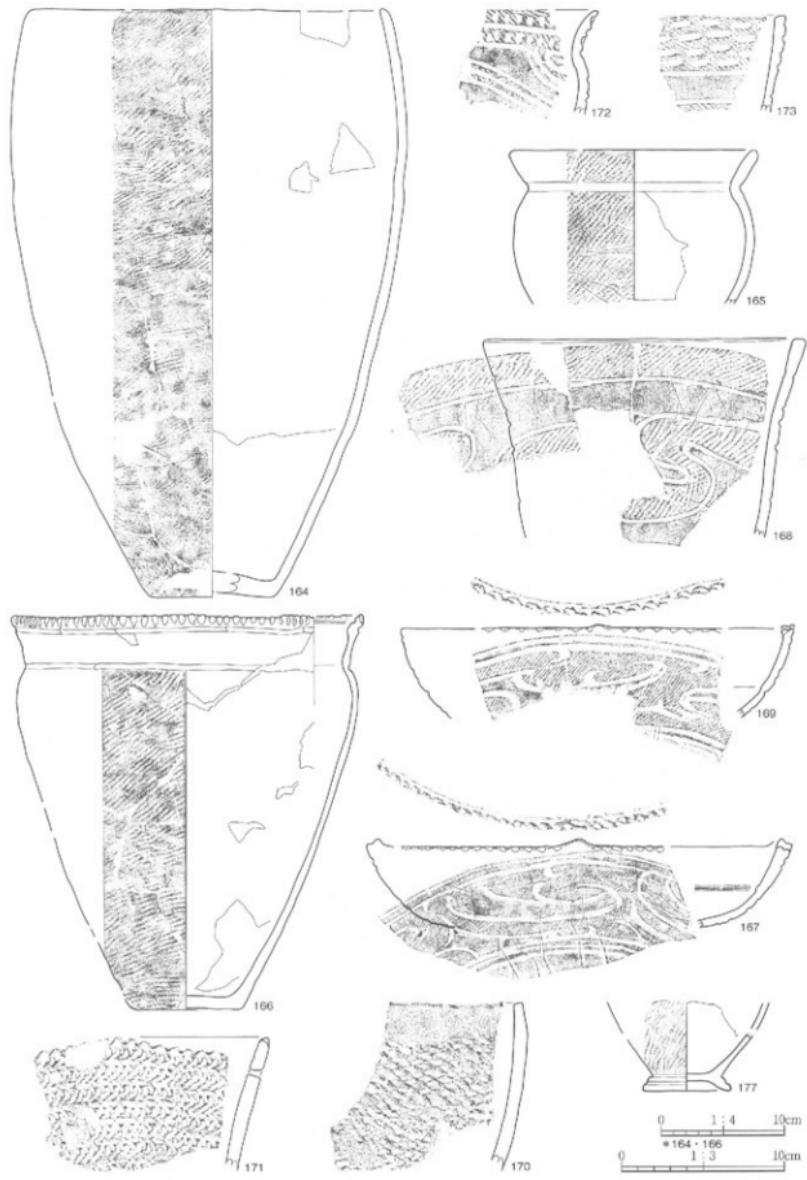
第33図 北区遺物包含層土器（7）



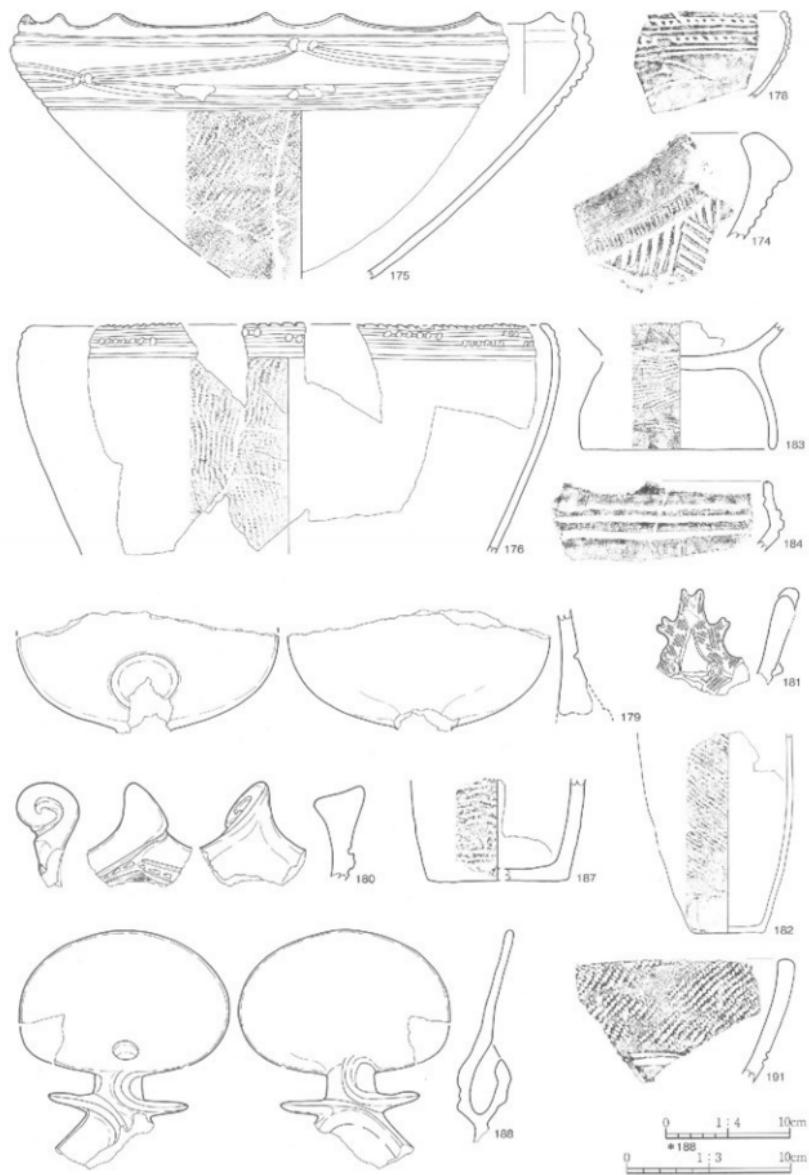
第34図 北区遺物包含層土器(8)



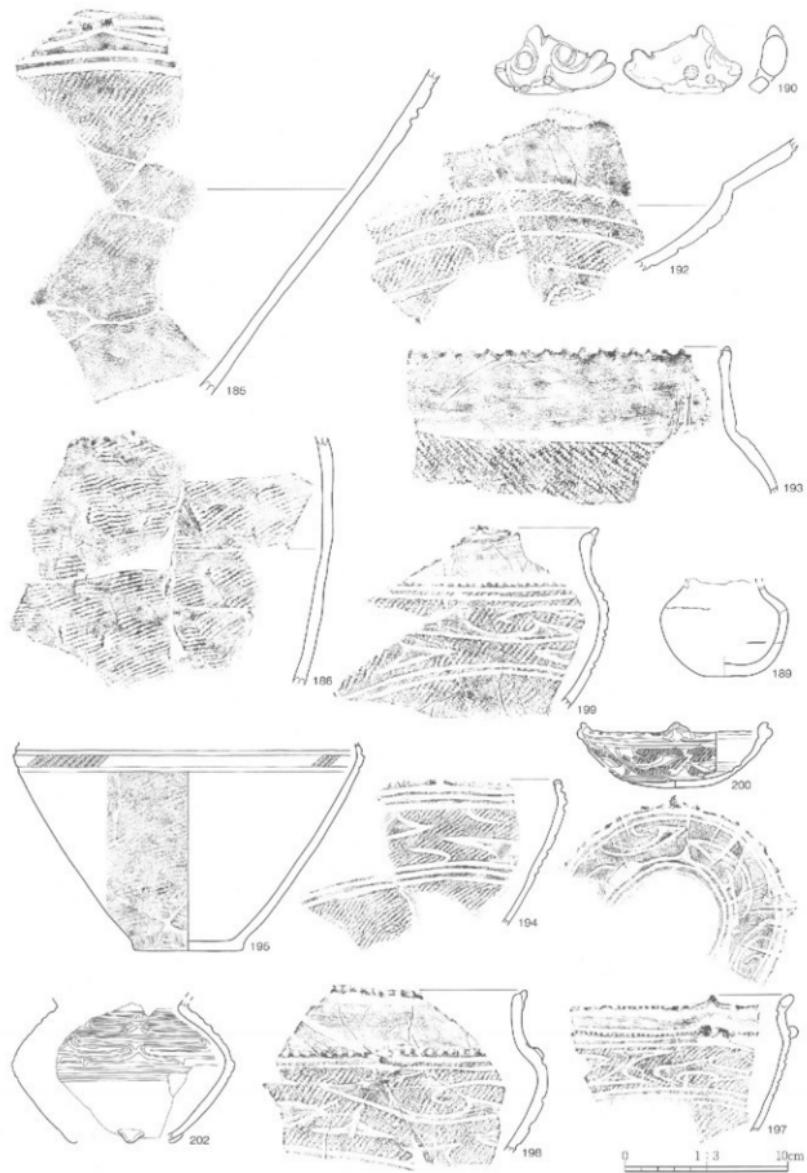
第35図 北区遺物包含層土器（9）



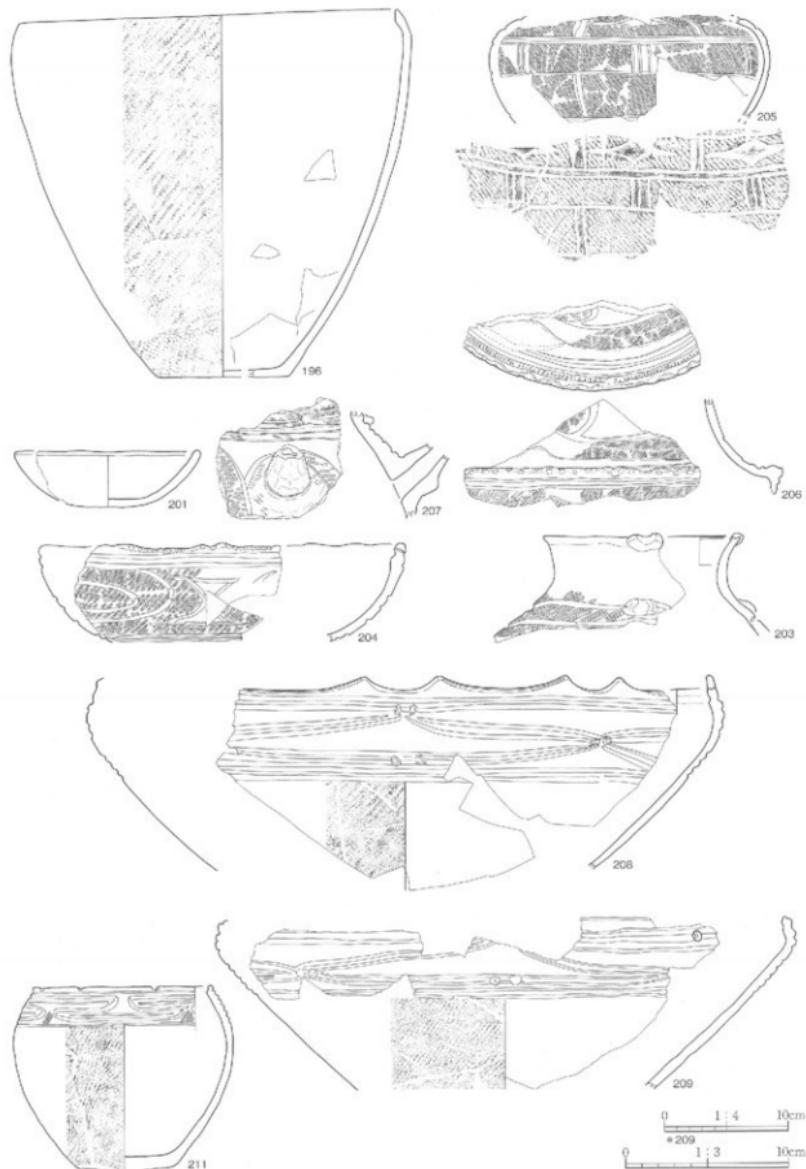
第36図 北区遺物包含層土器 (10)



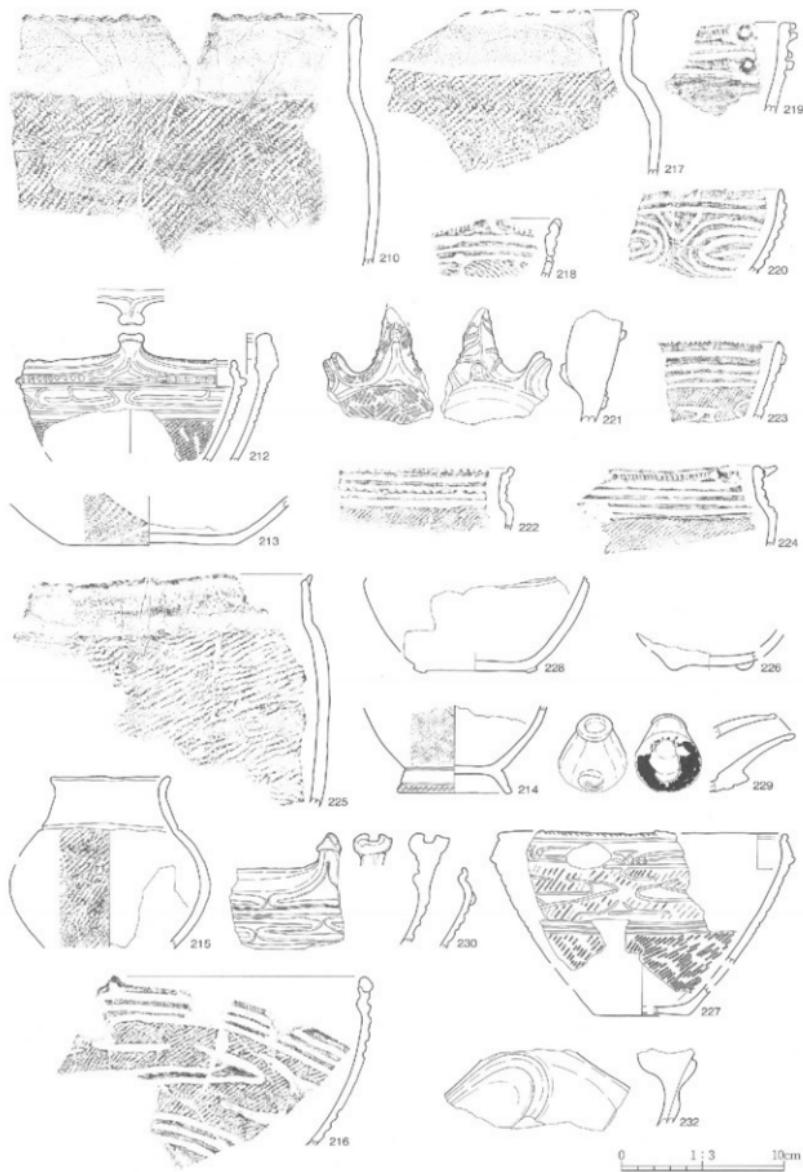
第37図 北区遺物包含層土器(11)



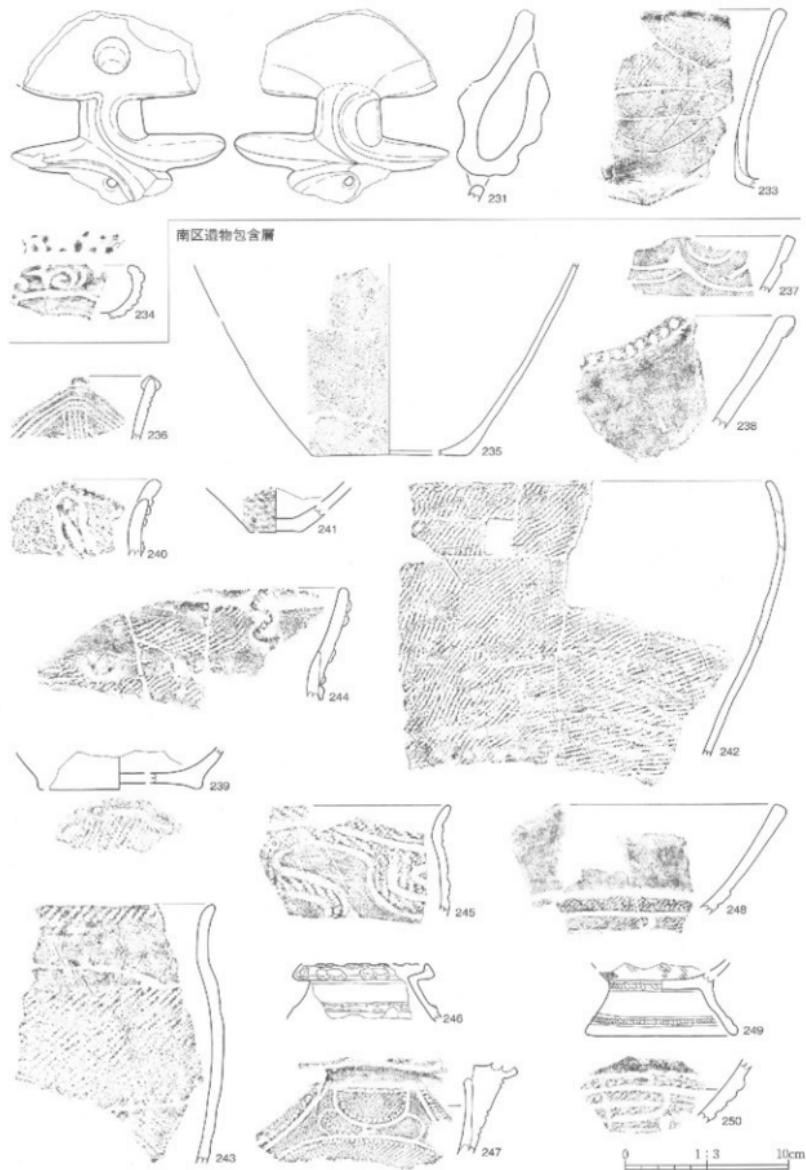
第38図 北区遺物包含層土器 (12)



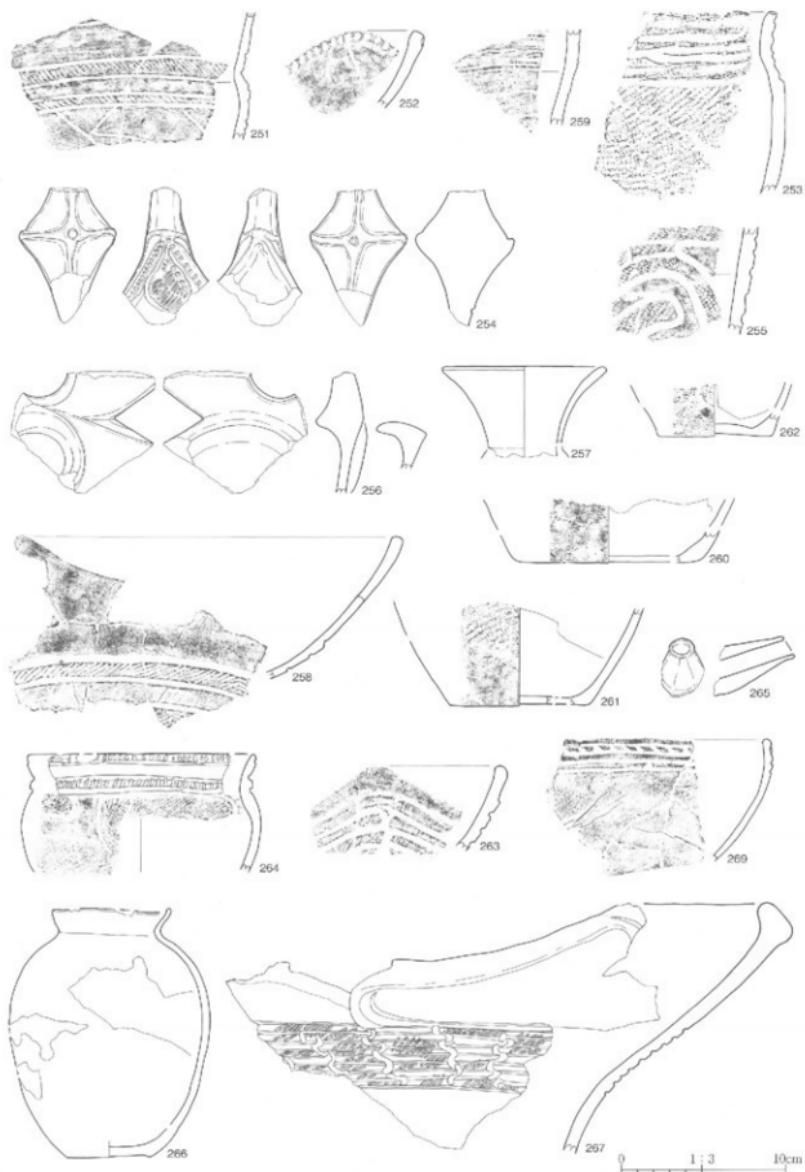
第39図 北区遺物包含層土器 (13)



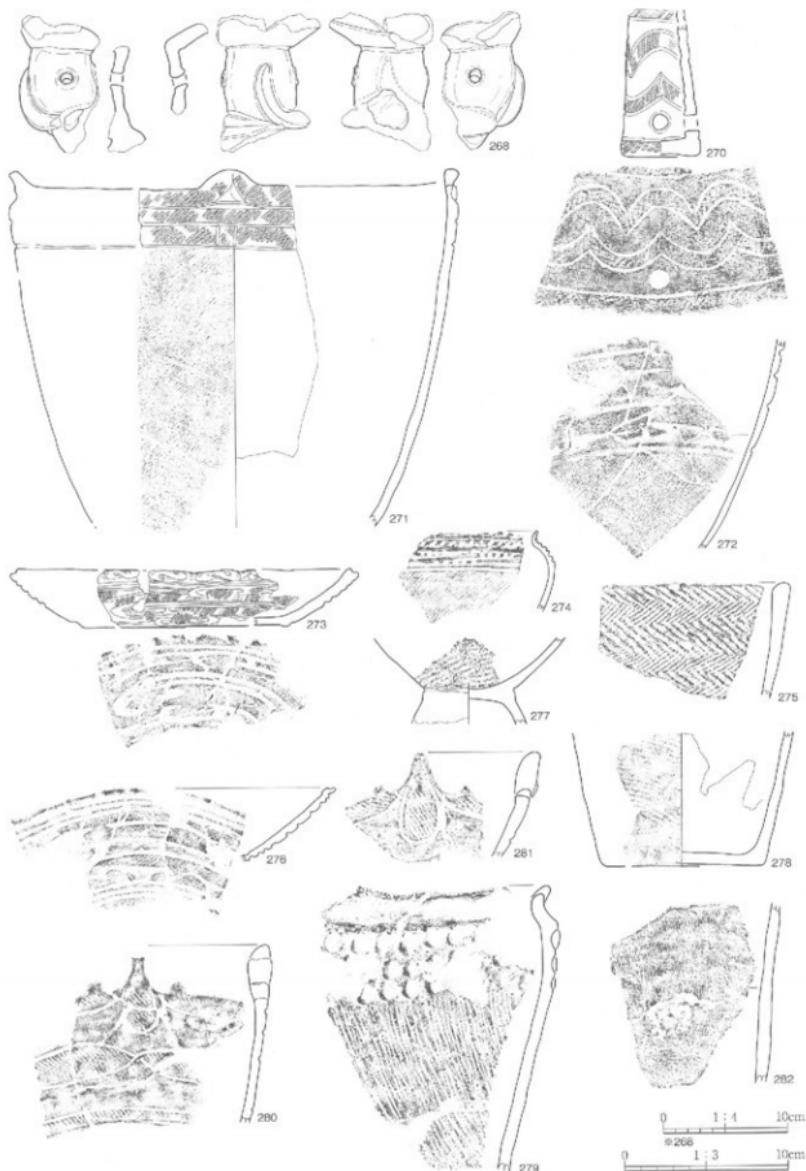
第40図 北区遺物包含層土器 (14)



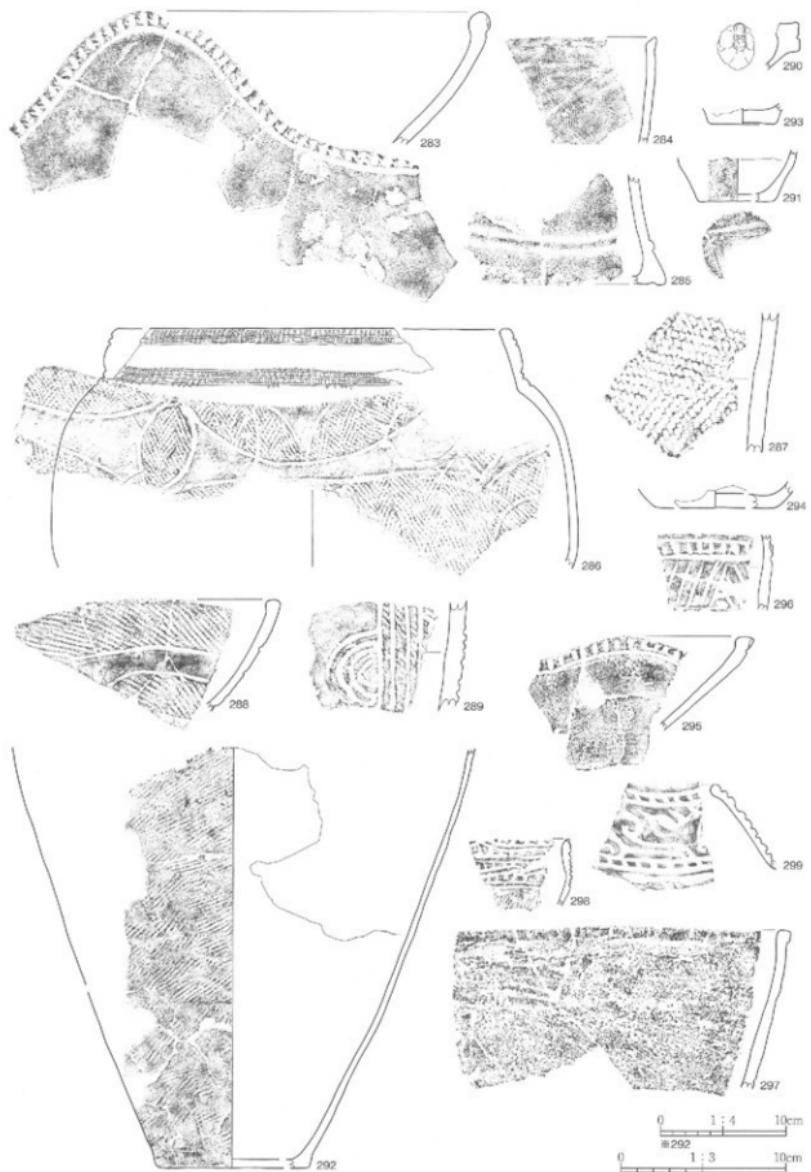
第41図 北区遺物包含層土器 (15)、南区遺物包含層土器 (1)



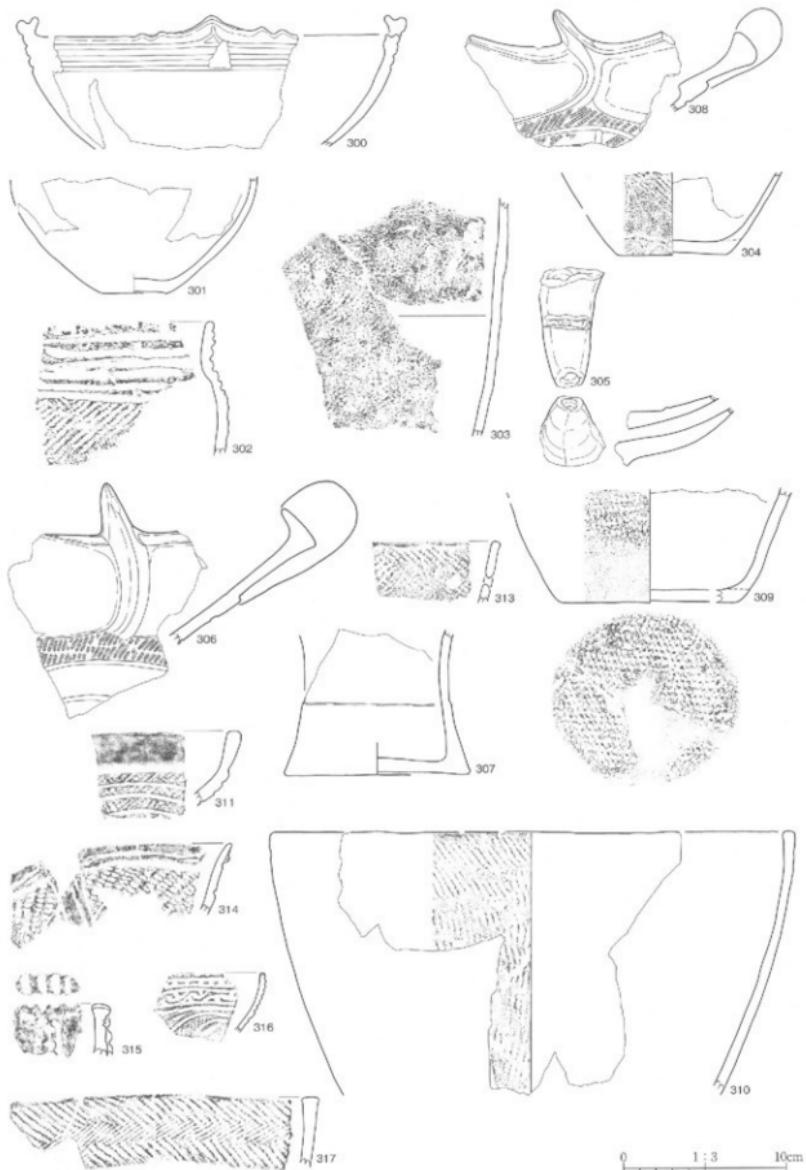
第42図 南区遺物包含層土器（2）



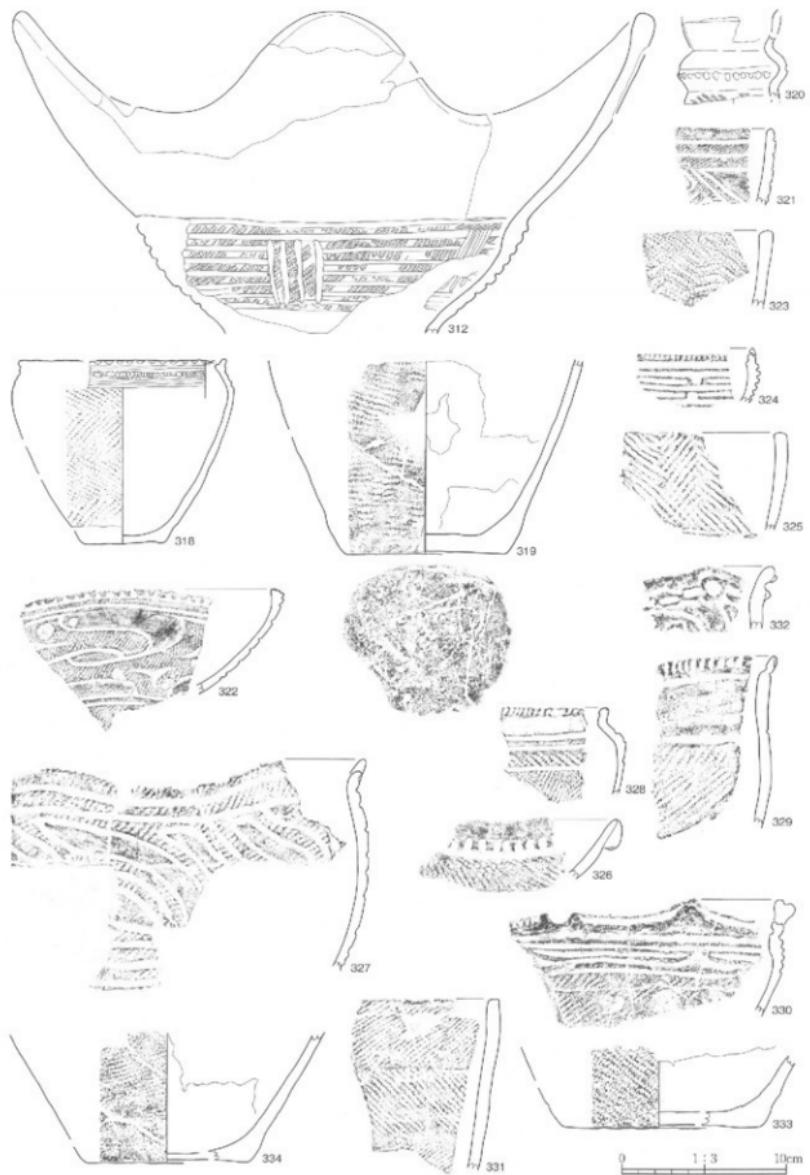
第43図 南区遺物包含層土器（3）



第44図 南区遺物包含層土器(4)



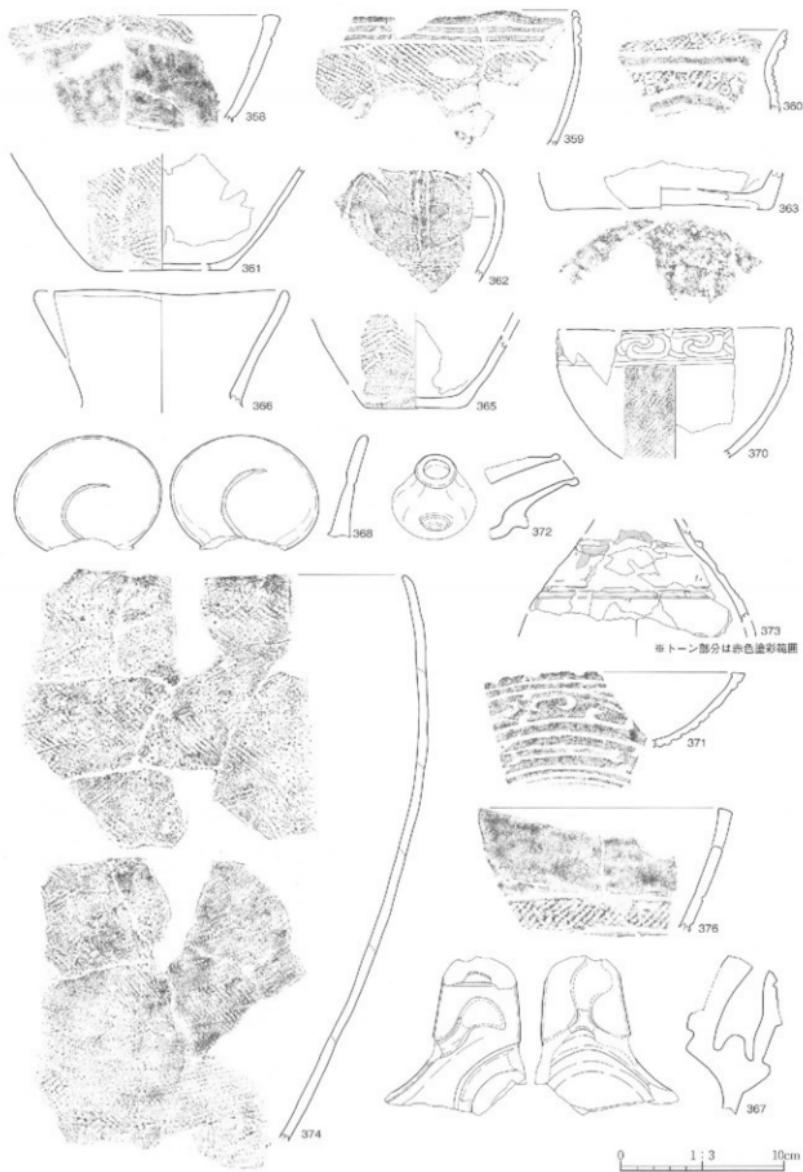
第45図 南区遺物包含層土器（5）



第46図 南区遺物包含層土器（6）



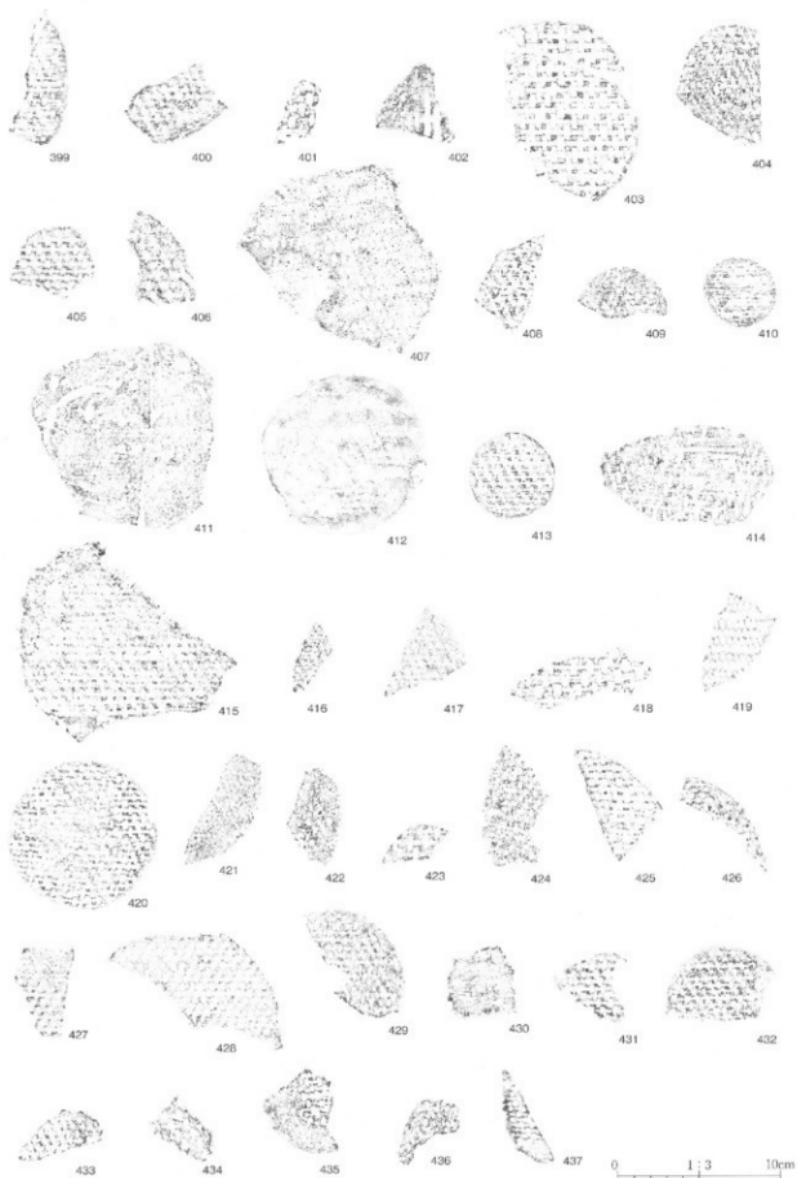
第47図 南区遺物包含層土器 (7)



第48図 南区遺物包含層土器（8）



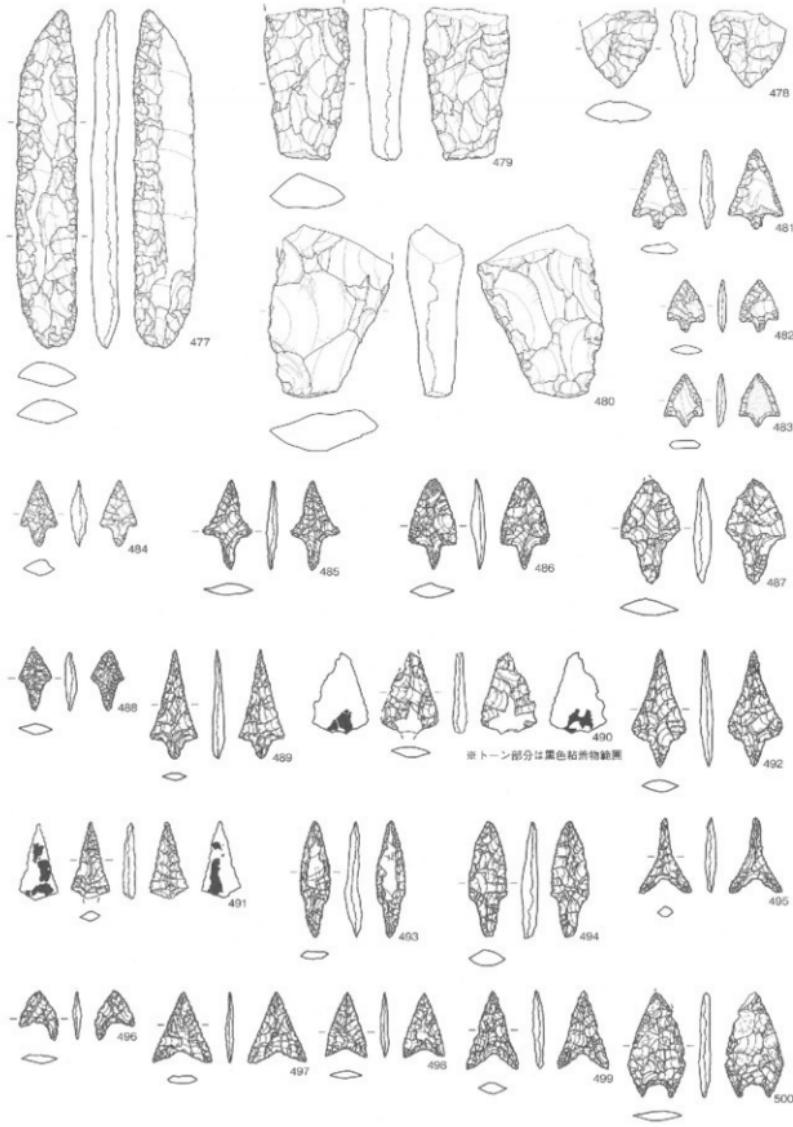
第49図 南区遺物包含層土器 (9)、土器底部 (1)



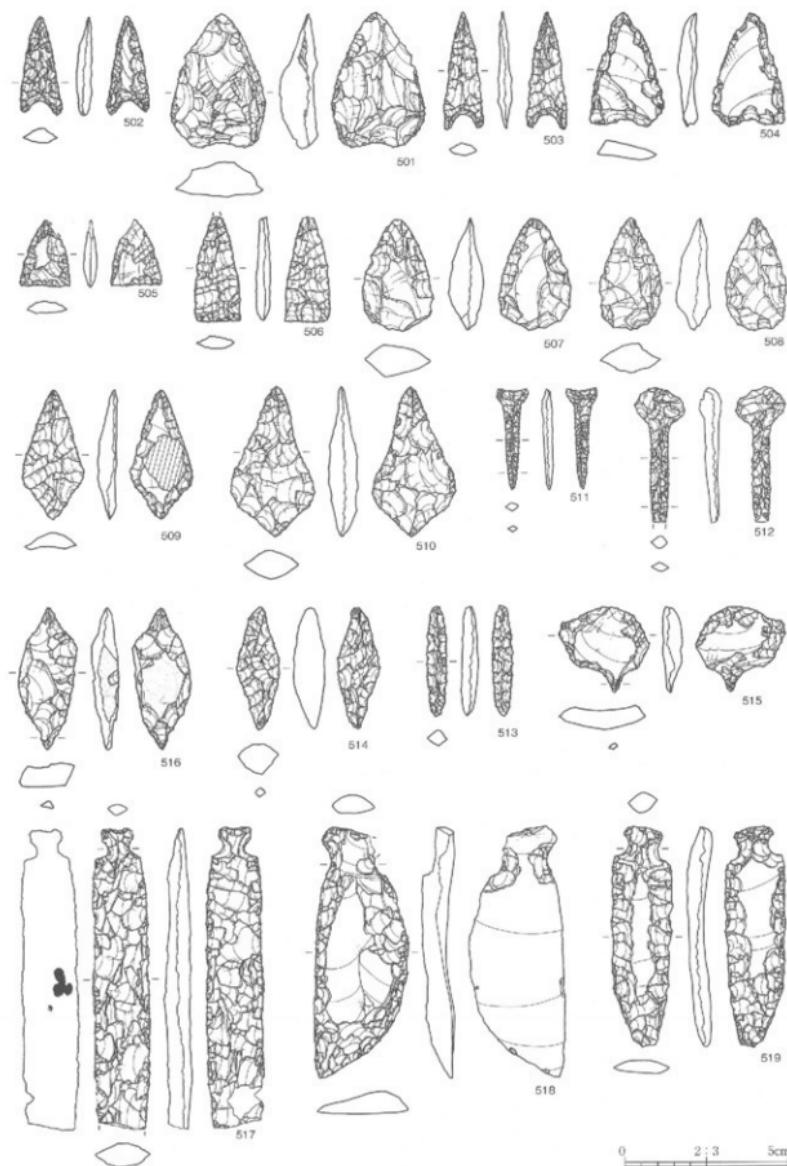
第50図 土器底部(2)



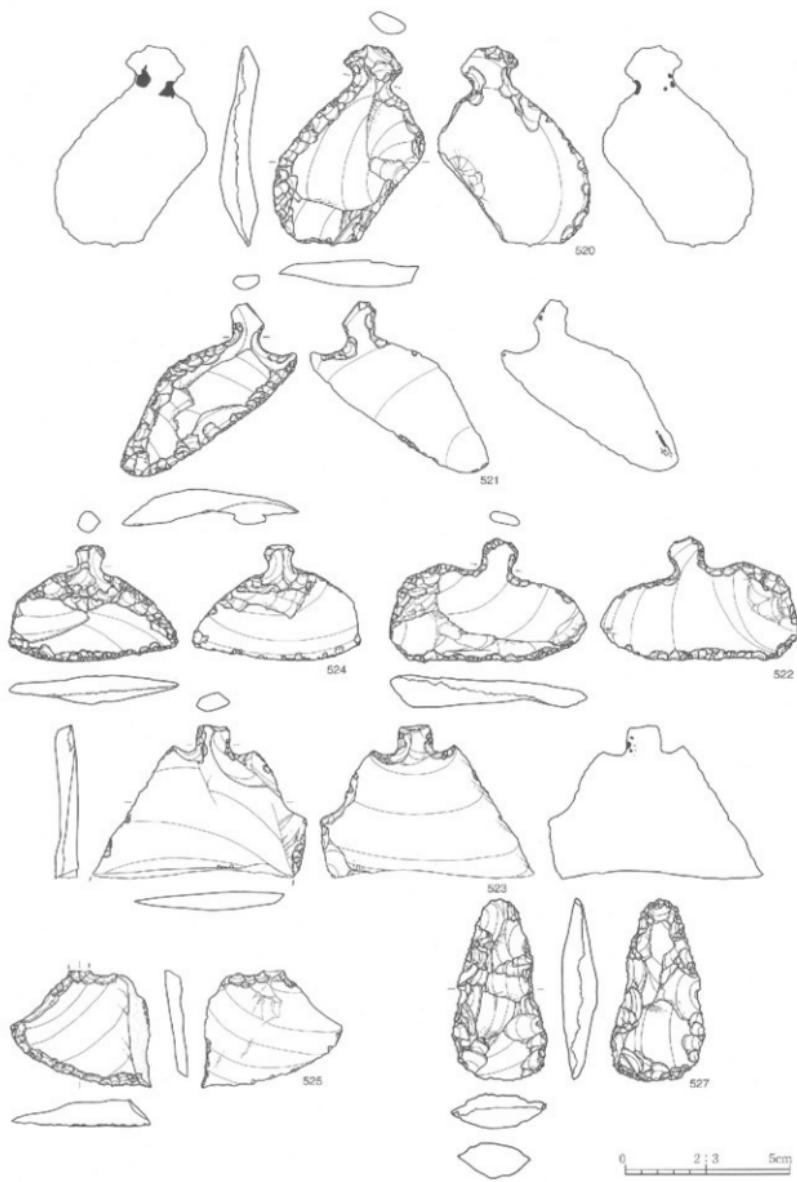
第51図 土器底部（3）



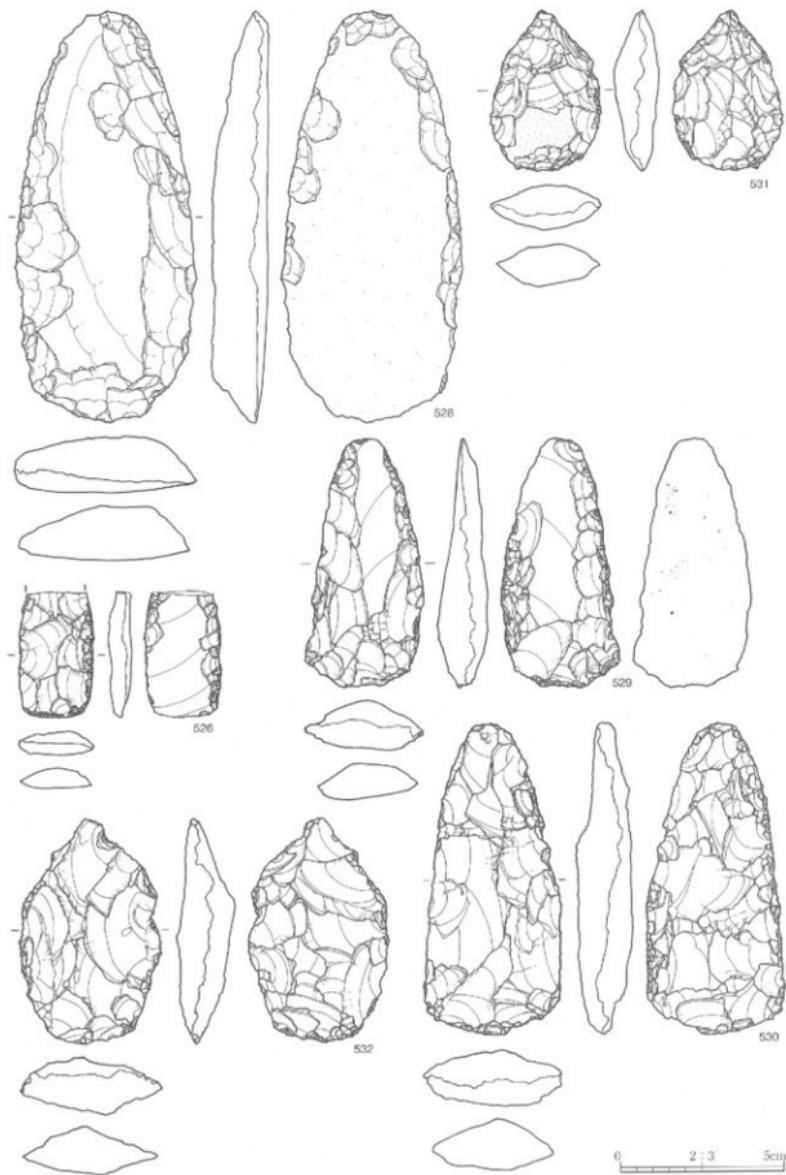
第52図 出土石器(1)



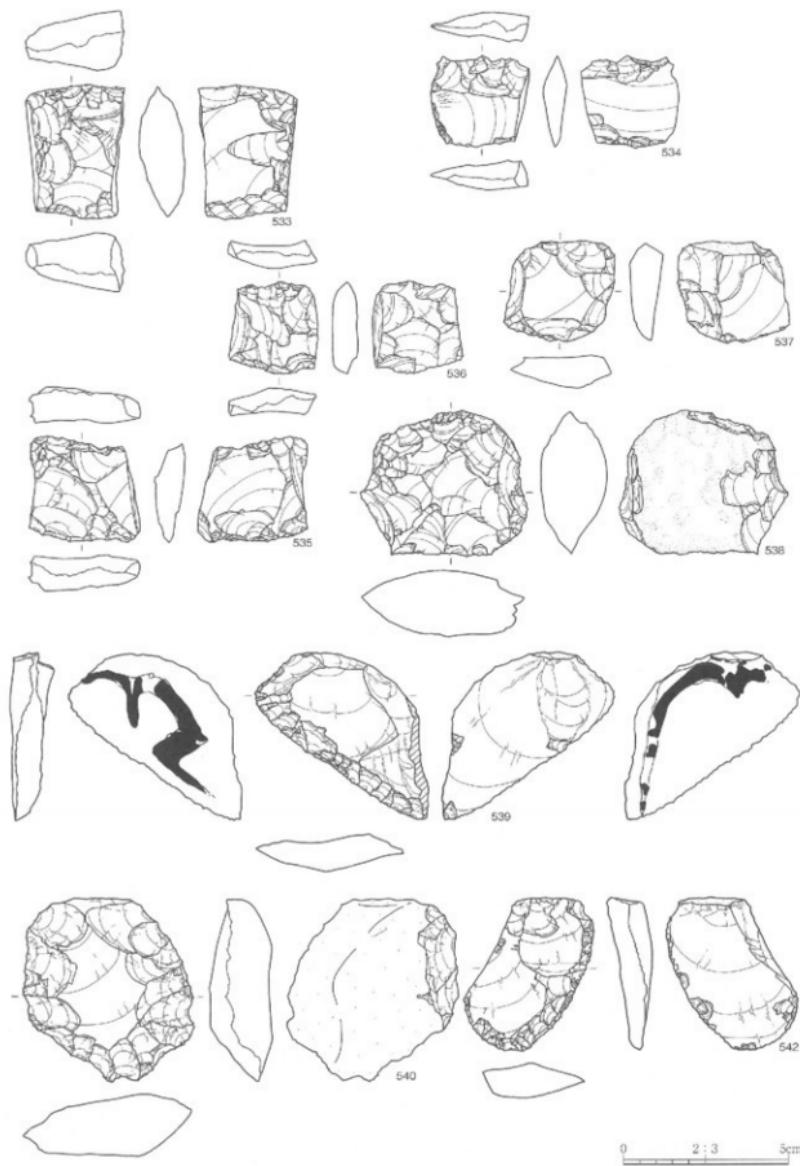
第53図 出土石器（2）



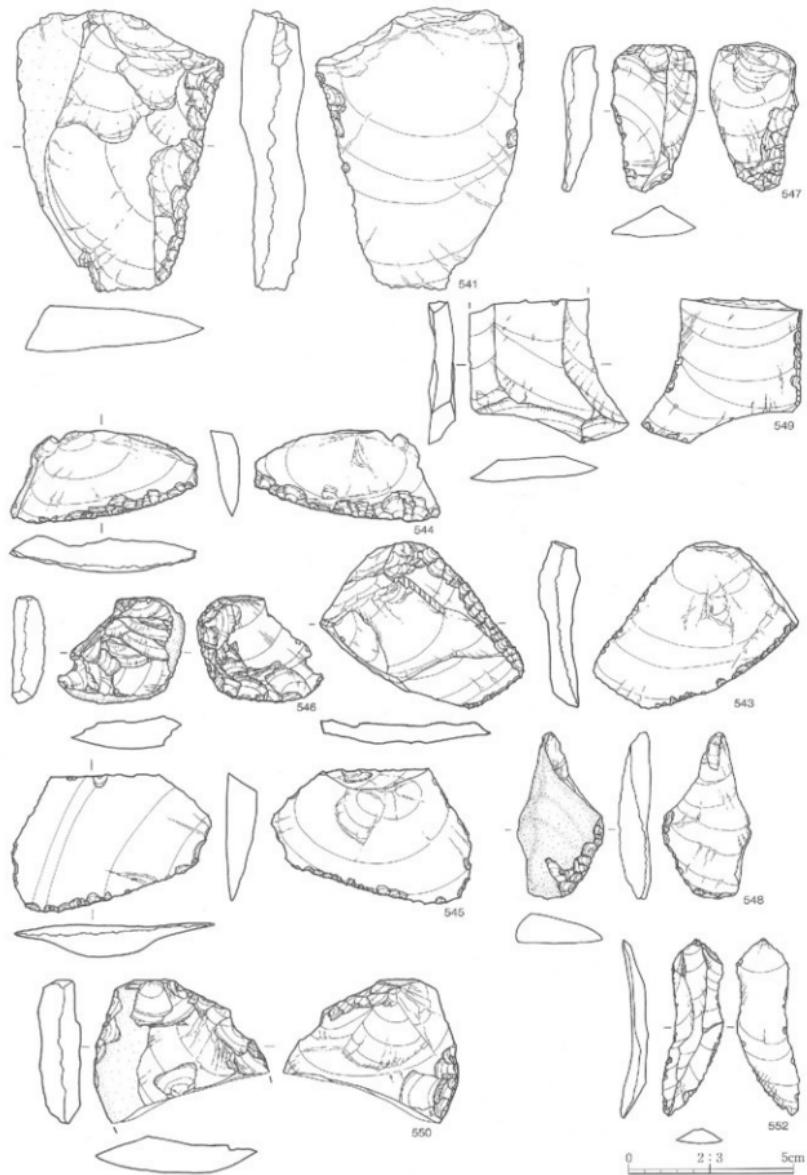
第54図 出土石器(3)



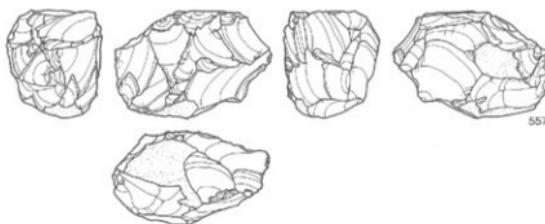
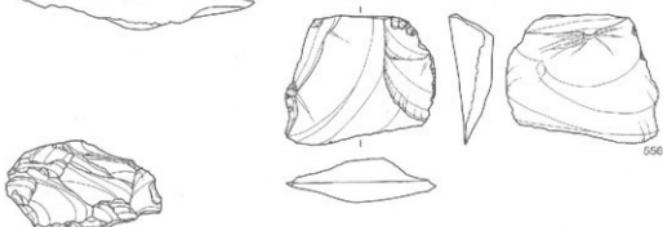
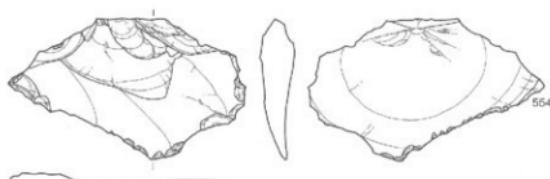
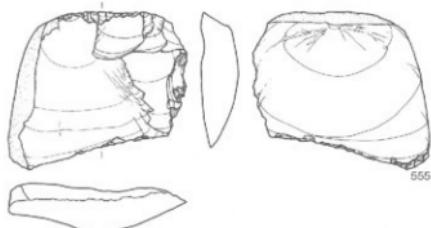
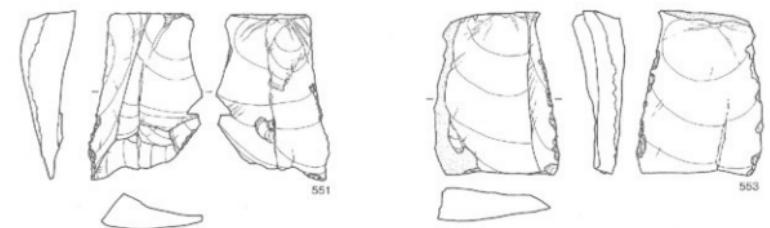
第 55 図 出土石器 (4)



第56図 出土石器(5)

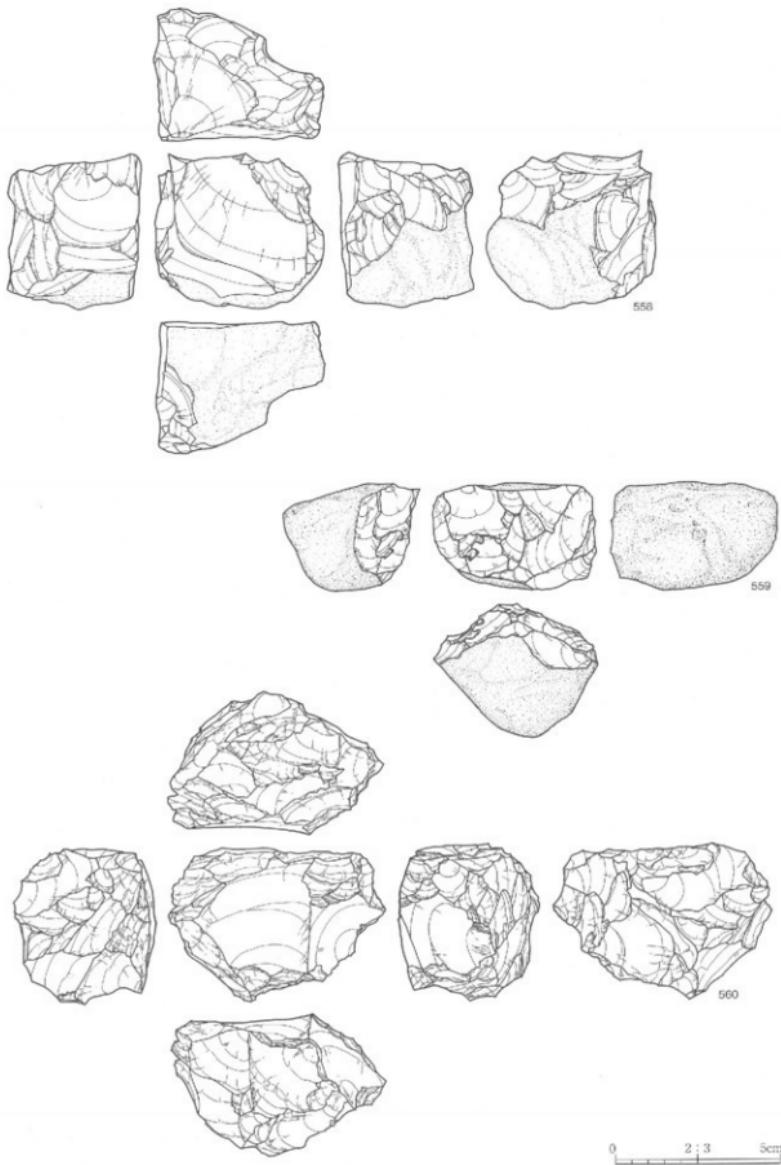


第57図 出土石器 (6)

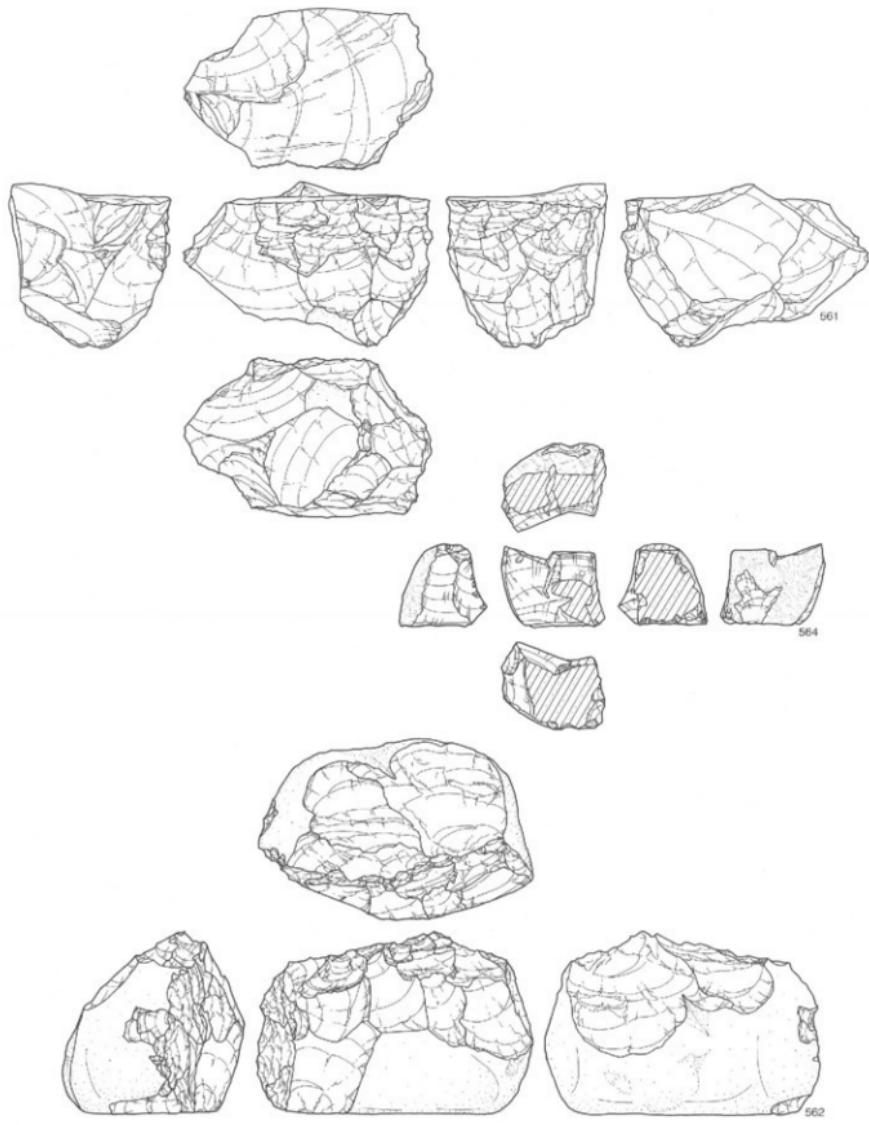


0 2 : 3 5cm

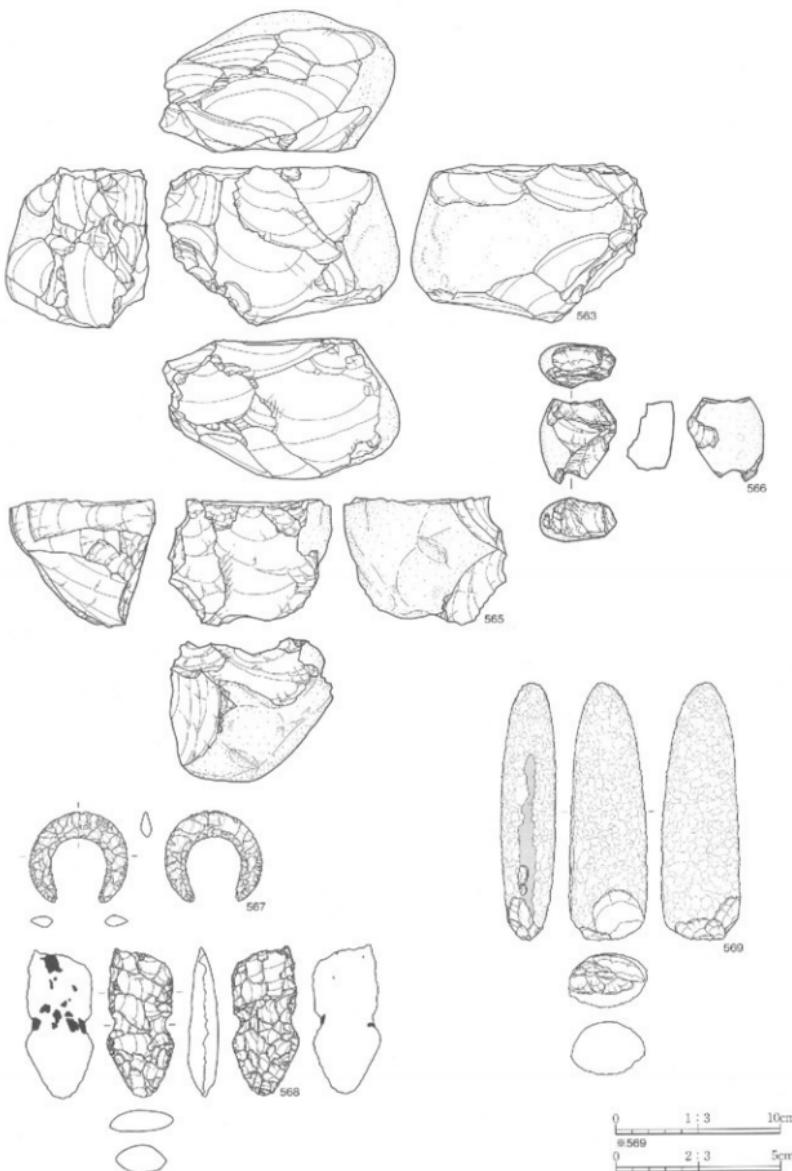
第58図 出土石器(7)



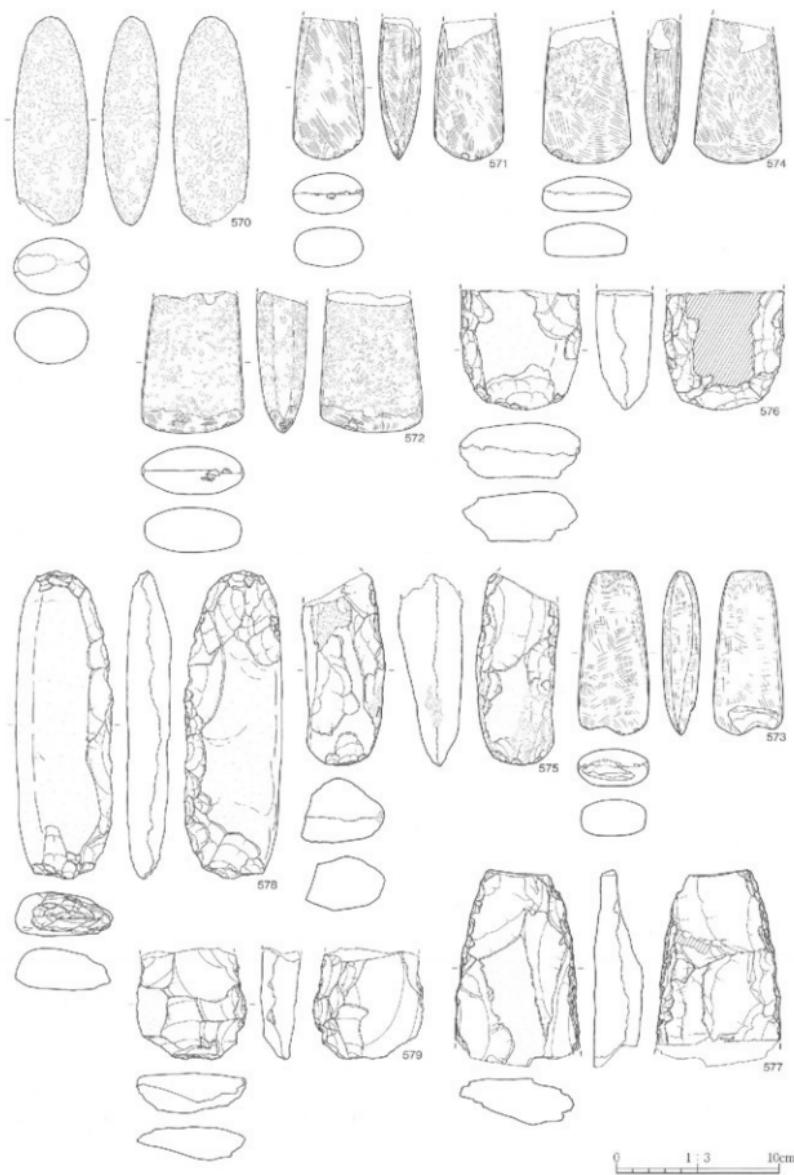
第 59 図 出土石器 (8)



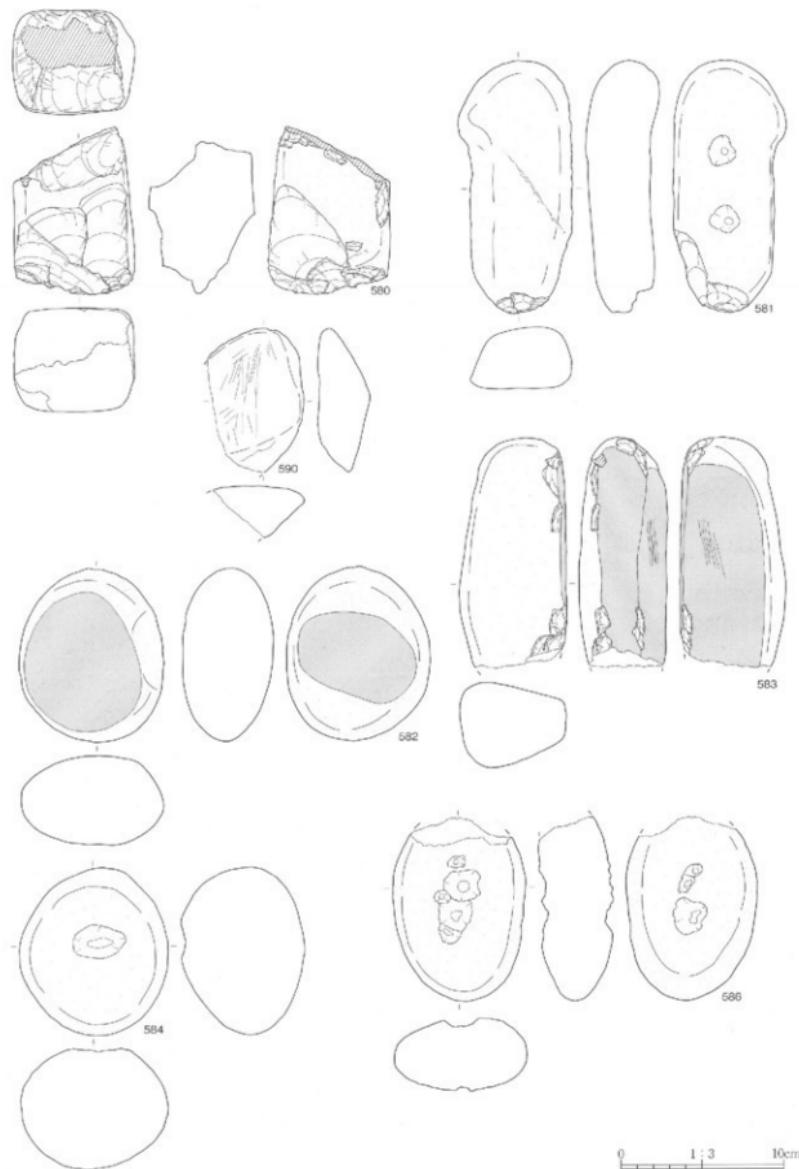
第60図 出土石器(9)



第 61 図 出土石器 (10)

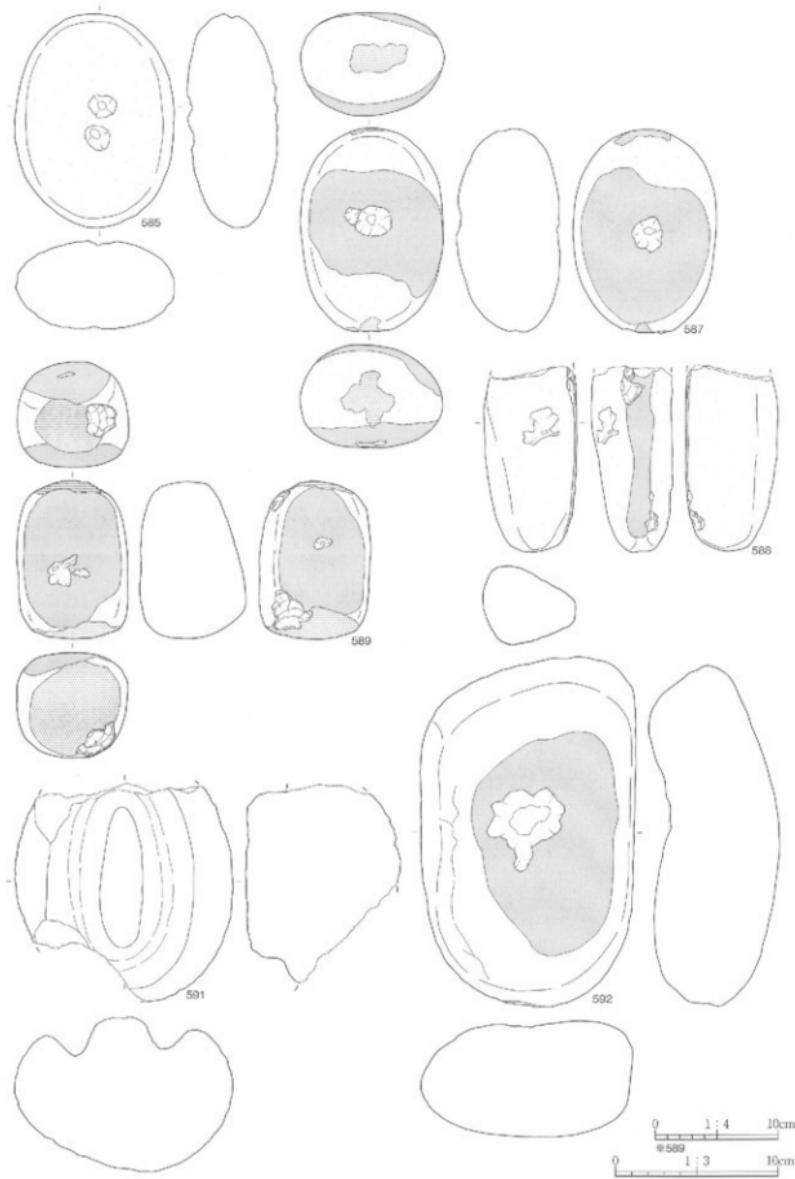


第62図 出土石器 (11)



第63図 出土石器 (12)

0 1 : 3 10cm



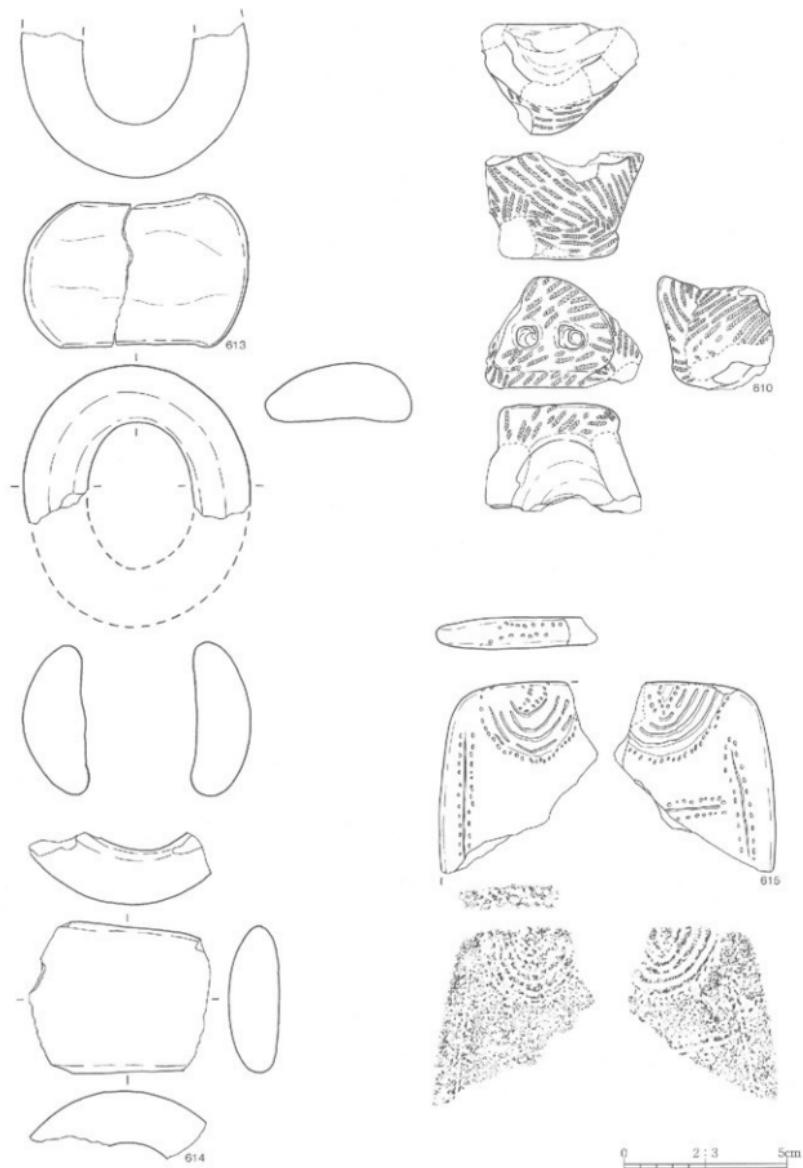
第64図 出土石器 (13)



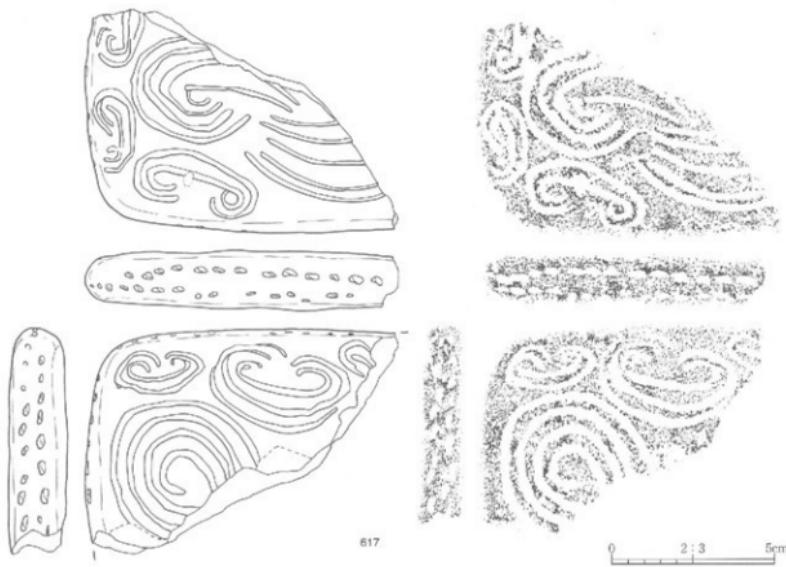
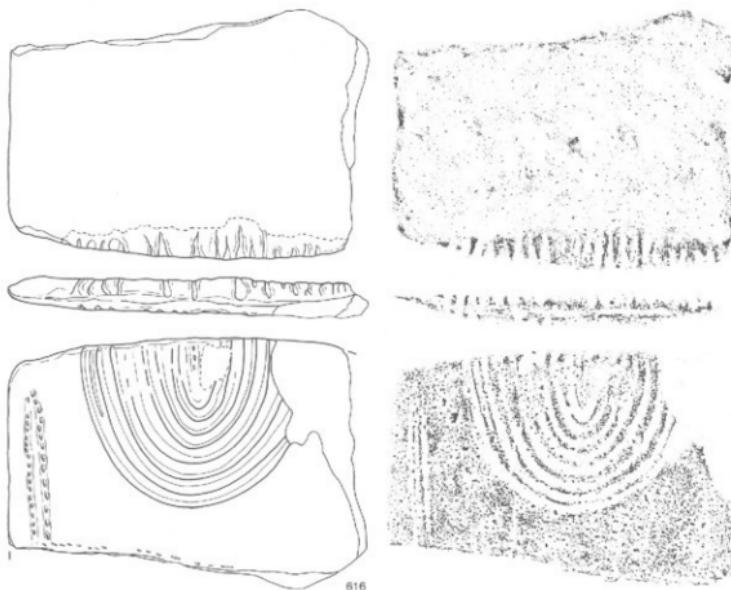
第65図 出土土製品（1）



第 66 図 出土土製品 (2)



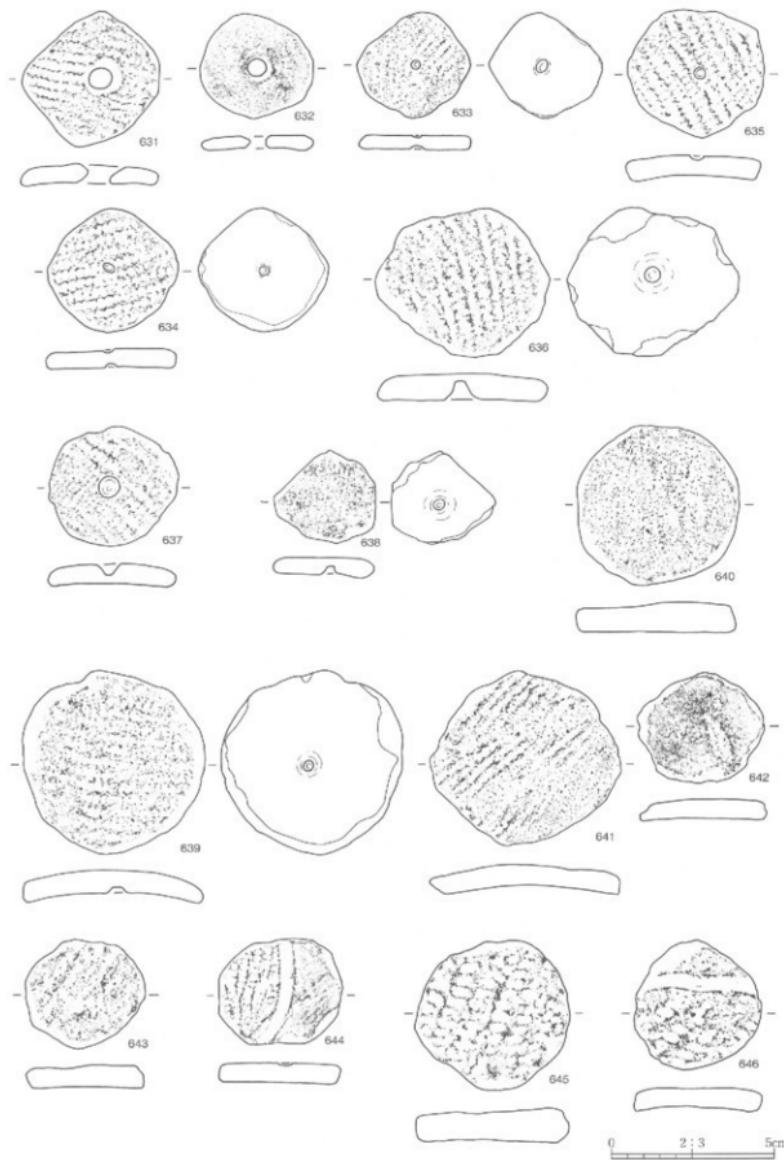
第67図 出土土製品（3）



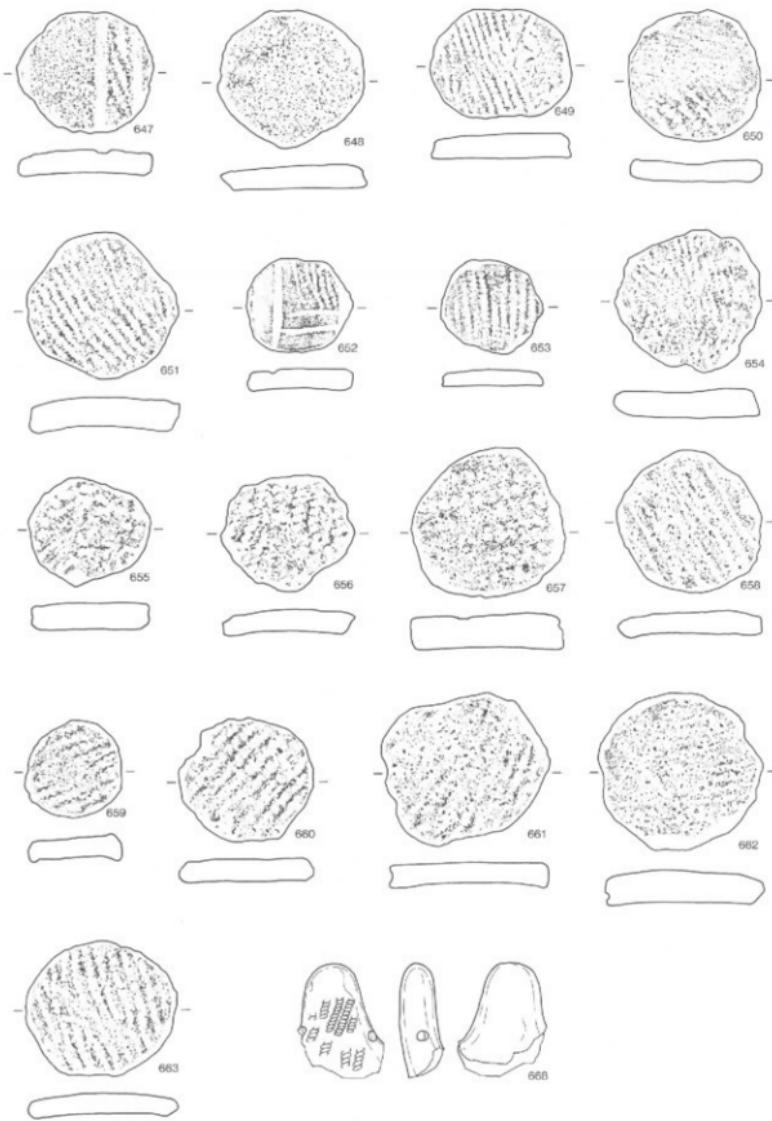
第 68 図 出土土製品 (4)



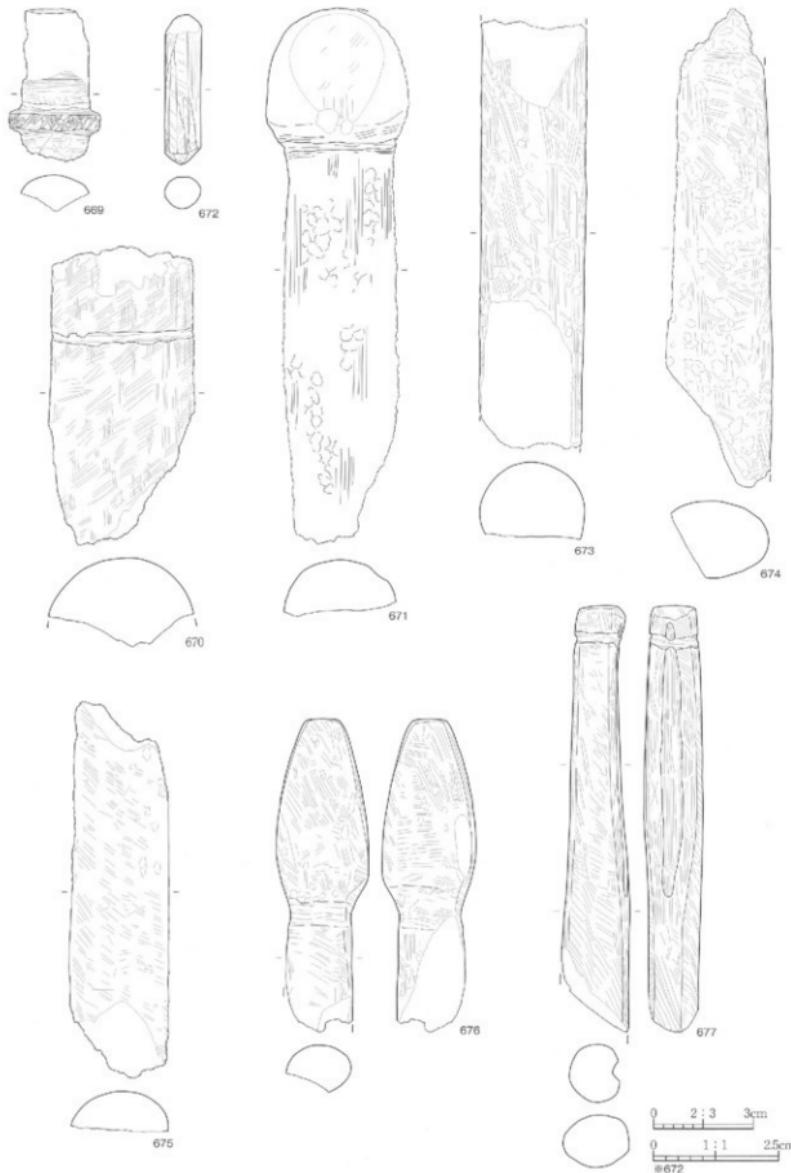
第69図 出土土製品（5）



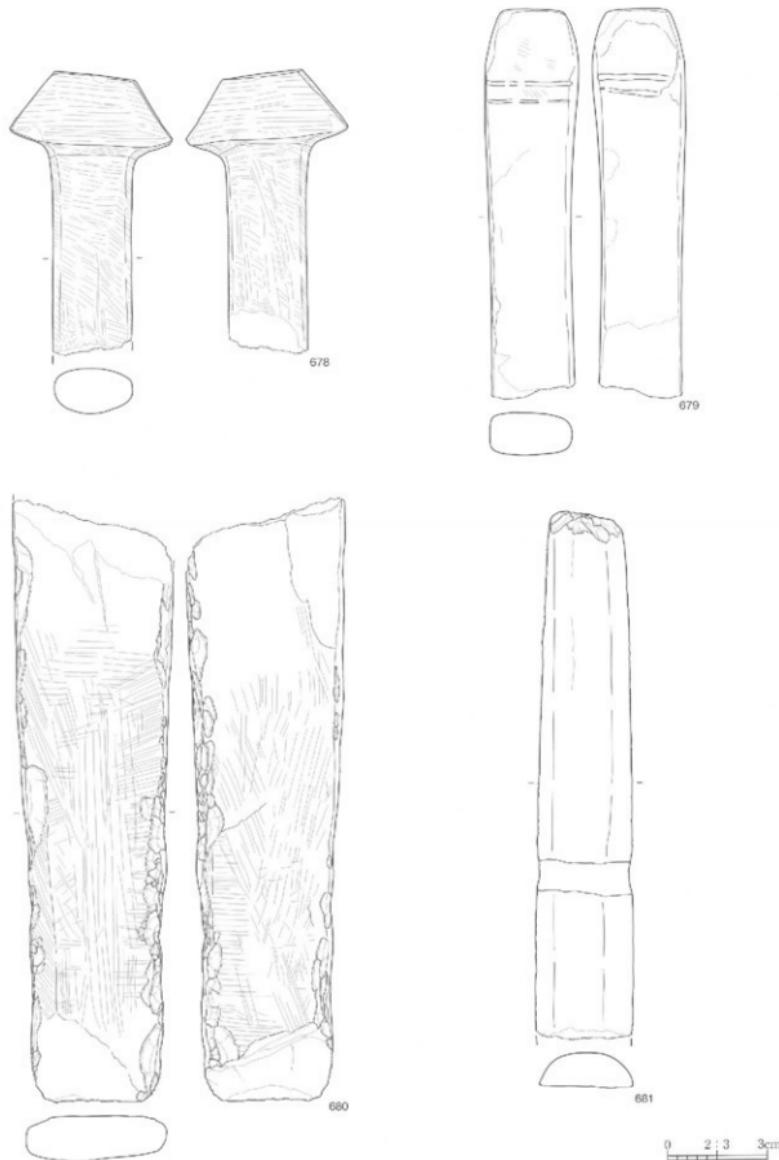
第70図 出土土製品（6）



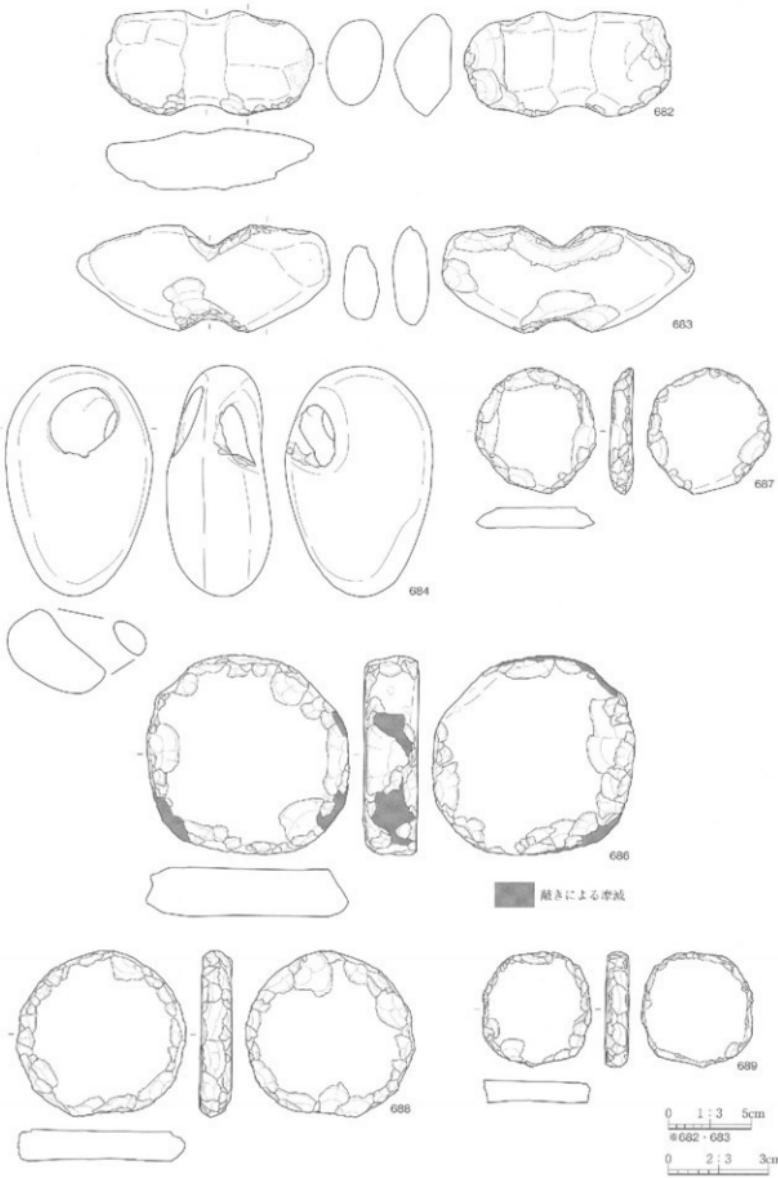
第71図 出土土製品（7）



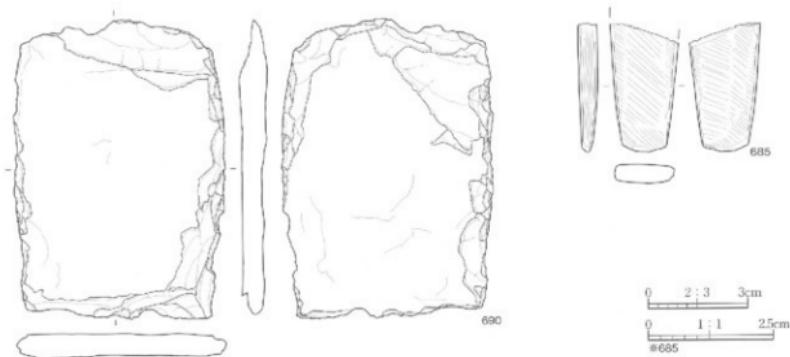
第72図 出土石製品（1）



第73図 出土石製品（2）

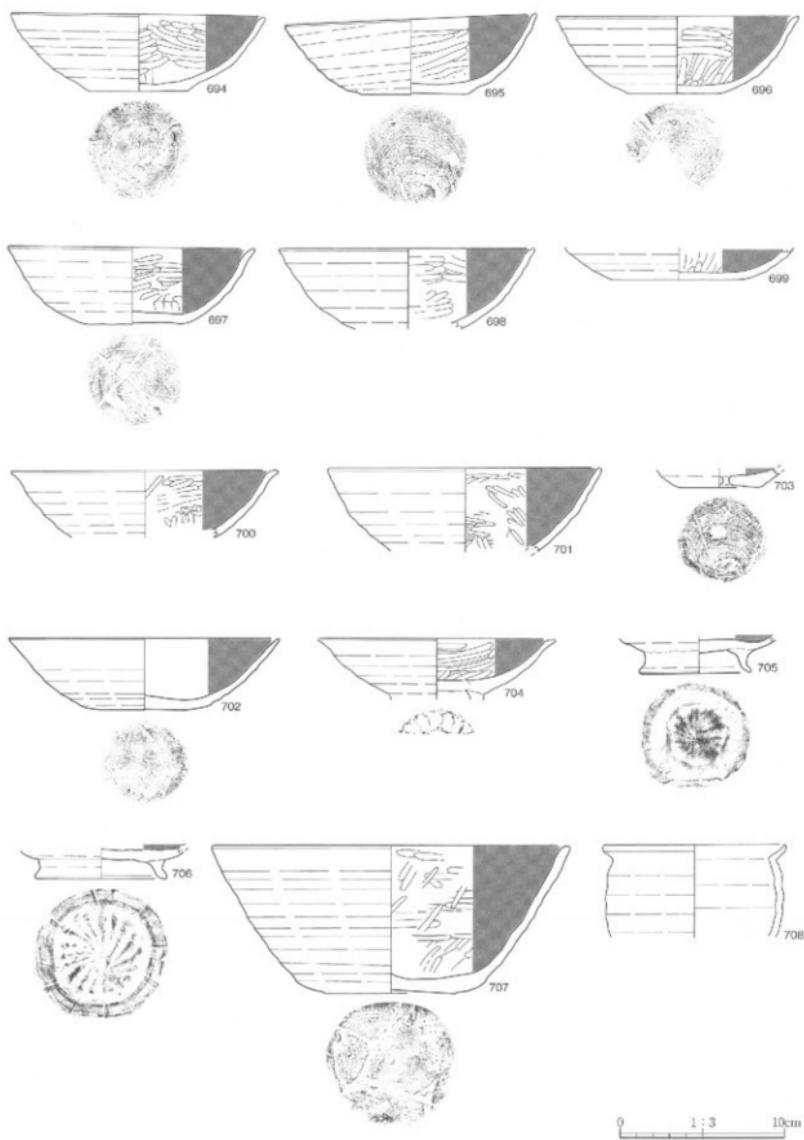


第74図 出土石製品（3）



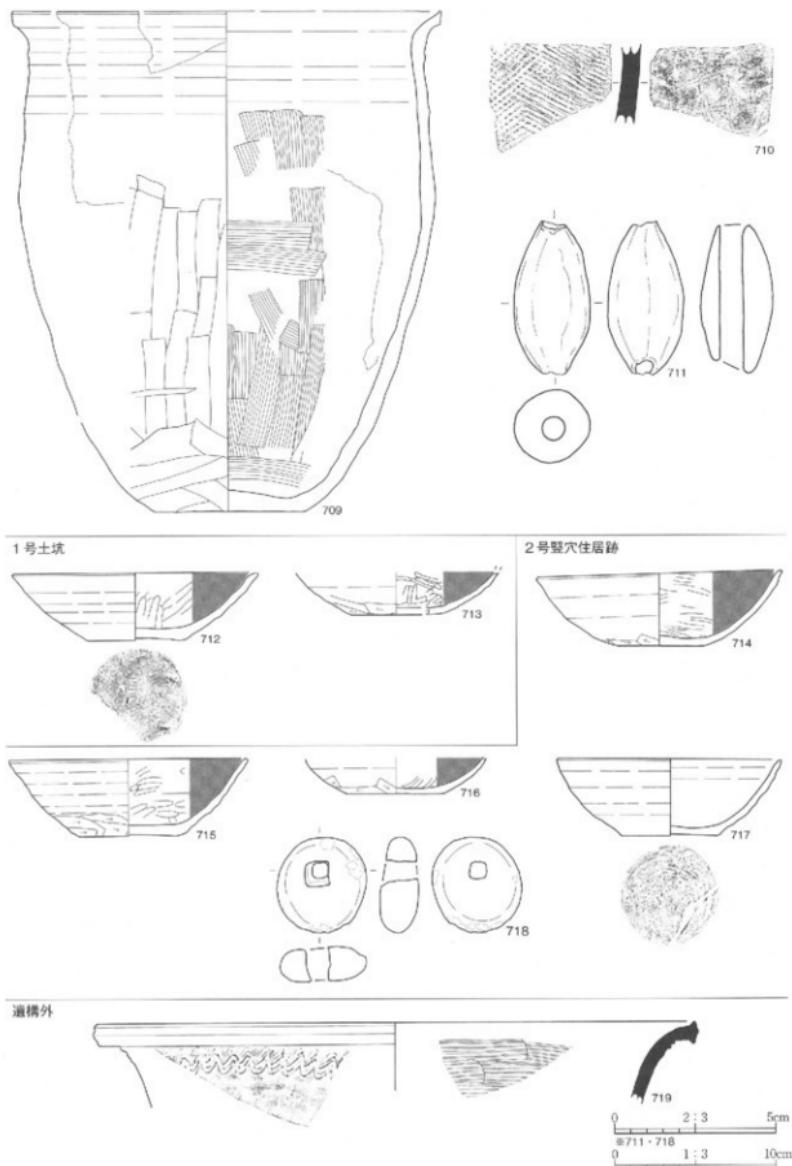
第75図 出土石製品（4）

1号竪穴住居跡



0 1 : 3 10cm

第76図 1号竪穴住居跡(1)



第77図 1号竪穴住居跡（2）、1号土坑、2号竪穴住居跡、遺構外

第3表 繩文土器観察表

清数	通数	年数	区	出土地点	部位	縄文可放 内訌数 器数	形態	器種	分類	残存位置	既存率(%)		
											上端	下端	
1	21	21	東	3号竪穴住居跡 (8B14) 3号竪穴住居跡 (8B15) 3号竪穴住居跡 (8B16) 8号16・21 3号竪穴住居跡 (8B17)	堆積土上位 堆積土中～下位	9 3 29 1	40	縄文土器	盆	縦・横A型	口縦～底	20	75
2	23	23	東	3号竪穴住居跡 (8B18)	堆積土上位	-	1	縄文土器	深鉢	V・深鉢B1型	口縦	0	
3	23	23	東	3号竪穴住居跡 (8B22)	堆積土中～下位	-	1	縄文土器	齊	V・盤口型	口縦	0	
4	23	23	東	3号竪穴住居跡 (8B22)～15 3号竪穴住居跡 (8B22)	堆積土中位 堆積土上位	11 12	23	縄文土器	深鉢	V～Y	底～底	0	100
5	23	23	東	3号竪穴住居跡 (8B23) 3号竪穴住居跡 (8B23) 3号竪穴住居跡 (8B23) 3号竪穴住居跡 (8B23)	堆積土中～下位 堆積土上位 堆積土上位 堆積土上位	2 4 4 1	9	縄文土器	深鉢	縦～直	口縦～底	18	100
6	21	21	東	3号竪穴住居跡 (8B22)	堆積土上位	-	1	縄文土器	深鉢?	II	底純	0	0
7	21	21	東	3号竪穴住居跡 (8B23)	堆積土上位	-	4	縄文土器	深鉢	V・深鉢B1型	口縦	18	0
8	21	21	東	3号竪穴住居跡 (8B17)	堆積土上位	-	1	縄文土器	深鉢	III	口縦	0	0
9	23	21	東	3号竪穴住居跡	堆積土	-	11	縄文土器	盆	V・深八型	口縦～底	10	30
10	23	23	東	3号竪穴住居跡	堆積土	-	1	縄文土器	深鉢	V・深鉢C4型	口縦	0	0
11	23	23	東	3号竪穴住居跡	堆積土	-	1	縄文土器	深鉢	V～VI	口縦	0	0
12	23	23	東	3号竪穴住居跡	堆積土	-	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢A型	突起	0	0
13	23	23	東	3号竪穴住居跡	堆積土	-	1	縄文土器	深鉢	V・深鉢C5型	口縦	0	0
14	23	23	東	3号竪穴住居跡	堆積土	-	3	縄文土器	深鉢	V・深鉢C5型	口縦	0	0
27	23	22	南	3号土坑 8号11	広口 ( 細 ) 直a型	17 6 4	27	縄文土器	深鉢	縦～直	口縦～直	20	0
28	23	22	東	3号土坑	堆積土	-	1	縄文土器	深鉢	IV	口縦	0	0
29	23	22	東	3号土坑	堆積土	-	1	縄文土器	深鉢	III	口縦	0	0
30	23	22	南	5号土坑	広直 ( 開口 )	-	5	縄文土器	深鉢	V～VI	崩落	0	0
31	23	22	南	5号土坑	堆積土	-	1	縄文土器	盆	V・深八型	口縦	0	0
32	23	22	南	5号土坑	堆積土	-	2	縄文土器	深鉢	V～II	口縦	0	0
33	23	22	南	5号土坑	堆積土	-	1	縄文土器	盆?	直～II	縦～底	0	25
34	23	22	南	5号土坑	堆積土	-	1	縄文土器	盆?	直～II	側～底	0	45
35	24	23	南	1号坪底土器	一柄	-	86	縄文土器	深鉢	直～II	略光形	87	79
36	23	22	山	2号堆積土器	一柄	-	8	縄文土器	台付体	II	毛形	100	100
37	24	22	南	3号堆積土器	柄	-	40	縄文土器	深鉢	III	腹～底	0	77
38	23	23	東	4号堆積土器	柄	-	1	縄文土器	单孔	V	腹～底	0	100
39	21	21	北	5号堆積土器	柄	-	58	縄文土器	深鉢	V～VI	口縦～底	9	25
40	21	24	南	6号堆積土器 7C8	柄 直b底下支	31 25 8	64	縄文土器	深鉢	II～VI	弱	0	0
41	25	21	山	7号堆積土器	一柄	-	29	縄文土器	深鉢	直～II	弱	0	0
42	25	25	山	8号堆積土器	一柄	-	166	縄文土器	深鉢	II・深鉢A1型	口縦～底	30	94
43	26	26	南	9号堆積土器	一柄	-	56	縄文土器	深鉢	V～VI	底凹～柄	0	100
46	25	23	南	2号堆積土器	堆積土	-	1	縄文土器	深鉢	V・深鉢A型	口縦	0	0

計測値(cm)	外観調査、施文など	内面調査、施文など	スコゴ	箇所	内部内底	色調内底	備考	登録番号
口径	底径	高さ	内面	外面				
(13.3) 6.5 (25.4)	円錐、口縁：丸太(Φ1.5)、圓：無文様、ミガキ。底面：刺突文・平行模様の複数列。側面：平行模様の複数列。施文：無文(表)、無文(裏)、無文(左)、無文(右)	上半ナゲ(横)、下半ナゲ(横)	-	-	10YR6/1 黄灰	10YR6/1 黄灰		5366
- - 3.8	大腹状縦(5重巻か)、白面：底状に施文：無文、施文：無文、施文：無文。	ナゲ(横)	-	-	7.5YR2/6 緑	7.5YR2/6 緑	4.5Vr/4 緑	5225
- (4.1)	口縁：耳状突起、縁内面：斜沈線・周辺	指紋底	-	-	7.5YR5/3 緑	4.5Vr/4 緑	5YR6/6 緑	5389
- 7.2 (9.3)	側：丸太(Φ1.5)、底：ナゲ	ナゲ(横)	-	-	10YR2/1 黄	7.5YR2/6 緑		5363
(19.8) 6.6 15.7	平底、口縁～腰：施文(Φ1.5)、厚腰付、底：ナゲ	ナゲ(横)	-	-	10YR6/3 緑	2.5YR6/8 緑		5343
- - (4.8)	幅縮状突起	施文(Φ1.5)	-	-	10YR2/4 緑	10YR7/3 緑	4.5Vr/4 緑	5221
(W.02) - 9.2	人衣状縫(5重巻か)、山形：底部と後腹部に山形突起、口縫：底状に施文：無文、施文：無文、施文：無文、施文：無文、施文：無文。	ナゲ(横)	-	ヌス	10YR4/2 黄	10YR4/2 黄		5228
- 9.2	波状縫合：口縫：山形突起、口縫：施文(Φ1.5)、底：ナゲ	ナゲ(横)	-	-	10YR6/4 緑	10YR6/3 緑	4.5Vr/4 緑	5242
(22.6) (4.2) (10.9)	平底、口縫：利み、口縫：平行花綱上T下2～3条、口縫の組み合わないミカギ(横)、手造文(Φ1.5)、地文(Φ1.5)	上半コゲ 少量	ログ	-	10YR6/4 黄	10YR6/4 黄	4.5Vr/4 黄	5001
- 6.3	平底：L縫：横沈線、側：麻縫り施文：斜沈線(Φ1.5)	タズリ(横)	-	-	10YR3/3 緑	10YR6/2 黄	4.5Vr/3 黄	5002
- 4.9	平底、山形：施文(Φ1.5)	ナゲ(横)	-	-	10YR6/2 黄	10YR6/2 黄	4.5Vr/2 黄	5003
- (4.4)	平底か、三角形を組み交差(斜状の輪付あり)：施文(Φ1.5)	ナゲ(横)	-	-	7.5YR8/6 緑	7.5YR4/3 緑		5004
- 6.1	平底、口縫～腰：横筋次元沈線(口縫付近は強、腰付)	タズリ(横)	-	-	10YR7/3 緑	10YR6/3 黄	4.5Vr/3 黄	5005
- 7.3	口縫～腰：横筋次元沈線(口縫付近は強、腰付)	タズリ(横)	-	-	10YR6/2 黄	10YR4/1 黄	4.5Vr/2 黄	5006
(27.2) - (34.8)	平底、山形～腰：施文(Φ1.5)	ナゲ(横)	-	-	10YR6/8 黄	10YR6/6 黄		5007
- 4.4	平底、口縫：横(平行花綱)、北縫に施文：無文(Φ1.5)	ナゲ(横)	-	-	5YR6/6 緑	10YR7/4 黄	4.5Vr/4 黄	5008
- 6.5	平底、山形：施文(半輪母母巻合3型)(Φ1.5)、口縫内側	ナゲ(横)	-	-	10YR5/2 黄	10YR2/3 黄	4.5Vr/2 黄	5009
- 11.1	脚：地文(Φ1.5)	ナゲ(横)	-	ヌスヌス	7.5YR6/6 緑	7.5YR6/3 黄		5012
- 5.5	平底、口縫：E型鉢、口縫：平行花綱、側：C字型モザイクの雲母文、腰：施文(Φ1.5)	ナゲ(横)	-	-	10YR3/1 黄	7.5YR5/3 黄	4.5Vr/1 黄	5010
- 9.0	平底、山形：萬葉内渦文(Φ1.5)	ナゲ(横)	-	-	10YR5/3 黄	5YR6/6 黄	4.5Vr/3 黄	5011
- 4.6 (1.7)	脚：木脚	ナゲ	-	-	7.5YR6/6 黄	7.5YR6/5 黄		5013
- 4.2 (1.4)	脚：ナゲ	ナゲ	-	-	5YR5/6 切引	5YR5/6 切引		5014
(34.6) 14.4 (39.7)	平底、口縫～腰：施文(Φ1.5)、回しナゲ(横)、腰：ナゲ(横)	脚下半コゲ 上半スス	7.5YR6/3 黄	10YR7/3 黄				6015
16.8 8.4 15.8	平底、口縫：利み、口縫：無文、施文：ミガキ、腰：平行模様2条、底部内側：斜筋状二叉突起、腰：平行沈線、腰上：各2条の窓に施文骨文、腰筋、施文(Φ1.5)、脚：平行花綱2条、2下筋の強度增加	ナゲ(横)	脚下半スス 脚上半コゲ	-	10YR8/3 黄	10YR8/4 黄		5016
- 13.4 (9.8)	腰：区間模様、腰元(Φ1.5)、腰筋、腰上：斜筋状(アーチ形)2本(1本と2本)ナゲ(横)、ナゲ(横)	ナゲ(横)	-	-	10YR7/3 黄	10YR7/4 黄	4.5Vr/4 黄	5017
5.1 (5.9)	腰：気泡文、施文同文(Φ2.0多角孔)、脚：下位に穿孔孔1箇所(Φ0.5cm、内～外)	ナゲ(横)	-	-	7.5YR6/2 黄	7.5YR3/2 黄		5018
32.6 10.3 34.9	空底、口縫～腰：真方向施文(Φ1.5)、底：ナゲ	ナゲ(横)	下半コゲ 上半スス	7.5YR4/3 黄	5YR6/6 黄			5019
- (17.0)	脚：真方向施文(Φ1.5)～(Φ1.5)	ナゲ(横)	下半コゲ	-	10YR7/4 黄	10YR5/3 黄	4.5Vr/4 黄	5020
- (13.6)	脚：施文(Φ1.5)	ナゲ(横)	-	脚部スス	10YR5/3 黄	10YR5/4 黄	4.5Vr/4 黄	5021
(31.3) (17.6) 91.6	小底柱、口縫：B型突起、口縫：斜筋、腰：平行沈線4条、脚：施文(Φ1.5)、底：ナゲ	脚下半コゲ 脚上半スス	10YR6/4 黄	10YR8/4 黄				5022
- 9.0 (23.8)	脚：施文(Φ1.5)、足跡：吉田跡源(3)	ナゲ(横)	ヌス	-	10YR5/3 黄	5YR5/6 切引		5023
- - 5.8	大腹状縫合(5重巻か)、口縫：底状に施文(脚目あり)、底状に施文(底)、施文(腰)、施文(底)	ナゲ(横)	-	-	7.5YR6/6 黄	10YR7/3 黄	4.5Vr/3 黄	5339

測量No	層別No	年層No	区	測量點No	部位	結合破片数 内空板 底版		種類	器種	分類	残存位置	残存率 (%) 口縫 底板	
						内空板	底版					口縫	底板
54	27	24	北	4B1	Ⅲ d 層中位		1	縄文土器	深鉢	II	口縫		0
55	27	24	東	4B2	Ⅲ c 層中位		1	縄文土器	深鉢	II	口縫		0
56	27	24	北	4B2	Ⅲ c 層中位		1	縄文土器	深鉢	V・深鉢 C6 頂	口縫		0
57	27	24	北	4B6	Ⅲ c 層中位		1	縄文土器	深鉢	I	網	0	0
58	27	24	北	4B9	Ⅲ d 層中位		2	縄文土器	深鉢	V~VI	口縫		0
59	27	24	北	E-Wベルト 4B16	Ⅲ d 層中位		1	縄文土器	深鉢	V・深鉢 C7 頂	口縫		0
60	27	24	北	E-Wベルト 4B16	Ⅲ d 層中位		1	縄文土器	深鉢	II	口縫		0
61	27	24	北	S-Nベルト 1 4B29	Ⅲ d 層中位		1	縄文土器	深鉢	I	網	0	0
62	27	24	北	4B20	Ⅲ d 層中位		2	縄文土器	深鉢	I	網	0	0
63	27	24	北	4B20	Ⅲ d 層中位		2	縄文土器	深鉢	II	口縫		0
64	27	24	北	4B20	Ⅲ d 層中位		1	縄文土器	深鉢	II	網	0	0
65	27	24	北	4C21	Ⅲ d 層中位	17	縄文土器	深鉢	IV~VI	口縫~網	0	70	
66	27	24	北	4B6	Ⅲ d 層上~中位	1	縄文土器	深鉢	I	網	0	0	
67	27	24	北	4B8	Ⅲ d 層上~中位	1	縄文土器	深鉢	II	口縫		0	
68	27	24	北	4B14	Ⅲ d 層上~中位	1	縄文土器	深鉢	I	網	0	0	
69	27	24	北	4B14	Ⅲ d 層上~中位	1	縄文土器	深鉢	I	網	0	0	
70	27	24	北	4B14	Ⅲ d 層上~中位	1	縄文土器	深鉢	I	口縫		0	
71	27	24	北	4B14	Ⅲ d 層上~中位	1	縄文土器	深鉢	V・深鉢 C5 頂	口縫		0	
72	27	24	北	4B18	Ⅲ d 層上~中位	1	縄文土器	深鉢	IV	網	0	0	
73	27	25	北	4B25	Ⅲ d 層上位	16	縄文土器	鉢	IV	口縫~網	80	0	
74	27	25	北	4C6 4C7	Ⅲ d 指定層 Ⅲ d 指定層		10	縄文土器	深鉢	V~VI	口縫~網	32	0
75	27	25	北	4C6	Ⅲ d 对応層		2	縄文土器	深鉢	V~VI	口縫		0
76	27	25	北	4B3	対應層		2	縄文土器	深鉢	III・深鉢 A3 頂	口縫		0
77	27	25	北	4C12	Ⅲ d 層		3	縄文土器	浅鉢	IV	口縫		0
78	27	25	北	4B1	Ⅲ c 層		6	縄文土器	深鉢	III	網~底	0	52
79	28	26	北	4B6 S-Nトレンド 1 4B6	Ⅲ c 層 Ⅲ b 層下位(Ⅲ d 層か)	15 3	18	縄文土器	深鉢	IV~VI	底~底	0	90
80	28	25	北	S-Nベルト 1 4B13	Ⅲ d 層		5	縄文土器	深鉢	II	口縫~底	9	100
81	28	26	北	4B19 4B19	Ⅲ b 層 Ⅲ b 層中~下位	8 3	11	縄文土器	賣	IV	口縫~底	80	100
82	28	26	北	E-Wベルト 4B19 E-Wベルト 4B19 4B35	Ⅲ b 層下位 Ⅲ c 層 Ⅲ b 層上~中位	1 20 1	22	縄文土器	深鉢	IV~VI	底~底	0	96
83	28	26	北	SB21	Ⅲ b 層下位		1	縄文土器	賣	V・齊 A類	網~底	0	100
84	28	26	北	4B1	Ⅲ b 層下位		1	縄文土器	深鉢	V・深鉢 A類	壳起~口縫	0	0
85	28	26	北	4B1	Ⅲ b 層下位		1	縄文土器	深鉢	V・深鉢 A類	壳起~口縫	0	0
86	28	26	北	4B1	Ⅲ b 層下位		1	縄文土器	深鉢	II	突起	0	0
87	29	27	北	4B2 E-Wトレンド 4B12	Ⅲ b 層下位 Ⅲ b 層中位	13 2	15	縄文土器	深鉢	V・深鉢 A類	口縫~網	19	0

件別便 件番	石器 石器名	外観測定、性文など	内面観察・性文など	入式コグ		出土 地層	灰質内部	色調外部	備考	立場	
				内面	外因						
-	-	手斧、口縫：革納接着部第3型（R）	ナメ（情）	-	-	SYRS/2 級 灰・黒斑	10YR4/3 に ぶい質感	5036			
-	-	6.8 手斧、口縫：白透（福岡）を4本し、 添けり（縫合）	ナメ（情）	-	-	SYRS/6 級 灰・黒斑	10YR3/4 級 灰	5035			
-	-	手斧、口縫：椎木草、船、前歯文、 白透と鉛蓋文捺合による設置	ナメ（R）	-	-	SYRS/6 級 灰・黒斑	7.5YR6/6 級 灰	5040			
-	-	手斧、口縫：鉛蓋文による設置	ナメ（R）	-	-	SYRS/6 級 灰・黒斑	10YR4/3 に ぶい質感	5033			
-	-	手斧、口縫：椎木草、前歯文（R）	ナメ（情）	-	-	SYRS/4 に ぶい質感	7.5YR6/6 級 灰	5039			
-	-	手斧、口縫：椎木草の手斧2種のうち、 8.7 3本の設置位置でくじ切る、前歯文（R） 1.5. 扉、ミガキ（縫）	ナメ（情、斜）	-	-	SYRS/2 級 灰	10YR4/2 級 灰	5041			
-	-	手斧、口縫：腰側環付（RL）	ナメ（情）	-	-	植物 繊維 微量 微量	10YR7/4 に ぶい質感	5037			
-	-	胸：張透（R）	ナメ（R）	-	-	SYRS/6 明 細	7.5YR5/4 に ぶい質感	5032			
-	-	胸：口縫：椎木草の引き文、其成設置洗脱 手縫文	ナメ（情）	-	-	SYRS/4 に ぶい質感	7.5YR6/6 級 灰	5034			
-	-	手斧、口縫：椎木草（R）、同向 合奈縫合（S）	ナメ（情）	-	-	SYRS/6 級 灰	7.5YR5/6 級 灰	5038			
-	-	頭：丸太（複数）を4本し、添けり	ナメ（情）、複数枚	-	-	SYRS/3/3 に ぶい質感	10YR7/6 級 灰	5035			
(9.0)	(15.1)	頭：毛文（RL）、抜、ナメ	ナメ（情）	コケ	-	SYRS/3 に ぶい質感	10YR8/2 に ぶい質感	5036			
-	-	胸：貝護縫透底孔正面文	ナメ（情）	-	-	SYRS/4 に ぶい質感	7.5YR5/6 級 灰	5025			
-	-	手斧、口縫：椎木草、白透：爪机 （鳥居上なる連続割れ）（R）	ナメ（情）	-	-	植物 繊維 微量 微量	10YR7/6 級 灰	5030			
-	-	3.5 胸：其成設置洗脱（R）	ナメ（情）	-	-	SYRS/6 明 細	SYR4/6 傷耗	5025			
-	-	3.6 胸：其成設置洗脱（R）	ナメ（情）	-	-	SYRS/6 明 細	10YR6/4 に ぶい質感	5027			
-	-	4.0 頭：其成設置洗脱文による方形凹窓、充 墨	ナメ（情）	-	-	SYRS/6 級 灰	10YR5/4 に ぶい質感	5028			
-	-	4.2 手斧、口縫：腰側環洗脱（R）	ナメ（情）	-	-	SYRS/6 級 灰	7.5YR5/3 に ぶい質感	5029			
-	-	5.3 手斧、口縫：手斧透底孔正面文	ナメ（情）	-	-	SYRS/6 級 灰	7.5YR6/6 級 灰	5031			
19.6 (8.8) (13.1)	手斧、口縫：溝縫利縫、複雑平行式 縫6条（透底）、削、往來文（R）	ナメ（情）	-	-	-	SYRS/6/2 に ぶい質感	10YR4/3 に ぶい質感	5024			
(23.4)	(16.4)	手斧、口縫：斜、方角横文（RL）	ナメ（情）	打跡一跡 上部	に縫に少量	SYRS/2/2 級 灰	10YR3/2 級 灰	5042			
-	-	手斧、口縫：剪方角横文（R）	ナメ（情、漬）	-	-	SYRS/7/3 に ぶい質感	10YR4/3 に ぶい質感	5043			
-	-	8.2 手斧、口縫：刻み、手斧、抜文、削 文（R）	ナメ（情）	-	少量	SYRS/7/3 に ぶい質感	10YR4/3 に ぶい質感	5044			
-	-	2.8 手斧、口縫：手斧、手斧、削 文（R）	ナメ（情）	1ガキ	ほり全面 ヌス	SYRS/2/2 級 灰	10YR5/2 級 灰	5045			
-	-	6.1 頭：丸太（R）、削、手斧モチーフの 彫刻文（透底文）、充墨、剥落、施 文（R）	ナメ（情）	-	-	SYRS/7/6 級 灰	SYR5/6 明赤 斑	5033			
(19.2) (7.0)	頭：丸太（R）、抜、手斧痕	ナメ（情）	-	-	-	SYRS/7/6 級 灰	SYR5/6 明赤 斑	5032			
-	-	12.2 (8.8)	頭：丸太（R）、抜、手斧痕	ナメ（情）	-	-	SYRS/7/6 級 灰	SYR5/6 級 灰	5032		
(11.1)	5.8 13.9	手斧、口縫：斜、比較による頭当、 裏、鉛蓋文あり（体積も真ん中）	ナメ（情、縫）	-	-	SYRS/6/2 級 灰	7.5YR6/6 級 灰	5034			
(9.4)	5.3 12.9	手斧、口縫：斜、比較による頭当、 裏、鉛蓋文あり（体積も真ん中） 手斧平行式縫、斜接及び帶状洗脱（多 点）、底、木玉茎	ナメ（情）	-	-	SYRS/6/1 に ぶい質感	7.5YR7/6 級 灰	5047			
-	9.0 (24.3)	頭：丸太（R）、抜、ナメ	ナメ（情）	-	-	2.5YR1/1 低質 灰	10YR8/4 に ぶい質感	5048			
-	3.4 (4.0)	手縫か、茎、複雑平行式縫、並形文、 鉛蓋文、削治縫文（R）	ナメ（縫）	-	-	SYRS/1/1 低 質	10YR8/1 低 質	5011			
-	(11.2)	中空の大根実縫（3根並か）、中空内 部に粘土入り頭、大形突起ドロニ ム月詰縫、琵琶	ナメ（情）	-	-	SYRS/7/12 に ぶい質感	10YR7/4 に ぶい質感	5026			
-	(12.2)	中空の大根実縫（3根並か）、中空内 部に粘土入り頭、大形突起ドロニ ム月詰縫、琵琶	ナメ（情）	-	-	SYRS/6/7 に ぶい質感	7.5YR6/4 に ぶい質感	5028			
-	(11.0)	大根実縫（3根並）、中空突起、 透底洗脱縫、口縫、液狀物にうつ泥縫、 丸太（R）	ナメ（情）	-	-	SYRS/7/4 に ぶい質感	10YR6/2 低 質	5032			
(25.6)	(16.1)	手斧、口縫：二叉状突起、口縫：人 頭風透底文、透底健文（R）	ナメ（情）	カゲ	-	SYRS/3/2 級 灰	10YR5/3 に ぶい質感	5033			

測量番号	測量年	年月日	区	測定地点	層位	接合面片数 内部数 認数		種類	岩性	分類	内溶位置	保存率 (%) 山體 領域
						上	下					
88	29	27	北	4B2	Ⅲ b 層下位 一層 (等高)	3	0	礫文土部	深鉆	V - III	口溶~側	9 0
89	29	26	北	4B3 ~ 5	Ⅲ b 層下位	1	0	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 A 領	突起	0 0
90	29	27	北	4B6	Ⅲ b 層下位	2	0	礫文土部	深鉆	Ⅳ - 深鉆 A 領	口溶	15 0
91	29	27	北	4B6	Ⅲ b 層下位	4	0	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 C9 領	頂~表	0 100
92	29	27	北	S-N ブレンチ 1 4B6	Ⅲ b 層下位	1	0	礫文土部	鉆	頂~底	底	0 100
93	29	27	北	4B7	Ⅲ b 層下位	2	0	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 A 領	突起	0 0
94	29	27	北	4B7	Ⅲ b 層下位	1	0	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 A 領	先端~口溶	0 0
95	29	27	北	S-N ベルト 1 4B8	Ⅲ b 層下位	6	0	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 A 領	頂	0 0
96	29	27	北	4B11 S-K ブレンチ 1 4B11	Ⅲ b 層下位 Ⅲ b 層下位 Ⅲ b 層下位	3 3 2	8	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 A 領	頂~底	0 25
97	29	27	北	4B11	Ⅲ b 層下位 一層 (等高)	2	0	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 A 領	突起	0 0
98	30	27	北	4B11	Ⅲ b 層下位 一層 (等高)	1	0	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 A 領	口溶	0 0
99	30	27	北	4B14	Ⅲ b 層下位	1	0	礫文土部	鉆	頂	頂~底	0 100
100	30	27	北	4B14	Ⅲ b 層下位	3	0	礫文土部	油印	VI	等~底	0 100
101	30	27	北	E-W ベルト 4B19	Ⅲ b 層下位	1	0	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 A 領	突起	0 0
102	30	27	北	S-N ベルト 4B18	Ⅲ b 層下位	1	0	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 A 領	突起~口溶	0 0
103	30	28	北	4B16	Ⅲ b 層中~下位	2	0	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 A 領	突起	0 0
104	30	28	北	4B12 4B12 S-K ベルト 1 4B13	Ⅲ b 層下位 Ⅲ b 層中~下位 Ⅲ b 層中~下位 Ⅲ b 層下位	3 5 14 1	24	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 A 領	頂	0 0
105	30	28	北	4B12	Ⅲ b 層中~下位 Ⅲ b 層中~下位	5 2	7	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 D 領	頂~底	0 100
106	30	28	北	4B12	Ⅲ b 層中~下位	3	0	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 C1 領	口溶	0 0
107	30	28	北	4B12	Ⅲ b 層中~下位	1	0	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 A 領	突起	0 0
108	30	28	北	4B12	Ⅲ b 層中~下位	1	0	礫文土部	深鉆	IV	口溶~側	0 0
109	31	28	北	4B13 4B13	Ⅲ b 層中~下位 Ⅲ b 層中~下位	3 9	12	礫文土部	深鉆	Ⅳ - 深鉆 C 領	口溶~底	25 45
110	30	28	北	4B13	Ⅲ b 層中~下位	1	0	礫文土部	深鉆	Ⅳ - 深鉆 D 領	口溶	15 0
111	31	28	北	4B13	Ⅲ b 層中~下位	3	0	礫文土部	深鉆	Ⅳ - 深鉆 D 領	口溶	0 0
112	31	29	北	4B6	Ⅲ b 層中位	1	0	礫文土部	深鉆	V - 深鉆 A 領	突起	0 0
113	31	28	北	4B7	Ⅲ b 層中位	1	0	礫文土部	鉆	VI	口溶~底	38 100
114	31	29	北	4B7	Ⅲ b 層中位	1	0	礫文土部	鉆	VI	頂~底	0 100
115	31	29	北	4B8	Ⅲ b 層中位	9	0	礫文土部	深鉆	II	頂~底	0 100
116	31	29	北	4B8	Ⅲ b 層中位	1	0	礫文土部	深鉆	V - 底	口溶	19 0
117	31	29	北	S-N ブレンチ 1 4B11 4B11	Ⅲ b 層中位 Ⅲ b 層中位	18 4	22	礫文土部	深鉆	Ⅳ - 深鉆 A3 領	口溶~頂	38 0
118	31	29	北	S-N ブレンチ 1 4B11	Ⅲ b 層中位	15	0	礫文土部	深鉆	Ⅳ - 深鉆 A2 領	口溶~頂	32 0
119	32	30	北	4B11 S-N ブレンチ 1 4B11 S-N ブレンチ 1 4B11	Ⅲ b 層中位 Ⅲ b 層中位 Ⅲ b 層中位	1 12	19	礫文土部	深鉆	Ⅳ - 深鉆 A3 領	口溶~頂	26 0

柱面幅(㎝)	柱厚	総高	外観調査・遺物など	内観調査・施文など	ススコゲ		柱上	危険箇所	色調外見	参考	目録No.
					内面	外観					
(24.0)	-	19.2	平縫、口縫・底・異方内縫文(RL)	ナゲ(横)	蜜蝋コゲ	-	10YR17/2 細 黄褐色	10YR8/4 に 細い雲母	5336		
-	-	(8.1)	中央の大筋内縫(3筋底か)	-	-	-	7.5YR2/6 鮎 黄色	7.5YR7/6 鮎	5327		
(30.0)	-	8.7	下縫、口縫・到底・異文質・側 平縫底2条、筋・地文(RL)	ケヌリ(横)	-	-	10YR8/3 細 黄褐色	10YR7/4 に 細い雲母	5335		
-	4.5	4.5	筋・平縫・底文(RL)・下位無 文質、底・ナゲ(耐熱性アラシ)	ナゲ(横)	-	-	7.5YR1/2 細 黄褐色	10YR4/1 黄 褐色	5338		
-	4.7	(1.3)	底・ナゲ	ナゲ	-	-	10YR8/6 鮎 底	10YR7/4 に 細い雲母	5339		
-	-	(8.1)	序の先筋突起(円形・3単位6)	-	-	-	10YR7/1 黄 白	10Y37/2 黄 褐色	5323		
-	-	大筋跡+底縫に大筋突起(3筋) 合、口縫・底足に薄底状跡(3筋 底か・力吸)、口縫・無文質・弱筋 に三日月状跡付、肥厚	ナゲ(横)	-	-	-	2.5Y5/2 暗赤 褐色	10YR8/2 黄 褐色	5331		
-	-	(9.9)	筋・6筋の横平縫底に弱筋平行底 縫による区切り・底文(RL)	-	-	-	10YR2/4 に 細い雲母	10YR7/3 に 細い雲母	5334		
-	-	(4.0) (12.8)	筋・1オギ(横・縦)、底・やや上 張	ナゲ(横)	-	-	2.5Y3/1 黑褐色 第	2.5Y3/2 暗赤 褐色	5322		
-	-	(6.8)	中央の大筋突起(3筋底か)	-	-	-	10YR4/1 黄 灰	7.5YB5/3 に 灰・黒	5325		
-	-	(10.8)	大筋突起底下の口縫・三日月状跡 合、肥厚	コゲ	-	-	10YR6/3 に 細い雲母	7.5YR5/4 に 灰・黒	5329		
-	3.6	56.9	筋・地文(RL)、底・ナゲ	ナゲ	-	-	10YR8/3 黃 褐色	10YR3/3 に 細い雲母	5340		
-	-	筋・円形底4~5筋による人加文、 蜜狀小筋板(3単位)・弱筋・下縫・ミガ、 上縫・ミガ(3筋)、内筋の蜜狀小 筋加厚部を費過して前筋で越した例 あり	ナゲ(横・脚)	-	-	-	10YR7/4 に 細い雲母	10YR4/2 黄 褐色	5312	半剥け部分に周底點 着物による堆積あり	
-	-	(4.2)	中空の大筋突起(3筋底か)	-	-	-	10YR7/1 黄 白	10YR8/3 黄 褐色	5324		
-	-	人筋状跡・表面に大筋突起(3筋底) 合、口縫・底縫に強底状跡(3筋 底か・力吸)、口縫・無文質・突起 に三日月状跡付、厚脚・側・人筋文 (無底性人筋)・底文(RL)、口縫と 無底性文質の筋・底筋あり	ナゲ(横・脚)	-	-	-	2.5Y4/1 黄褐色	10YR7/4 に 細い雲母	5330		
-	-	(8.5)	中央の突起突起(3筋底か)	-	-	-	2.5Y4/1 黄褐色	10Y4/1 黄褐色	5321		
-	-	人筋状跡(5単位)か・筋・機位区隔 底筋・底文(RL)、底筋が筋に残り 付する部分	ナゲ(横)	横筋子 ナゲ	-	-	10YR6/3 に 細い雲母	10Y25/3 に 細い雲母	5314		
-	-	(4.0) (7.0)	筋・人筋(平底状文)・底筋文(RL) 合、底筋・筋・筋	ナゲ(横)	-	-	2.5Y4/1 黄褐色	2.5Y5/2 暗赤 褐色	5315		
-	-	9.4	口縫・平縫・底筋・異文質・筋・6筋 かそれ以上の横筋・平行底縫・濃い の豊潤・反筋の・底文(RL)	ナゲ(横)	-	-	10YR6/3 に 細い雲母	10YR6/3 に 細い雲母	5316		
-	-	(13.3)	中央の大筋突起(3筋底か)・大筋突 起下に三日月状跡・肥厚	ナゲ(横)	-	-	10YR5/1 黄 灰	10YR4/1 黄 灰	5320		
-	-	底筋・口縫・底縫に三日月底2筋 筋・クリクタ文・支筋起点に軽突・ナゲ(横) 底文(RL)	蜜蝋コゲ	-	-	-	10YR4/3 に 細い雲母	7.5YB6/6 暗 褐色	5363	半剥け状況	
(19.6)	(6.0)	19.1	中筋・口縫・二又筋突起(2筋底) 二又多生の筋の横筋・平行底縫(底縫)・ナゲ(横) 入植帯付近・底・白筋(上縫)	蜜蝋コゲ・蜜蝋コゲ	-	-	10YR6/2 黄 褐色	7.5YB5/6 暗赤 褐色	5313		
(22.0)	-	6.2	平縫・口縫・二又筋突起・口縫・底 筋・平行底縫・底筋・文質の筋・2筋 筋・底文(RL)	-	-	-	10YR6/3 に 細い雲母	10YR7/4 に 細い雲母	5318		
-	-	6.6	平縫・口縫・人筋突起(2筋底) 筋・口縫・人筋突起(2筋底)・平行底縫 筋の配筋	ナゲ(横)	-	-	10YR5/3 に 細い雲母	10YR5/2 黄 褐色	5319		
-	-	(15.8)	中央の大筋突起(3筋・3単位か)	-	-	-	7.5Y5/3-4 細い雲母	10YR6/4 に 細い雲母	5307		
(10.0)	5.9	7.3	中筋・口縫・二又筋突起(2筋底) 筋・口縫・人筋突起(2筋底)・平行底縫 筋の配筋・文質の筋・2筋 筋の配筋	ナゲ(横)	-	-	10YR7/1 黄 褐色	10YR8/4 黄 褐色	5311		
-	丸底	(2.3)	筋・底文(RL)・底・ナゲ・やや上 張底文(底)に張り出る	ナゲ(横)	-	-	10YR7/9 黄 褐色	10YR8/3 黄 褐色	5312		
-	-	9.8 (13.8)	中筋・口縫・二又筋突起(2筋底) 筋・口縫・人筋突起(2筋底)・平行底縫 筋の配筋	ナゲ(横・脚)	-	-	10YR6/3 に 細い雲母	10YR8/2 黄 白	5303		
(31.0)	-	12.1	平縫・口縫・二又筋突起・底文(RL)・口縫 内縫	ナゲ(横)	-	-	10YR6/3 に 細い雲母	10YR7/4 に 細い雲母	5306		
(29.4)	-	(32.7)	筋・底文(RL)・底・ナゲ・張り出 る	ナゲ(横)	-	-	10YR4/2 黄 褐色	10YR5/2 黄 褐色	5301		
(21.1)	-	(31.6)	平縫・口縫・底み・口縫・底文(RL) 底文(RL)	ナゲ(横)	-	-	10YR3/4 黄 褐色	7.5YB5/6 暗 褐色	5302		
(37.8)	-	(21.4)	平縫・口縫・底み・口縫・底文(RL) 底文(RL)	ナゲ(横)	口縫スス 少量	-	7.5YB6/6 件	7.5YR1/3 綿	5304		

測量点	測量年	写真番号	区	出土地点	基位	遺物種類	遺物内訳数	遺物記載	性別	分類	既存率(%)			
											内訳	頭部		
120	32	29	北	S-Nトレンチ1 4B11	Ⅲ b層中位		7	縄文土器	漆林	Ⅳ・深鉢 A2 級	口縁~底	63	0	
121	31	29	北	S-Nトレンチ1 4B11	Ⅲ b層中位		1	縄文土器	漆林	Ⅳ・深鉢 C類	口縁	16	0	
122	31	29	北	4B11〔S-Nトレンチ〕	Ⅲ b層中位		1	縄文土器	漆林	Ⅳ	口縁	12	0	
124	32	29	北	4B11〔S-Nトレンチ〕	Ⅲ b層中位		3	縄文土器	漆林	V・深鉢 A類	突起	0	0	
125	32	30	北	S-Nトレンチ1 4B11	Ⅲ b層中位		1	縄文土器	漆林	Ⅳ	突起	0	0	
126	32	29	北	4B13	Ⅲ b層中位		7	縄文土器	林	Ⅳ・深鉢 C類	口縁~底	17	0	
127	32	29	北	4B13	Ⅲ b層中位		1	縄文土器	漆林	V・深鉢 C類	口縁	11	0	
128	31	30	北	4B13	Ⅲ b層中位		1	縄文土器	漆林	Ⅳ・深鉢 A類	口縁	0	0	
129	32	30	北	4B13	Ⅲ b層中位		1	縄文土器	漆林	Ⅳ・深鉢 A類?	Ⅳ	突起	0	100
130	32	30	北	4B14	Ⅲ b層中位		1	縄文土器	漆林	Ⅳ・深鉢 A類	口縁	0	0	
131	33	30	北	4B14	Ⅲ b層中位		1	縄文土器	漆林	Ⅳ	突起	0	0	
132	32	30	北	4B16	Ⅲ b層中位		1	縄文土器	林	V・鋤 A類	口縁	0	0	
133	32	30	北	4B16	Ⅲ b層中位		1	縄文土器	香炉形	VI	突起	0	0	
134	33	30	北	3B22	Ⅲ b層上~中位		4	縄文土器	漆林	Ⅳ・深鉢 A類	突起~底	0	40	
135	33	30	北	3B22	Ⅲ b層上~中位		1	縄文土器	漆林	Ⅳ	口縁~底	16	45	
136	33	30	北	3B22	Ⅲ b層上~中位		10	縄文土器	林	Ⅳ・深鉢 B類	口縁~底	15	0	
137	34	30	北	4B1	Ⅲ b層上~中位		2	縄文土器	漆林	V・深鉢 A類	突起	0	0	
138	33	30	北	4B2〔S-Nベルト1 4D5〕	Ⅲ b層上~中位 Ⅲ c層上~中位 Ⅲ d層上~中位		13 3 9	縄文土器	漆林	Ⅳ・深鉢?	突起	0	0	
139	33	30	北	4B7	Ⅲ b層上~中位		14	縄文土器	漆林	V	突起~底	0	95	
140	33	30	北	4B7	Ⅲ b層上~中位 Ⅲ b層上~中位		3 10	縄文土器	漆林	Ⅳ・深鉢 A2類	口縁~側	95	0	
141	33	31	北	4B7 4B7	Ⅲ b層上~中位 Ⅲ b層上~中位		19 1	縄文土器	林	Ⅳ・深鉢 C類	口縁~側	34	0	
142	33	31	北	4B7	Ⅲ b層上~中位		1	縄文土器	林	Ⅳ・深鉢 C類	口縁~側	0	0	
143	33	31	北	4B7	Ⅲ b層上~中位		8	縄文土器	漆林	Ⅳ・深鉢 B類	口縁~底	16	20?	
144	34	31	北	4B7	Ⅲ b層上~中位		24	縄文土器	漆林	Ⅳ・空 A類	口縁~底	75	0	
145	33	31	北	4B11	Ⅲ b層上~中位		3	縄文土器	林	Ⅳ・深鉢 C類	口縁~側	28	0	
146	34	31	北	S-Nトレンチ1 4B11	Ⅲ b層上位 Ⅲ b層上~中位		1 2	縄文土器	林	Ⅳ・深鉢 C類	口縁~側	19	0	
147	34	31	北	4B11	Ⅲ b層上~中位		1	縄文土器	漆林	Ⅳ・深鉢 A1類	口縁	0	0	
148	34	31	北	4B11	Ⅲ b層上~中位		1	縄文土器	漆林	Ⅳ・深鉢 A3類	口縁	0	0	
149	34	31	北	4B11	Ⅲ b層上~中位		1	縄文土器	漆林	Ⅳ・深鉢 A3類	口縁	0	0	
150	34	31	北	4B11	Ⅲ b層上~中位		12	縄文土器	漆林	Ⅳ・深鉢 A3類	口縁~側	27	0	
151	34	31	北	4B11 S-Nトレンチ1 4B11	Ⅲ b層上~中位 Ⅲ b層上~中位 Ⅲ b層中位		7 7 3	縄文土器	漆林	Ⅳ・深鉢 A類	口縁~底	65	100	
152	34	31	北	4B11	Ⅲ b層上~中位		1	縄文土器	漆林	Ⅳ・深鉢 D類	口縁	0	0	

断面図(㎝)	外周溝型・施文など	内周溝巻・施文など	スコケ		柱上	包廻内面	包廻外周	指標	年号
			内周	外周					
18.2 -	(7.9) 平底、口縁：弧み、口幅：平行汎槽2条の間を施文、脚：施文(RL)	ナゲ(横)	-	-	コゲ	-	7.5YR6/3 棚 5YR6/4 棚	10YR7/4 に ぶい葉模	5099
(18.0) -	3.8 平底、口縁：弧線1条、脚み、口縁：ナゲ(横)	-	上端スス 少葉	-	10YR3/1 棚 7.5YR6/8 棚	-	-	-	5098
(20.0) -	5.6 平底、口縁：B型突起、口幅：平行汎槽5条、脚み・脚C字形セイツーフの施文と、脚：施文(RL)	-	コゲ	-	7.5YR5/4 に 5YR6/4 棚	7.5YR5/3 に ぶい葉模	-	-	5100
- -	5.6 円窓の火焔突起(円形、3章位か)	-	-	-	5YR6/6 棚	7.5YR5/4 に ぶい葉模	-	-	5109
- -	(11.3) 大仏状脚(4位脚)、口縁：中央突起、脚：施文(RL)	ナゲ(横)	-	-	7.5YR7/6 棚	10YR7/4 に ぶい葉模	-	-	5108
(17.7) -	平底、口縁：弧み、口幅：平行汎槽5条の間を下交又で施文と脚を伴う(脚：施文(RL))	ナゲ(横)	脚コゲ	脚上平コゲ	10YR3/1 棚 7.5YR6/6 棚	-	-	-	5097
(22.0) -	11.3 施文脚、口縁：縦目字を伴う火焔突起(火焔形、3章位か)	ナゲ(横)	-	-	5YR6/6 棚	7.5YR6/4 に ぶい葉模	-	-	5102
- -	4.5 人波透脚(4～5章位か)、口縁：双葉形の火焔突起、脚には記入施文、施文脚(火焔形、3章位か)	ナゲ(横)	-	-	10YR3/1 棚 7.5YR4/2 棚 脚	10YR4/2 棚 7.5YR5/3 脚 脚	-	-	5103
- -	7.2 (6.0) 台：赤色半磨、ミガキ(横)	台：内面タグリ(横)	-	-	10YR7/6 棚 脚	10YR6/4 に ぶい葉模	-	-	5110
- -	4.3 成状脚、口縁：透頂形(火焔突起)、口縁、透頂に3条沈縫1条	ケズリ(横)	-	-	10YR6/4 に ぶい葉模	10YR6/4 に ぶい葉模	-	-	5104
- -	大成状脚(4位脚)、口縁：山形火焔、脚：透頂形(火焔突起)、脚には記入施文(3月付)、脚：施文(脚：施文(RL))	ナゲ(横)	-	-	7.5YR7/6 棚 脚	10YR8/4 脚 脚	-	-	5109
- -	6.6 平底、口縁：透頂脚2段火焔、脚：透頂形(火焔突起)、脚には記入施文(脚：施文(RL))	ナゲ(横)	コゲ	-	10YR4/2 脚 脚	10YR4/1 脚 脚	-	-	5099
- -	(3.9) 中空透脚、火焔、脚(RL)、施文に施文(火焔形、3章位か)	ナゲ(横)	-	-	7.5YR6/4 に 5YR6/4 棚	7.5YR6/4 に 5YR6/4 棚	-	-	5105
(9.5) -	算：施文(RL)、底：ナゲ(横)	ナゲ(横)	-	-	10YR6/2 脚 脚	10YR8/2 脚 脚	-	-	5075
(12.4) (4.9) 3.3 手縫、口縁一筋：丸丸、透物傍に付いた金具跡あり、仙人脚を作出	ミガキ(横)	-	-	-	7.5YR6/6 棚	10YR7/4 に ぶい葉模	-	-	5082
(11.9) -	(12.9) 手縫、口縁：施文脚、口縁：弧線1条、以下：脚：施文(脚：施文(RL))	ナゲ(横)	-	-	10YR6/3 に 5YR6/3 棚	10YR8/2 脚 脚	-	-	5081
- -	(8.4) 中空の大成状脚(3章位か)	-	-	-	7.5YR6/4 に 5YR6/4 棚	7.5YR6/4 に 5YR6/4 棚	-	-	5087
- -	25.6 33.0 制：施文(RL)	ナゲ(横)	-	-	10YR5/4 に 5YR5/3 棚	10YR5/3 に 5YR5/2 棚	-	-	5063
- -	25.6 33.0 施：施文(RL)、底：ナゲ	ナゲ	-	-	10YR4/3 に 5YR4/2 棚	10YR4/4 に 5YR4/3 棚	-	-	5061
18.8 -	(10.4) 手縫、口縁：2側一対の山形火焔、脚：透頂形(火焔突起)、脚には2段火焔の間に施文がある(脚：施文(RL))	ナゲ(横)	口縁一筋上面	山脚	10YR3/2 棚 脚	10YR3/2 棚 脚	10YR3/2 棚 脚	-	5065
(20.7) -	(15.5) 手縫、山脚：火焔1条、脚み、口縁：透頂形(火焔突起)、脚には2段火焔の間に施文がある(脚：施文(RL))	ナゲ(横)	上手スス	下平コゲ	10YR3/2 棚 脚	10YR4/2 脚 脚	-	-	5066
- -	8.3 手縫、口縁：B型突起、脚：透頂形(火焔突起)、脚には2段火焔の間に施文がある(脚：施文(RL))	山脚：透頂1条、脚：ナゲ(上手脚、下平脚)	制スス少葉	脚コゲ多量	10YR3/2 棚 脚	10YR4/2 脚 脚	-	-	5077
(19.2) (8.6) 6.6 手縫、山脚：火焔1条、脚み、口縁：透頂形(火焔突起)、脚には2段火焔の間に施文がある(脚：施文(RL))	ナゲ(横)	-	-	-	10YR5/2 棚 脚	10YR5/2 脚 脚	-	-	5080
(12.3) -	(10.6) 手縫、口縁：弧線1条、脚み、口縁：透頂形(火焔突起)、脚には2段火焔の間に施文がある(脚：施文(RL))	口縁：透頂1条、以下：ミガキ、脚：ナゲ(手脚)	-	-	7.5YR6/6 棚	10YR4/2 脚 脚	-	-	5083
(15.0) -	(6.3) 手縫、口縁：弧線1条、脚み、口縁：透頂形(火焔突起)、脚には2段火焔の間に施文がある(脚：施文(RL))	ナゲ(横)	-	-	10YR2/1 棚 脚	10YR2/1 棚 脚	10YR2/1 棚 脚	-	5098
(24.3) -	(7.0) 手縫、口縁：山形火焔、脚み、口縁：透頂形(火焔突起)、脚には2段火焔の間に平行化粧した透文形、脚：施文(RL)	ナゲ(横)	上半コゲ	脚スス少葉	10YR4/3 に 5YR5/1 に ぶい葉模	10YR4/3 に 5YR5/1 に ぶい葉模	-	-	5069
- -	10.8 手縫、口縁：弧み、口縁：平行汎槽8条の間を施文があり、脚：脚(施文(RL))	ナゲ(横)	少葉	-	7.5YR5/4 に 5YR5/4 に ぶい葉模	7.5YR5/4 に 5YR5/4 に ぶい葉模	-	-	5071
- -	7.8 手縫、口縁：弧み、口縁：弧文(施文(RL))	ナゲ(横)	-	-	10YR7/3 に 5YR7/3 に ぶい葉模	10YR3/2 脚 脚	-	-	5072
- -	8.6 手縫、口縁：弧み、口縁：弧文(施文(RL))	ナゲ(横)	-	-	10YR7/4 に 5YR7/4 に ぶい葉模	10YR4/2 脚 脚	-	-	5073
(22.2) -	(16.5) 手縫、口縁：B型突起、脚み、脚：施文(横)	ナゲ(横)	-	-	7.5YR6/6 棚	JYR6/8 棚	-	-	5074
(20.8) 6.0 6.1 手縫、口縁：山形火焔、脚：脚一筋、C字モチーフ(透頂形(火焔突起)、脚：施文(RL))	ナゲ(横)	-	-	-	10YR3/1 棚 脚	10YR4/1 脚 脚	-	-	5079
- -	7.3 手縫、口縁：火焔形、脚み、脚：脚(施文(RL))	ナゲ(横)	全周コゲ	-	10YR3/1 棚 脚	7.5YR7/4 に 5YR7/4 に ぶい葉模	-	-	5089

測量年	測定地名	与電気区	山上地點	標位	総合被覆率 (面積割合) %		種類	分類	保存位置	保存率 (%) 目録 現存	
					面積割合 (面積)	面積割合 (面積)					
183	34	31	北	4012	Ⅲ b 層上～中位	3	褐色土器	深鉢	V・深鉢 C類	口縁	0
154	35	31	北	4013	Ⅲ b 層上～中位 一括 (有 葉痕)	13	褐色土器	鉢	V・深鉢 A類	山根～湖	56 0
155	35	32	北	4013	Ⅲ b 層上～中位 一括 (無 葉痕)	3	褐色土器	浅鉢	V・深鉢 A類	口縁～胸	60 0
156	35	33	北	4013	Ⅲ b 層上～中位 一括	5	褐色土器	浅鉢	V・深鉢 A類	口縫～胸	24 0
157	35	32	北	4013	Ⅲ b 層上～中位 一括	20	褐色土器	浅鉢	V・深鉢 A類	山根～底	99 87
158	35	32	北	4018 4018	Ⅲ a 層上～中位 Ⅲ b 層上～中位	1 2	褐色土器	鉢	V・深鉢 A類	口縫～底	13 0
159	35	32	北	4014	Ⅲ b 層上～中位	1	褐色土器	深鉢	V・深鉢 A類	山根	0
160	35	32	北	4018	Ⅲ b 層上～中位	10	褐色土器	深鉢	V～M	胸～底	0 75
161	35	32	北	4019	Ⅲ b 層上～中位	1	褐色土器	深鉢	V・深鉢 C類	山根	0
162	35	32	北	4019	Ⅲ b 層上～中位	1	褐色土器	深鉢	V	山根	0
163	35	32	北	406	Ⅲ b 層上～中位	5	褐色土器	浅鉢?	V	口縫～胸	30 0
164	36	33	北	408 407 406 405 404 403 402 401 1号発掘 (4C16)	Ⅲ b 層上～中位 Ⅲ b 層上～中位	6 1 1 1 1 5 4 1 6	褐色土器	深鉢	V～M	口縫～底	25 45
165	36	32	北	S-Nトレanche 3822	Ⅲ b 層上位	6	褐色土器	鉢	V・深鉢 A類	山根～底	20 0
166	36	33	北	409 409 437 437	Ⅲ b 層上位 Ⅲ b 層上～中位 Ⅲ b 層上～中位 Ⅲ b 層上～中位	57 18 2 1	褐色土器	深鉢	V・深鉢 A類	口縫～底	96 100
167	36	32	北	407	Ⅲ b 層上位	1	褐色土器	深鉢	V・深鉢 A類	口縫～胸	33 0
168	36	33	北	4011	Ⅲ b 層上位	8	褐色土器	深鉢	V・深鉢 C類	口縫～胸	40 0
169	36	32	北	4013 S-Nベルト I 4B13	Ⅲ b 層上位 Ⅲ b 層上位	1 2	褐色土器	深鉢	V・深鉢 A類	口縫～底	20 0
170	36	32	北	E-Wベルト 4B6 カクラン	Ⅲ b 層上位	2	褐色土器	深鉢	V～M	口縫	0
171	36	32	北	E-Wベルト 4B6 黒頭木ち タクラン	Ⅲ b 層上位	1	褐色土器	深鉢	M	山根	0
172	36	32	北	E-Wベルト 4B6 黒頭木ち タクラン	Ⅲ b 層上位	2	褐色土器	深鉢	M	山根	0
173	36	32	北	E-Wベルト 4B16 黒頭木ち タクラン	Ⅲ b 層上位	1	褐色土器	深鉢	M	山根	0
174	37	33	北	E-Wベルト 4B16 黒頭木ち タクラン	Ⅲ b 層上位	1	褐色土器	深鉢	V・深鉢 C類	山根	0
175	37	34	北	409	Ⅲ b 層上位	19	褐色土器	浅鉢 (基 部)	V・深鉢 C類	山根～底	30 0
176	37	34	北	3824 烏岳上	Ⅲ b 对応層 (-40m A層)	10	褐色土器	鉢	V・深鉢 A類	口縫～胸	24 0
177	36	33	北	403	Ⅲ b 对応層	1	褐色土器	古行鉢	V	胸～底	0 95
178	37	33	北	405	Ⅲ b 对応層	1	褐色土器	鉢	V・深鉢 A類	口縫	13 0
179	37	34	北	S-Nトレanche 1 406	Ⅲ b 層	2	褐色土器	深鉢	V・深鉢 A類	穴詰	0 0

計測箇所 (cm)	外観特徴・施文など	内部構造・施文など	スコア		地上色調	表面状況	備考	登録番号	
			内面	外面					
-	8.0	大波式、溝跡、施文。縦、斜板文、施文、施文。(RL)、上級と側部文様等の乱れが複数有り。	ナゲ(横)	-	-	10YR3/1 墓 黄褐色		5117	
(18.4)	(16.8)	平底、口縁、底内1巻、施文、施文、施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。(RL)	ナゲナガ(横)、下平ナガ(縦)	上半スス	施曲等付近 コゲ	10YR3/1 墓 灰	10YR3/4 に ぶい黄褐色	5067	
(13.6)	(7.8)	平底、口縁、底内1巻、施文、施文、施文。施文。施文。施文。施文。施文。(RL)	ミガキ(横)	-	-	7.5YR6/4 に ぶい黄褐色	7.5YR7/6 墓	5085	
(22.6)	(6.4)	平底、口縁、底内1巻、施文、施文、施文。施文。施文。施文。施文。施文。(RL)	口縁: 平行弦切2条、 施文: 施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。(RL)	-	-	7.5YR5/4 に ぶい黄褐色	7.5YR6/6 墓	5078	
(25.6)	11.5 6.3	平底、口縁: 山形模様、施文、施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。(RL)	口縁: 施曲等付近2条の長 い施文。施文。	-	-	7.5YR7/4 に ぶい黄褐色	10YR6/4 に ぶい黄褐色	5081	
(19.8)	(13.5)	平底、口縁: シテ形施文、3巻施文、口縁: 施文。施文。施文。施文。施文。施文。(RL)、施文。(RL)	ナゲ(横)	上半コゲ	-	7.5YR5/3 墓 灰	7.5YR5/4 に ぶい黄褐色	5070	
	5.6	波状縫合: 口縁: 施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。(RL)	ケズリ(横)	-	-	10YR7/4 に ぶい黄褐色	10YR7/4 に ぶい黄褐色	5088	
8.3	(9.8)	施文: 施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。(RL)、施文。(横)	ナゲ(縦)	-	-	10YR9/1 墓 灰	10YR7/4 に ぶい黄褐色	5076	
(12.0)	6.2	平底、口縁: 平行沈縫の間に斜面施文、施文。(RL)	ナゲ(横)	-	-	7.5YR7/6 墓 灰	7.5YR7/6 墓	5090	
	4.8	内縫: 施文、口縁: 施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。(RL)、施文。(横)	ナゲ(横)	-	-	10YR7/2 に ぶい黄褐色	10YR8/2 施 文	5200	
(23.0)	(7.3)	内縫: 施文、口縁: 施文。(RL)	ナゲ(横)	-	-	10YR4/2 墓 灰	10YR4/2 施 文	5086	
(28.1)	10.0 43.3	平底、口縁: 施文。(RL)、施文。施文。施文。施文。施文。(RL)	ナゲ(横)	-	頂上半スス	10YR7/4 に ぶい黄褐色	10YR8/4 施 文	5049	
(13.0)	(8.5)	平底、口縁: 施文。(RL)、施文。施文。施文。施文。施文。(RL)	ナゲ(横)	-	-	10YR5/3 に ぶい黄褐色	10YR6/4 に ぶい黄褐色	5064	
	30.6 9.6	平底、口縁: 施文。平行弦切2条の施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。(RL)、施文。(横)	ナゲ(横)	-	-	7.5YR5/3 に ぶい黄褐色	10YR7/4 に ぶい黄褐色	5059	
(25.8)	(5.4)	平底、口縁: 施文。(RL)、施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。(RL)	ナゲ(横)	-	-	10YR5/2 墓 黄褐色	10YR4/2 施 文	5053	
(14.0)	(12.3)	平底: 施文。(施文多量2巻)、施文。(横)、施文。(横)、施文。(横)、施文。(横)、施文。(横)、施文。(横)、施文。(横)	ケズリ(横)	-	-	SYR5/4 に ぶい黄褐色	7.5YR6/4 に ぶい黄褐色	5060	
(23.8)	(5.7)	平底、口縁: 施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。(RL)	ナゲ(横)	スス	スス	10YR6/2 施 文	10YR7/2 に ぶい黄褐色	5032	
	10.4	平底、口縁: 施文。施文。施文。(RL)	ナゲ(横)	-	-	10YR7/6 墓 黄褐色	10YR8/4 施 文	5055	
	8.4	内縫2条、口縁: 施文。施文。(RL)、施文。施文。施文。(横)	ナゲ(横)	-	-	10YR6/3 に ぶい黄褐色	10YR4/2 施 文	5056	
-	6.4	口縁: 流状、施文の上に斜面施文、施文。(RL)、施文。施文。施文。施文。施文。施文。(横)	ナゲ(横)	-	-	10YR6/4 に ぶい黄褐色	10YR7/4 に ぶい黄褐色	5057	
-	6.0	平底、口縁: 施文。施文。施文。施文。施文。施文。(横)	ナゲ(横)	-	-	10YR7/4 に ぶい黄褐色	10YR8/2 施 文	5058	
-	6.7	大波次元、口縁: 施文、口縁: 施文、施文、施文。(横)	ナゲ(横)	-	-	10YR6/4 に ぶい黄褐色	7.5YR7/6 墓	5059	
(31.0)	(16.4)	平底、口縁: 2列對のひだを有する、口縫: 施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。施文。(RL)	口縫: 施文1条、ミガ キ(横)	-	-	7.5YR6/6 墓 灰	10YR8/4 施 文	16AとB-1例参考	5061
(31.8)	(14.2)	中底、口縁: 施文。口縁: 下平縫4 条。内縫2条。1巻と2巻の施文、2.4 巻と3巻の施文の組み立てる施文。施 文。(RL)	ナゲ(横)	-	-	10YR4/2 施 文	10YR4/2 施 文	5144	
-	5.4 5.5	中底: 施文。(RL)、内縫: 施文2条、 施文。(横)	ナゲ(横)	-	-	10YD2/1 墓 灰	7.5YR6/4 に ぶい黄褐色	5150	
(15.0)	3.6	平底、口縁: 平行弦切間に斜面施文、 施文。施文。(横)	ナゲ(横)	-	-	10YR6/4 に ぶい黄褐色	10YR6/4 に ぶい黄褐色	5147	
-	(7.5)	中底の大型突起(円形・3巻粒か)	-	-	-	7.5YR8/4 墓 灰	7.5YR3/4 墓 灰	5151	

施設名	測量年	年間年	ス	出土地点	層位	複合破片数 内試掘 是数	種類	器形	分類	既存位置	既存率 (%)		
											正	横	
100	37	33	北	S-Nトレンチ 4B6	Ⅲb層	1	縦文土器	深鉢	V・深鉢A類	実験	0	0	
101	37	33	北	S-Nトレンチ 4B6	Ⅲb層	1	縦文土器	深鉢	V・深鉢A類	実験	0	0	
102	37	33	北	4B9 4B9	Ⅲb対応器 Ⅲb対応器一層	7 13	縦文土器	深鉢	II	網・網	0	100	
103	37	34	北	4B10 滲土上	Ⅲb対応器 (一部A層)	2	縦文土器	浅鉢?	V	網下平・台	0	85	
104	37	33	北	E-Wトレンチ 4B13	Ⅲb層 もしくは須磨土土	2	縦文土器	深鉢	仄	口縁	8	0	
105	38	34	北	E-Wトレンチ 4B13 E-Wバケット 4B18	Ⅲb層 もしくは須磨土土 Ⅲb対応器	5 2	縦文土器	深鉢	仄	網	0	0	
106	38	34	北	1号棟跡 (4B15) 4B15	Ⅲb対応器 (一部A層) Ⅲb対応器	2 3	縦文土器	深鉢	V~切	廣	0	0	
107	37	34	北	4B15 滲土上	Ⅲb対応器 (一部A層)	3	縦文土器	深鉢	II	網~底	0	20	
108	37	34	北	1号棟跡 (4B15) 4B15	Ⅲb対応器 (-75A層) Ⅲb対応器上位	2 3	縦文土器	深鉢	V・深鉢A類	網底~L字脚	0	0	
109	38	34	北	4B16	Ⅲb層	16	縦文土器	底	VI	網~底	0	100	
110	38	34	北	S-Nトレンチ 2 4C1	Ⅲb層	1	縦文土器	浅鉢?	Ⅳ	実験	0	0	
111	37	34	北	S-Nトレンチ 2 4C6	Ⅲb層	1	縦文土器	深鉢	V・深鉢C1類	山縁	12	0	
112	38	35	北	4C7	Ⅲb層	4	縦文土器	深鉢	V・深鉢B類	網	0	0	
113	38	35	北	4D11	Ⅲa層	1	縦文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢A類	山縁	18	0	
114	38	35	北	4B11	Ⅲa層	2	縦文土器	体	Ⅳ・深鉢	口縁~底	10	0	
115	38	35	北	4B11	Ⅲa層	9	縦文土器	体	Ⅳ	底	底50~底	0	100
116	39	35	北	4B9 4B9穴住居跡 4B11 4B11 不規	Ⅲb底土+中位 Ⅲa層 Ⅲa層 Ⅲa層	8 2 32 3 2	縦文土器	深鉢	Ⅳ~深鉢B類	口縁~底	82	34	
117	38	35	北	4B11	Ⅲa層	4	縦文土器	体	Ⅳ~深鉢C類	口縫~側	25	0	
118	38	35	北	4B12 4B12	Ⅲa層 Ⅲa層	7 1	縦文土器	体	Ⅳ	口縁~底	6	0	
119	38	35	北	4B12	Ⅲa層	4	縦文土器	体	Ⅳ	口縫~側	0	0	
200	38	35	北	4B12	Ⅲa層	3	縦文土器	深鉢	Ⅳ~深鉢A類	口縁~底	60	—	
201	39	35	北	4B12	Ⅲa層	1	縦文土器	深鉢	Ⅳ~Ⅴ	口縁~底	30	—	
202	38	35	北	4B13	Ⅲa層	3	縦文土器	底	Ⅳ~帶C類	網~底	0	0	
203	39	36	北	S-Kベルト 4B13	Ⅲa層	1	縦文土器	底	Ⅳ~深鉢B類	口縫~底	31	0	
204	39	36	北	4B13	Ⅲa層	5	縦文土器	浅鉢	Ⅳ	口縫~網	16	0	
205	39	36	北	S-Nトレンチ 1 4B13	Ⅲa層	3	縦文土器	底	Ⅳ	底	0	0	
206	39	36	北	4B13	Ⅲa層	3	縦文土器	口縫	Ⅳ~往口多款	網~側	0	0	
207	39	36	北	4B16	Ⅲa層	3	縦文土器	口縫	Ⅳ	口縫~側	0	0	
208	39	36	北	4B18	Ⅲa層	19	縦文土器	浅鉢 (蓋か)	Ⅳ~深鉢C類	口縫~側	25	0	
209	39	36	北	E-Wベルト 4B18	Ⅲa層	20	縦文土器	浅鉢 (蓋か)	Ⅳ~深鉢C類	山縁~網	22	0	

計測値(cm)	口径	底径	高さ	外輪周縁・施文など		内輪周縁・施文など		スコガ 内面	スコガ 外面	色調内面	色調外面	層号	登録No.	
				内面	外面	内面	外面							
-	-	(6.4)	段状(2), 滴状(2), 施文(1)に列瓦, 地文(1)	ナゲ(横)	-	-	-	10YR5/2 黄 青白	10YR8/3 黄 青白	10YR8/3 黄 青白	10YR8/3 黄 青白	5152		
-	-	(6.5)	大波状輪(5), 穀部(2), 施文(1)に列瓦, 地文(1)	ナゲ(横)	-	-	-	10YR5/3 黄 青白	10YR5/3 黄 青白	10YR5/3 黄 青白	10YR5/3 黄 青白	5153		
-	8.0	(24.3)	施: 地文(1), 雨落痕, 云: ナゲ(横, 縦)	ナゲ(横, 縦)	-	-	-	10YR7/4 黄 青白	10YR7/4 黄 青白	10YR7/4 黄 青白	10YR7/4 黄 青白	5143		
-	11.6	(7.8)	網下ホル, 口縫: 地文(1)	ナゲ(横)	-	-	-	10YR4/1 黄 青白	10YR4/1 黄 青白	10YR4/1 黄 青白	10YR4/1 黄 青白	5149		
(41.6)	-	4.3	手縫, 口縫: 2縫, 对の山形突起, 山形: 沈縫1条, ナゲ(横)	ナゲ(横)	-	-	-	7.GYR7/6 黄 青白	7.GYR7/6 黄 青白	7.GYR7/6 黄 青白	7.GYR7/6 黄 青白	5157		
-	-	21.1	手縫か, 口縫: 变形舟形文, 2縫+列 縫: 1列, 施文2条, 地文(1)	ナゲ(横, 縦)	-	-	-	10YR7/4 黄 青白	10YR7/4 黄 青白	10YR7/4 黄 青白	10YR7/4 黄 青白	5158		
-	-	15.3	施: 地文(1)	ナゲ(横)	-	-	-	10YR5/1 黄 青白	10YR5/1 黄 青白	10YR5/1 黄 青白	10YR5/1 黄 青白	5145		
-	(8.6)	(5.3)	制: 扇文(1), 底: 地文(1)	稍濃軋	コゲ	-	-	操作 溝多量	7.GYR7/1 黄 青白	7.GYR7/1 黄 青白	7.GYR7/1 黄 青白	7.GYR7/1 黄 青白	5146	
-	-	(21.1)	半円の大波央輪(円形, 3周状か) 施文	ナゲ(横)	-	-	-	7.SYR4/3 黄 青白	7.SYR4/3 黄 青白	7.SYR4/3 黄 青白	7.SYR4/3 黄 青白	5148		
-	3.0	(6.0)	制+底: ナゲ	ナゲ	-	-	-	10YR5/3 黄 青白	10YR5/3 黄 青白	10YR5/3 黄 青白	10YR5/3 黄 青白	5159		
-	-	(4.2)	雨落状突起	-	-	-	-	2.SYR2/2 浅白 白	2.SYR2/2 浅白 白	2.SYR2/2 浅白 白	2.SYR2/2 浅白 白	5154		
(29.0)	-	7.9	空気, 口縫: 地文(1), 足厚, 傷 沈縫	ナゲ(横)	-	-	-	10YR2/2 黄 青白	10YR2/2 黄 青白	10YR2/2 黄 青白	10YR2/2 黄 青白	5155		
-	-	12.3	大波状輪(5), 施文(1), 地文(1), 施文 制, 人面文(施文), 光葉地文(1), 施文地 文(1)	ナゲ(横)	-	-	-	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	5156		
(31.0)	-	9.5	手縫, 口縫, 施文, 地文: 無文者, 施文 地文(1)	ナゲ(横)	-	-	-	SYR6/8 暗 青白	SYR6/8 暗 青白	SYR6/8 暗 青白	SYR6/8 暗 青白	5160		
(25.0)	-	9.4	手縫, 口縫, 施文(1), 地文(1), 施文上2列 の間に大船形文, 施文: 地文(1)	ナゲ(横)	-	-	-	10YR5/3 黄 青白	10YR5/3 黄 青白	10YR5/3 黄 青白	10YR5/3 黄 青白	5161		
-	6.4	(12.8)	手縫か, 口縫: 下行2列以上, 地 文(1)	ナゲ(横)	-	-	-	10YR5/6 暗 青白	10YR5/6 暗 青白	10YR5/6 暗 青白	10YR5/6 暗 青白	5163		
22.8	7.8	24.1	手縫, 口縫~制: 地文(1), 施 文ナゲ	ナゲ(横)	下手コガ 少量	トテコガ 多量	SYR4/4 黄 青白	10YR6/1 黄 青白	10YR6/1 黄 青白	年代測定結果No.4	年代測定結果No.4	5169		
(16.0)	-	8.7	手縫, 口縫: 山形突起, 日食記, 沈 縫1条, 施文, 口縫: 無文者, 施文: 手縫上2列, 施文(1), 地文(1), 施文上2列 の間に大船形文(配蓋文+光葉文), 地文(1)	ナゲ(横)	口縫: 沈縫1条, 施文: ミヨギ(横)	-	コゲ多量	10YR3/2 黄 青白	10YR3/2 黄 青白	10YR3/2 黄 青白	10YR3/2 黄 青白	5171		
(28.0)	-	9.9	手縫, 口縫: 1条, 施文, 口縫: 無文者, 制, 施文制, 施文: 地文(1), 施文 の間に大船形文(配蓋文+光葉文), 地文(1)	ナゲ(横)	手縫: 上2列, 施文: 1条, 施文: ミヨギ(横)	下手スラス	10YR6/3 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	5182		
-	-	11.3	手縫か, 口縫: 1条, 施文, 地文: 手縫上2列の間にC字 施文モチーフの雲形文(配 蓋文+光葉文), 地文(1)	ナゲ(横)	手縫: 1条, 施文: ミヨギ(横)	-	-	7.SYR6/6 暗 青白	7.SYR6/6 暗 青白	7.SYR6/6 暗 青白	7.SYR6/6 暗 青白	5183		
(31.1)	(丸底)	4.0	手縫, 口縫: 山形突起, 日食記, 施文(1), 地文(1), C字モチーフ(手 縫モチーフの雲形文+光葉文), 地文(1)	ナゲ(横)	手縫: 施文1条, 第一 列: ミヨギ(横)	-	コゲ	SYR5/4 黄 青白	SYR5/4 黄 青白	SYR5/4 黄 青白	SYR5/4 黄 青白	5190		
(11.4)	(丸底)	3.5	手縫, 口縫~1条, 地文(1)	ナゲ(横)	手縫~1条, ミヨギ(横)	-	-	2.3YR3/1 黑 青白	2.3YR4/1 黑 青白	2.3YR4/1 黑 青白	2.3YR4/1 黑 青白	5191		
-	-	(8.9)	第1工字型, 网下半: ミヨギ, 地 文(1), 四脚付	ナゲ(横)	-	-	-	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	5181		
(11.6)	-	(6.5)	手縫, 施文: 沈縫1条, 日食記, 口縫: 無文者, 地文(1), 手縫: 1条, 施文: 手縫上3条以上, 施文(1), 地文(1)	ナゲ(横)	手縫: 口縫: 1条, 施文: ミヨギ(横)	-	-	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	5184		
(22.2)	-	(6.0)	手縫, 口縫: 1条, 各2条の間にC字 施文モチーフ(手縫モチーフの雲形文+光葉 文), 地文(1)	ナゲ(横)	手縫: 沈縫1条, 第一 列: ミヨギ(横)	-	網上半一列 コゲ	10YR4/2 黄 青白	10YR4/2 黄 青白	10YR4/2 黄 青白	10YR4/2 黄 青白	5185		
-	-	(6.5)	施: 無文者, 平行沈縫(底, 横), 施 文: 地文(1)	ナゲ(横)	手縫: 口縫: 1条, 施文: ミヨギ(横)	-	-	7.SYR4/2 黄 青白	7.SYR4/2 黄 青白	7.SYR4/2 黄 青白	7.SYR4/2 黄 青白	5186		
-	-	(6.6)	施: 平行沈縫2~3条の間に雲形文, 施文: 地文(1), 第1工字型, 施文: 手縫との組み, 制, 手縫: 平行沈縫2~3条の 間に雲形文, 地文(1), 地文(1)	ナゲ(横)	口縫: 第1工字型: ミヨギ (横), 手縫下半から?: ミ ヨギ(横)	-	-	10YR6/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	5188		
-	-	(7.3)	施: 横平行沈縫, 网下半: 1列強(底, 口縫), 地文(1)	ナゲ(横)	網下半: 1列 横平行沈縫工具によ る底施文	-	-	10YR7/1 黑 青白	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	10YR5/2 黄 青白	5189		
(37.6)	-	(12.0)	手縫: 口縫: 1条の山形突起, 手 縫: 施文(1), 地文(1), 手縫: 平行沈縫2~3条の 間に雲形文, 地文(1)	ナゲ(横)	口縫: 沈縫1条, ミヨギ (横)	-	-	7.5YR8/6 暗 青白	10YR8/4 黄 青白	SI 1と同一團体か	SI 1と同一團体か	5164		
(47.0)	-	(14.0)	手縫, 口縫: 1条の山形突起, 手 縫: 施文(1), 地文(1), 摄孔1孔所	ナゲ(横)	口縫: 沈縫1条, ミヨギ (横)	-	-	10YR5/3 黄 青白	10YR7/4 黄 青白	卓乳あり	卓乳あり	5165		

測地點	測定日	年月日	区	測定地点	層位	整合箇所數 判別性別	種類	層位	分類	既存位置	既存率 (%)
										白堜	黒堀
210	40	36	北	4B15	Ⅲa層	5	礫文土器	深鉢	V・深鉢 A3類	口縁	20 0
211	39	36	北	4B18	Ⅲa層	13	礫文土器	鉢	V・深鉢 A類	口縁～底	20 100
212	40	36	北	S-Nベルト1 4B18	Ⅲa層	6	礫文土器	鉢	Ⅳ・深鉢 A類	口縁～底	60 0
213	40	36	北	-4B18	Ⅲa層	3	礫文土器	浅鉢?	V～底	窓部～側	0 42
214	40	36	北	S-Nベルト1 4B18	Ⅲa層	7	礫文土器	台付鉢	窓	窓～底	0 92
215	40	36	北	S-Nベルト1 4B18	Ⅲa層	11	礫文土器	底	V・深鉢 C類	口縁～側	96 0
216	40	36	北	西面トレンチ	Ⅲa層	9	礫文土器	浅鉢	V・深鉢 A類	口縁～側	21 0
217	40	36	北	西面トレンチ	Ⅲa層	1	礫文土器	深鉢	V・深鉢 A3類	口縁～側	10 0
218	40	36	北	西面トレンチ	Ⅲa層	1	礫文土器	鉢	V・深鉢 A類	口縁	12 0
219	40	36	北	西面トレンチ	Ⅲa層	1	礫文土器	深鉢	V・深鉢 A類	口縁	0 0
220	40	36	北	西面トレンチ	Ⅲa層	3	礫文土器	鉢	V・深鉢 A類	口縁	10 0
221	40	36	北	西面トレンチ	Ⅲa層	1	礫文土器	深鉢	V・深鉢 A類	突起～口縁	0 0
222	40	36	北		Ⅲa層 Ⅲa層上部	1	礫文土器	鉢	V・深鉢 C類	口縁	14 0
223	40	36	北		Ⅲa層	1	礫文土器	鉢	V・深鉢 A類	口縁	8 0
224	40	36	北		Ⅲa層	1	礫文土器	鉢	V・深鉢 C類	口縁	13 0
225	40	37	北	E-Wトレンチ 4B11	Ⅲ層	3	礫文土器	深鉢	V・深鉢 A類	口縁	19 0
226	40	36	北	E-Wトレンチ 4B14	Ⅲ層	1	礫文土器	鉢	V・深鉢 C類	底	0 0
227	40	36	北	4B18	Ⅲ層	6	礫文土器	鉢	V・深鉢 A類	口縁～底	17 45
228	40	36	北	4B18	Ⅲ層	1	礫文土器	底	Ⅳ・深鉢 C類	突起～底	0 96
229	40	37	北	E-Wトレンチ 3B12	I c層	1	礫文土器	浅鉢	Ⅳ・深鉢 A類	汁口	0 0
230	40	37	北	S-Nトレンチ1 3B18	I c層	2	礫文土器	鉢	Ⅳ・深鉢 A類	口縁～側	25 0
231	41	37	北	S-Nトレンチ1 3B18	I c層	4	礫文土器	深鉢	V・深鉢 A類	突起	0 0
232	40	37	北	S-Nトレンチ1 3B23	I c層	1	礫文土器	深鉢	V・深鉢 A類	口縁	0 0
233	41	37	北	4B10	I c層	3	礫文土器	底	V・深鉢 A類	口縁	9 0
234	41	37	北	S-Nトレンチ1 4C6	I c層	1	礫文土器	浅鉢	Ⅳ	口縁	0 0
235	41	37	南	6C22	Ⅲb層下段	23	礫文土器	深鉢	Ⅳ～	窓～底	0 100
236	41	37	南	W-Eトレンチ1 7B3	Ⅲb層下段	1	礫文土器	深鉢	Ⅳ	口縁	0 0
237	41	37	南	W-Eトレンチ1 7B3	Ⅲb層下段	2	礫文土器	深鉢	Ⅳ	口縁	7 0
238	41	37	南	7C1	Ⅲb層下段	1	礫文土器	深鉢	V・深鉢 H3類	口縁	0 0
239	41	37	南	7C4	Ⅲb層下段	1	礫文土器	深鉢	V～	窓～底	0 30
240	41	37	南	8S3	Ⅲb層下段	1	礫文土器	深鉢	Ⅳ	口縁	0 0
241	41	37	南	S-Nベルト3 8B8	Ⅲb層下段	2	礫文土器	深鉢	V～	窓～底	0 65
242	41	37	南	W-Eベルト3 9B4	Ⅲb層下段	7	礫文土器	深鉢	V～	窓～側	9 0

特徴化 (cm)	口径 高さ 器蓋	外面施塗、施文など	内面施塗、施文など	ヌスコグ		地土	色系内面	色調外周	傷否	登録No.
				内面	外側					
(24.0)	-	平底、白底、赤み、口縁・底文・腹 赤丸 (RL)	ナゲ (横)	-	コゲ少量	10YR6/3 赤 5168	10YR6/4 赤			
(10.8)	5.9	13.5	平底、口縁・B実積、口縁:上文、 腹:施文 (RL)、底:ミヤギ (波消)、 山澤 (沈底) 1条、腹: リム入り透かしてガヨキを行なった ナゲ (横)	-	-	7.5YR8/8 黒 5170	7.5YR7/6 黒			
(2.8)	-	中底、(1.8) 中底:波模様 1列、波紋 1列、口縁:波模様、腹:充起から 延びる波段、茎部:上文、底:エンド ナゲ (横)	口縁:沈底 1条、腹: 波模様を意識	-	-	SYR2/1 黒地	SYR4/2 黑地			5171
-	(8.9)	敷:地丸 (RL)、底:ナゲ	ナゲ (横)	-	-	SYR6/5 黒	10YR5/2 黒 5178			
6.8	(5.4)	脚:柱 (RL)、台:平行波紋 2 条、 底文を意識	ミヤギ (横)	-	-	7.5YR3/1 黒 5179	7.5YR4/6 黒 5179			
7.2	-	(10.6) 腹:地丸 (RL)、底:ナゲ	ナゲ (横)	-	-	10YR2/1 黒 5180	10YR5/2 黒 5180			
(24.0)	-	手縫、口縁:止水要起、サート:波 行底:沈底 3 条、脚:麻紐、底文 (RL), 加津丸 1 条	口縁:沈底 1 条、腹: 波模様	-	-	7.5YR8/3 黒 5186	7.5YR5/8 黒 5186			
(24.0)	-	手縫、口縁:無文、腹:波文 (RL)	ナゲ (横)	-	ヌス	10YR7/4 赤 5187	7.5YR5/4 赤 5187			
(17.0)	-	3.7	手縫:口縁:白基色、赤み、口縁 手底:沈底 3 条、脚:麻紐、底文 (RL), 加津丸 1 条	口縁:沈底 1 条、腹: ナゲ (横)	-	10YR3/2 黒 5175	10YR3/1 黒 5175			
-	-	5.6	手縫:口縁:無文、腹:波模様、 脚:地丸 (RL)	ミヤギ (横)	-	10YR7/4 赤 5176	7.5YR5/4 赤 5176			
(13.0)	-	5.3	手縫、口縁:白底無、口縁:波文 (RL)	ナゲ (横)	-	10YR5/3 黒 5177	10YR7/2 赤 5177			
-	-	天蓋状底 (5.5cm)、口縁:波模様 (2.7.2) に二重丸巻突起、二重丸巻突起、波 模様、地丸 (RL)、腹:無	ナゲ (横)	-	-	SYR6/5 黒 5193	SYR6/5 黒 5193			
(20.0)	-	3.9	手縫:口縁:波模様、腹:波文 (RL), 脚:平行波紋の腹に延びる、脚:波 模様 (RL)	ミヤギ (横)	口縁:コゲ	10YR1/7 黒 5162	10YR6/4 赤 5162			
(23.0)	-	4.8	手縫、口縁:無文、脚:波文 (RL), 底文 (RL)	ナゲ (横)	-	10YR4/2 赤 5173	10YR4/2 赤 5173			
(19.0)	-	5.0	手縫、口縁:波模様、脚:波文 (RL), 底文 (RL)	ナゲ (横)	-	10YR3/2 黒 5174	10YR4/2 赤 5174			
(21.0)	-	14.3	手縫、口縁:無文、腹:地丸 (RL)	ケヅリ (横)	-	ヌス少量	10YR6/4 赤 5195	10YR5/3 赤 5195		
-	-	4.8	手縫:口縁:無文、脚:無	ナゲ (横)	-	-	2.5YR1/1 黄 2.5YR1/1 黄	2.5YR1/1 黄 2.5YR1/1 黄		5438
(17.0)	(5.8)	(10.2)	手縫:口縁:波模様、脚:波文 (RL), 平行波紋を有する文筒、口縁:波文 (RL), 平行波紋上 2 条 1 条の共にやや斜め 的な C 字型 1 条、脚:波文 (RL), 腹:柱丸 (RL), 底:ナゲ	口縁:波模様 (RL) 1 条、底: ナゲ (横)	-	10YR3/1 黒 5193	10YR7/4 赤 5193			
-	(7.4)	(5.8)	酒:沈底、底:ミヤギ (横)	ナゲ (横)	-	-	7.5YR5/4 赤 5194	7.5YR4/2 赤 5194		
-	-	(4.8)	黒色の香物による着色 色あざ	黒色の香物による着色 色あざ	-	-	7.5YR6/6 黒 5201	7.5YR7/6 黒 5201		
(9.0)	-	(7.1)	手縫:口縁:波模様 1 条、脚:波文 (RL), 底文 (RL)	口縁:沈底 1 条、脚: ナゲ (横)	-	10YR3/1 黒 5197	10YR3/1 黒 5197			
-	-	(12.0)	手縫の波模様 (波模様) 1 条、 波模様 1 条、脚:波文 (RL)	ナゲ (横)	-	-	2.5YR2/6 黒 5196	10YR7/4 赤 5196		
-	-	(5.0)	大型施模底の口縁、二口月状跡 付:地丸	ナゲ (横)	-	-	7.5YR6/4 赤 5199	7.5YR6/6 黒 5199		
(20.0)	-	11.2	手縫、口縁:地丸 (RL)、横縫:区隔 波文、腹:無文	ナゲ (横)	-	-	10YR8/3 赤 5200	2.5YR7/2 赤 5200		
-	-	3.6	手縫、口縁: B 実積、口縁: C 寸半 波文	ミヤギ (横)	-	-	10YR1/2 赤 5196	10YR5/4 赤 5196		
(11.0)	(11.2)	脚下半: 波文 (RL)、底: 施模部分 から剥離	ナゲ (横)	-	-	7.5YR7/6 黒 5237	10YR8/3 赤 5237			
-	-	4.0	大底状底の口縁、二口月状跡 付:地丸 (波文)	ナゲ (横)	-	-	10YR8/4 赤 5223	2.5YR1/1 黄 5223		
(32.0)	-	3.8	手縫、口縁:山形状孔、口縁:実筋 下から始まる丸縫、地丸文、波文 (RL)	ナゲ (横)	-	-	10YR5/3 赤 5228	10YR6/3 赤 5228		
-	-	8.2	大底状底 (5.5cm)、口縁:施模状、 刻目:波文	ナゲ (横)	-	-	10YR5/2 赤 5226	10YR5/4 赤 5226		
-	(9.0)	(2.6)	脚:ナゲ (横)、底:施模底 (C とび脚 底: (上とび) なし)、波文 (波文)	ミヤギ (横)	-	-	10YR6/4 赤 5284	10YR5/3 赤 5284		
-	-	4.9	大底状底 (4.5cm)、口縁:山形施模、 口縁:ミヤギ (波文)、底:施模孔、 施模文	ナゲ (横)	-	-	7.5YR6/4 赤 5222	7.5YR5/3 赤 5222		
-	(3.2)	(3.6)	脚: K 向右旋 (4.段多み) (波文 RL), 底: ナゲ	ナゲ (横)	コゲ	10YR6/4 赤 5285	10YR6/4 赤 5285			
-	-	17.3	手縫、口縁:落:地丸 (RL)、口縁: 内縫	ケヅリ (横)	コゲ	10YR5/4 赤 5282	7.5YR5/4 赤 5282			

発掘No	測量No	年月	区	出土地点	層位	接合破片数 内鉄板 経数		種類	形状	分類	残存位置 口縁～脚	残存率 (%) 口縁 底盤
						3	4					
243	41	37	南	S-Nベルト 9B8	Ⅲ b 層下段			陶文土器	深鉢	V～Ⅳ	口縁～脚	12 0
244	41	37	南	9B19	Ⅲ b 層下位			陶文土器	深鉢	Ⅲ	口縁	16 0
245	41	37	南	9B19	Ⅲ b 層下位		1	陶文土器	深鉢	Ⅳ	口縁	0
246	41	37	南	9B19	Ⅲ b 層下位		3	陶文土器	辻口	Ⅳ	口縁～脚	30 0
247	41	37	南	S-Nベルト 9B23	Ⅲ b 層下段		1	陶文土器	深鉢	V・深鉢A類	口縁	0
248	41	37	南	S-Nベルト 9B23	Ⅲ b 層下位		3	陶文土器	深鉢	V・深鉢B5類	口縁	0
249	41	37	南	9B24	Ⅲ b 層下段		1	陶文土器	台付鉢	Ⅳ	底	0 78
250	41	37	南	7A16-21	Ⅲ b 層中～下段		1	陶文土器	深鉢	V・深鉢B5類	脚	0 0
251	42	37	南	7B9-11	Ⅲ b 層中～下段 Ⅲ b 層	1	2	陶文土器	深鉢	V・深鉢C5類	脚	0 0
252	42	37	南	S-Nトレンチ 7B18	Ⅲ b 層中～下段		2	陶文土器	深鉢	V・深鉢B1類	口縁	0
253	42	38	南	8B24	Ⅲ b 層中～下段		2	陶文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢A類	口縁～脚	10 0
254	42	38	南	W-Eトレンチ 8B4	Ⅲ b 層中～下段		1	陶文土器	深鉢	V・深鉢A類	底	0 0
255	42	38	南	W-Eトレンチ 3 8B4	Ⅲ b 層中～下段		2	陶文土器	深鉢	Ⅳ	脚	0 0
256	42	38	東	10B17	Ⅲ b 層中～下段		1	陶文土器	深鉢	V・深鉢A類	米部	0 0
257	42	38	東	10B17	Ⅲ b 層中～下段		1	陶文土器	Ⅳ	V・Ⅳ A類	口縁	100 0
258	42	38	南	10B18	Ⅲ b 層中～下段		4	陶文土器	深鉢	V・深鉢B6類	口縁～脚	0
259	42	38	南	W-Eベルト 1 7B3	Ⅲ b 層中位		1	陶文土器	深鉢	Ⅳ	脚	0 0
260	42	38	南	W-Eベルト 1 7C3	Ⅲ b 層中位		5	陶文土器	深鉢	Ⅳ～Ⅴ	脚～底	0 70
261	42	38	南	W-Eベルト 1 7C3	Ⅲ b 層中位		5	陶文土器	深鉢	Ⅳ～Ⅴ	脚～底	0 45
262	42	38	南	W-Eベルト 2 8B1	Ⅲ b 層中位		9	陶文土器	鉢	Ⅳ～Ⅴ	脚～底	0 85
263	42	38	南	W-Eベルト 2 8B1	Ⅲ b 層中位		4	陶文土器	深鉢	V・深鉢B5類	口縁	15 0
264	42	38	南	8B24	Ⅲ b 層中位		2	陶文土器	鉢	V・鉢B類	口縁～脚	29 0
265	42	38	南	W-Eベルト 3 9B4	Ⅲ b 層中位		1	陶文土器	辻口	Ⅳ～Ⅴ	辻口	0 0
266	42	38	南	9B7	Ⅲ b 層中位 ( 他 )		58	陶文土器	Ⅳ	Ⅳ～Ⅴ	口縁～底	79 55
267	42	38	南	9B17 9B17 S-Nベルト 9B23	Ⅲ b 層中位 Ⅲ b 層 Ⅲ b 層	4 3 1	8	陶文土器	深鉢	V・深鉢A類	口縁～脚上	13 0
268	43	38	東	9B21 10B3	Ⅲ b 層中位	1	4	陶文土器	深鉢	V・深鉢A類	尖部	0 0
269	42	38	南	10B3	Ⅲ b 層中位		5	陶文土器	鉢	Ⅳ・鉢B類	口縁～脚	11 0
270	43	38	南	10B3	Ⅲ b 層中位		1	陶文土器	平底 ( 周折 )	V	脚～底	0 100
271	43	38	南	7A5	Ⅲ b 層上位		9	陶文土器	深鉢	Ⅳ	口縁～脚	10 0
272	43	39	南	7A10	Ⅲ b 層上位		15	陶文土器	鉢	Ⅳ	脚	0 0
273	43	39	南	7A10	Ⅲ b 層上位		15	陶文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢D類	口縁～底	17 15

a)羽作 (xy)	判別調整	施主など	内面断面・施主など	スコケ		出土	火葬内蔵	色彩表面	備考	登録番号
				内面	外面					
(22.0) -	16.0	平底、口縁：地文 (RL)、彫：無文帶、横：右方開口彫 (RL)、茎葉模様	ナデ (横)	-	コゲ	-	10YR5/3 に 高い貴賤	10YR5/3 に 高い貴賤	-	5281
(19.0) -	7.1	平底、口縁：複合口縁、ボタン状柄 付、耐候性彫：溝彫、地文 (RL)、齊縫 口条痕 (RL)	ナデ (横)	-	-	7.5YR7/6 棒 直線	7.5YR7/6 棒 直線	63 同 備体	-	5279
-	6.8	浅底、口縁：波状に沿う彫刻 1 条、 側：クリンク文、施主記念に柄彫、 地文 (RL)	ナデ (横)	-	-	10YR7/4 に 高い貴賤	10YR8/3 棒 直線	-	-	5280
(7.2) -	(3.5)	平底、口縁：B 安形、口縁：ミガニ、 側：龍頭、虎頭の刻み	ミガニ (横)	-	-	10YR4/1 棒 直線	10YR5/1 棒 直線	-	-	5287
-	6.4	浅底、口縁：波状に沿う彫刻 1 条、 側：クリンク文、施主記念に柄彫、 地文 (RL)	ナデ (横)	-	-	2.5Y7/2 棒直 線	-	-	-	5274
-	8.0	大波状彫 (5 基左から)、口縁：透彫 刻、側：平行透彫刻、地文 (RL)、要 素：口縁と側の文様帶の間に波状彫 あり	ナデ (横)	-	-	7.5YR4/3 棒 直線	10YR5/3 に 高い貴賤	-	-	5277
-	8.8 (4.7)	側：地文 (RL)、台：平行透彫刻下 各 2 条、S 波彫に歯既彫、要は透彫 刻	ミガニ (横)	--	-	10YR4/2 棒 直線	10YR7/4 に 高い貴賤	-	-	5286
-	4.4	口縁：無文帯、側：側面平行透彫 刻、側：透彫を有する透彫 (RL)、 口縁と側の文様帶の間に波状彫あり	ナデ (横)	-	-	10YR6/4 に 高い貴賤	10YR5/3 に 高い貴賤	-	-	5261
-	8.0	要：側面平行透彫、地文 (RL)、要 素：側面透彫、透彫地文 (RL)	ナデ (横)	-	-	5YR7/6 棒 直線	7.5YR7/4 に 高い貴賤	-	-	5294
-	5.1	大波状彫 (5 基左から)、口縁：透彫、 側：透彫	ナデ (横)	-	-	10YR4/1 刻 直線	10YR7/3 に 高い貴賤	-	-	5255
(21.0) -	11.2	平底、口縁：透彫、口縁：平行透彫刻 下各 2 条、側：透彫 (RL)	ナデ (横)	-	ヌヌ	10YR5/2 透 彫直線	2.5Y7/2 透直 線	-	-	5250
-	(8.4)	人形透彫 (3 基左から)、側面に沿う透 彫透彫刻、透彫 (RL)	-	-	-	10YR5/1 刻 直線	7.5YR7/6 棒 直線	-	-	5257
-	6.8	側：側面透彫 (2 条)、側：透彫 透彫の老子部分が彫かく分離され ていて、透彫	ナデ (横)	-	-	5YR6/8 棒 直線	7.5YR5/1 に 高い貴賤	-	-	5262
-	(7.6)	中段の六形透彫 (3 基左から)、大形透 彫下各 2 条、透彫 (RL)	ナデ (横)	-	-	10YR5/2 透 彫直線	10YR5/3 に 高い貴賤	-	-	5259
9.5 -	15.6	平底、口縁：透彫：ミガニ	ミガニ	-	-	10YR5/2 透 彫直線	10YR3/2 透 彫直線	-	-	5269
-	11.8	大波状彫 (5 基左から)、口縁：無文帯 側：透彫 (RL)、台：平行透彫刻下各 2 条、側：透彫 (RL)	ナデ (横)	-	-	10YR4/1 刻 直線	10YR3/1 透 彫直線	-	-	5254
-	6.0	要：貫通押し引き文による平行透彫 透彫	ナデ (横)	-	-	10YR6/4 に 高い貴賤	10YR7/6 透 彫直線	-	-	5271
-	11.3 4.0	側：地文 (RL)、底：ナデ	ナデ (横)	無添少量 ヌヌ	側部下平コ ゲ	10YR4/3 に 高い貴賤	10YR6/4 に 高い貴賤	-	-	5264
-	(8.4) (6.0)	側：地文 (RL)	ナデ (横)	無添少量 ヌヌ	側部下平コ ゲ	10YR6/4 に 高い貴賤	10YR6/4 に 高い貴賤	-	-	5265
-	7.8 (3.2)	側：地文 (RL)、底：ナデ	ナデ (横)	-	-	10YR6/4 に 高い貴賤	10YR7/4 に 高い貴賤	-	-	5266
(17.0) -	5.7	大波状彫、口縁：透彫、側面に沿 う透彫透彫刻、透彫 (RL)、枝彫、ナデ (横) に風呂敷で包まれ、口縁から透彫	-	-	-	10YR4/4 に 高い貴賤	10YR7/4 に 高い貴賤	-	-	5256
(13.0) -	(7.3)	口縁：透彫、側：透彫 (RL)、 側：透彫 (RL)、底：ナデ (横)	ナデ (横)	-	-	10YR5/3 に 高い貴賤	10YR6/4 に 高い貴賤	-	-	5267
-	3.6	ミガニ	-	-	-	10YR5/1 透 彫直線	10YR6/3 に 高い貴賤	-	-	5252
7.0 5.0	15.3	口縁：透彫：ミガニ (横)、底：透彫あり、 ナデ	ナデ (横)	-	-	5YR6/6 棒 直線	5YR6/8 棒 直線	-	-	5270
(30.0) -	(15.5)	口縁：透彫、側面に大型透彫、 彫：見事、透彫、地文 (RL)、底：透彫 (RL) 側：透彫 (RL)	ナデ (横)	口縁コゲ	-	10YR4/2 透 彫直線	10YR6/3 に 高い貴賤	-	-	5253
-	(12.2)	空窓の人形透彫 (3 基左から)、肥厚	-	-	-	5YR6/4 棒 直線	5YR6/6 棒 直線	-	-	5258
(22.0) -	8.1	平底、口縁：透彫 (RL)、底：無文 透彫 (RL)、側：地文 (RL)	ミガニ (横)	-	-	10YR7/3 に 高い貴賤	10YR7/4 に 高い貴賤	-	-	5251
-	(8.1)	側：透彫 (RL)、底：無文透彫 (RL) 側：透彫 (RL)	側部下平コ ゲ (外側へ) 透彫なし、縫隙明瞭	-	-	10YR7/4 に 高い貴賤	10YR7/2 に 高い貴賤	-	-	5268
-	4.0	平底、口縁：透彫 (RL)、底：無文透彫 (RL) 側：透彫 (RL)	側部下平コ ゲ (外側へ) 透彫なし、縫隙明瞭	-	-	10YR7/4 に 高い貴賤	10YR8/2 に 高い貴賤	-	-	5269
(27.4) -	(21.8)	平底、口縁：透彫 (RL)、底：無文透彫 (RL) 側：透彫 (RL)	ナデ (横)	-	コゲ	10YR5/2 透 彫直線	10YR6/3 に 高い貴賤	-	-	5272
-	13.7	平底、口縁：透彫 (RL)、底：無文透彫 (RL) 側：透彫 (RL)	ナデ (横)、底 (横)	-	-	10YR5/2 透 彫直線	10YR8/2 透 彫直線	-	-	5212
(21.2) (12.4)	3.6	平底、口縁：透彫 (RL)、底：無文透彫 (RL) 側：透彫 (RL)	ミガニ (横)、底 (横)	-	-	10YR6/3 に 高い貴賤	10YR8/2 透 彫直線	-	-	5222

番号	層別	層位	測定点	層位	混合物		種類	器種	分類	保存位置	保存率(%)	
					内	外						
224	43	39	南	TBG	Ⅲ b 層上位		1	縄文土器	鉢	Ⅳ・前田層	口縫	10 0
225	43	39	南	TB5	Ⅲ b 層上位		1	縄文土器	深鉢	V~VI	口縫~肩	9 0
226	43	39	南	TB6	Ⅲ b 層上位		16	縄文土器	浅鉢	Ⅶ	口縫~肩	19 0
227	43	39	南	TB6	Ⅲ b 層上位		5	縄文土器	円筒形	Ⅷ~IX	肩~台	0 0
228	43	39	南	TB9	Ⅲ b 層上位		6	縄文土器	深鉢	II	底~底	0 75
229	43	39	南	TB9	Ⅲ b 層上位		5	縄文土器	深鉢	II	口縫~側	15 0
230	43	39	南	TB9 TB9	Ⅲ b 層上位 Ⅲ b 層上位	2 1 2 3	8	縄文土器	深鉢	V~深鉢 C5 級	口縫	11 0
281	43	39	南	TB9	Ⅲ b 層上位		3	縄文土器	深鉢	V~深鉢 A 級	口縫	10 0
282	43	39	南	TB9	Ⅲ b 層上位		3	縄文土器	深鉢	V~深鉢 C5 級	肩	0 0
283	44	39	南	TB10	Ⅲ b 層上位		7	縄文土器	深鉢	V~深鉢 B1 級	口縫	0 0
284	44	39	南	TB10	Ⅲ b 層上位		2	縄文土器	深鉢	V~深鉢 C5 級	口縫	12 0
285	44	39	南	TB14 TB14	Ⅲ b 層上位 Ⅲ b 層	1 1	2	縄文土器	深鉢	V~深鉢 A 級	底~底	0 0
286	44	39	南	TB14	Ⅲ b 層上位		2	縄文土器	深鉢	V~深鉢 D 級	口縫~側	21 0
287	44	39	南	TB15	Ⅲ b 層上位		1	縄文土器	深鉢	II	側	0 0
288	44	39	南	TB17	Ⅲ b 層上位		4	縄文土器	深鉢	V~深鉢 C1 級	口縫	20 0
289	44	39	南	TB17	Ⅲ b 層上位		1	縄文土器	深鉢	IV	側	0 0
290	44	39	南	TB19	Ⅲ b 層上位		1	縄文土器	鉢	III	側	0 0
291	44	39	南	S-Nトレンチ 7B23	Ⅲ b 層上位		3	縄文土器	鉢	IV~V	肩~底	0 60
292	44	40	南	TC1	Ⅲ b 層上位		43	縄文土器	深鉢	IV~V	肩~底	0 76
293	44	39	南	TC1	Ⅲ b 層上位		1	縄文土器	深鉢	IV~V	底	0 30
294	44	39	南	TC1	Ⅲ b 層上位		1	縄文土器	深鉢	IV~V	底	0 15
295	44	39	南	TC1	Ⅲ b 層上位		5	縄文土器	深鉢	V~深鉢 B1 級	口縫	13 0
296	44	39	南	TC1	Ⅲ b 層上位		4	縄文土器	深鉢	V~深鉢 C6 級	口縫	10 0
297	44	39	南	TC6	Ⅲ b 層上位		3	縄文土器	深鉢	V~VI	口縫	13 0
298	44	39	南	TC6	Ⅲ b 層上位		2	縄文土器	鉢	Ⅳ~Ⅴ A 級	口縫	12 0
299	44	39	南	TC7	Ⅲ b 層上位		3	縄文土器	浅口	VI	口縫	17 0
300	45	40	南	W-Nトレンチ 2 施日	Ⅲ b 層上位		15	縄文土器	浅鉢	IV~深鉢 A 級	口縫~肩	25 0
301	45	40	南	BB3 S-Nトレンチ 1 施日	Ⅲ b 層上位 (一括) Ⅲ b 層	7 2	9	縄文土器	浅口	IV~V	肩~底	0 100
302	45	40	南	BB24	Ⅲ b 層上位		2	縄文土器	深鉢	Ⅳ~深鉢 A1 級	口縫	15 0
303	45	40	南	BB24	Ⅲ b 層二位		3	縄文土器	深鉢	V~VI	側	0 0
304	45	40	南	BB24 BB24	Ⅲ b 層上位 Ⅲ b 層上位	1 2	3	縄文土器	深鉢	V~深鉢 A 級	口縫~側	0 100
305	45	40	南	BB9	Ⅲ b 層上位		1	縄文土器	浅口	VI	口縫	0 0
306	45	40	南	BB14	Ⅲ b 層上位		3	縄文土器	深鉢	V~深鉢 A 級	口縫~側	0 0
307	45	40	南	BB23	Ⅲ b 層上位		1	縄文土器	深鉢	V~深鉢 A 級	肩~底	0 99

公私標 (cm)	壁厚	外面開窓・施文など	内面開窓・施文など	スコゴド		施主	内面内蔵	内面外側	備考	登録番
				内面	外面					
12.0	-									
(16.0)	-	5.0	手縫、口縫、B型起、縫み、口縫 手縫、口縫、B型起 2 番目に施文の 手縫状文字(山形文)を含む(手縫状文)。 例: 施文 (RL)	ナガ (横)	-		10YR3/1 黒 糊	10YR4/2 黒 糊		5218
(34.0)	-	7.2	手縫、口縫、A型起 (金剛瓦、陰、 施文)となるように施文 (RL)	ナダ (横)	-		10YR5/3 に 記入 黃褐色	10YR5/2 黑 糊		5201
(22.0)	-	7.2	手縫、口縫 1 番、口縫～縫 平行状線上に各 3 番目の縫に施文 (方 付彌縫文)、縫所、施文 (RL)	ナガ (横・縫)、底部 ナガ (横)	-		10YR5/3 に 記入 黄褐色	10YR7/1 に 記入 黄褐色		5215
-	6.0	(5.3)	例: 施文 (RL)、台・ナガ	ナダ (横)	-		10YR6/4 に 記入 黄褐色	10YR7/3 に 記入 黄褐色		5220
-	9.8	(8.2)	例: 施文 (RL)、台・ナガ	ナダ (横)	-		7.5YR6/6 壁 糊	10YR6/6 壁 糊		5213
(18.0)	-	17.7	段状縫、口縫、二段口縫、縫: 深縫 による複数段縫 (3段)、縫縫合後作 業 1 番 (K)	ナダ (横)	-		10YR4/2 黒 糊	10YR6/3 黒 糊		5222
(29.0)	-	11.1	大底状縫 (手縫か)、口縫: 施文根 に三段状状縫、二段穴子起、底: 施文 (RL) 施文 (RL)、施文 (RL)、入筋状状縫	ナダ (横)	-		7.5YR2/6 棚 糊	7.5YR2/4 黑 糊		5225
(29.0)	-	6.9	大底状縫 (手縫か)、口縫: 施文根 に三段状状縫、二段穴子起、底: 施文 (RL) 施文 (RL)、施文 (RL)	ナダ (横)	-		10YR2/1 黒	7.5YR7/6 棚 糊		5236
-	-	11.2	手縫、口縫～縫: 縫内状状縫 (横・縫)、 ケズリ (横)	-	コゲ		10YR7/4 に 記入 黄褐色	10YR8/3 に 記入 黄褐色		5211
-	-	9.8	大底状縫 (落底か)、口縫: 別縫 口縫: 施文: 黒縫	ナダ (横)	コゲ		10YR4/2 黑 糊	10YR8/4 に 記入 黄褐色		5226
(11.0)	-	6.6	手縫、口縫～縫: 縫内状状縫 (縫)	ケズリ (横)	-	コゲ	10YR5/3 に 記入 黄褐色	10YR7/3 に 記入 黄褐色		5210
-	-	7.1	縫: 構造縫 1 番、底: 細との差の 全縫合縫	ナダ (横)	コゲ		7.5YR5/1 に 記入 黄褐色	7.5YR5/6 棚 糊		5237
(24.0)	-	(14.8)	手縫、口縫: 構造平行彌縫、縫目、 施文: 施文: 茶・施文: 施文: 施文 施文 (RL)	ナダ (横)	-		10YR6/3 に 記入 黄褐色	10YR6/3 に 記入 黄褐色		5249
-	-	8.8	縫: 羽状施文 (縫)、縫: 通水なし、RL - RL	ナダ (横)	-		感物 糊跡 少量	10YR6/3 に 記入 黄褐色		5221
(21.0)	-	8.0	手縫、口縫～縫: 人頭文 (S字状)、 施文 (RL)	ナダ (横)	-		10YR5/4 に 記入 黄褐色	10YR6/3 に 記入 黄褐色		5250
-	-	7.0	縫: 施文平行彌縫 4 番、通水 (RL)、 施文 4 番による弦状縫	ナダ (横)	-		7.5YR7/6 棚 糊	7.5YR7/6 棚 糊		5237
-	-	(2.0)	... 及び穴起	ナダ	-		2.5YS/2 棚 糊	7.5YR7/6 棚 糊		5243
-	(4.5)	(3.1)	縫: 施文 (RL)、表: 木葉 or 穴? 番 施文の施文か?	ナダ (横)	-		10YR5/3 に 記入 黄褐色	10YR7/4 に 記入 黄褐色		5214
-	(12.4)	(0.45)	縫: 施文 (RL)、底: ナダ	ナダ (縫・横)	ドモコゲ	-	7.5YR6/6 棚 糊	7.5YR6/6 棚 糊		5099
-	(4.2)	(1.0)	底: T 畫痕?	ナダ	-		5YR7/6 棚	10YR7/3 黑 糊		5061
-	(7.0)	(1.7)	高: ナダ	ナダ	-		10YR8/3 黑 糊	10YR8/2 黑 糊		5062
(22.0)	-	7.8	大底状縫 (手縫か)、口縫: 放状に 施うる施文: 施文: 施文: 施文: 施文 施文 (RL)	ナダ (横)	-		10YR3/1 黑 糊	10YR6/4 に 記入 黄褐色		5227
(18.0)	-	4.8	縫: 施文 2 番の間に施文を以て放 状縫	ナダ (横)	-		10YR3/2 黑 糊	10YR6/4 に 記入 黄褐色		5239
(26.0)	-	10.0	手縫、口縫～縫: ナダ (横)	ナダ (横)	コゲ		3YR5/6 黑 糊	5YR5/6 黑 糊		5209
(14.0)	-	4.1	手縫、口縫～縫: 2 番縫 平行彌縫に右側して施文を下す縫 施文 (手縫状文) 縫: 縫み: 施文 (横)	ナダ (横)	-		10YR3/2 黑 糊	10YR3/2 黑 糊		5217
(8.0)	-	6.3	手縫、口縫～縫: 2 番縫 平行彌縫に右側して施文を下す縫 施文 (手縫状文) 縫: 縫み: 施文 (横)	ナダ (横)	-		7.5YR6/6 棚 糊	7.5YR6/6 棚 糊		5223
(21.0)	-	(8.1)	手縫、口縫: 山形彌縫・H突起、口縫: 平行彌縫に施文: 施文: 施文: 施文 施文 (RL)	ナダ (横)	-		10YR3/2 黑 糊	10YR6/2 黑 糊		5216
-	-	4.3	縫: ドモ (横・縫)、底: ケズリ	ナダ (横)	-		7.5YR5/4 に 記入 黄褐色	10YR5/4 に 記入 黄褐色		5219
(18.0)	-	8.3	空縫、口縫、施文、口縫: 平行彌縫 6 番、縫: 施文 (RL)	ナダ (横)	-		10YR4/2 黑 糊	10YR5/2 黑 糊		5207
-	-	14.8	縫: 施文 (RL)	ナダ (横)	ヌヌ		10YR7/1 黑 糊	10YR8/2 黑 糊		5210
-	6.6	(3.1)	縫: 施文 (RL)、底: ナダ	ナダ (横)	脚部下 手コゲ	-	7.5YR6/6 棚 糊	7.5YR6/4 に 記入 黄褐色		5246
-	-	(4.4)	追込縫の上に施文縫: 陳縫上に施 文: 小底状縫 3 番			-	7.5YR7/4 に 記入 黄褐色	7.5YR7/6 棚 糊		5224
-	-	(14.3)	人底状縫と被縫部に大型側縫 (3 単位) か、手縫: H突起、施文: 施文: 施文: 施文 施文 (RL)	ナダ (横)	-		10YR5/4 に 記入 黄褐色	5YR5/6 黑 糊		5233
-	-	(9.0)	大底状縫 (5単位)か、縫: 手縫: 2 番 縫: 施文: ナダ、施文が外に張り出 す部分	ナダ (横)	ヌヌ	-	N1.5.0 黑	10YR7/3 黑 糊		5248

測量番号	測量日	年月日	区	出土地点	層位	複合標記数 （複合数　単数）		種類	器種	分類	残存位置	残存率 (%)		
						複合	単数					段部	段部	
308	45	40	南	1003 10B4	Ⅲ a 層 Ⅲ b 層上位	1	2	3	縄文土器	深鉢	V・深鉢 A 級	底～側	0	0
309	45	40	北	70618	Ⅲ b 層上位		4	縄文土器	深鉢	Ⅳ～Ⅵ	底～側	0	80	
310	45	40	南	70623	Ⅲ b 層上位		10	縄文土器	深鉢	V～Ⅵ	口縁～側	19	0	
311	45	40	南	10023	Ⅲ b 層上位		1	縄文土器	浅鉢	V・深鉢 C6 級	口縁	11	0	
312	46	41	南	11B12 11B12	Ⅲ b 層上位 Ⅲ c 層	10	9	19	縄文土器	深鉢	V・深鉢 B2 級	口縁～側	22	0
313	45	40	南	707	Ⅲ b 層		2	縄文土器	深鉢	V～Ⅵ	口縁	7	0	
314	45	40	南	708 714	Ⅲ a 層 Ⅲ b 層	1	3	4	縄文土器	深鉢	Ⅳ	口縁	20	0
315	45	40	南	714	Ⅲ a 層		1	縄文土器	深鉢	V・深鉢 B1 級	口縁	0	0	
316	45	40	南	7B4	Ⅲ a 層		1	縄文土器	鉢	縦・深 A 型	口縁	7	0	
317	45	41	南	7B5	Ⅲ b 層		3	縄文土器	深鉢	V～Ⅵ	口縁	13	0	
318	46	41	南	7B5 706	Ⅲ b 層上位 Ⅲ a 層	1	20	22	縄文土器	鉢	縦・深 C 級	口縁～底	38	95
319	46	41	南	706	Ⅲ a 層		24	縄文土器	深鉢	Ⅳ～Ⅵ	側～底	0	52	
320	46	41	南	7B8 7B8-1	縄土器 縄土器	5	1	6	縄文土器	單孔	V	側	0	0
321	46	41	南	7010	Ⅲ a 層		1	縄文土器	深鉢	V・深鉢 C6 級	口縁	7	0	
322	46	41	南	7010	Ⅲ a 層		1	縄文土器	深鉢	Ⅳ	口縁～側	15	0	
323	46	41	南	7014	Ⅲ a 層		1	縄文土器	深鉢	V～Ⅵ	口縁	0	0	
324	46	41	南	7016	Ⅲ a 層		1	縄文土器	鉢	Ⅱ・Ⅲ C 級	口縁	10	0	
325	46	41	南	7017	Ⅲ a 層		1	縄文土器	深鉢	V～Ⅵ	口縁	7	0	
326	46	41	南	7017	Ⅲ a 層		1	縄文土器	唇	V・深 B 級	口縁	10	0	
327	46	41	南	7B18 7D18	Ⅲ a 層上位 Ⅲ a 層	3	5	8	縄文土器	深鉢	Ⅳ	口縁	0	0
328	46	41	南	7B18	Ⅲ a 層		1	縄文土器	鉢	Ⅳ	口縁～側	8	0	
329	46	41	南	7B21	Ⅲ a 層		3	縄文土器	深鉢	縦・深鉢 A 型	口縁	10	0	
330	46	41	南	7B21	Ⅲ a 層		7	縄文土器	鉢	縦・深 D 型	口縁～底	26	0	
331	46	41	南	7C1	Ⅲ a 層		5	縄文土器	深鉢	V～Ⅵ	口縁	0	0	
332	46	41	南	7C2	Ⅲ a 層		1	縄文土器	深鉢	Ⅳ	口縁	0	0	
333	46	41	南	7C2	Ⅲ a 層		1	縄文土器	深鉢	Ⅳ～Ⅵ	側～底	0	55	
334	46	41	南	8B1 Ⅲ b 層 E ベント 2-8B1	Ⅲ b 層 Ⅲ b 層中位	7	8	8	縄文土器	深鉢	縦・直	側～底	0	66
335	47	41	南	8B6	Ⅲ a 層		7	縄文土器	深鉢	Ⅳ～Ⅵ	側～底	0	100	
336	47	41	南	8B6	Ⅲ a 層		5	縄文土器	浅鉢	縦・深 A 型	口縁～側	0	100	
337	47	41	南	8B6	Ⅲ a 層 (一括)		16	縄文土器	鉢	縦・深 D 型	口縁～底	28	35	
338	47	41	南	8B6	Ⅲ a 層		1	縄文土器	浅鉢	Ⅳ	口縁	10	0	
339	47	42	南	8B6 8B6	Ⅲ a 層 (一括) Ⅲ a 層	4	3	7	縄文土器	鉢	Ⅲ・Ⅳ C 級	口縁～側	32	0

計測値(cm)	口径	底径	器高	外周開口部・底など		内面開口部・底など		スコグ 内面	スコグ 外周	船	色調内面	色調外面	備考	登録番号	
				内面	外周										
-	-	(8.6)	-	大腹状縦・波状縦に垂直交叉(1単位)か、口縫・底蓋部に細密状波状(1単位)か。口縫・底蓋部に細密状波状(1単位)か。	トテ(横)・口縫と側板の間に凹曲部	-	-	10YR5/3 に 多い黒	3YRG/6 黒	-	-	-	-	5234	
-	(11.0)	(7.0)	-	口縫・底蓋部(とび形成(1)を たてて2本ずつ(4))	ナテ(横)	コゲ	コゲ	7.5YR5/3 に 多い黒	7.5YR7/6 黒	-	-	-	-	5235	
(32.0)	-	(16.2)	-	平底・口縫・底: 地文(1段多条L)	ナテ(横)	コゲ少量	-	10YR5/3 に 多い黒	10YR5/2 黒 黄褐色	-	-	-	-	5236	
(17.0)	-	5.2	-	口縫・底: 地文・底文(2段方丈文L)、口縫と前縫ナテ(横)	ナテ(横)	-	-	10YR5/3 に 多い黒	10YR6/4 黒 多い黒	-	-	-	-	5238	
(39.0)	(18.0)	-	-	大底縦(5単位)・口縫・地文、側 7年の横縫(1段波状)・底の縦縫平行 波状で切替(5文)、口縫・口縫と 側板・底蓋部の間に段差あり	ナテ(横)	コゲ	-	10YR7/4 に 多い黒	10YR4/1 黒	-	-	-	-	5235	
(27.0)	-	4.0	-	平底・口縫・底: 地文(HL・RL)	ナテ(横)	-	-	10YR7/4 に 多い黒	10YR7/3 に 多い黒	穿孔	-	-	-	5233	
(16.0)	-	4.6	-	平底・口縫・底: 地文(2段L)	ナテ(横)	-	-	10YR5/3 に 多い黒	7.5YR7/6 黑	-	-	-	-	5239	
-	-	3.2	-	口縫・底: 地文(2段L)による 横縫(1段波状)・底縫(1段波状)	ナテ(横)	-	-	7.5YR6/3 に 多い黒	7.5YR1/1 黒	-	-	-	-	5231	
14.0	-	3.9	-	平底・口縫・底: 地文(2段L) 波状(1段L)・底縫(1段L)・底 縫・底文(RL)	ナテ(横)	-	-	7.5YR5/4 に 多い黒	7.5YR3/1 黒	-	-	-	-	5233	
(38.0)	-	4.3	-	平底・口縫・底: 方向波状(2段KL)	ナテ(横)	-	-	7.5YR5/4 に 多い黒	10YR5/3 に 多い黒	-	-	-	-	5239	
(12.0)	5.0	12.4	-	平底・口縫・底: 地文(2段L) 波状(1段波状)・底縫(1段L) 底縫(1段L)・底縫(1段波状) 底縫(1段L)・底縫(1段L)	ナテ(横)	-	-	10YR3/1 里 白	10YR4/1 黑	-	-	-	-	5238	
-	9.8	(12.0)	-	平底: 地文(RL)、底: 木葉模	ナテ(横)	コゲ	-	10YR8/1 黑	10YR8/4 黑	-	-	-	-	5233	
-	-	(5.4)	-	口縫・底: 地文(2段多条(3))	ナテ(横)	-	-	10YR2/2 黑	5YR4/1 に 多い黒	-	-	-	-	5237	
(27.0)	-	4.8	-	平底・口縫・底: 方向波状(2段L)	ナテ(横)	-	-	10YR3/2 黑	10YR6/2 黑	-	-	-	-	5235	
(24.0)	-	8.0	-	平底・口縫・底: 地文(2段L) 波状(1段波状)・底縫(1段L) 底縫(1段L)・底縫(1段L)	ナテ(横)	-	-	10YR3/1 黑	10YR3/1 黑	-	-	-	-	5237	
-	-	4.8	-	平底・口縫・底: 方向波状(2段L)	ケヅリ(横)	-	-	7.5YR6/3 黑	7.5YR6/3 黑	-	-	-	-	5239	
(17.0)	-	3.4	-	平底・口縫・底: 地文(2段L) 波状(1段L)・底縫(1段L)	ナテ(横)	-	-	10YR5/3 に 多い黒	5YR6/8 黑	-	-	-	-	5231	
(21.0)	-	5.9	-	平底・口縫・底: 地文(2段L) 波状(1段L)	ナテ(横)	-	-	2.5YR1/1 黑	10YR6/2 黑	-	-	-	-	5231	
(20.0)	-	4.4	-	平底・口縫・底: 地文(2段L)	ナテ(横)	-	-	2.5YR1/1 黑	10YR6/2 黑	-	-	-	-	5232	
-	-	13.1	-	口縫・底: 地文(2段L)・底縫(1段L) 平行波状による波状文・底縫(1段L)	ナテ(横)	コゲ	-	7.5YR5/6 黑	10YR7/2 に 多い黒	245と同?	-	-	-	5235	
(17.0)	-	5.4	-	平底・口縫・底: 平行波状(2 段L)・底縫(1段L)・底縫(1段L) 底縫(1段L)・底縫(1段L)	ナテ(横)	-	-	10YR3/1 黑	10YR6/2 黑	-	-	-	-	5236	
(18.0)	-	10.6	-	平底・口縫・底: 地文(2段L) 波状(1段L)・底縫(1段L)	ナテ(横)	-	-	10YR7/3 に 多い黒	10YR7/3 に 多い黒	-	-	-	-	5233	
(18.0)	-	7.3	-	平底・口縫・底: 地文(2段L) 波状(1段L)・底縫(1段L)	ナテ(横)	スス少量 口縫コゲ	-	10YR5/4 に 多い黒	-	-	-	-	-	5235	
-	-	10.6	-	平底・口縫・底: 方向波状(1段 波状(1段L))	ナテ(横)	-	-	10YR7/2 (3) 黒 側面	10YR3/1 黑	-	-	-	-	5232	
-	-	4.0	-	人足状(24葉L)・口縫・山形突起・ 底縫(1段L)・底縫(1段L)・底縫(1段L)	ナテ(横)	-	-	10YR7/4 に 多い黒	10YR6/3 に 多い黒	-	-	-	-	5238	
-	(12.0)	(5.1)	-	底: 地文(RL)、底: ナテ	ナテ(横)	-	-	10YR6/4 に 多い黒	7.5YR5/6 明	-	-	-	-	5216	
-	-	9.8	(8.1)	底: 地文(RL)、底: ナテ	ナテ(横)	ガゲ	-	7.5YR6/6 黑	-	-	-	-	-	5214	
-	-	7.0	(7.2)	底: 地文(2段多条2段RL)・隠底	ナテ(横)	-	-	10YR7/4 に 多い黒	10YR5/3 に 多い黒	-	-	-	-	5217	
-	-	8.9	(2.4)	底縫1条・地文(2段L)・ミガキ	1ガガ	-	-	10YR5/2 黑	10YR5/2 黑	-	-	-	-	5219	
(14.0)	56.0	19.7	-	平底・口縫・底: 地文(2段L)・底縫 1条・口縫・底縫3条・底縫 底文(2段L)	ナテ(横)	-	-	-	2.5YR1 黑	2.5YR7/4 黑	-	-	-	-	5234
(31.0)	-	6.3	-	平底・口縫・2段方向波状(2段L) 底縫1条・口縫・平縫・底縫3条・底 縫・底文(2段L)	ナテ(横)	-	-	10YR5/3 に 多い黒	10YR6/4 に 多い黒	-	-	-	-	5237	
(18.0)	-	(9.5)	-	平底・口縫・2段方向波状(2段L) 底縫1条・口縫・底縫・無文底・底 縫・底文(2段L)	ナテ(横)	-	-	10YR3/2 黑	10YR6/4 に 多い黒	-	-	-	-	5239	

地番	区	出土地点	層位	段台段序號 内訳色	段数	種類	導体	分類	其有微異		段位率 (%) 高部		
									段位	口述			
340	47	42	東 9B11	Ⅲa層	8	礫土上砂	鉛	鐵・鉄系	口述	12	0		
341	47	42	東 9B11	Ⅲa層	5	礫土上砂	銅鉛	銅・銅鉛・銅	口述	16	0		
342	47	42	南 9B17	Ⅲa層	4	礫土上砂	鉛	M	口述	15	0		
343	47	42	南 9B17	Ⅲa層	1	礫土上砂	鉛	鐵・銅	口述	0	0		
344	47	42	南 9B19	Ⅲa層	2	礫土上砂	漆鉛	V・漆鉛・C1類	口述	6	0		
345	47	42	南 9B22	Ⅲa層上層	1	礫土上砂	漆鉛	Ⅱ	漆鉛	0	0		
346	47	42	南 9B22	Ⅲa層上層	2	礫土上砂	漆鉛	V・漆鉛・A類	漆鉛	0	0		
347	47	42	南 9B22	Ⅲa層上層	4	礫土上砂	漆鉛	Ⅲ・Ⅳ	鐵	0	8		
348	47	42	南 S-Nベルト 9B3	Ⅲa層	1	礫土上砂	漆鉛	I	口述	0	0		
349	47	42	南 S-Nベルト 9B3 9B4	Ⅲa層 Ⅲa層	5	礫土上砂	鉛	鐵・鉛・B類	口述・鉛	40	0		
350	47	42	南 S-Nベルト 9B3	Ⅲa層	27	礫土上砂	鉛	鐵・鉛・A類	口述	12	0		
351	47	42	南 W-Eトレanche 3 9B3	Ⅲa層	4	礫土上砂	漆鉛	鐵・漆鉛・A類	口述・漆	40	0		
352	47	42	南 9B3	Ⅲa層	1	礫土上砂	漆鉛	鐵・漆鉛・D類	口述	0	0		
353	47	42	東 9B3	Ⅲa層	2	礫土上砂	漆鉛	鐵・漆鉛・D類	口述・高	30	45		
354	47	42	東 9B3	Ⅲa層	1	礫土上砂	漆鉛	鐵・漆鉛・D類	漆	0	0		
355	47	42	南 W-Eトレanche 3 9B3	Ⅲa層	1	礫土上砂	漆鉛	Ⅳ	漆	0	0		
356	47	42	南 9B4	Ⅲa層	3	礫土上砂	漆鉛	鐵・Ⅳ	漆	0	45		
357	47	42	南 W-Eベルト 3 9B4	Ⅲa層	3	礫土上砂	漆鉛	Ⅳ	口述・漆	10	45		
358	48	42	南 S-Nトレanche 9B8	Ⅲa層	3	礫土上砂	漆鉛	V・漆鉛・C9類	口述	16	0		
359	48	42	南 S-Nトレanche 9B8 9B9	Ⅲa層 Ⅲa層	1	礫土上砂	漆鉛	Ⅳ	口述・鉛	18	0		
360	48	42	南 9B9	Ⅲa層	2	礫土上砂	漆鉛	Ⅳ	口述	0	0		
361	48	42	南 9B9 S-Nトレanche 9B8	Ⅲa層 Ⅲa層	3	礫土上砂	漆鉛	V-VI	口述・漆	0	10		
362	48	42	南 9B9	Ⅲa層	1	礫土上砂	漆鉛	Ⅳ	漆	0	0		
363	48	42	南 S-Nトレanche 9B13	Ⅲa層	2	礫土上砂	漆鉛	Ⅳ-V	漆	0	35		
365	48	42	南 9B13 9B13	Ⅲa層 Ⅲa層	1	2	礫土上砂	漆鉛	V-VI	漆	0	100	
366	48	42	南 9B17 9B18 S-Nベルト 9B18	Ⅲa層 Ⅲa層 性カクラン	1	4	9	漆土上砂	漆	V-VI	漆	0	37
367	48	42	南 9B18	Ⅲa層	1	4	9	漆土上砂	漆鉛	V・漆鉛・C9類	漆鉛	0	0
368	48	42	南 9B18	Ⅲa層	1	4	9	漆土上砂	漆鉛	V・漆鉛・A類	漆鉛	0	0
369	49	43	南 9B18	Ⅲa層	6	漆土上砂	漆鉛	V・漆鉛・E2類	口述	0	0		
370	48	43	南 9B24	Ⅲa層	5	礫土上砂	漆鉛	Ⅳ	口述・漆	17	0		
371	48	43	南 9B24	Ⅲa層上面	3	礫土上砂	漆鉛	Ⅳ・漆鉛・A類	口述	7	0		
372	48	43	南 1012	Ⅲa層	1	礫土上砂	漆鉛	Ⅳ	漆	0	0		

計測値(cm)	外山彌、施主など	内山彌、施主など	スコガ		駐車	色調内面	色調外面	備考	立体
			内面	外面					
(18.0)	- 4.4	空洞、口縫、溝み、口縫、平行沈泥、B内板、頭：C字状モチーフの器形、施主、施主(RL)	シロ：沈縫(1)系、底：ミガキ(横)	-	-	7.5YR4/3 桐	10YR6/4 桐 赤い質感		5332
(21.0)	- 4.7	平縫、口縫、溝み、口縫、2箇所の突起、第一側、工具文、施主(内側)、ミガキ(横)	シロ：沈縫(1)系、底：ミガキ(横)	-	-	10YR3/2 桐	10YR4/1 桐 黄褐色		5340
(17.0)	- 3.8	平縫、口縫、要削え、施主、耳状突起、底：密な吹き出、頭部(RL)	ナゲ(横)	-	-	10YR7/6 桐	7.5YR7/6 桐		5323
-	- 4.6	平縫、口縫、2箇所の突起、平行沈縫2箇所、底：密な吹き出、頭部(RL)	ナゲ(横)	-	-	7.5YR7/6 桐	10YR6/4 桐 赤い質感		5349
(27.0)	- 9.1	平縫、底：入文字(5文字)、施主(内側)、頭部突起(底)	ナゲ(横)	-	-	7.5YR4/4 桐	7.5YR4/4 桐		5306
-	(7.3)	大波状縫、4葉模様か、口縫、山形文、底：密な吹き出、頭部(RL)	ナゲ(横)	-	-	2.5YR3/3 深青	4.5YR5/3 深青		5380
-	(13.6)	中腹の大形突起(深ハート形)、3葉模様か	ナゲ(横)	-	-	10YR8/4 桐	2.5YR2/3 黄褐色		5399
(14.5)	(2.0)	底：斜め直、ナゲ(横)	ナゲ(横)	-	-	5YR6/8 桐	10YR6/4 桐 赤い質感		5315
-	人波紋、口縫、底部直に並び鉛伏せ、其級復元による切込み、口縫、老練的な吹き出、頭部吹き出、其級復元文	ナゲ(横)	-	-	10YR7/3 桐	7.5YR6/4 桐 赤い質感		5304	
(13.5)	(7.5)	平縫、口縫、S字文、口縫、2箇所の突起、底：密な吹き出、2箇所の突起、頭部吹き出3条の間に列丸人丸、舟形(底)	ナゲ(横)	-	-	7.5YR4/3 桐	7.5YR6/4 桐 赤い質		5329
(20.0)	5.4	手縫、口縫、輪：S字文、口縫、平行沈縫2-3条の間に右斜けした吹き込みを複数個の直線で区切る文(5文字)、ミガキ(横)、頭：施主(RL)	ミガキ(横)	-	-	10YR3/2 桐	10YR4/2 桐 黄褐色		5300
(14.25)	- 6.0	手縫、口縫、B内板、口縫、平行沈縫、底：文字文、頭：二連筒の數珠列、二字吹き出	ミガキ(横)	-	-	10YR6/2 桐	10YR6/3 桐 赤い質感		5344
-	5.0	平縫、口縫、斜目、口縫、人組帶番文、底：平行沈縫2-3条の間に右斜けした吹き込み	ナゲ(横)	-	コゲ	10YR6/2 桐	10YR5/2 桐 黄褐色		5346
猪口、施主 (21.0) (23.6)	2.6	手縫、口縫、2-3条の間に伴はる状の竹葉状文、二字吹き出、二字モチーフの器形文、施主(内側)、施主(RL)	ミガキ(横)	-	-	10YR5/3 桐	10YR6/2 桐 赤い質感		5351
-	6.0	手縫、口縫、B内板、口縫、平行沈縫、底：二字文、頭：二連筒の數珠列、二字吹き出	ミガキ(横)	-	-	10YR4/2 桐	10YR4/2 桐 黄褐色		5332
-	(4.2)	二段状突起、削み	ナゲ(横)	-	-	10YR8/4 桐	10YR8/4 桐 黄褐色		5351
-	(3.9)	削：施主(RL)、底：ナゲ	ナゲ(横)	-	-	10YR6/3 桐	10YR4/2 桐 赤い質感		5318
(22.8)	(9.2) 6.0	平縫、口縫、当差筋、頭：一側：平行沈縫上2-3条の間に左斜け、C字モチーフの器形文が通す文(5文字+光澤文)、施主文	ナゲ(横)	-	-	7.5Y2/2 オリーブ葉	10YR4/2 桐		5350
(21.0)	- 7.1	平縫、口縫、見方向溝文(RL)、底：全区間削み、削み、頭：斜文	ナゲ(横)	-	-	5YR5/1 桐	7.5Y2/5/4 桐 赤い質感		5306
(18.0)	- 8.4	平縫、口縫、口縫、平行沈縫2-3条の間に右斜けした吹き込みが文れる、頭：施主(RL)	ナゲ(横)	-	-	5YR6/6 桐	5YR6/6 桐		5338
-	5.2	斜状突起、頭：平行沈縫、要削え、施主(RL)、底：斜文モチーフ	ナゲ(横)	コゲ	コゲ	10YR4/2 桐	2.5Y5/8 深赤 内		5392
(7.8)	7.2	脚：奥方焼成(RL)、底：ナゲ	ナゲ(横)	-	-	2.5Y3/8 桐	5YR5/6 深赤 内		5343
-	7.0	脚：捺目モチーフの器形文、斜削	ナゲ(横)	-	-	10YR7/6 桐	10YR8/2 桐 黄褐色		5335
-	(13.0) (2.0)	脚：ナゲ(横)、底：施主(内側)、氣(氣泡)、施主(内側)、頭：密な吹き出	ナゲ(横)	-	-	5YR6/8 桐	5YR6/8 桐		5320
-	6.0 (5.9)	脚：其の向隅文の很多條(2箇所)、ナゲ(横)、底：ナゲ	ナゲ(横)	-	-	10YR7/2 桐	10YR6/3 桐 赤い質感		5342
-	(15.4) (7.2)	口縫：ミガキ(横)	ナゲ(横)	-	-	2.5Y7/3 深青	2.5Y8/3 深青		5336
-	(9.8)	口縫の大形突起(3箇所)	ナゲ(横)	-	-	2.5Y7/7 深青	2.5Y7/7 深青		5397
-	(7.1)	中腹の大形突起(内側)、3箇所	ナゲ(横)	-	-	2.5Y3/2 黄褐色	10YR6/3 桐 赤い質感		5398
-	(10.0)	大波状縫(5葉模様)、口縫：無文、要削	ナゲ(横)	-	-	7.5YH3/3 深 桐	10YR4/2 桐 黄褐色		5361
(14.0)	-	手縫、口縫、C字文(文様の垂繰化)、脚部蓋、上から伸びた吹き込みが文れる、頭：斜文モチーフ	ナゲ(横)	-	-	10YR5/3 桐	10YR6/3 桐 赤い質感		5333
(8.1)	-	手縫、口縫、B内板、頭：一側：平行沈縫と2-3条の間にC字モチーフの器形文と平行化した大斜削	ナゲ(横)	-	-	10YR7/4 桐	10YR8/3 桐 赤い質感		5346
(30.0)	- 7.1	手縫、口縫、B内板、頭：一側：平行沈縫と2-3条の間にC字モチーフの器形文と平行化した大斜削	ナゲ(横)	-	-	7.5Y8/6 桐	10YR6/3 桐 赤い質感		5333
-	- 5.3	斜状突起	ナゲ	-	-	7.5Y8/6 桐	10YR6/3 桐 赤い質感		5333

件数	周代	寺	出土地点	層位	遺物箇数		種類	性質	分類	所在位置	残存率 (%)	山地	空島	
					内数	外数								
373	48	43	南	10B1				10	縄文土器	壺	V	東	0	0
374	48	43	南	10B2 10B2 10B3			2 17 1	20	縄文土器	深鉢	V-壺	山地		0
375	49	43	南	10B3				1	縄文土器	深鉢	V-深鉢 A 型	東~西	0	30
376	48	43	南	10B17				3	縄文土器	深鉢	V-深鉢 B6 露	山地	10	0
377	49	44	南	10B23				20	縄文土器	深鉢	V-壺	山地~原	45	0
378	49	43	南	10B23				6	縄文土器	青竹 茂鉢?	V	東	0	89
379	49	43	南	東区南斜				5	縄文土器	台付圓錐	V	東~西	0	0
380	49	43	西	W-Eベルト 1-C1				1	縄文土器	壺	V	東	0	0
381	49	43	南	地立不規				14	縄文土器	深鉢	V-深鉢 B5 壴	山地~原	40	0
382	49	43	南	3号後火作跡				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	0
383	49	43	北	S-Kトレンチ 3B21				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	-
384	49	43	北	E-Wベルト 1号廻廊 (4B19)				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	-
385	49	43	北	4B18				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	-
386	49	43	北	4B12 4B12			1 1	縄文土器	深鉢	-	東	0	30	
387	49	44	北	4B12				3	縄文土器	深鉢	-	東	0	100
388	49	44	北	4B12				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	30
389	49	44	北	4B1				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	15
390	49	44	北	4B7 4B7			1 1	2	縄文土器	深鉢	-	東	0	40
391	49	44	南	10B3				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	15
392	49	44	南	10B5 10B5			1 1	2	縄文土器	深鉢	-	東	0	50
393	49	44	南	3号後火作跡 (5B2)				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	-
394	49	44	南	7A16-21				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	0
395	49	44	南	216				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	-
396	49	44	南	9B13				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	35
397	49	44	南	W-Kトレンチ 9D4				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	20
398	49	44	南	9B18				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	10
399	50	44	南	3号土坑				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	20
400	50	44	北	4C7				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	15
401	50	44	北	4B6				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	-
402	50	44	北	4B19				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	13
403	50	44	北	E-Wベルト 4B16 カクラン				2	縄文土器	深鉢	-	東	0	41
404	50	44	北	6B19				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	-
405	50	44	北	S-Nベルト 1-4B8				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	-
406	50	44	北	4B9				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	20
407	50	44	北	4B13				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	11
408	50	44	北	E-Wベルト 4B18				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	-
409	50	44	北	S-Nベルト 4B18				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	48
410	50	44	北	4B6				1	縄文土器	深鉢	-	東	0	100
411	50	44	北	4B6				2	縄文土器	深鉢	-	東	0	35

目録 番号	地 点	概 要	外觀圖面・施文など	内觀測量・施文など	ススコゲ		墳丘	色調内面	長軸外周	備考	登録番号
					内面	外周					
-	-	(6.5)	製:波紋織、横位平行沈縫3条・ミガキ、赤色塗装	ナゲ(横)・武と彌の堤 基まで赤色塗装	-	-	2.5YR5/4に赤 い黄	7.5YR5/2 黄 黄緑	1.5m	5334	
-	-	35.3	平塚、山崎一男 真方尚原文(RL)、 山崎内規	ナゲ(横)	弱	コゲ	10YR8/3 淡 い黄	10YR8/3 淡 い黄	1.5m	5307	
-	(13.8)	(9.2)	大流伏巻(5巻巻)か、割下瓦・後松 虎尾、瓦、朝代瓦、施部が外に張り 出す堅形	ナゲ(横)	-	コゲ	10YR5/2 黄 黄緑	10YR5/2 黄 黄緑	1.5m	5322	
(32.0)	-	7.8	人波代瓦(5巻巻)か、山崎一 平塚半仁波源(御文文)・地文(保 山)	ナゲ(横)	-	-	7.5YR6/8 淡 い黄	10YR8/4 黄 黄緑	1.5m	5300	
(33.6)	-	(19.8)	平塚、口底へ落し 地文(RL)	ナゲ(奥)	コゲ	コゲ	10YR5/3 淡 い黄	10YR5/3 淡 い黄	1.5m	5308	
-	-	11.2 (4.0)	台: 墓位記録 横位波紋、ナゲ(保山)	横位波紋・ナゲ(横)	-	-	7.5YR6/6 淡 い黄	10YR3/2 黄 黄緑	1.5m	5325	
-	-	6.0	制: 人波文(5字文)・光鶴純文(保 山)、瓦、ナゲ	ナゲ(横)	-	-	10YR3/2 黄 黄緑	10YR6/6 淡 い黄	1.5m	5368	
-	-	7.7	制: 墓位記録波紋(5字)・落し 輪替波明瞭	輪替波明瞭	-	コゲ	10YR3/2 黄 黄緑	10YR6/4 淡 い黄	1.5m	5367	
(32.4)	-	(11.3)	波紋斜傾(3巻巻)か、山崎一 平塚半仁波源(御文文)・地文(保 山)、横位波紋波筋(5切り)、崩 落文	ナゲ(横)	コゲ	-	10YR3/2 黄 黄緑	7.5YR4/3 淡 い黄	1.5m	5369	
-	-	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	7.5YR7/6 淡 い黄	7.5YR2/6 淡 い黄	1.5m	5386	
-	-	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	10YR7/4 に 赤い黄	10YR7/3 に 赤い黄	1.5m	5388	
-	-	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	10YR3/1 黄 黄緑	10YR3/1 黄 黄緑	1.5m	5409	
-	-	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	5YR6/6 淡 い黄	5YR6/6 淡 い黄	1.5m	5413	
(12.0)	-	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	7.5YR7/4 に 赤い黄	10YR5/3 に 赤い黄	1.5m	5416	
-	-	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			弱	コゲ	2.5Y4/2 赤 黄	SYRS-6 明赤 黄	1.5m	5418	
(36.0)	-	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	7.5YR6/5 淡 い黄	SYRS-5 明赤 黄	1.5m	5419	
(36.0)	-	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	7.5YR6/5 淡 い黄	10YR7/4 に 赤い黄	1.5m	5424	
(11.0)	-	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	7.5YR7/6 淡 い黄	10YR5/3 に 赤い黄	1.5m	5427	
(10.0)	-	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	SYT-1 黄	10YR6/2 黄 黄緑	1.5m	5447	
11.0	-	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	7.5Y7/1 黄	2.5Y4/2 黄 黄緑	1.5m	5460	
-	-	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	SYRS-6 明赤 黄	5YR6/6 淡 い黄	1.5m	5464	
-	-	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	SYRS-6 明赤 黄	SYRS-6 淡 い黄	1.5m	5468	
-	-	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	7.5YR6/6 淡 い黄	7.5YR7/4 に 赤い黄	1.5m	5469	
-	-	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	10YR7/6 淡 い黄	10YR8/4 に 赤い黄	1.5m	5475	
-	(6.0)	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	SYR8/1 に 赤い黄	SYR8/6 淡 い黄	1.5m	5477	
-	(9.0)	ござ日縮み(1本とび1本すくい)			-	-	10YR7/4 に 赤い黄	2.5Y7/1 黄	1.5m	5480	
-	(14.0)	とび継代(1本とび2本すくい)			-	-	10YR7/4 に 赤い黄	10YR7/4 に 赤い黄	1.5m	5387	
(12.0)	-	とび継代(1本とび2本すくい)			-	-	7.5YR6/6 淡 い黄	7.5YR6/6 淡 い黄	1.5m	5390	
-	-	とび継代(1本とび2本すくい)			-	-	SYRS-6 明赤 黄	SYRS-6 淡 い黄	1.5m	5391	
(13.0)	-	とび継代(1本とび2本すくい)			-	-	7.5YR7/6 淡 い黄	10YR6/4 に 赤い黄	1.5m	5396	
(13.0)	-	とび継代(1本とび2本すくい)			-	-	10YR7/3 に 赤い黄	10YR6/3 に 赤い黄	1.5m	5398	
-	-	とび継代(1本とび2本すくい)			-	-	10YR7/3 に 赤い黄	10YR5/2 黄 黄緑	1.5m	5401	
-	-	とび継代(1本とび2本すくい)			-	-	SYRS-8 明赤 黄	10YR6/4 明 黄	1.5m	5404	
(12.0)	-	とび継代(1本とび2本すくい)			-	-	10YR7/4 に 赤い黄	10YR7/4 に 赤い黄	1.5m	5405	
(22.0)	-	とび継代(1本とび2本すくい)			-	-	SYRS-8 淡 い黄	7.5YR7/6 淡 い黄	1.5m	5406	
-	-	とび継代(1本とび2本すくい)			-	-	10YR4/2 黄 黄緑	10YR3/1 明 黄	1.5m	5407	
(5.0)	-	とび継代(1本とび2本すくい)			-	-	10YR6/4 に 赤い黄	7.5YR6/6 淡 い黄	1.5m	5408	
-	4.8	-	とび継代(1本とび2本すくい)		-	-	10YR5/2 黄 黄緑	10YR7/3 に 赤い黄	1.5m	5410	
-	(6.5)	-	とび継代(1本とび2本すくい)		-	-	10YR5/2 黄 黄緑	7.5YR2/6 淡 い黄	1.5m	5411	

指標番号	回復度	年層	地	出土地点	層位	複合礦物質 内因型・外因型	鉱物	鉱化	分類	鉱物組成	面積率(%)	
											日付	測量
412	50	41	北	4B6	Ⅲ b 層中～下位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	65
413	50	41	北	4B11	Ⅲ b 層中～下位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	100
414	50	41	北	4B12	Ⅲ b 層中～下位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	7
415	30	44	北	4B12	Ⅲ b 層中～下位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	-
416	30	43	北	4B13	Ⅲ b 層中～下位	1	褐鐵土岩	深鉆	底	0	-	
417	50	43	北	1号堤防 (3B21)	Ⅲ b 对石層下位	1	褐鐵土岩	深鉆	底	0	-	
418	50	43	北	4B6	Ⅲ b 層下位	1	褐鐵土岩	深鉆	底	0	18	
419	50	43	北	4B11	Ⅲ b 層下位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	15
420	50	43	北	S-Nベント 3B13	Ⅲ b 層下位	3	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	95
421	50	45	北	1号堤防 (4B15)	Ⅲ b 对石層 (一層 A 層)	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	26
422	30	45	北	4B16 残渣土	Ⅲ b 对石層	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	25
423	30	45	南	7.37	Ⅲ b 層上位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	25
424	30	45	底	7B12	Ⅲ b 層上位	2	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	15
425	50	45	南	8B2	Ⅲ b 層上位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	17
426	50	45	南	3号堅穴住居跡 (5-022)	Ⅲ b 層上位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	28
427	50	45	南	3号堅穴住居跡 (8-022)	Ⅲ b 層上位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	-
428	50	45	南	9B4	Ⅲ b 層上位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	-
429	50	45	南	10B17	Ⅲ b 層上位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	39
430	50	45	山	9B17	Ⅲ b 層内壁	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	-
431	50	45	山	9B20	Ⅲ b 層内壁	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	11
432	50	45	南	3号堅穴住居跡 (9-013)	海綿土中位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	45
433	50	45	南	7B5	Ⅲ b 層中～下位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	0
434	30	45	南	7C6	Ⅲ a 層中～下位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	0
435	50	45	南	10B7	Ⅲ b 層下位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	-
436	50	45	南	10B7	Ⅲ b 層下位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	10
437	50	45	南	10B7	Ⅲ b 層下位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	-
438	51	45	西	PC9	Ⅲ a 層	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	15
439	51	45	南	2号堅穴住居跡	8B9	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	17
440	51	45	南	9B19	Ⅲ b 層下位	2	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	15
441	51	45	南	7B3	Ⅲ a 層	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	35
442	51	45	南	S-Nトレンチ 8B8	Ⅲ b 層下位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	-
443	51	45	南	8B7	Ⅲ a 層	2	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	-
444	51	45	南	8B23	Ⅲ a 層	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	15
445	51	45	南	8B24	Ⅲ a 層	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	-
446	51	45	南	9B3	Ⅲ a 層	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	33
447	51	45	南	S-Nトレンチ 9B8	Ⅲ a 層	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	28
448	51	45	南	9B12	Ⅲ a 層	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	30
449	51	45	南	S-Nベント 9B18	Ⅲ a 層	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	10
450	51	45	南	9B23	Ⅲ a 層	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	25
451	51	45	南	10B7	Ⅲ a 層中～下位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	28
452	51	45	南	10B18	Ⅲ a 層	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	13
453	51	45	北	4B1	Ⅲ b 層上～中位	1	褐鐵土岩	深鉆	一	底	0	13

a'測定 (cm)	b'測定	c'測定	外観鑑定・施文など	内面鑑定・施文など	スコダ		色調内面	底質外側	参考	登録番号	
					内面	外質					
-	10.5	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	底質全体 コグ	7.5YR6/6 帯	10YR1.7/1 基	-	5412	
-	5.2	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR3/1 基 帶	2.5V6/1 黄斑	-	5414	
-	(18.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR7/4 基 5.5V7/4 帶 5.5V7/4 帯	10YR7/4 基 5.5V7/4 帶 5.5V7/4 帶	-	5415	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	7.5YR6/6 帯	10YR6/6 基	-	5417	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	-	2.5V6/2 黄斑 2.5V6/2 黄斑 2.5V6/2 黄斑	-	5420	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR3/2 基 帶	7.5YR6/6 帯	-	5423	
-	(14.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	四部ト ナリゲ	-	5YR6/6 帯	5YR7/8 帯	-	5426	
-	(13.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR7/4 基 5.5V7/4 帶	7.5YR7/6 帯	-	5428	
-	9.3	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	7.5YR7/6 帯	7.5YR2/6 帯	-	5430	
-	(11.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR6/3 基 5.5V7/3 帶	10YR6/4 基 5.5V7/4 帶	-	5435	
-	(9.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	-	2.5V7/3 深黄 2.5V7/3 深黄	-	5436	
-	(5.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	-	2.5V5/2 暗灰 2.5V5/2 暗灰	-	5440	
-	(16.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	7.5YR7/6 帯 5.5V7/2 帶	10YR7/4 基 5.5V7/2 帶	-	5442	
-	(13.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	5YR6/6 帯	5YR6/6 帯	-	5443	
-	(10.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	7.5YR6/6 帯	7.5YR7/6 帯	-	5444	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR6/4 深 5.5V7/4 帶	10YR7/4 基 5.5V7/4 帶	-	5445	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	5YR6/8 帯	5YR7/8 帯	-	5446	
-	(9.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR7/2 基 5.5V7/2 帶	10YR7/3 基 5.5V7/3 帶	-	5448	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	-	7.5YR7/6 基 5.5V7/6 帶	-	5449	
-	(12.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	高耐コグ	-	7.5YR6/6 帯 5.5V7/3 帶	7.5YR6/3 深 5.5V7/3 帶	-	5456	
-	(7.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	コグ	-	10YR7/4 基 5.5V7/4 帶	10YR6/4 基 5.5V7/4 帶	-	5467	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	7.5YR6/6 帯 5.5V6/6 帶	5YR6/6 帶	-	5469	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	7.5YR6/6 基 5.5V7/6 帶	7.5YR6/6 基 5.5V7/6 帶	-	5470	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR6/3 基 5.5V6/3 帶	10YR7/4 基 5.5V7/4 帶	-	5472	
-	(14.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR6/3 基 5.5V6/3 帶	10YR6/4 基 5.5V7/4 帶	-	5463	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR7/3 基 5.5V7/3 帶	10YR6/4 基 5.5V7/4 帶	-	5464	
-	(11.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	7.5YR7/6 基 5.5V7/6 帶	7.5YR7/6 基 5.5V7/6 帶	-	5465	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR7/4 基 5.5V7/4 帶	10YR6/4 基 5.5V7/4 帶	-	5466	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	5YR6/6 帶 5.5V6/6 帶	5YR6/6 帶 5.5V6/6 帶	-	5467	
-	(14.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR7/4 基 5.5V7/4 帶	10YR7/4 基 5.5V7/4 帶	-	5468	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	5YR6/6 帶 5.5V6/6 帶	5YR6/6 帶 5.5V6/6 帶	-	5469	
-	(16.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR6/6 基 5.5V7/6 帶	10YR6/6 基 5.5V7/6 帶	-	5470	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR6/3 基 5.5V6/3 帶	10YR7/4 基 5.5V7/4 帶	-	5471	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	2.5Y6/2 深黄 2.5Y6/2 深黄	10YR5/2 基 5.5V5/2 帶	-	5470	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	7.5YR7/6 基 5.5V7/6 帶	7.5YR7/6 基 5.5V7/6 帶	-	5471	
-	(17.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	7.5YR7/4 基 5.5V7/4 帶	5YR6/6 帶	-	5472	
-	-	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR6/3 基 5.5V6/3 帶	7.5YR6/6 基	-	5473	
-	(7.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR6/4 基 5.5V6/4 帶	10YR6/4 基 5.5V7/4 帶	-	5476	
-	(12.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	7.5YR7/6 基 5.5V7/6 帶	10YR7/6 基 5.5V7/6 帶	-	5478	
-	8.0	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	5YR7/8 基 5.5V6/6 帶	5YR6/6 帶	-	5479	
-	(16.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	5YR6/6 基	7.5YR5/4 基	-	5481	
-	(10.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	7.5YR6/6 基	7.5YR6/6 基	-	5482	
-	7.5	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	10YR4/1 和 5.5V4/1 和	3YR5/8 黄斑 3YR5/8 黄斑	-	5483	
-	(15.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)	-	-	-	-	10YR6/6 基 5.5V6/6 基	10YR4/1 和 5.5V4/1 和	-	5484
-	(12.0)	-	とび網代 (日本とび2本すくい)?	-	-	-	-	5YR6/6 基	10YR7/3 基 5.5V7/3 帶	-	5497

内蔵 (%)	回転 (%)	年 (%)	区	出土地点	層位	器物破片数 内訳数		回転	種類	分類	残存状況	残存率 (%) 回転	
						鉄	銅						
454	31	45	北	4016	Ⅲ b 層上～中位	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	13	
455	31	45	北	4013～5	I C 層	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	20	
456	31	45	北	S-Nベルト1	40113	Ⅲ c 層	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	-
457	31	45	北	4016	Ⅲ b 層上～中位	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	99	
458	31	46	北	4012	Ⅲ b 層上～中位	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	-	
459	31	46	北	S-Nベルト	4018	Ⅲ b 層下位	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	-
460	31	46	北	S-Nベルト	4018	Ⅲ c 層	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	15
461	31	46	北	N-Sトレンド1	4013	Ⅲ b 層	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	-
462	31	46	底	3号堅穴住居跡(3042)	堆積上中位	3	鐵文土器	深鉢	一	底	0	32	
463	31	46	北	E-Wベルト	4017	Ⅲ b 層下位	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	7
464	31	46	北	4039	Ⅲ d 層中位	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	33	
465	31	46	北	4066	Ⅲ e 層中位	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	65	
466	31	46	北	407	Ⅲ f 層中位	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	31	
467	31	46	北	4018	Ⅲ g 層下～下位	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	60	
468	31	46	北	3021	Ⅲ h 層下位	4	鐵文土器	圓錐	一	底	0	45	
469	31	46	北	401	Ⅲ i 層下位	4	鐵文土器	圓錐	一	底	0	86	
470	31	46	南	1008	Ⅲ b 層上位	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	30	
471	31	46	南	10033	Ⅲ b 層上位	2	鐵文土器	深鉢	一	底	0	100	
472	31	46	南	3号堅穴住居跡(3042)	堆積中～下位	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	12	
473	31	46	北	4014	Ⅲ b 对花器	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	10	
474	31	46	北	4016～18	琳派	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	32	
475	31	46	北	4012	Ⅲ c 層	1	鐵文土器	圓錐	一	底	0	23	
476	31	46	南	S-Nベルト	4013	Ⅲ a 層	1	鐵文土器	深鉢	一	底	0	-

計測値(cm)	内面 外縁 器皿	外花瓶等・施文など	内面調整・施文など	ススコゲ		胎土	B.鍋内面	急赤外線	傳考	登録番号
				内面	外縁					
(12.0)	-	とび網代(1本とび2本すくい)?		-	-	7.5YR6/4 に ぶい黄	7.5YR6/6 細			5399
(9.0)	-	とび網代(1本とび2本すくい)?		-	-	7.5YR6/4 に ぶい黄	10YR6/2 黒			5439
-	-	とび網代(1本とび2本すくい)? 網?		-	-	10YR7/4 に ぶい黄	10YR6/2 黑 黄斑			3393
(13.0)	-	とび網代(1本とび2本すくい) = ざ目組み(1本とび1本すくい)?		-	-	10YR6/4 に ぶい黄	10YR6/4 黄 斑			5400
-	-	とび網代(1本とび2本すくい) = 乳を避けようとした物があり		-	-	10YR6/3 に ぶい黄	10YR6/4 に ぶい黄			5398
-	-	2本器やのとび網代(1本とび2本す くい)?		-	-	SVR6 細板	SVR6 細板			5432
(12.0)	-	2本とび網代(2本とび2本すくい)		-	-	10YR7/3 に ぶい黄	10YR6/4 に ぶい黄			5391
-	-	2本とび網代(2本とび2本すくい)		-	-	10YR7/4 に ぶい黄	10YR6/2 黑 白			5433
9.0	-	2本とび網代(2本とび2本すくい)		-	-	10YR3/1 に 黒	10YR5/4 に 黒			3403
(13.0)	-	2本器やの2本とび網代(3本とび2 本すくい)?		-	-	2.5YR7/3 浅板	10YR7/3 に ぶい黄			5431
(9.0)	-	網の施加し組み		コゲ	表面コケ?	10YR3/1 に 黒	10YR6/4 黄 斑			5389
(5.6)	-	網の施加し組み		-	-	10YR4/3 に ぶい黄	7.5YR6/6 細			5402
(11.0)	-	網の施加し組み		-	-	7.5YR6/6 細	SVR6-8 明赤 斑			5403
6.5	-	網の施加し組み		-	-	SVR2/1 黒	2.5Y7/2 黄斑			5421
(10.5)	-	網の施加し組み		-	-	7.5YR6/4 に ぶい黄	7.5YR5/4 に ぶい黄			5422
12.2	-	網の施加し組み		-	-	2.5YR7/2 黃	10YR6/4 に ぶい黄			5425
(8.0)	-	網の施加し組み		-	-	SVR5/6 明赤 斑	SVR3/4 黑斑			5449
9.0	-	網の施加し組み		網施下 半コゲ		10YR3/1 に 黒	10YR7/3 に ぶい黄			5451
(10.0)	-	網の施加し組み		-	-	10YR8/2 に 黒	10YR7/3 に ぶい黄			5461
(12.0)	-	網の施加し組み?		-	-	7.5YR5/4 に ぶい黄	SVR6/6 黄			5434
(7.0)	-	網の施加し組み?		-	-	7.5YR7/6 黑	2.5YR6/2 黑 白			5437
(9.0)	-	網代(組み不明)		-	-	10YR6/6 に 黒	7.5YR6/4 に ぶい黄			5492
-	-	網代(組み不明)		-	-	10YR6/3 に ぶい黄	10YR6/4 黑 白			5474

第4表 土師器・須恵器観察表

登録番号	河川名	字目地名	区	出土地点	形状	完全破片数 内含物：焼灰	種類	器種	残存位置	調査率(%)		計測値(cm)	
										L45	東部		
694	26	59	南	1号墳穴住跡群 ピット2	R P 3	1	3	土器器	环	先端	100	100	15.4 6.1 1.9
695	26	59	海	1号墳穴住跡群 ピット2 1号墳穴住跡群 ピット2	R P 13 R P 14	1 2	3	土器器	环	口縁～底	70	100	15.3 6.3 5.0
696	26	60	南	1号墳穴住跡群 ピット2 1号墳穴住跡群 ピット2	堆積土		9	土器器	环	口縁～底	45	70	14.6 5.8 4.8
697	26	60	南	1号墳穴住跡群 ピット2 1号墳穴住跡群 ピット2 1号墳穴住跡群 ピット2	堆積土 堆積土 堆積土	1 10 3	14	土器器	环	口縁～底	88	100	14.8 5.8 4.9
698	26	60	南	1号墳穴住跡群 ピット2	R P 16		2	土器器	环	口縁～底	22	0	14.4 — 5.0
699	26	60	南	1号墳穴住跡群 ピット2	堆積土		2	土器器	环	剥～底	0	52	— 7.6 (2.0)
700	26	60	南	1号墳穴住跡群 ピット2	R P 1		2	土器器	环	口縁～底	32	0	(6.2) (4.1)
701	26	60	南	1号墳穴住跡群 ピット2	R P 12		1	土器器	环	口縁～底	18	0	(6.6) — (5.2)
702	26	60	南	1号墳穴住跡群	堆積堆积土		1	土器器	环	口縁～底	6	100	16.1 5.0 4.4
703	26	60	南	1号墳穴住跡群	堆積土		1	土器器	环	底	0	100	— 5.0 (1.2)
704	26	60	南	1号墳穴住跡群 ピット2	堆積土		2	土器器	高台付环	口縁～底	38	30	14.4 (5.0) (3.4)
705	26	60	南	1号墳穴住跡群 ピット1	堆積土		1	土器器	高台付环	剥～底	0	70	— 6.6 (2.5)
706	26	60	南	1号墳穴住跡群 ピット1	堆積土～堆積		1	土器器	高台付环	底	1	0	100 — 8.0 (2.0)
707	26	61	南	1号墳穴住跡群 ピット2 1号墳穴住跡群 ピット2	R P 6 R P 10	5 4	9	土器器	环	口縁～底	30	100	27.0 8.0 9.1
708	26	60	当	1号墳穴住跡群 カマド	堆積土		2	土器器	底(小型)	口縁～底	15	0	11.0 (5.7)
				1号墳穴住跡群 1号墳穴住跡群 ピット2 1号墳穴住跡群 ピット2 1号墳穴住跡群 ピット2 1号墳穴住跡群 1号墳穴住跡群	堆積土 堆積土 堆積土 堆積土 堆積土 堆積土	1 10 1 7 1 1							
709	27	61	当	1号墳穴住跡群 ピット1	堆積土～堆積		1	土器器	大底	底	0	0	— 3.0
710	27	60	南	1号墳穴住跡群 ピット1	堆積土～堆積		1	土器器	环	口縁～底	28	70	14.5 6.0 1.2
711	27	61	南	1号土器	堆積土		1	土器器	环	剥～底	0	25	— (5.5) (2.0)
712	27	61	南	2号墳穴住跡群	米酒		1	土器器	环	口縁～底	29	100	15.0 8.6 4.6
713	27	61	南	2号墳穴住跡群 Q SW	堆積土		6	土器器	环	口縁～底	10	100	11.6 6.0 1.8
714	27	61	南	2号墳穴住跡群 カマド	堆積土		3	土器器	环	剥～底	0	55	— 6.0 (2.2)
				2号墳穴住跡群 2号墳穴住跡群 2号墳穴住跡群 2号墳穴住跡群 2号墳穴住跡群 2号墳穴住跡群	堆積土 堆積土 堆積土 堆積土 堆積土 堆積土	1 2 3 3 5							
715	27	61	南	2号墳穴住跡群 カマド	堆積土		19	土器器	环	口縁～底	83	100	13.8 6.0 1.8
716	27	61	南	2号墳穴住跡群 カマド	堆積土								
717	27	61	山	2号墳穴住跡群 カマドベルト	堆積土								
718	27	61	山	2号墳穴住跡群 カマド 2号墳穴住跡群 カマド 2号墳穴住跡群 カマド 2号墳穴住跡群 カマド 2号墳穴住跡群 カマド	堆積土 堆積土 堆積土 堆積土 堆積土								
719	27	61	南	10 H 13	瓦器		1	土器器	底	口縁	12	0	(37.4) — (3.1)

区分標記・施文など	内面黒色・斑文など	スヌード		鉢上	色斑内区	色斑外区	立場	底径 1/3 以上	備考	登録番号
		内面	外面							
奥: 四軸系切り	内面黒色處理、ミガキ	-	-		10YR3/1 黄褐	7.5YR8/6 淡黄褐	○	○		5360
奥: 四軸系切り	内面黒色處理、ミガキ	-	-		10YR2/1 黑	10YR8/4 淡黄褐	○	○		5361
底: 阿蘇系切り	内面黒色處理、ミガキ	-	-		10YR2/1 黑	10YR7/4 に 並い 黄褐	○	○		5362
底: 阿蘇系切り	内面黒色處理、ミガキ	-	-		10YR2/1 黑	7.5YR7/6 淡黄褐	○	○		5363
	内面黒色處理、ミガキ	-	-		10YR2/1 黑	7.5YR7/6 淡黄褐	○	○		5364
奥: ケズリ	内面黒色處理、ミガキ	-	-		10YR2/1 黑	10YR6/3 に 並い 黄褐	○	○		5365
	内面黒色處理、ミガキ	-	-		5Y3/1 オリーブ	7.5YR7/6 淡黄褐	-	-		5367
	内面黒色處理、ミガキ	-	-		10YR2/1 黑	10YR8/4 淡黄褐	-	-		5368
底: ケズリ	内面黒色處理、ミガキ/不明瞭	-	-		10YR6/4 11 底	10YR7/3 に 並い 黄褐	○	○		5372
底: 開削系切り、底以外からの露頭 孔1箇所	内面黒色處理、ミガキ/不明瞭	-	-		10YR6/1 に 並い 黄褐	10YR7/3 に 並い 黄褐	○	○		5374
底: 菊井接着部分に指痕	内面黒色處理、ミガキ	-	-		10YR3/1 黑褐	10YR7/4 に 並い 黄褐	○			5386
高吉部分接着痕跡が明確	内面黒色處理、ミガキ	-	-		10YR3/1 黑褐	10YR7/4 に 並い 黄褐	○	○		5370
底: 西台埋石のスピナゲル切跡	内面黒色處理、ミガキ	-	-		10YR2/1 黑	10YR7/4 に 並い 黄褐	○	○		5371
底: 開削系切り	内面黒色處理、ミガキ	-	-		2.5Y3/1 淡褐	10YR8/4 淡黄褐	○	○		5375
		-	-		5YR6/8 淡	7.5YR7/6 淡黄褐	-	-		5377
底下部: ケズリ(底)、奥: ハラナデ(底)		下部コケ 付	ヌ少	ヌ少	7.5YR7/6 淡	10YR8/3 淡黄褐	○	○		5378
タタキノ	ハメメ	-	-		2.5Y7/2 淡黄	2.5Y6/2 淡黄	-	-		5379
底: 四軸系透0	内面黒色處理、ミガキ/不明瞭	-	-		7.5YR7/6 淡	7.5YR7/6 淡	○	○		5373
底下部: ケズリ(底)、奥: ケズリ	内面黒色處理、ミガキ	-	-		10YR1.7/1 黑	10YR7/4 に 並い 黄褐	○	-		5389
脚部下部ケズリ(底)、ハラケズリ	内面黒色處理	-	-		10YR2/1 黑	7.5YR7/6 淡	○	○		5382
脚部下部ケズリ(底)、ハラケズリ	内面黒色處理	-	-		10YR3/1 黑褐	7.5YR8/4 に 並い 黄褐	○	○		5383
脚部下部ケズリ(底)、ハラケズリ	内面黒色處理	-	-		10YR2/1 黑	10YR5/3 に 並い 黄褐	○	○		5384
底: 四軸系切り		-	-		5YR6/8 淡	5YR6/8 淡	○	○		5385
口縁: 刻度状文		-	-		N3/1 淡灰	2.5GY6/7 オリ ン	-	-		5380

第5表 尖頭器類觀察表

種類名		原产地		品種(クリット)		部位		分類		材料		計測値		毛細孔		大きさ		表面		
長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	
477	52	66	北	GB15	柄+手	直立式嘴	(一枝)	尖頭器	I	真骨	鳥形山脈	70.38	1.91	0.72	5.63	0.38	16.99	壳	44.0	7001
478	52	66	北	GB15	柄+手	直立式嘴	(一枝)	尖頭器	II	真骨	鳥形山脈	(2.32)	0.78	0.25	3.34	—	—	—	—	7006
15	21	21	南	南区 W-E <45°	21号等(生鮮標本)	直立式嘴	(一枝)	尖頭器	III	瓦片	鳥形山脈	(2.69)	0.67	—	4.21	—	—	—	—	7009
479	52	66	南	GB24	—	尖頭器	—	尖頭器	IV	瓦片	鳥形山脈	(4.71)	0.26	1.38	17.12	—	—	—	—	7011
480	52	66	南	GB12	—	尖頭器	—	尖頭器	V	瓦片	鳥形山脈	(5.17)	1.68	—	27.43	—	—	—	—	7015

第6表 石燃器類觀察表

種類名		原产地		品種(クリット)		部位		分類		材料		計測値		毛細孔		大きさ		表面		
長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	長さ	幅	
631	52	46	北	HG7	—	直立式嘴	—	尖頭器	I	真骨	鳥形山脈	2.11	1.63	0.38	1.50	0.22	0.90	壳	44.0	7016
642	52	46	北	HG8	—	直立式嘴	—	尖頭器	II	真骨	鳥形山脈	1.59	1.12	0.62	0.23	—	0.42	壳	63.0	7017
643	52	46	北	HG9	—	直立式嘴	—	尖頭器	III	真骨	鳥形山脈	1.61	1.20	0.36	1.35	0.22	0.58	壳	69.0	7022
644	52	46	北	GB12	—	直立式嘴	—	尖頭器	IV	真骨	鳥形山脈	2.00	1.08	0.65	0.44	—	0.39	壳	42.0	7024
645	52	46	北	GB14	—	直立式嘴	—	尖頭器	V	真骨	鳥形山脈	2.16	1.46	0.43	0.29	—	0.29	壳	35.0	7026
646	52	46	北	GB15	—	直立式嘴	—	尖頭器	VI	真骨	鳥形山脈	2.81	1.47	0.45	1.91	0.31	1.15	壳	53.0	7028
597	32	46	北	GB15	—	直立式嘴	—	尖頭器	II	真骨	鳥形山脈	3.21	1.81	0.52	1.77	0.29	2.06	壳	59.0	7039
658	32	46	南	GB11	—	直立式嘴	—	尖頭器	III	真骨	鳥形山脈	1.80	1.02	0.36	0.76	0.26	0.32	壳	62.0	7041
647	25	23	南	1号嘴(GB21)	—	直立式嘴	—	尖頭器	IV	真骨	鳥形山脈	2.34	1.32	0.30	1.67	0.26	0.62	壳	52.0	7047
659	62	56	北	GB13	—	直立式嘴	—	尖頭器	V	真骨	鳥形山脈	3.24	1.44	0.35	2.22	0.24	0.56	壳	27.0	7052
690	52	46	北	TC21	—	直立式嘴	—	尖頭器	VI	真骨	鳥形山脈	1.69	0.42	—	0.25	—	1.65	壳	65.0	7059
491	52	46	北	GB12	—	直立式嘴	—	尖頭器	II	真骨	鳥形山脈	(2.33)	1.18	0.35	0.30	—	0.74	壳	30.0	7060
492	52	46	北	TC14	—	直立式嘴	—	尖頭器	III	真骨	鳥形山脈	3.96	1.62	0.41	2.19	0.25	1.42	壳	33.0	7061
15	21	21	南	3号尖吹管	(GB2)	直立式嘴+下管	—	尖頭器	IV	真骨	鳥形山脈	(3.41)	1.68	0.35	0.21	—	1.64	壳	33.0	7067
653	52	46	南	GB57	—	直立式嘴	—	尖頭器	V	真骨	鳥形山脈	3.51	0.54	0.15	3.73	0.48	1.26	壳	39.0	7069
654	52	46	北	HG8	—	直立式嘴	—	尖頭器	VI	真骨	鳥形山脈	3.53	1.16	0.32	3.04	0.45	1.08	壳	44.0	7073
655	32	36	北	GB16	(S-V-L>P)	直立式嘴	(深槽)	尖頭器	II	真骨	鳥形山脈	2.29	1.60	0.32	1.43	0.26	0.41	壳	46.0	7076
596	32	46	北	HG18	—	直立式嘴	—	尖頭器	III	真骨	鳥形山脈	1.44	1.21	0.28	1.19	0.25	0.43	壳	25.0	7139
657	32	46	北	GB14	(S-V-L>P)	直立式嘴	(B16)	尖頭器	IV	真骨	鳥形山脈	2.16	1.80	0.29	1.20	0.16	0.17	壳	46.5	7147
598	32	46	北	GB19	前舌土	直立式嘴	(B16)	尖頭器	V	真骨	鳥形山脈	1.07	1.27	0.34	1.05	0.19	0.21	壳	41.0	7157
699	52	47	北	1083	—	直立式嘴	—	尖頭器	VI	真骨	鳥形山脈	2.35	1.55	0.31	1.62	0.20	0.47	壳	42.5	7163
200	52	47	北	907	—	直立式嘴	—	尖頭器	II	真骨	鳥形山脈	(2.32)	1.75	0.36	0.21	—	1.54	壳	36.5	7171
201	52	47	北	4030	—	直立式嘴	—	尖頭器	III	真骨	鳥形山脈	4.11	2.82	1.17	0.41	0.14	0.03	壳	69.0	7173
302	52	47	北	4813	—	直立式嘴	—	尖頭器	IV	真骨	鳥形山脈	2.94	1.24	0.45	2.37	0.26	0.42	壳	11.7	7177
303	52	47	北	4032	—	直立式嘴	—	尖頭器	V	真骨	鳥形山脈	3.02	1.19	0.40	3.04	0.34	0.45	壳	32.0	7184
304	52	47	北	4107	—	直立式嘴	—	尖頭器	VI	真骨	鳥形山脈	3.08	1.20	0.54	1.58	0.25	0.20	壳	60.0	7188
305	52	47	北	4288	—	直立式嘴	—	尖頭器	II	真骨	鳥形山脈	3.02	1.52	0.36	1.33	0.25	0.26	壳	40.0	7192

地質名(岩相名) / 岩相番号(岩相名)				層位				層位				層位				層位			
地質番号	区	位置(グリッド)	高さ	層位	岩相	分類	石材	石材形状	長さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	高さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	高さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)		
506	33	北 47	北 476	Ⅲ 14	石炭層	Ⅰ	頁岩	風化山塊	0.22	1.35	0.46	—	—	—	—	自然風化風化面	性考	無地質	
507	33	北 47	北 477	Ⅲ 15	石炭層	Ⅱ	頁岩	風化山塊	3.42	2.22	0.96	1.51	0.44	—	—	6.29	先端部	—	
508	33	北 47	北 478	Ⅲ 16	石炭層	Ⅱ	頁岩	風化山塊	3.40	1.90	0.88	1.79	0.96	—	—	4.45	先	—	
509	33	北 47	北 479	Ⅲ 17	石炭層	Ⅱ	頁岩	風化山塊	3.37	1.54	0.98	2.05	0.51	—	—	5.10	—	—	
210	53	北 47	北 7015	Ⅲ 18	石炭層	Ⅱ	頁岩	風化山塊	4.60	2.52	0.94	1.83	0.37	—	—	3.33	全	43.0	
211	53	北 47	北 7016	Ⅲ 19	石炭層	Ⅱ	頁岩	風化山塊	—	—	—	—	—	—	—	7.34	先	64.0	
																		7.04	

第7表 石造観察表

出土場所 50(ダッシュ) F				51(ダッシュ) F				52(ダッシュ) F				53(ダッシュ) F				54(ダッシュ) F			
地質番号	区	位置(グリッド)	高さ	地質	分類	石材	石材形状	長さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	高さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	高さ(cm)	幅さ(cm)	高さ(cm)	幅さ(cm)		
511	53	北 476	北 702	Ⅲ 14	石炭層	I	頁岩	風化山塊	3.19	1.53	0.49	—	—	—	—	—	—	—	
512	53	北 476	北 702	Ⅲ 15	石炭層	I	頁岩	風化山塊	0.25	3.42	0.18	—	—	—	—	—	—	—	
517	21	北 47	北 702	Ⅲ 16	石炭層	I	頁岩	風化山塊	1.70	0.37	0.22	1.16	—	—	—	—	—	—	
513	53	北 47	北 702	Ⅲ 17	石炭層	I	頁岩	風化山塊	0.66	0.31	0.17	1.23	0.1	—	—	—	—	—	
514	43	北 47	北 703	Ⅲ 18	石炭層	I	頁岩	風化山塊	3.74	1.34	0.92	2.79	0.69	—	—	—	—	—	
515	33	北 476	北 704	Ⅲ 19	石炭層	I	頁岩	風化山塊	2.57	2.77	0.54	0.39	0.19	3.66	先	43.0	—	—	
18	21	北 47	北 705	Ⅲ 20	石炭層	II	頁岩	風化山塊	3.67	1.80	0.84	1.98	0.36	3.49	先	43.0	—	—	
516	33	北 47	北 706	Ⅲ 21	石炭層	II	頁岩	風化山塊	4.37	1.68	0.81	2.60	0.48	6.05	先	40.0	—	—	
																	7.05		

第8表 石造観察表

55(ダッシュ) F				56(ダッシュ) F				57(ダッシュ) F				58(ダッシュ) F				59(ダッシュ) F			
地質番号	区	位置(グリッド)	高さ	地質	分類	石材	石材形状	長さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	高さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	高さ(cm)	幅さ(cm)	高さ(cm)	幅さ(cm)		
517	53	北 47	北 707	Ⅲ 14	石炭層	I	頁岩	風化山塊(一部風化)	1.75	0.79	0.45	13.75	0.45	—	—	53~60	瓦砾部	—	
518	53	北 47	北 708	Ⅲ 15	石炭層	I	頁岩	風化山塊(一部風化)	7.70	2.84	0.68	2.71	0.24	48~55	瓦砾部	—	—	—	
519	53	北 47	北 709	Ⅲ 16	石炭層	I	頁岩	風化山塊	6.75	1.83	0.63	3.69	0.34	48~50	瓦砾部	—	—	—	
520	54	北 47	北 710	Ⅲ 17	石炭層	I	頁岩	風化山塊	6.26	4.48	1.00	1.40	0.22	36.66	瓦砾部	44~47	—	—	
521	54	北 47	北 711	Ⅲ 18	石炭層	I	頁岩	風化山塊	5.32	5.06	0.33	1.06	0.10	9.29	瓦砾部	44~51	—	—	
522	51	北 47	北 712	Ⅲ 19	石炭層	I	頁岩	風化山塊	4.60	5.76	0.84	0.71	0.16	14.72	瓦砾部	46~52	—	—	
523	51	北 47	北 713	Ⅲ 20	石炭層	I	頁岩	風化山塊	4.90	6.45	0.69	0.76	0.11	18.22	瓦砾部	52~55	—	—	
204	54	北 47	北 714	Ⅲ 21	石炭層	I	頁岩	風化山塊	3.50	5.11	0.85	0.70	0.17	10.22	瓦砾部	59~65	—	—	
205	54	北 47	北 715	Ⅲ 22	石炭層	I	頁岩	風化山塊	3.50	4.53	0.86	0.71	0.11	8.42	瓦砾部	49~52	瓦砾部	—	
																	7.05		

第9表 瓦状石器観察表

50(ダッシュ) F				51(ダッシュ) F				52(ダッシュ) F				53(ダッシュ) F				54(ダッシュ) F			
地質番号	区	位置(グリッド)	高さ	地質	分類	石材	石材形状	長さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	高さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	高さ(cm)	幅さ(cm)	高さ(cm)	幅さ(cm)		
19	21	北 47	北 716	Ⅲ 14	瓦状石器	I	頁岩	瓦状山塊	7.30	2.73	2.64	0.68	35.91	四	64~68	○	無代紋部	—	
20	21	北 47	北 717	Ⅲ 15	瓦状石器	I	頁岩	瓦状山塊	3.94	2.64	1.42	1.63	0.20	35.38	四	58~72	△	無代紋部	
520	56	北 47	北 813	Ⅲ 16	瓦状石器	I	頁岩	瓦状山塊	0.90	2.27	0.66	0.29	7.61	四	56~66	○	無代紋部	—	
																	7.05		

河床地盤 水深(0.5m) 距離(0.5m)		河床地盤 水深(0.5m) 距離(0.5m)		河床地盤 水深(0.5m) 距離(0.5m)		河床地盤 水深(0.5m) 距離(0.5m)		河床地盤 水深(0.5m) 距離(0.5m)		河床地盤 水深(0.5m) 距離(0.5m)	
48	北	632	北	632	北	632	北	632	北	632	北
537	54	48	北	632	北	632	北	632	北	632	北
528	56	48	南	632	北	632	北	632	北	632	北
529	55	55	北	632	北	632	北	632	北	632	北
230	53	48	北	4119	北	4119	北	4119	北	4119	北
337	55	49	南	4119	北	4119	北	4119	北	4119	北
332	55	49	南	4113	北	4113	北	4113	北	4113	北

第10表 横形石器観察表

横形石器 水深(0.5m) 距離(0.5m)	出土地点 位置(グリッド)		層位		分類		石器		石器		石器	
	北	東	北	東	北	東	北	東	北	東	北	東
333	56	49	北	632								
534	56	49	北	4119								
335	56	49	北	55								
236	56	49	北	3013								
338	56	49	北	4113								
539	56	49	北	472								
540	56	49	北	4122								
541	57	49	南	801	北	801	北	801	北	801	北	801
542	56	49	南	8119	北	8119	北	8119	北	8119	北	8119
543	57	49	北	4119								
544	57	49	北	4107								
545	57	49	北	4113								
550	57	49	北	30								

第11表 スカラバースト觀察表

種別(小) 水深(0.5m) 距離(0.5m)	出土地点 位置(グリッド)		層位		分類		石器		石器		石器	
	北	東	北	東	北	東	北	東	北	東	北	東
546	57	49	北	7814								
547	57	49	北	9813								
548	57	50	北	7813								
48	75	20	北	北区-N-20								
549	57	50	北	4105								
550	57	50	北	30								

第12表 二次加工ある剥片觀察表

種別(小) 水深(0.5m) 距離(0.5m)	出土地点 位置(グリッド)		層位		分類		石器		石器		石器	
	北	東	北	東	北	東	北	東	北	東	北	東
546	57	49	北	7814								
547	57	49	北	9813								
548	57	50	北	7813								
48	75	20	北	北区-N-20								
549	57	50	北	4105								
550	57	50	北	30								

第13表 微細な難観察ある別片観察表

測定番号	試験区	出発点 (位置(グラフ上))	地質	岩盤		分類	石材	石質		岩石									
				斜面の砂岩	砂岩の砂岩		風化度	厚さ(cm)	高さ(cm)										
561	38	北	4610	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	0.46	1.63	0.44	1.29	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47
562	37	北	4610	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	0.46	1.43	0.50	3.86	0.38	3.70	0.40	3.73	0.40	3.73	0.40	3.73
553	56	北	4619	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	0.46	1.50	0.50	3.75	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47
554	58	北	4617	直立砂岩	直立砂岩	II	直立	0.46	2.13	0.36	0.60	0.13	22.33	0.13	22.33	0.13	22.33	0.13	22.33
555	58	北	4619	直立砂岩	直立砂岩	II	直立	0.46	1.89	0.38	1.30	0.13	0.24	0.13	0.24	0.13	0.24	0.13	0.24
556	58	北	4619	直立砂岩	直立砂岩	II	直立	0.46	1.25	0.38	0.27	18.59	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47

第14表 石材観察表

測定番号	試験区	出発点 (位置(グラフ上))	地質	岩盤		分類	石材	石質		岩石		岩石		岩石		岩石		岩石	
				直立	傾斜			直立	傾斜	直立	傾斜	直立	傾斜	直立	傾斜	直立	傾斜	直立	傾斜
46	26	北	4610	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	4.32	7.07	4.16	0.64	0.59	12.19	-	-	-	-	-	-
557	58	北	4619	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	4.46	8.80	2.86	0.77	0.60	12.19	-	-	-	-	-	-
558	59	北	4619	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	1.50	5.00	0.79	0.90	0.79	11.82	-	-	-	-	-	-
559	39	北	4615-S-トレンチ2-4626	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	3.57	4.94	2.94	0.72	0.80	22.37	-	-	-	-	-	-
560	39	北	4612	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	6.89	4.23	0.64	13.00	-	-	-	-	-	-	-	-
561	60	北	4619	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	7.05	5.00	0.67	12.56	-	-	-	-	-	-	-	-
562	60	北	4617	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	5.69	8.22	5.57	0.66	0.67	22.48	-	-	-	-	-	-
563	61	北	4619	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	4.40	7.26	4.36	0.65	0.58	19.67	-	-	-	-	-	-
564	60	北	4616	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	2.29	2.92	2.18	0.89	0.75	21.88	-	-	-	-	-	-
565	61	北	4622	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	3.85	4.95	4.39	0.78	0.89	9.46	-	-	-	-	-	-
566	61	北	4619	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	2.07	2.32	1.35	1.11	0.56	8.04	-	-	-	-	-	-

第15表 石斧形石器観察表

測定番号	試験区	出発点 (位置(グラフ上))	地質	岩盤		分類	石材	石質		岩石									
				直立	傾斜			直立	傾斜										
567	61	北	4619	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	2.07	2.94	0.35	1.31	0.35	1.31	0.35	1.31	0.35	1.31	0.35	1.31
568	61	北	4619	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	4.45	2.03	0.52	8.64	-	-	-	-	-	-	-	-

第16表 石斧形石器観察表

測定番号	試験区	出発点 (位置(グラフ上))	地質	岩盤		分類	石材	石質		岩石		岩石		岩石		岩石		岩石	
				直立	傾斜			直立	傾斜	直立	傾斜	直立	傾斜	直立	傾斜	直立	傾斜	直立	傾斜
569	61	北	4619	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
570	62	北	4617	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	4.66	3.38	-	-	3.24	0.73	-	-	-	-	-	-
571	62	北	4611	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	4.62	3.44	-	-	27.94	1.71	-	-	-	-	-	-
572	62	北	4611-N-ベント	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	0.65	1.23	-	-	151.44	1.71	76~80	-	1	1	1	1
573	62	北	4619	直立砂岩	直立砂岩	I	直立	0.65	1.6	2.98	-	6.03	0.48	274.37	1.71	97~99	2	2	2
																	172.35	1.71	77~78

測量用具名		出上山地		獨立		相連		分離		不規則		差別		不規則		方位		
No.	No.	区	北	区	北	区	北	区	北	区	北	区	北	区	北	度数(度)	度数(度)	度数(度)
574	62	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
575	62	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
576	62	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
21	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
577	62	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
578	62	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
579	62	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北

第17表 機器類別表

測量用具 No.	固有No.	分類No.	区分No.	測量用具		測量	西偏角	石付	瓦付	瓦付地	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	容積(cm <sup>3</sup> )	重量(g)	平均高さ(cm)	傾斜度(度)	角度(度)	方位
				区	北														
360	63	北	北	北	北	測量	西偏角	石付	瓦付	瓦付地	9.90	7.36	1.34	66.01	66.01	0.96	66.01	9.90	
580	63	北	北	北	北	測量	西偏角	石付	瓦付	瓦付地	10.90	7.36	1.34	66.01	66.01	0.96	66.01	10.90	
581	63	北	北	北	北	測量	西偏角	石付	瓦付	瓦付地	11.90	7.36	1.34	66.01	66.01	0.96	66.01	11.90	
582	63	北	北	北	北	測量	西偏角	石付	瓦付	瓦付地	12.90	7.36	1.34	66.01	66.01	0.96	66.01	12.90	
583	63	北	北	北	北	測量	西偏角	石付	瓦付	瓦付地	13.90	7.36	1.34	66.01	66.01	0.96	66.01	13.90	
584	63	北	北	北	北	測量	西偏角	石付	瓦付	瓦付地	14.90	7.36	1.34	66.01	66.01	0.96	66.01	14.90	
585	63	北	北	北	北	測量	西偏角	石付	瓦付	瓦付地	15.90	7.36	1.34	66.01	66.01	0.96	66.01	15.90	
586	63	北	北	北	北	測量	西偏角	石付	瓦付	瓦付地	16.90	7.36	1.34	66.01	66.01	0.96	66.01	16.90	
587	63	北	北	北	北	測量	西偏角	石付	瓦付	瓦付地	17.90	7.36	1.34	66.01	66.01	0.96	66.01	17.90	
588	63	北	北	北	北	測量	西偏角	石付	瓦付	瓦付地	18.90	7.36	1.34	66.01	66.01	0.96	66.01	18.90	
589	63	北	北	北	北	測量	西偏角	石付	瓦付	瓦付地	19.90	7.36	1.34	66.01	66.01	0.96	66.01	19.90	

測量用具 No.	固有No.	出上山地		独立		連続		分離		不規則		計算		方位		方正度		方位	
		区	北	区	北	区	北	区	北	区	北	区	北	区	北	度数(度)	度数(度)	度数(度)	
23	22	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	
268	64	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	
569	64	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	

第18表 碼器類別表

測量用具 No.	固有No.	出上山地		獨立		連続		分離		不規則		計算		方位		方正度		方位	
		区	北	区	北	区	北	区	北	区	北	区	北	区	北	度数(度)	度数(度)	度数(度)	
591	63	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	
592	63	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	
593	63	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	
594	63	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	
595	63	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	
596	63	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	
597	63	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	
598	63	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	
599	63	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	

第19表 岩石観察表

測量用具 No.	固有No.	出上山地		独立		連続		分離		不規則		計算		方位		方正度		方位	
		区	北	区	北	区	北	区	北	区	北	区	北	区	北	度数(度)	度数(度)	度数(度)	
390	63	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	
391	64	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	

第20表 石鉱鑑定表

表21 石皿台石類觀察表

中日韓 2000 年



種類/河原	名前	地上部	地下部	根元	葉形	葉序	葉片	花被子	雄蕊	雌蕊	合計	種類/花被子	花被子(花被子の種類)	花被子(花被子の種類)	
640	70	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	5.3	1.9	0.7	29.11	無	2.5V7E1周	上部叶の花被子
641	70	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	5.3	1.9	0.7	23.30	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
642	70	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	3.4	3.8	0.6	10.68	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
643	70	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	3.3	3.6	0.6	9.62	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
644	73	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	3.2	3.8	0.6	11.76	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
645	73	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	4.5	4.6	1.0	24.62	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
646	73	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	3.9	3.9	0.7	12.71	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
647	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	3.7	4.1	0.7	12.95	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
648	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	4.2	4.1	0.7	15.64	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
649	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	3.3	4.2	0.8	14.42	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
650	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	4.0	4.0	0.8	12.95	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
651	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	4.5	4.5	0.9	21.86	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
652	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	2.8	3.2	0.6	7.35	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
653	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	2.8	3.0	0.5	12.76	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
654	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	4.4	4.4	0.9	18.22	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
655	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	3.6	3.7	0.8	10.36	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
656	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	4.6	4.6	1.1	20.72	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
657	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	4.4	4.4	0.7	15.03	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
658	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	3.0	2.9	0.7	7.26	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
659	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	3.6	4.1	0.7	17.36	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
660	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	4.3	5.0	0.7	12.57	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
661	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	4.8	4.9	1.0	25.05	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
662	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	4.2	4.6	0.6	15.88	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
663	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	5.5	5.6	0.8	34.41	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
664	71	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	2.9	2.6	1.8	11.29	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
665	57	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	6.0	6.2	3.6	65.12	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
666	57	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	2.0	1.7	1.8	4.43	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
667	57	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	(3.5)	1.1	0.6	10.97	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子
668	71	57	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	2.4	2.4	0.6	19.24	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子	
711	77	56	全	正	後退(ダツト)	直立	互生	半圆形叶	(1.7)	2.4	2.4	8.65	无毛	10786.2に於ける	上部叶の花被子

第23表 石棒類観察表

試験No.	測定No.	測定地點	出土地点	形状		石棒	石棒端	断面	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴	欠陥	表面	参考	
				直角	斜角												
669	72	57	東 T70	直角	斜角(グリット)	石棒	直角	石棒端	14.63	2.79	1.72	15.46	柱形の握りを付ける 横に走る溝	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9001
670	72	57	東 T70	直角	南北正立-左-右±1°	石棒	直角	石棒端	14.63	2.79	1.72	19.76	柱形の握りを付ける 横に走る溝	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9002
671	72	57	東 北北正立-右ベント	45°S	直角(直角)	石棒	直角	石棒端	14.63	2.79	1.72	19.76	柱形の握りを付ける 横に走る溝	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9003
672	72	57	東 北北	直角	直角(直角)	石棒	直角	石棒端	14.63	2.79	1.72	19.76	柱形の握りを付ける 横に走る溝	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9004
673	72	37	東 T35	直角	直角(直角)(-屈曲)	石棒	直角	石棒端	14.63	2.79	1.72	19.76	柱形の握りを付ける 横に走る溝	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9005
674	72	37	東 45°E	直角	直角(直角)	石棒	直角	石棒端	14.63	2.79	1.72	19.76	柱形の握りを付ける 横に走る溝	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9006
675	72	57	南 南西-東北東ベント	45°S	直角	石棒	直角	石棒端	14.63	2.79	1.72	19.76	柱形の握りを付ける 横に走る溝	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9013
676	72	57	北 北北正立-左上位	45°S	直角	石棒	直角	石棒端	14.63	2.79	1.72	19.76	柱形の握りを付ける 横に走る溝	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9017
677	72	57	東 T70	直角	直角	石棒	直角	石棒端	14.63	2.79	1.72	19.76	柱形の握りを付ける 横に走る溝	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9019
678	72	57	東 T35	直角	直角	石棒	直角	石棒端	14.63	2.79	1.72	19.76	柱形の握りを付ける 横に走る溝	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9020
679	72	58	東 45°S	直角	直角	石棒	直角	石棒端	14.63	2.79	1.72	19.76	柱形の握りを付ける 横に走る溝	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9022
680	72	58	東 南W-E±45°Z	45°S	直角	石棒	直角	石棒端	14.63	2.79	1.72	19.76	柱形の握りを付ける 横に走る溝	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9026
681	72	58	東 30°E	直角	直角	石棒	直角	石棒端	14.63	2.79	1.72	19.76	柱形の握りを付ける 横に走る溝	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9029
682	73	23	北 1号面(45°E)	45°S	直角	石棒	直角	石棒端	14.63	2.79	1.72	19.76	柱形の握りを付ける 横に走る溝	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9030

第24表 細粒状器観察表

試験No.	測定No.	測定地點	出土地点	形状		石材	石材端	断面	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴	欠陥	表面	参考	
				直角	斜角												
684	74	58	東 T35	直角(グリット)	直角	石材	直角	石材端	7.11	4.46	3.13	91.33	質感の上位	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9034
25	25	25	東 S-N-トレンチ	3.5度±1度傾斜	直角	石材	直角	石材端	7.11	4.46	3.13	91.33	質感の上位	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9035
718	77	61	東 2号面(45°E)	5.5度±1度	直角	石材	直角	石材端	7.11	4.46	3.13	91.33	質感の上位	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9036
53	26	23	北 1号面(45°E)	45°S	直角	石材	直角	石材端	7.11	4.46	3.13	91.33	質感の上位	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9037

第25表 有孔石製品観察表

試験No.	測定No.	測定地點	出土地点	形状		石材	石材端	断面	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴	欠陥	表面	参考	
				直角	斜角												
685	75	58	東 T35	直角(グリット)	直角	石材	直角	石材端	7.11	4.46	3.13	91.33	質感の上位	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9038
686	75	58	東 T35	直角(グリット)	直角	石材	直角	石材端	7.11	4.46	3.13	91.33	質感の上位	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9039

第26表 不明石製品観察表

試験No.	測定No.	測定地點	出土地点	形状		石材	石材端	断面	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴	欠陥	表面	参考	
				直角	斜角												
687	75	58	東 T35	直角(グリット)	直角	石材	直角	石材端	7.11	4.46	3.13	91.33	質感の上位	無	西側のみ	古生代砂岩 無孔岩	9041

第27表 円筒状石製品調査表

山上地点				山下地点				山上地点				山下地点				山上地点				山下地点			
測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)	測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)	測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)	測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)	測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)	測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)
686	74	北	478	1	1	北	478	2	2	北	478	3	3	北	478	4	4	北	478	5	5	北	478
687	74	南	707	1	1	南	707	2	2	南	707	3	3	南	707	4	4	南	707	5	5	南	707
688	74	東	989	1	1	東	989	2	2	東	989	3	3	東	989	4	4	東	989	5	5	東	989
689	74	西	989	1	1	西	989	2	2	西	989	3	3	西	989	4	4	西	989	5	5	西	989

第28表 板状石器調査表

山上地点				山下地点				山上地点				山下地点				山上地点				山下地点			
測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)	測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)	測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)	測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)	測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)	測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)
690	75	北	50	1	1	北	1014	2	2	北	1014	3	3	北	1014	4	4	北	1014	5	5	北	1014
691	75	南	50	1	1	南	50	2	2	南	50	3	3	南	50	4	4	南	50	5	5	南	50
692	75	東	702	1	1	東	702	2	2	東	702	3	3	東	702	4	4	東	702	5	5	東	702
693	75	西	702	1	1	西	702	2	2	西	702	3	3	西	702	4	4	西	702	5	5	西	702

第29表 球状石器調査表

山上地点				山下地点				山上地点				山下地点				山上地点				山下地点			
測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)	測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)	測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)	測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)	測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)	測量点	測量点名	方位	位置(アリヤ P)
691	59	北	3522	1	1	北	3522	2	2	北	3522	3	3	北	3522	4	4	北	3522	5	5	北	3522
692	59	南	3522	1	1	南	3522	2	2	南	3522	3	3	南	3522	4	4	南	3522	5	5	南	3522
693	59	東	702	1	1	東	702	2	2	東	702	3	3	東	702	4	4	東	702	5	5	東	702
694	59	西	702	1	1	西	702	2	2	西	702	3	3	西	702	4	4	西	702	5	5	西	702



## V 自然科学的分析

### 1 放射性炭素年代測定（AMS 測定）

株式会社 加速器分析研究所

#### （1）測定対象試料

鶴ノ木南台地遺跡は、岩手県奥州市水沢区黒石町字鶴ノ木50-3(北緯39°07'28"、東経141°11'16")に所在する。測定対象試料は、北区NSベルト4B13のⅢa層中出土上器付着炭化物（No.1:IAAA-92737）、4B12のⅢb層中～下位出土上器付着炭化物（No.2:IAAA-92738）、4B11のⅢb層上位出土上器付着炭化物（No.4:IAAA-92739）、合計3点である。No.1は内面、No.2、No.4は外面より採取した。

#### （2）測定の意義

土器に付着した炭化物の年代を測定することにより、包含層の埋没年代を明らかにする。

#### （3）化学処理工程

- [1] メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- [2] 酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA: Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。  
最初の酸処理では1Nの塩酸（80°C）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では1Nの水酸化ナトリウム水溶液（80°C）を用いて数時間処理する。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が1N未満の場合、表中にAaAと記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸（80°C）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90°Cで乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- [3] 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空中で封じ切り、500°Cで30分、850°Cで2時間加熱する。
- [4] 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用して、真空ラインで二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を精製する。
- [5] 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
- [6] グラファイトを内径1mmのカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

#### （4）測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とパックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

#### （5）算出方法

- [1] 年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。
- [2] <sup>14</sup>C 年代（Libby Age: yrBP）は、過去の大気中 <sup>14</sup>C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として測る年代である。この値は、δ<sup>13</sup>Cによって補正された値である。

## 1 放射性炭素年代測定 (AMS 測定)

$^{14}\text{C}$  年代と誤差は、1 術目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、 $^{14}\text{C}$  年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

- (3)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の  $^{13}\text{C}$  濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いざれも基準値からのずれを千分偏差 (‰) で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により  $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$  を測定した場合には表中に (AMS) と注記する。
- (4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の  $^{14}\text{C}$  濃度の割合である。
- (5) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の  $^{14}\text{C}$  濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の  $^{14}\text{C}$  濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に対応する較正曲線上の历年年代範囲であり、1 標準偏差 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) あるいは 2 標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。历年較正プログラムに入力される値は、下一行を四捨五入しない  $^{14}\text{C}$  年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal04 データベース (Reimer et al. 2004) を用い、OxCalv4.1 較正プログラム (Bronk Ramsey 1995; Bronk Ramsey 2001; Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

## (6) 測定結果

鶴ノ木南台地遺跡出土土器付着炭化物の  $^{14}\text{C}$  年代は、北区 NS ベルト 4B13 Ⅲa 層中出土の No.1 が  $2900 \pm 30$  yrBP、4B12 Ⅲb 層中～下位出土の No.2 が  $3650 \pm 30$  yrBP、4B11 Ⅲb 層上位出土の No.4 が  $2530 \pm 30$  yrBP である。No.1 は縄文時代晚期前葉頃、No.2 は縄文時代後期前葉頃、No.4 は縄文時代後期後葉頃に相当する年代値となった。

No.1 と No.4 の炭素含有率は 60% を超える十分な値であったが、No.2 はやや低い値であった。化学処理、測定上の問題は認められない。

表 1  $^{14}\text{C}$  年代測定結果

[#3447]

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	
					Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-92737	No.1	北区 NS ベルト 4B13 Ⅲa 層中	炭化物	AaA	$-24.98 \pm 0.50$	$2,900 \pm 30$ $69.68 \pm 0.27$
IAAA-92738	No.2	4B12 Ⅲb 層中～下位	炭化物	AaA	$-25.37 \pm 0.32$	$3,650 \pm 30$ $63.52 \pm 0.22$
IAAA-92739	No.4	4B11 Ⅲb 層上位	炭化物	AaA	$-27.40 \pm 0.44$	$2,530 \pm 30$ $73.02 \pm 0.24$

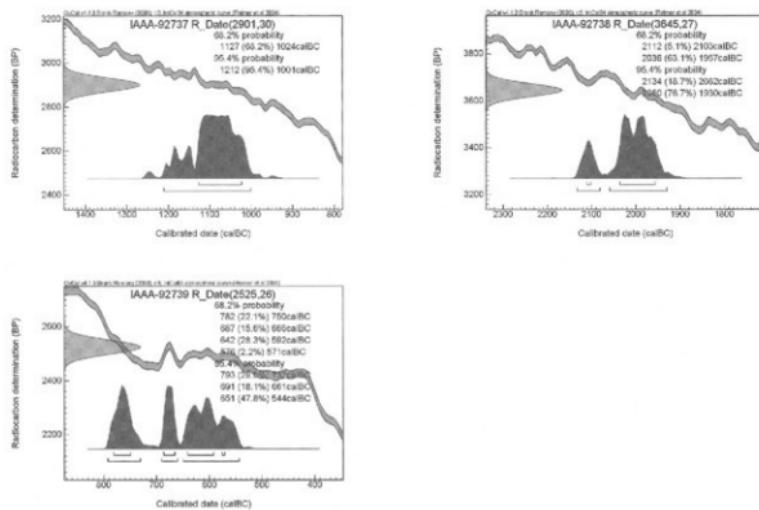
表 2 历年較正年代と  $\delta^{13}\text{C}$  補正なし年代

[参考値]

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		历年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 历年年代範囲	2 $\sigma$ 历年年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-92737	$2,900 \pm 30$	$69.69 \pm 0.26$	$2,901 \pm 30$	$1127\text{BC} - 1024\text{BC}$ (68.2%)	$1212\text{BC} - 1001\text{BC}$ (95.4%)
IAAA-92738	$3,650 \pm 30$	$63.48 \pm 0.21$	$3,645 \pm 27$	$2112\text{BC} - 2103\text{BC}$ (5.1%) $2036\text{BC} - 1957\text{BC}$ (63.1%)	$2134\text{BC} - 2082\text{BC}$ (18.7%) $2069\text{BC} - 1930\text{BC}$ (76.7%)
IAAA-92739	$2,570 \pm 30$	$72.66 \pm 0.23$	$2,525 \pm 26$	$782\text{BC} - 750\text{BC}$ (22.1%) $687\text{BC} - 666\text{BC}$ (15.6%) $642\text{BC} - 592\text{BC}$ (28.3%) $576\text{BC} - 571\text{BC}$ (2.2%)	$793\text{BC} - 732\text{BC}$ (29.5%) $691\text{BC} - 661\text{BC}$ (18.1%) $651\text{BC} - 544\text{BC}$ (47.8%)

## 参考文献

- Sluiter M. and Polach H.A. 1977 Discussion : Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19 (3), 355–363.
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy : the OxCal Program, *Radiocarbon* 37 (2), 425–430.
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the radiocarbon calibration program, *Radiocarbon* 43 (2A), 355–363.
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381–389.
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0–26 cal kyr BP, *Radiocarbon* 46 (3), 1029–1058.



[参考] 历年較正年代グラフ

## 2 火山灰同定分析

株式会社 火山灰考古学研究所

### (1) はじめに

東北地方奥州市域とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層や土壤の中には、焼石、栗駒、岩手、鳴子、肘折、十和田など東北地方の火山のほか、洞爺、浅間、御岳、大山、三瓶、阿蘇、始良、鬼界など遠方の火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる（町田・新井、2003など）。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、層位や年代が不明な凝灰質堆積物が認められた奥州市水沢区鶴ノ木南台地遺跡でも、発掘調査担当者によって採取送付された試料を対象に、火山ガラス比分析と火山ガラスの屈折率測定を実施して、指標テフラとの同定を行うことになった。分析測定の試料は、旧沢跡最下層（18層）から採取されたものである。

### (2) 火山ガラス比分析

#### [1] 分析試料と分析方法

試料（18層）に含まれる火山ガラスの色調形態別比率を求めるために、テフラ検出分析を含めた火山ガラス比分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料 10 g を秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°C で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や特徴を観察（テフラ検出分析）。
- 5) 分析篩をもちいて、1/4 (2φ) ~ 1/8 mm (3φ) と 1/8 (3φ) ~ 1/16 mm (4φ) の粒子を篩別。
- 6) 偏光顕微鏡下で 1/4 (2φ) ~ 1/8 mm (3φ) の 250 粒子を観察し、火山ガラスの色調形態別比率を求める（火山ガラス比分析）。

#### [2] 分析結果

実体顕微鏡下では、繊維束状やスponジ状に発泡した白色や透明の繊維の軽石型ガラスが少量認められた。1/4~1/8 mm の粒子では、比率が高い順に繊維束状に発泡した軽石型ガラス（7.2%）、スponジ状に発泡した軽石型ガラス（3.2%）、無色透明のバブル型ガラス（2.8%）、分厚い中間型ガラス（0.4%）が含まれている（図1、表1）。

### (3) 屈折率測定

#### [1] 測定試料と測定方法

試料（18層）に含まれる 1/8 (3φ) ~ 1/16 mm (4φ) の火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質社製 MAIOT）により屈折率（n）の測定を行った。

#### [2] 測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。試料（18層）に含まれる火山ガラス（31粒子）の屈折率（n）は、

1.503-1.507 (27 粒子) と 1.499-1.501 (4 粒子) である。

#### (4) 考 察

試料 (18 層) に含まれる火山ガラスの多くは、その形態や色調 (とくにスボンジ状に発泡した白色の軽石型ガラスが含まれていること)、さらに屈折率 ( $n: 1.503-1.507$ ) などから、岩手・秋田地域と会津・福島・仙台地域で各々  $1.500-1.508$  と  $1.503-1.507$  の屈折率 ( $n$ ) をもつ、915 年に十和田火山から噴出した十和田 a テフラ (To-a, 大池, 1972, 町田ほか, 1981, 町田・新井, 2003 など) に由来する可能性が高い。一方、屈折率が低い火山ガラス ( $n: 1.499-1.501$ ) についても、水和が進んでいない To-a 起源の分厚い中間型の火山ガラスの可能性が高いように思われる。ただ、無色透明のバブル型ガラスが含まれていることや、岩手県城での火山ガラスの屈折率が  $n: 1.500 \pm$  であることなどから、始良 Tn 火山灰 (AT, 約  $2.6 \sim 2.9$  万年前, 町田・新井, 1976, 2003) など、ほかのテフラに由来する可能性も完全には否定できない。これらの粒子の起源をさらに明瞭にするためには、信頼度の高いエレクトロンプローブ X 線マイクロアナライザー (EPMA) を利用した火山ガラスの主成分化学組成分析が実施されるべきである。

試料が採取された断面の写真など資料をみると、18 層は従来奥州市域で検出されている To-a の一次堆積層と比較すると非常に厚いようである。このような層相・比率を含めた火山ガラスの産出状況、火山ガラスの屈折率などを考慮すると、本土層は To-a 起源の粒子を二次的に含む堆積物の可能性が高いと推定される。

#### (5) ま と め

鶴ノ木南台地遺跡の 18 層から採取された試料について、火山ガラス比分析と火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、試料中には十和田 a テフラ (To-a, 915 年) に由来する可能性の高いテフラ粒子を検出した。

#### 文献

- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰 - 始良 Tn 火山灰の発見とその意義. 科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫 (2003) 新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ. 科学, 51, p.562-569.
- 大池昭二 (1972) 十和田火山東麓における完新世テフラの纏年. 第四紀研究, 11, p.232-233.

表1 火山ガラス比分析結果

試料名	bw (cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	その他	合計
18層	7	0	0	1	8	18	216	250

bw : バブル型, md : 中間型, pm : 軽石型, cl : 無色透明, pb : 淡褐色, br : 褐色, sp : スポンジ状, fb : 繊維束状。数字は粒子数。

表2 屈折率測定結果

試料名	火山ガラスの屈折率 (n)	測定粒子数
18層	1.503-1.507 (27), 1.499-1.501 (4)	31

測定は、温度変化型屈折率測定装置 (MAIOT) による。0 の数字は粒子数。

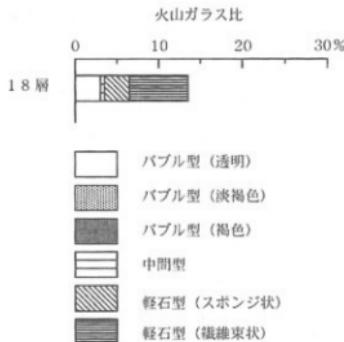


図1 鶴ノ木南台地遺跡テフラ分析試料 (18層) の火山ガラス比ダイヤグラム



写真1 鶴ノ木南台地遺跡の火山ガラス

### 3 黒曜石产地同定分析（1）

株式会社 第四紀地質研究所

#### （1）分析試料の調整と実験条件

##### 1-1 分析試料の調整

分析試料は黒曜石の岩体では岩体のなかで5個所程度選択し、1個所で5~10試料を採取した。分析結果は岩体の中で選択した各個所について1分析値で代表させた。例えば、西餅屋の岩体では孔道内の4個所を4分析値で表示した。岩体が貧弱である場合には1岩体の中で10個以上を採取し、試料数分の分析結果を表示した。岩体が消滅しているものや、明確な岩体としての露頭が認められないものや河床の中の転石あるいは斜面に露出する堆積した黒曜石は10個以上採取し、試料数分の分析結果を表示した。

分析にあたっては、露頭より採取した黒曜石を打ちかき、比較的平滑な面を分析面とする未整形試料を作成した。

ガラス質安山岩は表面が風化しており、表面には鉄分が付着して、岩石本来の分析値を反映することが出来ないので、ダイヤモンドカッターで切断し、刷片を作成し、新鮮な面を分析した。分析した結果は黒曜石と同様に酸化物濃度で表示した。

##### 1-2 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製 JSX-3200）で行った。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（F P法）による自動定量計算システムが採用されており、 $\text{C} \sim \text{U}$ までの元素分析ができ、ハイパワーX線源（最大30kV、4mA）の採用で微量試料～最大290mm $\phi$  × 80mmHまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクF P法でおこなった。F P法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

分析にあたっては、露頭より採取した黒曜石を打ちかき、比較的平滑な面を分析面とする未整形試料をX線照射範囲が約15mm $\phi$ の試料台に直接のせ分析した。実験条件はバルクF P法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気＝真空、X線管ターゲット素材＝Rh、加速電圧＝30kV、管電流＝自動制御、分析時間＝200秒（有効分析時間）である。また、分析にあたっては標準サンプルを分析し、キャリプレーションを行い、装置の正常さを保って行った。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量=0と仮定し、酸化物の重量%を100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量%では小数点以下3~4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

岩石の化学組成を構成する主要元素と微量元素の中から、岩石の骨格となるSiとAl、有色鉱物の主要元素であるFe, Ca、無色鉱物の主要元素であるNaとKの関連からK、副成分鉱物のイルメナイトからFeとTi、微量元素ではRbとSrの各元素組み合わせにより黒曜石を分類する図を作製した（周藤他、2002）。基本的には主要元素の各元素が重複しない組み合わせとしたが、Fe, Mn, Tiは鉄質閻

連として相関性の高い元素であり、Ti と Fe の 2 元素との対比となっている。主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量 %）で  $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ 、 $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-TiO}_2$ 、 $\text{K}_2\text{O}\text{-CaO}$  の各相関図、Rb-Sr は積分強度の相関図の 4 組の組み合わせで図を作成した。

## （2）考 察

鶴ノ木南台地跡出土黒曜石遺物の分析結果は第 1 表化学分析表に示すとおりである。

- 1) 鶴ノ木南台地跡出土黒曜石遺物は岩手県の小赤沢産である。第 1 図  $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$  図、第 4 図 Rb-Sr 図では幾分領域を逸脱するが第 2 図  $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-TiO}_2$  図、第 3 図  $\text{K}_2\text{O}\text{-CaO}$  図では小赤沢の領域にあり、幾分風化の影響を受けているために分散したのかもしれない。

## 引用文献

周藤賛治・小山内康人（2002）共立出版、記載岩石学上、5-20.



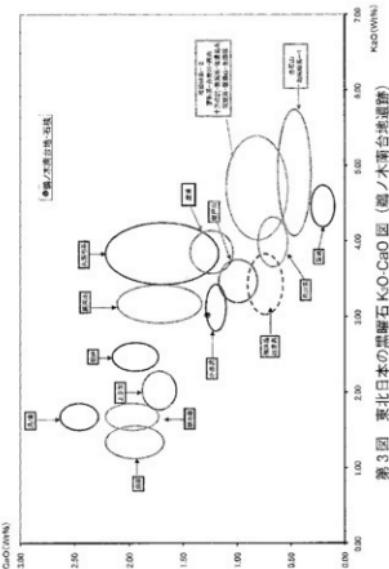
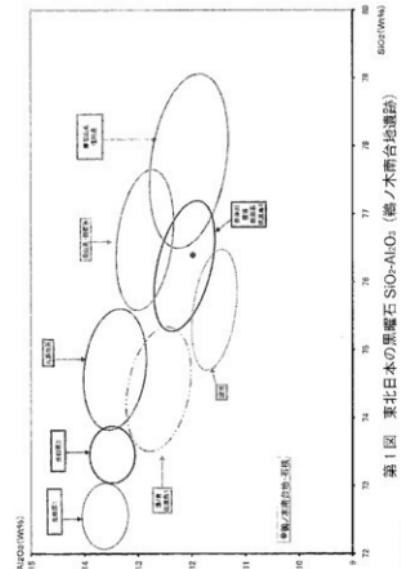
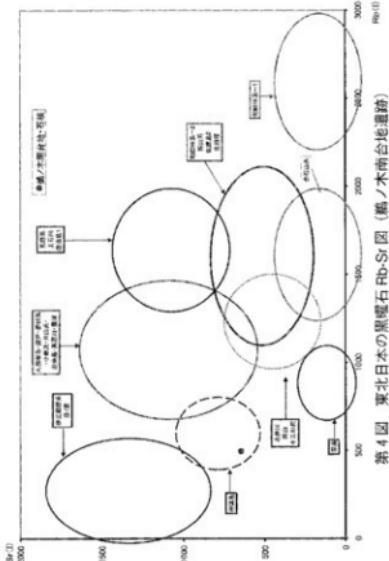
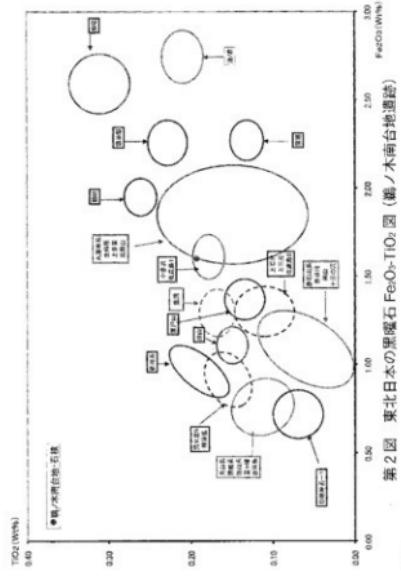
図 1 原産地黒曜石位置図



分析試料（564）

第 1 表 化学分析表

試料名	$\text{Na}_2\text{O}$	$\text{MgO}$	$\text{Al}_2\text{O}_3$	$\text{SiO}_2$	$\text{P}_2\text{O}_5$	$\text{K}_2\text{O}$	$\text{CaO}$	$\text{TiO}_2$	$\text{MnO}$	$\text{Fe}_2\text{O}_3$	$\text{Rb}_2\text{O}$	$\text{Sr}_2\text{O}$	$\text{Y}_2\text{O}_3$	$\text{ZrO}_2$	Total	$\text{Rb}/\text{Sr}$	$\text{Sr}/\text{Ba}$	原産地	備考
J-1	4.6066	0.0000	11.970676.3954	0.8157	3.0178	1.2745	0.1928	0.0821	1.6007	0.0070	0.0094	0.0056	0.0219	100.0001	496	648	小赤沢	石舟	



## 4 黒曜石产地同定分析（2）

明治大学文化財研究施設運営委員 杉原重夫

明治大学文化財研究施設 金成太郎

明治大学文学部 RA 弦巻千晶・弦巻賢介

明治大学学術フロンティア推進事業 RA 佐藤裕亮・金木利憲

### （1）測定方法

蛍光X線法を用いて黒曜石の正確な元素分析値を得るには、内部が均質で表面形態が一様な試料を作成し、検量線法などによって定量的に分析を行うのが一般的である。そのためには、試料を粉砕してプレスしたプリケットを作成するか、もしくは溶融してガラスピードを作成する必要がある。しかしながら、遺跡から出土した遺物は、通常、非破壊での測定が要求されるため、上記の方法をとることは困難である。そのため、遺物に直接X線を照射する定性（半定量）分析が行われている。このような直接照射によって発生する蛍光X線の強度そのものは、試料の状態や装置の経年変化によって変動する可能性が高いが、特定元素の強度同士の比を探った場合はその影響は小さいと考えられている。今回は測定強度比をパラメータとして原産地推定を行った。

### （2）試料の前処理

比較用の産出地採取原石については、必要に応じて新鮮な破断面または研磨面を作製し、超音波洗浄器によるクリーニングを行った。遺跡出土石器は、多くの場合新鮮で平滑な剥離面があるため、試料表面をメラミンスポンジとアルコールで洗浄してから測定を行った。特に汚れがひどい遺物のみ超音波洗浄器を用いた。

### （3）装置・測定条件

蛍光X線の測定にはエネルギー分散型蛍光X線分析装置 JSX-3100s（日本電子株式会社）を用いた。X線管球は、ターゲットがRh（ロジウム）のエンドウインドウ型を使用した。管電圧は30kV、電流は抵抗が一定となるよう自動設定とした。X線検出器はSi（ケイ素）/Li（リチウム）半導体検出器を使用した。試料室内の状態は真空雰囲気下とし、X線照射面径は15 mmとした。測定時間は、240secである。測定元素は、主成分元素はケイ素（Si）、チタン（Ti）、アルミニウム（Al）、鉄（Fe）、マンガン（Mn）、マグネシウム（Mg）、カルシウム（Ca）、ナトリウム（Na）、カリウム（K）の計9元素、微量元素はルビジウム（Rb）、ストロンチウム（Sr）、イットリウム（Y）、ジルコニウム（Zr）の計4元素の合計13元素とした。また、X線データ解析ソフトには、明治大学文化財研究施設製：JxExtを使用した。

### （4）原産地推定の方法

黒曜石はケイ酸、アルミナ等を主成分とするガラス質火山岩であるが、その構成成分は産出地による差異が認められる。とりわけ微量元素のRb、Sr、Y、Zrでは産出地ごとの組成差がより顕著となっている。望月は、この産地間の組成差から黒曜石の産地推定が可能であると考え、上記の4元素にK、Fe、Mnの3元素を加えた計7元素の強度比を組み合わせることで产地分析を行っている（望月ほか

1994、望月 1997)。これら 7 元素による原産地分析の有効性は、ガラスピードを用いた定量分析によつても裏付けられている(嶋野ほか 2004)。ここでも、上記した望月の判別方法に準拠する形をとることとし、原産地推定のパラメータに Rb 分率 (Rb 強度 × 100 / (A = Rb 強度 + Sr 強度 + Y 強度 + Zr 強度))、Sr 分率 (Sr 強度 × 100/A)、Mn 強度 × 100/Fe 強度、log (Fe 強度/K 強度) を用いて判別図を作製し、判別分析は Zr 分率 (Zr 強度 × 100/A) を加えて行った。

### (5) 黒曜石原産地の判別

#### 5-1. 判別図

判別図は、視覚的に分類基準が捉えられる点、および判定基準が分かりやすいというメリットがある。また、測定結果の提示に際し、読者に理解しやすいという点も有効であろう。まず、各産出地採取試料(基準試料)の測定データを基に 2 種類の散布図 (Rb 分率 vs Mn × 100/Fe, Sr 分率 vs log(Fe/K)) を作製し、各原産地を推定するための判別域を決定した。次に遺物の測定結果を重ね合わせて大まかな判別を行った。基準試料の測定強度比の平均値を表 1 に示す。

#### 5-2. 判別分析

判別図や測定値の比較による原産地の推定は、測定者ごとの恣意的な判断を完全に排除することは難しい。そこで、多変量解析の一つである判別分析を行った。判別分析では、上記のパラメータを基にマハラノビス距離を割り出し、各原産地に帰属する確率を求めた。距離と確率とは反比例の関係にあり、資料と各原産地の重点間の距離が最も短い原産地(群)が第一の候補となる。なお、分析用ソフトには明治大学文化財研究施設製: MDR1.02 を使用した。また、判別結果の参考資料として、各原産地(重点)間のマハラノビス距離を提示した(表 2)。

### (6) 石器の原産地推定結果

今回測定したのは、岩手県奥州市水沢区鶴ノ木南台地遺跡(縄文時代後~晩期)から出土した黒曜石製造物である。測定した遺物は 202 点であり、原産地が判別出来た遺物は 174 点であった。

原産地推定の結果は、北上地区北上系 A が 166 点 (95.4%) と非常に高い割合を占め、男鹿地区男鹿系が 3 点、月山地区月山系が 2 点、深浦地区深浦系が 1 点、湯の倉地区湯の倉系が 1 点、赤井川地区赤井川系が 1 点であった。利用割合が高い北上系 A は北上川沿いの丘陵または段丘を構成する砂礫層に含まれる。そのほか直線距離で数十 km から約 200 km に及ぶ東北地方の原産地も利用され、さらに約 450 km 離れた北海道の赤井川系が認められるなど、広範囲に黒曜石が流通していたことが推定され、縄文時代後晩期の流通経済を考える重要な結果となろう。

また、ICU1-203・206 は既存の原産地には該当しなかった。ただ、岩手県盛岡市川目 A 遺跡 5 次調査資料にも同様的一群が含まれており不明原産地 THK と仮称しておく。今後は、仙北地域を対象とした野外調査により不明原産地の解明が必要と考えられる。

### 引用・参考文献

- 嶋野岳人・石原園子・長井雅史・鈴木尚史・杉原重大 2004 「波長分散型蛍光 X 線分析装置による日本全国の黒曜石全岩定量分析」日本文化財科学会第 21 回大会研究発表要旨集、pp.140-141.
- 望月明彦 1997 「蛍光 X 線分析による中部・関東地方の黒曜石产地の判別」X 線分析の進歩、28、pp.157-168.
- 望月明彦・池谷信之・小林克次・武藤由里 1994 「遺跡内における黒曜石製石器の原産地別分布について—沼津市上手上遺跡 BB V 層の原産地推定から—」静岡県考古学研究、26、pp.1-24.

### 報告者コメント

報告は紙数の関係上、分析データに関する箇所を中心に掲載し、他は削愛させて頂いた。分析報告書「岩手県奥州市水沢区巣ノ木本車台地遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定」については岩手県埋蔵文化財センターに保管している。

(北用)

表1 北海道・東北地方における黒曜石の測定値（強度比）

## 2 判別分析における群間距離（マハラノビス距離）



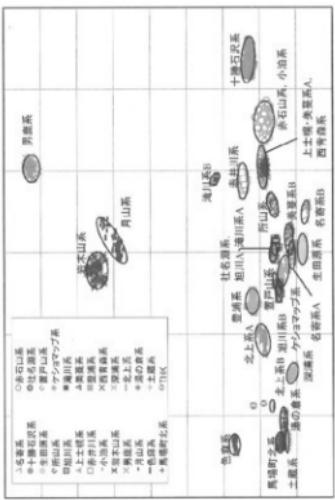


図 2-1 能ノ木南台地遺跡の判別図 (Rb 分率)

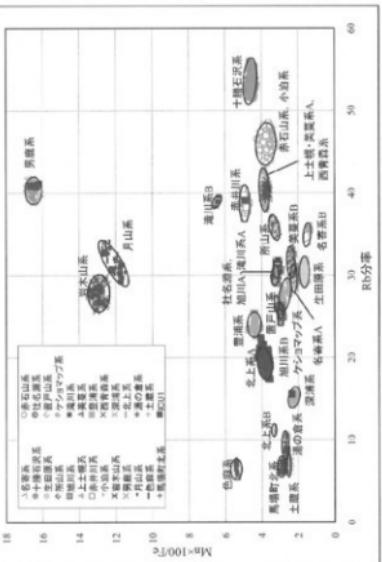


図 2-2 能ノ木南台地遺跡の判別図 (Sr 分率)

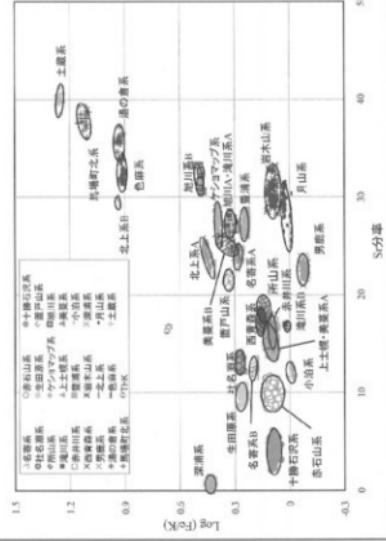


図 3-1 不明原産地 ThK の判別図 (ThK 分率)



図 3-2 不明原産地 ThK の判別図 (Sr 分率)

#### 4 忠霧石系地図分析 (2)

表3 鶴木南台地遺跡出土黒曜石製遺物の原産地構成

標記	品種	個数	割合	取扱店	地名	出発地	港名	回数	日付	機会
TCI-01 49.787	50.777	22,327	100.00%	セントラル	-	-	-	-	-	新規
TCI-002 50.778	52.345	41,280	7,395.8%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	832.02	7941 西海岸の主要な港
TCI-003 19.952	49.470	3,982	7,389.6%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	705.08	7056 クレジットカード
TCI-004 19.512	52.7812	42,3448	3,851.4%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	795.97	7039 スクリバード
TCI-005 8.309	53.639	41,2955	3,729.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	807.56	7006 新規を含む
TCI-006 18.062	49.896	20,746	3,687.2%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	807.56	7006 新規を含む
TCI-007 19.042	50.798	42,7008	3,729.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	666.95	7259 新規を含む
TCI-008 15.600	50.897	73,175	3,362.7%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	706.99	7245 新規を含む
TCI-009 19.560	52.172	52,1952	3,479.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	770.58	7202 新規を含む
TCI-010 19.775	50.906	34,364	3,465.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	805.42	7062 新規を含む
TCI-011 19.305	52.9274	42,9659	3,605.4%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	564.31	7164 古代の主要な港
TCI-012 20.276	51.3501	41,5418	3,700.7%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	571.83	7180 新規を含む
TCI-013 21.285	52.5602	40,9516	3,564.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	520.96	7032 新規を含む
TCI-014 19.456	50.4529	42,5585	3,642.2%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	543.45	7106 新規を含む
TCI-015 20.002	51.0012	31,2682	3,155.8%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	604.74	7110 新規を含む
TCI-016 19.265	20,049	41,9358	3,706.8%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	666.80	7086 新規を含む
TCI-017 20.490	50.9241	42,7129	3,647.7%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	-	357. 内規
TCI-018 30.1440	22,7596	41,1228	5,361.3%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	646.19	7139 新規
TCI-019 19.593	49.581	19,431	3,482.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	808.57	7076 新規を含む
TCI-020 19.733	50.3705	41,3065	3,700.7%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	665.08	7243 新規
TCI-021 18.784	50.4690	41,9501	3,837.9%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	395.11	715. 石器
TCI-022 18.306	52.1273	42,7604	3,699.6%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	667.59	7128 新規
TCI-023 19.471	51.1502	40,8203	3,549.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	643.92	7105 新規を含む
TCI-024 19.540	52.7718	42,5585	3,642.2%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	666.68	7105 新規を含む
TCI-025 0.922	22,593	42,7552	3,725.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	586.54	7107 新規
TCI-026 0.708	22,0906	41,9510	3,866.1%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	643.74	7108 新規
TCI-027 20.058	52.8621	41,3818	3,571.7%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	629.20	7203 新規
TCI-028 0.9179	51.0315	41,9510	3,866.1%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	635.20	7116 新規
TCI-029 19.559	52.3908	41,3485	3,700.7%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	639.00	7115 新規
TCI-030 20.493	51.3211	42,6733	3,671.3%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	53.02	7111 新規
TCI-031 18.9507	50.6199	41,8770	3,732.2%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	605.07	7099 新規
TCI-032 17.231	52.5271	42,9990	3,662.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	621.36	7034 新規
TCI-033 17.779	51.5152	41,8529	3,732.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	650.80	7035 新規
TCI-034 20.033	20,0513	40,1137	4,065.2%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	532.66	7034 新規
TCI-035 71.1590	23,3695	41,3847	3,684.1%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	634.42	7112 新規
TCI-036 20.632	51.7189	42,3723	3,655.2%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	-	714. サムルム(新規)
TCI-037 20.479	52.4450	42,4470	4,114.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	566.07	8118 新規
TCI-038 19.397	51.8474	41,9450	3,673.1%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	603.02	7131 新規
TCI-039 20.795	23,0556	41,8296	3,908.7%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	523.23	7080 新規
TCI-040 19.763	52.8318	41,7235	3,779.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	665.18	7061 新規
TCI-041 20.486	22,2366	41,5487	4,076.8%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	622.70	7071 新規
TCI-042 19.985	50.9795	42,2786	3,646.2%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	648.77	7085 新規
TCI-043 19.770	51.2289	42,3404	3,654.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	630.39	7085 新規
TCI-044 18.746	44,1863	42,3676	4,085.6%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	605.00	7065 新規
TCI-045 22,2565	21,7856	40,7869	4,059.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	626.48	7066 新規
TCI-046 20,4940	51,3046	41,3039	4,070.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	565.97	7050 新規
TCI-047 19.609	52.6455	42,4470	4,114.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	596.07	8118 新規
TCI-048 19.613	50.8194	41,9510	3,742.7%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	628.20	7116 新規
TCI-049 20.795	23,0556	41,8057	3,908.7%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	523.52	7080 新規
TCI-050 18.742	50.8043	41,9501	3,732.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	629.70	7071 新規
TCI-051 19.269	50.7379	41,7337	3,732.2%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	-	7072 新規
TCI-052 20.532	24,0490	41,9895	3,676.8%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	495.15	7074 新規
TCI-053 19.718	51.2843	41,7760	3,691.2%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	604.09	7103 新規
TCI-054 21.813	20,6399	41,2095	3,911.7%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	-	7073 新規
TCI-055 21.1042	52.2703	41,9439	3,948.9%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	556.72	7080 新規
TCI-056 9.4670	52.7888	42,8647	3,6914	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	636.11	7080 新規
TCI-057 19.783	50.8180	41,8028	3,645.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	543.36	7060 新規
TCI-058 21.783	52.4359	41,4574	3,654.3%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	525.52	7085 新規
TCI-059 20.161	51.9116	41,5348	3,837.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	14,658.3	7019 新規
TCI-060 17,2653	50.5490	42,5303	3,546.2%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	6,957.6	2,268.4 新規
TCI-061 19.2086	20,2806	41,9380	3,627.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	6,038.0	5,609.0 新規
TCI-062 19.348	52.2354	42,2600	4,043.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	23,489.8	2,956.03 新規
TCI-063 18,5803	50.7374	42,3401	3,666.3%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	1,457.0	7041 新規
TCI-064 20.0539	52.8627	42,3011	3,666.3%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	6,312.8	7080 新規
TCI-065 19.944	50.4108	21,7851	3,684.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	6,305.34	7080 新規
TCI-066 20,2482	50,9687	41,1509	3,848.6%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	599.06	2,285.2 新規
TCI-067 20,5656	52,5554	42,4327	3,956.6%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	6,063.41	7062 新規
TCI-068 18,8445	53,9904	41,3155	3,909.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	5,989.1	7093 新規
TCI-069 19,3950	52,4419	41,9374	3,675.4%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	6,009.50	7059 新規
TCI-070 17,9812	50,8490	42,6034	3,699.8%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	6,010.53	7091 新規
TCI-071 19,638	51.6028	41,8559	3,768.2%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	5,850.99	7089 新規
TCI-072 22,2079	24,4859	40,8586	3,810.5%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	-	7068 新規
TCI-073 18,3678	23,1063	41,7865	3,659.6%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	5,073.80	7099 新規
TCI-074 19,1749	52,4419	42,2611	3,592.4%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	11,536.6	7054 新規
TCI-075 22,4309	25,5277	39,7699	4,163.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	16,393.1	7053 新規
TCI-076 19,0389	51,2734	40,3002	3,613.4%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	6,806.57	7075 新規
TCI-077 19,952	52,3393	43,0057	3,7047.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	53.21	8032 新規
TCI-078 19,052	52,2922	40,9281	3,672.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	323.30	5,006 新規
TCI-079 19,7276	25,7293	41,1481	3,662.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	4,626.00	7088 新規
TCI-080 19,4962	51,7576	42,3573	3,647.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	4,621.27	5,006 新規
TCI-081 19,4793	51,6663	42,3486	3,644.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	4,621.29	5,006 新規
TCI-082 19,4953	52,0243	42,2229	3,972.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	4,909.54	5,284.82 新規
TCI-083 19,687	25,2590	41,5309	3,737.2%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	366.61	8,009 新規
TCI-084 18,5706	24,3777	41,4362	3,833.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	13,190.8	7,687 新規
TCI-085 20,3500	24,6627	40,9554	3,927.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	1,030.19	8,001 新規
TCI-086 19,7906	51,3212	41,3032	3,677.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	5,088.50	5,284.82 新規
TCI-087 22,2459	25,5277	39,7699	3,605.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	366.52	8,003 新規
TCI-088 22,3229	25,9222	41,6956	3,717.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	564.71	8,007 新規
TCI-089 18,8575	26,5543	41,8956	3,720.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	4,694.93	6,006 新規
TCI-090 19.0287	51.4213	41,8698	3,721.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	7,444.30	7,687 新規
TCI-091 18,9387	26,7448	42,4508	3,722.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	3,693.45	7,687 新規
TCI-092 19,3087	24,2111	41,1702	3,699.4%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル	0.00	6,304.00	7,687 新規
TCI-093 19,7725	31,2869	41,9353	3,806.0%	セントラル	1,0000	セントラル	セントラル			

種名	原产地	学名	分類	特徴	特徴2	特徴3	特徴4	特徴5	特徴6	特徴7		
JCU-109	18.8623	26.8920	41.1739	3.6947	0.4145	北上茶	1.0000	6.4359	タシマツノ茶	0.00	652.15	6533 蜜月
JCU-110	19.7906	26.0742	40.6552	3.3266	0.4052	北上茶	1.0000	6.4100	タシマツノ茶	0.00	597.81	6523 蜜月
JCU-111	19.5427	26.7440	41.1688	3.6891	0.4148	北上茶	1.0000	6.4059	タシマツノ茶	0.00	597.81	6523 蜜月
JCU-112	19.4050	26.1248	41.2079	3.7776	0.4526	北上茶	1.0000	5.5566	タシマツノ茶	0.00	645.13	6506 蜜月
JCU-113	21.0480	29.4696	41.3731	4.0496	0.4477	北上茶	1.0000	11.3049	タシマツノ茶	0.00	701.71	8046 蜜月
JCU-114	20.7179	31.8063	41.2060	3.5969	0.4526	北上茶	1.0000	6.3844	タシマツノ茶	0.00	633.86	8045 蜜月
JCU-115	22.4953	26.6195	40.9458	2.7665	0.0326	北上茶	1.0000	7.3509	タシマツノ茶	0.00	652.15	6533 蜜月
JCU-116	22.4262	26.5620	41.2090	3.5978	0.4528	北上茶	1.0000	15.7652	タシマツノ茶	0.00	597.81	6523 蜜月
JCU-117	-9.1258	24.0990	41.7741	3.6607	0.4632	北上茶	1.0000	4.7501	タシマツノ茶	0.00	582.96	8118 蜜月
JCU-118	20.7782	29.9487	40.5480	4.0958	0.4279	北上茶	1.0000	10.5168	タシマツノ茶	0.00	630.38	8120 蜜月
JCU-119	19.2860	28.4569	42.4399	3.7762	0.4548	北上茶	1.0000	6.4053	タシマツノ茶	0.00	595.04	7972 蜜月
JCU-120	20.7782	30.0324	41.6023	4.2808	0.4527	北上茶	1.0000	11.6547	タシマツノ茶	0.00	594.04	8045 蜜月
JCU-121	17.8898	26.7944	40.2993	3.8002	0.4558	北上茶	1.0000	11.8013	タシマツノ茶	0.00	559.15	8053 蜜月
JCU-122	19.3480	24.8001	40.6957	3.6549	0.4527	北上茶	1.0000	8.8111	タシマツノ茶	0.00	535.67	8152 蜜月
JCU-123	21.3890	21.9013	40.7036	4.0304	0.4190	北上茶	1.0000	9.6126	タシマツノ茶	0.00	565.74	8059 蜜月
JCU-124	15.5049	25.3373	40.3638	3.6500	0.4528	北上茶	1.0000	6.4549	タシマツノ茶	0.00	597.81	6523 蜜月
JCU-125	19.5427	28.0332	41.1682	3.6891	0.4528	北上茶	1.0000	7.2955	タシマツノ茶	0.00	601.80	8045 蜜月
JCU-126	20.5436	27.3666	41.5613	3.6488	0.4376	北上茶	1.0000	6.5682	タシマツノ茶	0.00	605.96	8039 蜜月
JCU-127	18.8779	26.6138	42.3621	3.7485	0.3735	北上茶	1.0000	7.2955	タシマツノ茶	0.00	665.81	8067 蜜月
JCU-128	20.5041	23.0392	42.1791	3.6707	0.4181	北上茶	1.0000	12.2607	タシマツノ茶	0.00	631.69	8063 蜜月
JCU-129	39.0820	28.6582	28.5752	1.9205	0.0688	北上茶	1.0000	7.1532	タシマツノ茶	0.00	580.00	8045 蜜月
JCU-130	21.1951	26.4169	41.1169	4.1038	0.4172	北上茶	1.0000	6.2995	タシマツノ茶	0.00	660.51	8043 蜜月
JCU-131	19.1763	24.6577	42.5861	3.7348	0.4550	北上茶	1.0000	8.7588	タシマツノ茶	0.00	544.04	8046 蜜月
JCU-132	18.5844	34.8625	43.8990	3.6661	0.4481	北上茶	1.0000	8.7651	タシマツノ茶	0.00	544.04	8046 蜜月
JCU-133	21.1951	27.2321	40.5013	3.7280	0.4488	北上茶	1.0000	8.7651	タシマツノ茶	0.00	576.74	8059 蜜月
JCU-134	20.5303	26.4234	41.2769	3.7297	0.4565	北上茶	1.0000	10.3862	タシマツノ茶	0.00	564.66	8059 蜜月
JCU-135	21.1951	27.1461	42.6892	3.6480	0.3632	北上茶	1.0000	-	-	0.00	6531 蜜月	
JCU-136	20.5303	27.2324	40.4997	3.7280	0.4488	北上茶	1.0000	10.6669	タシマツノ茶	0.00	626.36	8052 蜜月
JCU-137	21.1951	27.1461	42.6892	3.6480	0.3632	北上茶	1.0000	4.6137	タシマツノ茶	0.00	629.62	8053 蜜月
JCU-138	20.3959	31.8862	42.8444	4.0490	0.4228	北上茶	1.0000	4.5233	タシマツノ茶	0.00	653.81	8063 蜜月
JCU-139	20.9607	27.7659	41.2228	3.9515	0.4528	北上茶	1.0000	11.8141	タシマツノ茶	0.00	581.26	8045 蜜月
JCU-140	20.4659	29.1162	41.2160	3.8382	0.4528	北上茶	1.0000	6.2995	タシマツノ茶	0.00	583.93	8045 蜜月
JCU-141	20.2696	29.4495	40.7119	3.6852	0.4505	北上茶	1.0000	6.9501	タシマツノ茶	0.00	524.99	8066 蜜月
JCU-142	21.2683	23.1065	41.3983	3.9398	0.4234	北上茶	1.0000	19.9674	タシマツノ茶	0.00	541.35	8072 蜜月
JCU-143	20.4659	25.5752	40.9234	3.9489	0.4228	北上茶	1.0000	6.0719	タシマツノ茶	0.00	534.62	8053 蜜月
JCU-144	20.4659	24.8061	41.5726	3.8392	0.4528	北上茶	1.0000	6.3816	タシマツノ茶	0.00	574.62	8053 蜜月
JCU-145	63.7384	22.8891	70.9002	16.0099	0.0202	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	396.64	8062 蜜月
JCU-146	20.9443	34.6789	41.3068	3.7248	0.4751	北上茶	2.0000	10.2397	タシマツノ茶	0.00	560.72	8062 蜜月
JCU-147	9.0483	24.3724	41.8993	3.5489	0.4552	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	591.86	8060 蜜月
JCU-148	20.3080	25.5752	41.3900	3.8803	0.4228	北上茶	1.0000	7.0000	タシマツノ茶	0.00	565.20	8060 蜜月
JCU-149	20.4659	26.4129	42.5667	3.7490	0.3859	北上茶	1.0000	-	-	0.00	650.81	8043 蜜月
JCU-150	20.3649	27.0973	40.8660	3.9379	0.4380	北上茶	1.0000	9.5388	西山茶	0.00	625.18	8066 蜜月
JCU-151	19.4166	24.2523	42.3236	3.6703	0.4607	北上茶	1.0000	2.0355	西山茶	0.00	581.66	8062 蜜月
JCU-152	19.4166	25.5752	43.0244	3.7708	0.4228	北上茶	1.0000	11.9487	西山茶	0.00	607.35	8066 蜜月
JCU-153	19.8040	27.3576	42.8444	3.7395	0.4228	北上茶	1.0000	12.0699	西山茶	0.00	561.20	8066 蜜月
JCU-154	20.4659	27.0973	40.8660	3.9379	0.4380	北上茶	1.0000	12.0699	西山茶	0.00	570.00	8060 蜜月
JCU-155	19.4166	28.4647	42.5918	3.7289	0.4228	北上茶	1.0000	12.0699	西山茶	0.00	564.49	8070 蜜月
JCU-156	19.4166	27.3666	42.5909	3.7289	0.4228	北上茶	1.0000	12.0699	西山茶	0.00	621.96	8067 蜜月
JCU-157	19.4166	27.2324	42.5918	3.7289	0.4228	北上茶	1.0000	12.0699	西山茶	0.00	226.7	8012 蜜月
JCU-158	19.4166	27.2324	42.5918	3.7289	0.4228	北上茶	1.0000	-	-	0.00	671.93	8013 蜜月
JCU-159	19.4166	27.2324	42.5918	3.7289	0.4228	北上茶	1.0000	6.2995	西山茶	0.00	272.42	8013 蜜月
JCU-160	20.0555	23.9555	40.6770	5.9448	0.4450	北上茶	1.0000	5.9623	タシマツノ茶	0.00	638.90	8072 蜜月
JCU-161	20.4659	23.9555	41.5661	5.7064	0.4439	北上茶	1.0000	5.6808	タシマツノ茶	0.00	547.35	8012 蜜月
JCU-162	20.4659	24.0920	42.0956	5.7064	0.4439	北上茶	1.0000	6.9248	タシマツノ茶	0.00	566.90	8009 蜜月
JCU-163	20.4659	20.8085	27.3077	11.0184	0.0194	北上茶	1.0000	15.9720	タシマツノ茶	0.00	616.43	8096 蜜月
JCU-164	20.4659	26.4179	42.0956	3.8249	0.4228	北上茶	1.0000	11.3804	タシマツノ茶	0.00	571.75	8092 蜜月
JCU-165	21.0193	22.9651	41.7168	3.8413	0.4475	北上茶	1.0000	16.1603	西山茶	0.00	486.45	8020 蜜月
JCU-166	20.4659	24.4353	41.5661	3.7388	0.4555	北上茶	1.0000	5.8238	タシマツノ茶	0.00	687.43	8091 蜜月
JCU-167	30.8523	28.8577	28.7209	9.3016	0.1516	北上茶	1.0000	-	-	0.00	807.00	
JCU-168	20.4659	24.4353	41.5661	3.7388	0.4555	北上茶	1.0000	5.9671	西山茶	0.00	589.22	8096 蜜月
JCU-169	20.4659	24.8060	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	11.2099	タシマツノ茶	0.00	605.43	8070 蜜月
JCU-170	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	599.00	8063 蜜月
JCU-171	21.0193	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	西山茶	0.00	603.50	8067 蜜月
JCU-172	20.4659	20.9522	27.4765	10.6533	0.0194	北上茶	1.0000	6.9696	タシマツノ茶	0.00	622.40	8086 蜜月
JCU-173	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	11.1914	西山茶	0.00	609.20	8087 蜜月
JCU-174	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	16.9826	西山茶	0.00	543.85	8087 蜜月
JCU-175	20.4659	24.5824	41.8022	3.7861	0.4565	北上茶	1.0000	6.9696	西山茶	0.00	642.80	8087 蜜月
JCU-176	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	11.1914	西山茶	0.00	647.00	8088 蜜月
JCU-177	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	560.00	8088 蜜月
JCU-178	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	561.96	8088 蜜月
JCU-179	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	611.34	8086 蜜月
JCU-180	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	566.26	8086 蜜月
JCU-181	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	612.96	8086 蜜月
JCU-182	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	613.34	8086 蜜月
JCU-183	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	615.26	8086 蜜月
JCU-184	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	617.80	8086 蜜月
JCU-185	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	621.26	8086 蜜月
JCU-186	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	622.40	8086 蜜月
JCU-187	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	623.00	8086 蜜月
JCU-188	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	623.50	8086 蜜月
JCU-189	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	625.00	8086 蜜月
JCU-190	20.4659	22.9651	41.9612	3.7395	0.4565	北上茶	1.0000	12.0699	タシマツノ茶	0.00	626.50	8086 蜜月
JCU-191	20.4659	22.9651										

## VI 調査のまとめ

今回の調査では、縄文時代・平安時代・平安時代以降の計3時期の遺構・遺物が確認された。検出遺構は縄文時代の竪穴住居跡1棟・土坑3基・焼土遺構13基・埋設土器9基・配石遺構2基・遺物包含層2箇所、平安時代の竪穴住居跡2棟・土坑1基・焼土遺構1基、平安時代以降の堀跡1条・ピット21個、出土遺物は縄文土器大73箱・石器9,242点（うち成品1,140点・調片8,102点）、土製品79点・石製品55点・土師器須恵器大1箱・土錘1点である。ここでは前節までの出土状況・過去の調査を踏まえて、各時期について検出遺構・出土遺物をまとめる。

### 1 縄文時代

#### (1) 遺構

鶴ノ木南台地遺跡は昭和38年に水沢市教育委員会による調査が行われ、鶴木遺跡及び鶴ノ木南高台遺跡の2遺跡として報告されており（水沢市教委1965）、後に遺跡範囲拡大として本遺跡に統合されている（II-3参照）。

過去の調査では縄文時代後期及び晩期の遺物包含層が確認されているが、今回の調査でも同一と考えられる遺物包含層計4層が検出された。

北区135m<sup>2</sup>・南区455m<sup>2</sup>の計590m<sup>2</sup>の遺物包含層で、前項で述べた通り、これらは一連の遺構であることが確認されている。包含層は北区4層・南区2層が形成されており、上位2層は対応し下位2層は北区のみに認められる。地形を概観すると、調査区内では7 A～C区の標高が最も高く、これより北は大田代川に向かって下り、北区4 B・C区北で急激に落ち込む地形となる。大田代川と接する部分は水流の影響で包含層が抉り取られており、崩落土中には遺物が混入する。一方、南は10 B～11 B区にかけて標高が緩やかに下がる。過去の調査地点との間には現在県道が通っているが、この部分より東側の今回の調査範囲と、西側の過去の調査地はやや高くなっている。県道部分はおそらくV字に下がり沢が流れている可能性がある。これは遺物密度から、調査区内でも西側に高くなる傾向があり、地形が北西方向に流れていることを示している。Ⅲa層は縄文時代晚期前葉～末葉主体、Ⅲb層上～中位は縄文時代後期後葉主体、Ⅲb層中～下位は縄文時代後期前～中葉主体、Ⅲb層下位～Ⅲc層は縄文時代後期初頭主体、Ⅲd層は縄文時代早期中葉・前期初頭～前葉主体の遺物が認められる。包含層中に作られた遺構分布を見ると、Ⅲc層は北区のみに確認されているが傾斜地を人為的に整地した可能性があり、Ⅲc層上面には7～10・12・13号焼土遺構が同一面上に円を描くように確認されている。出土遺物からは縄文時代後期初頭と思われる。また、Ⅲb層上面には3号竪穴住居跡・1・2号配石遺構・5・8号埋設土器などが確認され、2号配石遺構は3号竪穴住居跡が廃絶後に構築されている。これらは縄文時代晚期前葉～末葉に作られたと見られる。その他に形成された遺構も各々の包含層中に認められるが、少なくともⅢb層上面やⅢc層上面には生活面が形成されていた可能性がある。ただし、居住に関する遺構は過去の調査も含めて3号竪穴住居跡のみであるため、少なくともⅢb層堆積以前は居住の場ではなく、廃棄を行う場であったと考えられる。狹小な範囲の中に多くの埋設土器、焼土遺構、配石遺構が形成されていることからも指摘されよう。

過去の調査では包含層の抜がりが、今回の調査範囲より西方約60mの地点でもより多数の遺物が認められており、集落本体は西側に大きく抜がっている可能性がある。

## (2) 遺物

### A 縄文土器

縄文土器は遺物包含層を中心に出土している。当初から遺物の層位的出土を想定して取り上げを行ったが、最もまとまった出土状況の北区では平安時代以降に構築された1号堀跡の影響で調査範囲の多くの縄文面が搅乱されており、プライマリーな堆積が確認されたのは20mに満たなかった。そこで、出土土器に関しては從来の土器編年研究を踏まえて分類を行った。その結果、縄文土器早期中葉～晩期末葉までを計9群に大別し、器形・文様に従って細別を行った。その上で、今回の出土状況に照らして出土土器群の様相を表す。

#### (a) 各土器群の内容

##### 第I群 縄文時代早期中葉（大寺式・鳥木沢式相当）

北区Ⅲd層（北47～49層）から出土した土器を主体としており、縄文時代早期中葉に比定されるものである。出土量は極僅かに留まるため、すべて掲載した。全形を推し量れる資料はなく、破片資料のみである。

資料は62・66・68・69のように貝殻腹縁移動波状圧痕文のみが施文されるものと57・61・70・259・348のように貝殻腹縁による斜線文や区画文、貝殻押引による沈線文が施文されるものがある。器形を類推できる資料はほとんどないが、いずれも器種は深鉢で259のようにキャリバー形をするもの含み、同期の傾向から尖底を呈すると考えられる。破片資料であるが、前者は大寺式相当、後者は鳥木沢式相当に比定される（神原2009）。

##### 第II群 縄文時代前期初頭～前葉（大木1～2a式・早畠田6C類相当）

北区Ⅲd層（北47～49層）から出土した土器を主体としており、縄文時代前期初頭～前葉に比定されるものである。出土量は極僅かに留まるため、すべて掲載した。破片資料のみである。いずれも器種は深鉢、大半は平底と思われるが、64のように尖底を思わせる器形もある。

資料は閉端環付（ループ文）を施文する60・171や結束なしの羽状縄文を施文する287、単軸絡条体第3類を施文する54、組縄縄文を施文する55・64などがある。大半の土器胎土には植物性纖維の混入が顕著に認められる。破片資料であるが、60・67・171・287は大木1式相当、54・187は大木2a式相当、55・64は早畠田6C類相当に比定される。

##### 第III群 縄文時代後期初頭（門前式相当）

北区Ⅲc層やⅢb層下位、南区Ⅲb層下位（北45～46層・南3層下位）を主体としており、縄文時代後期初頭に比定されるものである。出土量は少量で、破片資料が多い。全形を類推できる資料は数点である。器種はいずれも深鉢で、直立する器形が多く、大型のものも含まれる。文様が理解しやすい口縁部破片を中心に掲載した。

資料は86・125・131・345・240・332・8のように大波状縁に4単位の中空突起や山形突起を付するもの、314のように平縁の口縁が折り返されるもの、63・244のように平縁の複合口縁を呈するもの、29・80のように平縁を呈するものなどがある。279は波状縁と思われ、二段口縁であることから突起を付属すると考えられる。文様はボタン状貼付と連鎖状隆線、縱位蛇行隆線を主として、沈線文が描かれるものが大半であるが、279のように指頭による横位列点が施文されるものもある。文様展開が

不明な破片資料がほとんどであることから、一概に言えないが上記の文様要素を持つことから、門前式第2段階（稻村2009）に相当すると考えられる。

#### 第IV群 縄文時代後期前葉（十腰内I式（新～最新）相当）

北区・南区Ⅲb層（北42～44層・南3層）を主体としており、縄文時代後期前葉に比定されるものである。出土量は極少量で、73・81以外は破片資料である。器種は深鉢・鉢・壺が認められる。深鉢は全体を把握できる資料はないため、主に口縁の形状に着目すると、波状縁と平縁に分けられる。波状縁は大半が刷上半に最大径があり、頸部で括れ、口縁部が開く器形を呈しており、236のみが直立する口縁形状である。平縁は頸部が括れるもの（28）と直立するもの（173）に分けられる。文様は円形区画を（ ）状の短沈線で挟むもの（162）、胴部文様のネガ部分が細かく分断されるものの（255）やクランク文を施文するもの（108・245）、刺突を充填するもの（72・172・173・360）、多重沈線を施文するもの（236）がある。鉢は平縁で口縁部に最大径があり、多重沈線と刺突充填が施される73、壺は波形突起と斜線及び横線の多重沈線（一部押引）が施される81、横位連続弧線文が施される380がある。東北地方中部における後期前葉土器を扱った金子の一連の論考に依れば（金子1995・1996・1999）、162や255のような特徴を持つ土器は十腰内I式（新）相当、それ以外は十腰内I式（最新）相当と捉えられる。

#### 第V群 縄文時代後期中葉（新山権現社2～3式相当）

北区Ⅲb層中～下位（北43～44層）、南区Ⅲb層（南3層）を主体としており、縄文時代後期中葉に比定されるものである。

出土量は最も多く、全体の4～5割程度を占める。器種は深鉢（精製・粗製）・鉢・浅鉢・台付深鉢・台付浅鉢・台付鉢・壺・單孔上器がある。

深鉢（精製）は器形から計6類に細分される。深鉢A類は波状口縁の波頂部に大形突起を有するもので、84・85・93～95・97・98・101～104・107・112・124・179・180・188・231・232・247・256・267・268・285・306～308・375などが該当する。中空の大形突起は円形や橢円形の突起下に左右に張り出す翼状の貼付を行ったもので、根元部分が筒状を成している。突起は大波状口縁の波頂部に取り付けられるが、3単位のものが大半であると思われる。波底部には鶴冠状の綫長の厚い突起を持つ。突起は左傾・右傾のいずれかであるが、左傾するものが多い。器形は底部から口縁にかけて大きく外反するものが多く、底部付近は285や307、375のように外に張り出すと考えられる。102・306・308のように口縁部と胴部文様帯の間に段差を持つものが多く、口縁部は無文帯となり、胴部文様帯は地文の上に平行沈線文を基本とする入組文（曲線帶状文）や継位蛇行沈線などを施文する。これより下位は地文かナデなどの無文となる。

深鉢B類は口縁部が大きく開き、波状口縁を呈するもので、2・7・153・174・192・238・248・250・252・258・263・283・295・312・315・369・376・381などがある。文様構成により6細分する。B1類は口端に刻目帯が施文されるもので、2・7・238・252・283・295・315などがある。刻目帯は多くが一列であるが、7のよう二列のものもある。315は台形状突起の上端に刻目を施すものである。これらは口縁部文様帯に広い無文帯を有している。B2類は胴部文様帯のみに文様が限られるもので、312・369がある。312は地文の上に7条の横位平行沈線を4条の綫位平行沈線で区切るものである。B3類は斜線文を施文するもので、153や174が該当する。153は口縁部文様帯に広い無文帯を有するもの、174は肥厚する口縁に刻目帯が施される。B4類は曲線帶状文を施すもので、192が

ある。5単位と思われる大波状口縁を呈し、口縁部は無文帯となる。B 5類は段違いの弧線を反転するもので、248・250・263・381がある。248・250は口縁部と胴部文様帶の間に段差がある器形で口縁部は無文帯、381は胴部文様帶が無文帯となる。B 6類は磨り消しを伴う横位平行沈線を施すもので、258・376がある。258は口縁部と胴部文様帶の間に段差がある器形で口縁部は無文帯、376も口縁部文様帶に広い無文帯を有するものである。

深鉢C類は平縁を呈し、外傾しながら立ち上がるるもので、10・13・14・56・59・71・91・106・127・161・168・191・282・284・288・296・311・321・344・358などがある。文様構成により9細分する。C 1類はS字状入組文を施すもので、191・288・344がある。C 2類は曲線帶状文を施すもので、168がある。C 3類は横位平行沈線・段違いの弧線で反転するもので、106がある。口縁部は無文帯、胴部は地文を施した後、沈線で文様帶を構成する。C 4類は磨り消しを伴う帶状文を施すもので、10・127がある。C 5類は櫛齒状の沈線文を施すもので、13・14・71・282・284がある。13・14は胴部は縦、口縁部は横に沈線を施すもので、284は沈線を縦位波状に施すものである。これらは本来ならば粗製深鉢に含まれるが、文様となるものも認められるためここに分類した。C 6類は斜線文を施すもので、56・161・296・321がある。56・161は口縁部に無文帯を持つもので、56は口縁部と胴部文様帶の間に段差がある器形である。296は胴上半部破片で斜線文の上に平行沈線間に列点を施すもの、321は横位平行沈線の下に磨り消しを伴う斜線文が施文される。C 7類は横位平行沈線を縦位沈線で区切るもので、59がある。深鉢C類に入れたが深鉢B類の可能性もある。5本の横位平行沈線を2本の縦位平行沈線で区切っており、胴部は無文帯となる。C 8類は横位平行沈線を施文するもので、311がある。311は口縁部と胴部文様帶の間に段差がある器形で、口縁部は無文帯となる。C 9類は横位区画沈線を施文するもので、91・358がある。破片であるため、全形が明らかでないがC 1やC 2類に入る可能性もある。

深鉢D類は平縁を呈し、胴中央に最大幅があるもので、105・286がある。105は胴下半のみであるが類例から推定される。105は曲線帶状文を施すもので、繩文が充填される。286は平行沈線間に刻目を有するもので、口縁部に二段の刻目帯があり、胴部は弧線文や磨消繩文を用いて弧線連結文が描かれている。

深鉢E類は胴上半に屈曲部を持つもので、251がある。横位平行沈線間に充填繩文し、帯状文をなし、胴部は区画沈線文（幾何学文か）を施している。

浅鉢と思われるものは163である。163は口縁部と胴部文様帶の間に段差がある器形で、口縁部は無文帯となる。胴部に横位平行沈線を段違いの弧線で反転する文様帶を構成する。378は台付浅鉢と思われるもので、台部を欠いている。183は台付鉢と思われる器形で台部のみ。379はS字状入組文が施される台付浅鉢と思われるもので、台部は欠損しているため不明だが蓋の可能性もある。

鉢は器形から2分類される。鉢A類は口縁部に最大径があり、緩やかに立ち上がるもので、132がある。横位平行沈線に連続刻突が充填される。鉢B類は胴上半に最大径があり、口縁部が短く外反するもので、165がある。165は頭部に沈線が引かれる以外は地文である。

壺は器形から2分類される。壺A類は胴上半に最大径があり、口縁部が長いもので、83・233・257がある。いずれも破片資料のため推定であるが、257は器形から單孔土器の可能性もある。83は胴部に弧線文・菱形文を連続して施文している。233は口縁～頸部のみの資料で、沈線を境に口縁部は地文、頸部までは無文帯となる。壺B類は口縁部が内傾するもので、3・326がある。3は耳状突起に刻目が施されるもの、326は貼付口縁に刻目が施されるものである。

單孔土器は38・270・320がある。270は筒形を呈する器形で、入組帶状文が施文される。38と

270は出土点が近く同一個体の可能性もある。320は頸部に沈線に沿う刻目帯、38は弧線文が施される。穿孔はいずれも焼成前に行われている。

本群と同様の土器を出土している遺跡として、岩手県平泉町新山権現社遺跡Ⅲ群2～3類土器、宮城県田柄貝塚Ⅲ群上器、岩手県北上市八天遺跡第Ⅳ群土器、岩手県零石町蔵内遺跡などがある。

#### 第VI群 繩文時代後期後葉（瘤付土器第I～IV段階相当）

北区Ⅲa～Ⅲb層中位（北41層及び42～43層）、南区Ⅲa～Ⅲb層上位（南2層及び3層上位）を主体としており、繩文時代後期後葉に比定されるものである。出土量は少なく、全体の1割弱である。器種は深鉢（精製・粗製）、鉢・台付浅鉢・壺・注口・香炉？がある。深鉢は全形が分かれる資料は少なく破片資料中心であるため、突起の有無・特徴的な文様などで5細分した。

深鉢A類は大波状・波状口縁を呈するもので、12・46・128・130・159・181・221・280・281がある。該期の精製土器は口頸部が直上した器形や頸胴部界が屈曲した器形に大別されるため（小林2008）、ここに分類したものも屈曲部を持つ可能性がある。130・159・181・221は二又状突起（親指状突起）を有するもので肥厚した口縁部となる。181・221は瘤状小突起を貼り付けている。

深鉢B類は平縁で胴上半に屈曲部を持つもので、87・110・152がある。いずれも口端に二又状突起を有するもので、110・152は器面に瘤状小突起が付される。入組風帶状文や弧線文が施文される。

深鉢C類は平縁で底部から口縁部にかけて緩やかに立ち上がるもので、109がある。横位平行沈線による区画の間に入組帶状文を施すもので、沈線が三爻文となるが副次的である。

深鉢D類は平縁で平行沈線間に連続刺突を施すもので、111・352がある。いずれも入組帶状文で111は瘤状小突起が付される。

深鉢E類は平縁で平行沈線間に刻目を施すもので、219は刺突のある瘤状小突起を有する。

壺は189・373がある。373は外面の頸部と胴部の境界までと内面の頸部に赤色並彩が行われている。鉢は342があり、菱形文に耳状突起や瘤状小突起が付される。113の台付浅鉢は口端に二又状突起、文様に入組風弧線文が施文される。注口は100・207・305があり、100は注口部を欠いているが器形から分類した。沈線による入組文と瘤状小突起が施される。頸部と胴部の間に欠損があり、黒色粘着物により補修がされている。香炉？は突起のみで器種及び時期に間違があるかもしれない。

小林の一連の論考に依れば（小林1999・2008）、第I段階（古）に12・46・113・128・189・280・281、第I段階（新）に100・110・130・152・159・181・207・221・305、第II段階に342、第III段階に111・219・352、第IV段階に109が当て嵌まる。

#### 第V～VI群 繩文時代後期中～後葉粗製深鉢

第V群及び第VI群の精製土器とともに該期に比定されると思われる粗製深鉢が出土しており、器形からA～C類に大別される。

深鉢A類は平縁で外傾しながら緩やかに立ち上がるもので、11・32・39・40・43・58・74・75・88・116・275・310・313・317・323・325・331などがある。大半は横位の異方向繩文が施文されているが、323や325のように縱位となるものもある。

深鉢B類は平縁で胴上半に最大径を持ち、口縁が内湾するもので242・374がある。いずれも異方向繩文が施文される。

深鉢C類は平縁で口縁部に最大径を持ち、直線的に聞くもので、377がある。この器形は該期に特徴的なものと思われる。

#### 第VII群 繩文時代晚期前葉（大洞B C式相当）

南区III a層～III b層上位（南2層及び3層上位）を主体として出土しており、縩文時代晚期前葉に比定されるものである。出土量は少量に留まる。器種は深鉢・鉢・浅鉢・台付鉢・注口がある。

深鉢は237・271・359がある。いずれも口縁部文様帶に沈線文が施文される。浅鉢は6・122・190・322・338がある。6・190は突起部のみであるため、他器種の可能性もある。6・190は珊瑚状突起、122はC字モチーフの雲形文、322はK字モチーフの雲形文を施文する。

鉢は器形から計2類に細分される。鉢A類は底部から口縁部にかけて緩やかに立ち上がるもので、9・298・316・350がある。9は右傾の咬み合わない羊齒状文（羊齒状文2類）、他は右傾して咬み合う羊齒状文（羊齒状文1類）が施文される。鉢B類は最大径が胴上半にあり、頸部でいったん窄まるもので、274・349がある。274は右傾する咬み合わない羊齒状文（羊齒状文2類）、349は左傾する咬み合わない羊齒状文（羊齒状文2類）が施される。349は直線的な羊齒状文となる。370は台付鉢と思われる。小林の指摘する文様の繁縝化が顕著なC字文（C字文1類）が施文され（小林2005）、咬合部は反転・棘状陰刻は連結する文様を構成する。注口は234・246・299・355・372があり、いずれも破片資料である。234・246は窄まった頭部から口縁部が開く器形で、234は弯曲しC字文が施される。299は内傾しながらそのまま立ち上がる器形で、二溝間の截痕列の間に三叉文・羊齒状文が施文される。355・372は注口部のみであるため詳細は不明、他時期かもしれない。

#### 第VIII群 繩文時代晚期中葉（大洞C 1～2式相当）

北区III a層・III b層上～中位（北41層及び42～43層）、南区III a層・III b層上位（南2層及び3層上位）・3号堅穴住居跡・2号埋設土器を主体として出土しており、縩文時代晚期中葉に比定されるものである。出土量は晩期に比定されるものでは最も多く、III a層出土土器の大半を占める。全体量からは2割程度と思われる。器種は深鉢・鉢・台付鉢・浅鉢・壺・注口がある。

深鉢は器形から計2類に細分される。深鉢A類は胴上半に最大径があり、頸部に括れを持つもので、42・76・90・117～120・140・147～150・166・210・217・253・302がある。口縁部文様帶からさらに3細分される。A 1類は口端部に指頭押圧、頸部に数条の横沈線を施すもので、42・147・253・302がある。42は8号埋設土器で、小波状の口縁部に短沈線と4本の横位平行沈線を施している。その他は半縁に刻目、6～8本の横位平行沈線を配しており、「九年橋型深鉢」と捉えられる（藤村1987）。A 2類は口端部に刻み、上下に横位平行沈線を施し無文帯を配するもので、118・120・140・166がある。89は頸部と胴部の境界に横位平行沈線2本を引く。A 3類は口端部に指頭押圧、頸部を無文帯とするもので、76・117・119・148～150・210・217がある。深鉢B類は口縁部が内窓し、緩やかに立ち上がる器形で、196がある。粗製であるがここに含めた。

鉢は器形から計5類に細分される。鉢A類は口縁部が内窓し、緩やかに立ち上がるもので、31・176・178がある。176・178は口縁部に截痕列を施文されるもの、31は胴部にC字状モチーフの雲形文が施される。鉢B類は緩やかに立ち上がり、口縁部は直立するもので、218・220・223・269・340がある。220は渦巻状の雲形文、340はC字状モチーフの雲形文が施文される。269は截痕列を伴う。鉢C類は胴上半に最大径があり、頸部で一旦窄まり、頸部から口縁部にかけて直立するもので、121・126・141・145・154・222・224・318などがある。いずれも平行沈線間に截痕列を施すものや沈線底に刺突列を施すもので構成される。鉢D類は頸部で内屈曲し、口縁が外反するもので、158・330・337がある。いずれも山形突起やB突起を有するもので、口縁部文様帶のみに施文され、胴部

は地文となる。158 は平行沈線に溝底の刺突列、330・337 は途切れる沈線と匹字文が施文される。鉢 E 類は頭部に最大径があり、頭部が「く」の字状に屈曲するもので、142・146・194・197・227 などがある。文様は脇部文様帯まで描かれ、142・194 は大腿骨文、197・227 に C 字状モチーフの雲形文、146 に平行沈線化した雲形文が施文される。

台付鉢は 36・177・214・249 がある。全形を捉えられるのは 36 のみで、完形の 2 号埋設土器である。平縁で、口端に B 突起を有し、截痕列・大腿骨文が施文される。

浅鉢は器形から計 2 類に細分される。浅鉢 A 類は外傾しながら緩やかに立ち上がるもので、151・156・157・167・169・200・216・371 などがある。157・167・371 がやや大形、200 は小形。文様は 156 が大腿骨文、その他は C 字状モチーフの雲形文が施文される。浅鉢 B 類は器高が小さく、皿形を呈するもので、273・353 がある。353 は梢円形の平面形を呈するもので、二溝間の截痕列と X 字状モチーフの雲形文が施文される。

壺は器形から 3 分類されるが、全形を把握できる資料は少ない。壺 A 類は最大径が胴上半にあり、窄まった頭部から口縁部が聞くもので、1 がある。3 号竪穴住居跡から出土した 1 は、頭部の平行沈線間に截痕列、脇部に草花入組文による雲形文が施文される。壺 B 類は最大径が胴上半にあり、頭部から口縁部にかけて直立するもので、136 がある。壺 C 類は最大径が胴中央にあり、頭部から口縁部にかけて内傾するもので、215 がある。また、96・205・301 のように該期と考えられる胴上半に最大径を持つ器形がある。

注口は器形から 2 分類される。注口 A 類は窄まった頭部から口縁部が聞くもので、351 がある。C 字文や X 字状浮文が施される。注口 B 類は頭部から口縁部にかけて内傾しながら直立するもので、155・206・354 などがある。155 には鉢巻状雲形文、354 は C 字状モチーフの雲形文が施文される。

#### 第Ⅸ群 繩文時代晩期後～末葉（大洞 A～A' 式相当）

北区・南区とともにⅢ a 層（北 41 層・南 2 層）を主体としており、繩文時代晩期後～末葉に比定されるものである。出土量は極少量。器種は確認できたもので、鉢・浅鉢・壺がある。

鉢は器形から 3 分類される。鉢 A 類は頭部が最大径となり、頭部に匹字文などの隆帯が廻るもので、212・230・339 などがある。いずれも口端に二叉状や台形状突起が 1 個付き、脇部には工字文が施文される。鉢 B 類は胴上半に最大径があり、口縁部が内湾するもので、211 がある。口縁部に工字文が施される。鉢 C 類は口縁部に最大径があり、口縁部が直立するもので、324 がある。口縁部に工字文・匹字文が配される。

浅鉢は器形から 4 分類される。浅鉢 A 類は口縁部が最大径となり、口縁部文様帯に平行沈線が施文されるもので、300 がある。浅鉢 B 類は口縁部が最大径となり、脇部文様帯に工字文が施文されるもので、143・341 がある。浅鉢 C 類は最大径が頭部にあり、脇部文様帯に変形工字文が施文されるもので、175・208・209 がある。いずれも 2 個一対の粘土粒が貼り付けられる。

壺は器形から 3 分類される。壺 A 類は胴上半に最大径があり、頭部から直立するもので、144 がある。脇部に工字文が施文される。壺 B 類は胴中央に最大径があり、頭部が短いもので、203 がある。壺 C 類は胴中央に最大径があり、底部に脚が付くもので、202・226・228 がある。器形が把握できるのは 202 だけであるが、算盤形を呈し、工字文が施文される。

#### (b) 出土状況と大別層での構成

今回の調査では北区遺物包含層 135m と南区遺物包含層 455m が確認された。この包含層は前述し

た通り、市道に分断されているが本来は一連の遺物包含層であると考えられる。北区では大別4層・細別9層、南区では大別2層・細別3層に分けられ、大別上位2層に関してはほぼ同じ様相を呈していると考えられる。

ここでは、前項で示した各群土器の出土状況と大別層に見られる共伴関係を示す。大別層は両区で共通して確認されたⅢa・Ⅲb層と、北区のみで確認されたⅢc・Ⅲd層の計4層について述べる。

Ⅲa層は北41層・南2層で確認されている（第15・16図）。土色は黒褐色～黒色、5～10cmの大の礫を含む。礫の含有は南から北に向かって増加する傾向にあり、標高の低い方向に拡がっている。層厚は10～30cm。層位は近現代の影響を多分に受けており攪乱が著しく、4B21～25から6A25・6B21～25・6C21～24の間や8B4・5、8B8～10・13などは存在しない（5A～C区は市道分で調査区外）。

本層位出土土器はⅦ～IX群土器を主体としている。Ⅶ・IX群土器は両区で認められるが、Ⅶ群土器は概ね南区を主体として確認されている。Ⅶ群は深鉢・鉢・浅鉢・台付鉢・注口があり、鉢から咬み合わない羊齒状文や截痕列が主文様となる。Ⅸ群は深鉢・鉢・台付鉢・浅鉢・壺・注口と器種組成に幅があり、鉢が多い。文様はC字状モチーフの雲形文が浅鉢に見られ、大脛骨文・截痕列が鉢に多く認められる。IX群は鉢・浅鉢・壺があり、鉢・浅鉢が主体を占める。匹字文・工字文・変形工字文が主文様となる。

層厚が薄い本層位には、計3群の土器群が一括して出土しており、明確な上下関係は確認できなかった。ただし、Ⅶ群土器のみが南区から見つかっていることから、土器群によって形成された箇所が異なる傾向が認められた。

Ⅲb層は北42～44層・南3層で確認されている。土色は黒褐色、下部に至る程5～30cmの大の礫を多量に含んでいる。南から北に向かう程、礫サイズが大きくなる傾向にある。層厚は南区が10～30cm、北区が50～80cmで今調査包含層の主体をなす。北区は大きく42層をⅢb層上位、43層をⅢb層中位、44層をⅢb層下位と捉えている。

本層位出土土器はIV～VI群土器を主体としている。IV群土器は層全体から極少量出土しているがⅢb層下位中心で、大半が破片資料である。器種は深鉢・鉢・壺が認められる。文様は円形区画を（）状の短沈線で挟むものやクランク文を施文するもの、刺突を充填するものなどがある。V群土器は北区Ⅲb層中～下位、南区Ⅲb層から出土しており、全体で出土量が最も多い。器種は深鉢・鉢・浅鉢・台付深鉢・台付浅鉢・台付鉢・壺・単孔土器がある。深鉢が最も多く、大形突起を有するものが目立つ。深鉢は計5類に細分され、主文様の描き方により斜線文や横位平行沈線、段違いの弧線、入組文などに分けられる。特徴的な単孔土器も少數ながら認められ、入組帶状文などが描かれる。VI群土器は北区Ⅲa～Ⅲb層中位、南区Ⅲa～Ⅲb層上位を中心確認されており、北区Ⅲa層についてはⅦ・IX群土器との混在する状況が認められた。南区も同様で、主にⅢa層ではⅦ～IX群土器と混在している。出土量は全体の1割弱に留まるため、多くない。器種は深鉢・鉢・台付浅鉢・壺・注口・香炉？があり、深鉢が中心となる。深鉢は形状から計5類に分けられるが、突起を有し波状口縁を呈するものが目立つ。瘤狀小突起の有無も特徴のひとつとなる。また、V～VI群土器には粗製深鉢が多く認められるが、層位的に重複する部分が多いため、分離できない。

Ⅲc層は北45～46層で確認されている。土色は暗褐色、土性は粘土質で、層厚は10～30cmである。遺物量はⅢb層に比べて極端に落ち込み少なくなる。本層位出土土器はⅢ群土器を主体としている。出土量は少量で、破片資料が中心である。器種はすべて深鉢で、突起を有するもの、平縁を呈するものなどがある。

Ⅲ d 層は北 47 ~ 49 層で確認されている。土色は黒褐色~黒色、土性は粘土~粘土質で、5 ~ 10cm 大の礫を多量に含んでいる。層厚は 30 ~ 60cm である。遺物量は計 4 層で最も少なく、すべて破片資料である。器種はいずれも深鉢で、I 群及び II 群土器を主体としている。I 群土器は貝殻文を施文するもので、貝殻腹縁移動波状圧痕文のみ施文されるものと貝殻腹縁による斜線文や区画文、貝殻押引による沈線文が施文されるものがある。II 群土器はループ文を施文するものや、結束なしの羽状縄文を施すもの、組繩縄文を施すものなどがある。

#### (c) 出土土器底部の網代痕跡

今回の調査で出土した土器のうち、底部を残存するものは全体で 2,144 個体ある。このうち、底面に網代痕跡が認められるのは 98 個体で、すべてを掲載した。大半が深鉢の底部である。

内訳は、ござ目組み（1 本とび 1 本すくい）17 点、とび網代（1 本とび 2 本すくい）65 点、ござ目組み（1 本とび 1 本すくい）+ とび網代（1 本とび 2 本すくい）1 点、2 本寄せのとび網代（1 本とび 2 本すくい）1 点、2 本とび網代（2 本とび 2 本すくい）3 点、2 本寄せの 2 本とび網代（2 本とび 2 本すくい）1 点、麻の葉崩し組み 11 点、不明 2 点である（大分県別府産業工芸試験所 1991）。

種類ごとに出土位置・層位を観察すると、最も多いとび網代（1 本とび 2 本すくい）と次ぐござ目組み（1 本とび 1 本すくい）は南・北遺物包含層いずれでも出土しており、出土層位もⅢ a ~ Ⅲ d 層に散在して認められる。麻の葉崩し組みはⅢ b 層中～下位を中心に出土しており、縄文時代後期を主体としている。その他は出土数が少ないため、傾向は示せないがⅢ b 層に集中して見られる。

報告者は以前、県内出土土器底部を報告書から観察し傾向を示した（北田・平野 2007）。その際、最も多かったのはござ目組み（1 本とび 1 本すくい）、次いでとび網代（1 本とび 2 本すくい）である。今回の出土土器に照合すると、とび網代（1 本とび 2 本すくい）が最多となる点で傾向と異なるが、概ね踏襲されるものと思われる。麻の葉崩し組みは縄文時代前期初期～中期前葉期に限定されるものと捉えていたが、後期包含層から出土したことにより幅広い時期に使用された編成法であることが確認された。

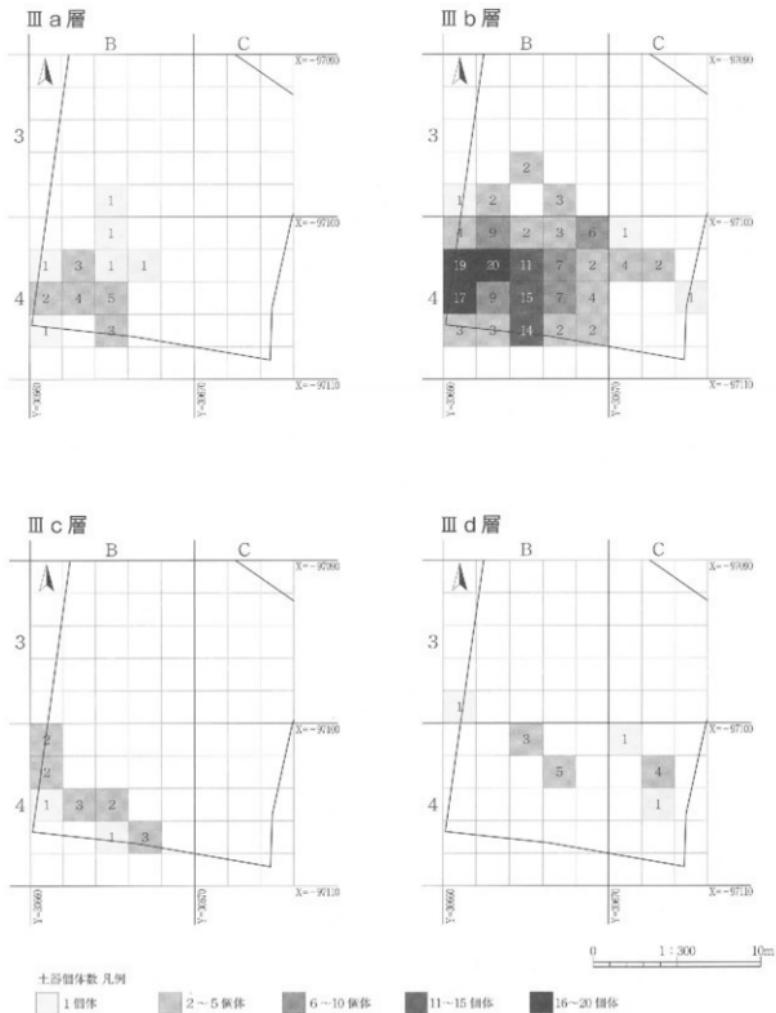
#### (d) 土器個体数と分布

今回の調査で出土した土器底部の総数は、合計 2,144 点である。これは、接合作業を行い、接合する底部破片は接着し、同一個体と思われる破片はダブルカウントせず算出した合計数である。このうち、全体の 1/2 以上を残存している底部を 1 個体とすると 475 点となる。内訳は、北区遺物包含層 256/1,021 点、南区遺物包含層 127/764 点、遺構内 92/359 点。

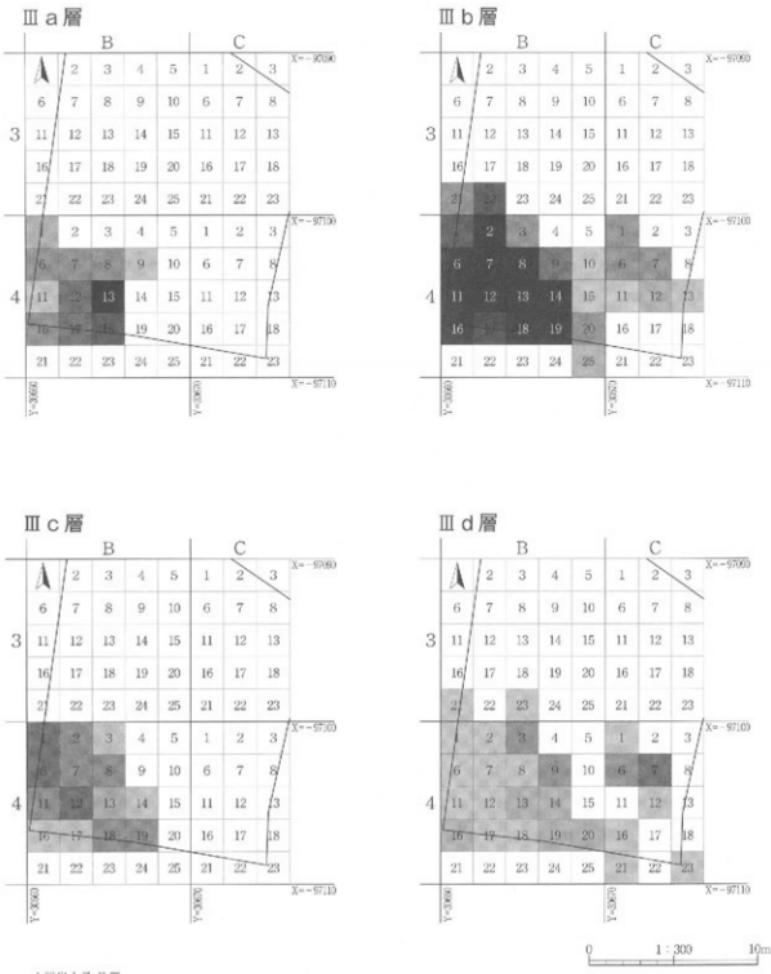
第 78 ~ 81 図は北区及び南区遺物包含層の土器個体数分布と土器出土量分布を層位ごとに示した図である。個体数分布については、1/2 以上残存する底部を 1 個体としてカウントしている。

北区遺物包含層はⅢ a 層 23 点、Ⅲ b 層 175 点、Ⅲ c 層 14 点、Ⅲ d 層 15 点認められ、Ⅲ b 層の出土量が最も多い。分布を見ると、Ⅲ a・c 層は 4 B 12・13 付近、Ⅲ b 層は 4 B 6 ~ 8・11 ~ 13・18 付近にピークが認められ、Ⅲ d 層は斜面に散在する。Ⅲ b 層は特に多く、4 B 7 は 20 点、4 B 6 は 6 点、4 B 11 は 17 点、4 B 13 は 15 点、4 B 18 は 14 点、4 B 8 は 11 点と 10 点を超えるグリッドが集中している。土器出土量分布はさらに顕著であり、Ⅲ a 層は 4 B 13 が 10kg を超え、ピークとなる。Ⅲ b 層は 4 B 2・6 ~ 8・11 ~ 14・16・18・19 が 10kg 以上で集中城を形成しており、斜面部に向かつて急に少なくなる。Ⅲ c・d 層は堆積時の傾斜が緩いためか粗密の差は表れず、ピークを持たない。

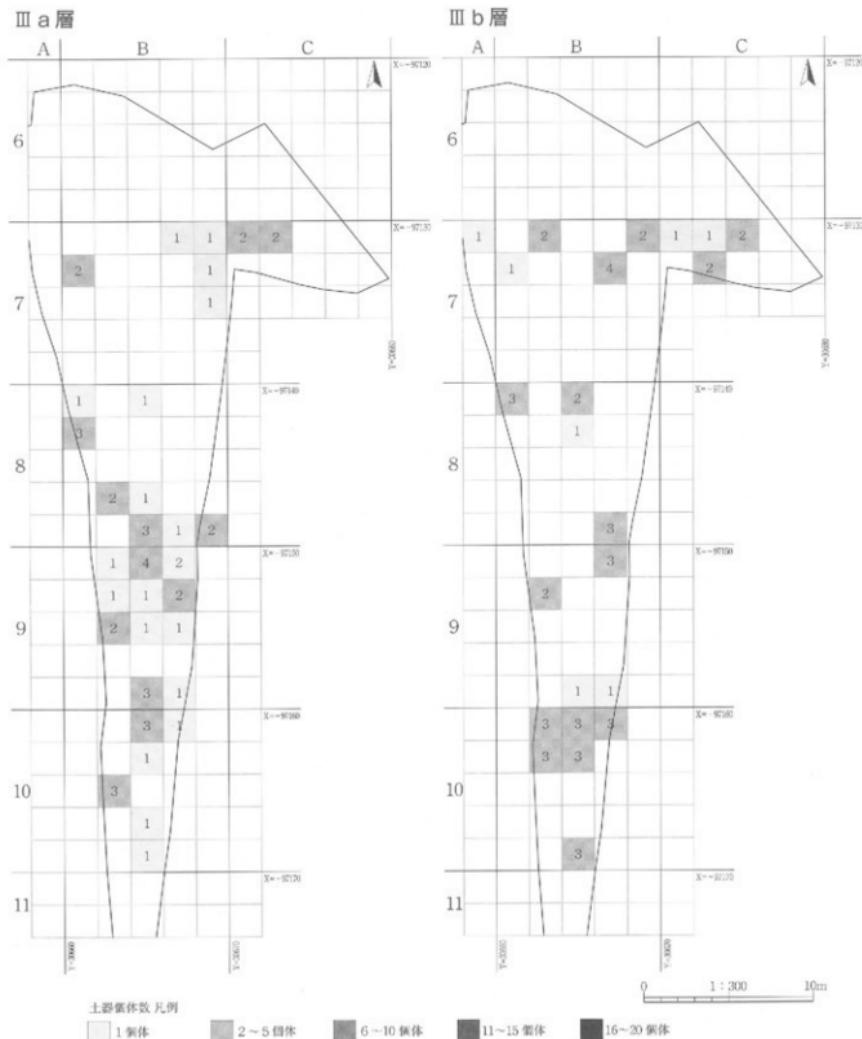
南区遺物包含層はⅢ a・b 層とも 53 点ずつ認められている。全域がほぼ平坦面に属しており、日



第78図 北区遺物包含層土器個体数分布図

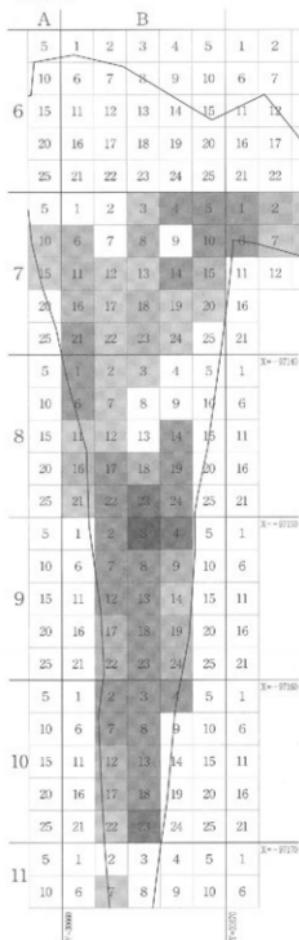


第79図 北区遺物包含層土器出土量分布図

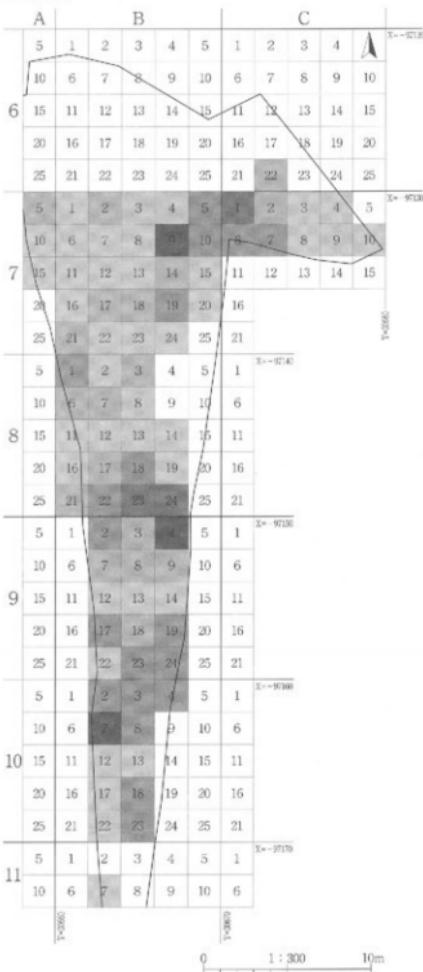


第80図 南区遺物包含層土器個体数分布図

III a層



III b層

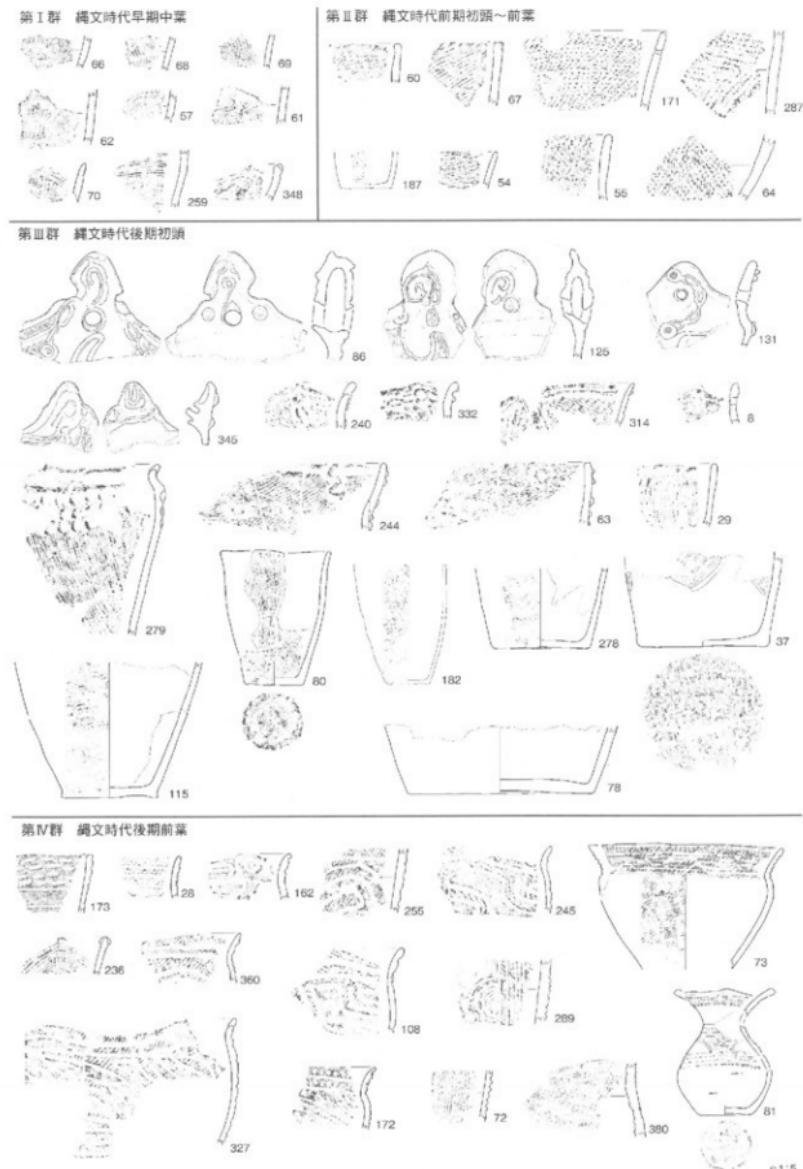


土器出土量 分類

■ 1~1000g ■ 1,001~2,000g ■ 2,001~4,000g ■ 4,001~6,000g ■ 6,001~8,000g

0 1 : 300 10m

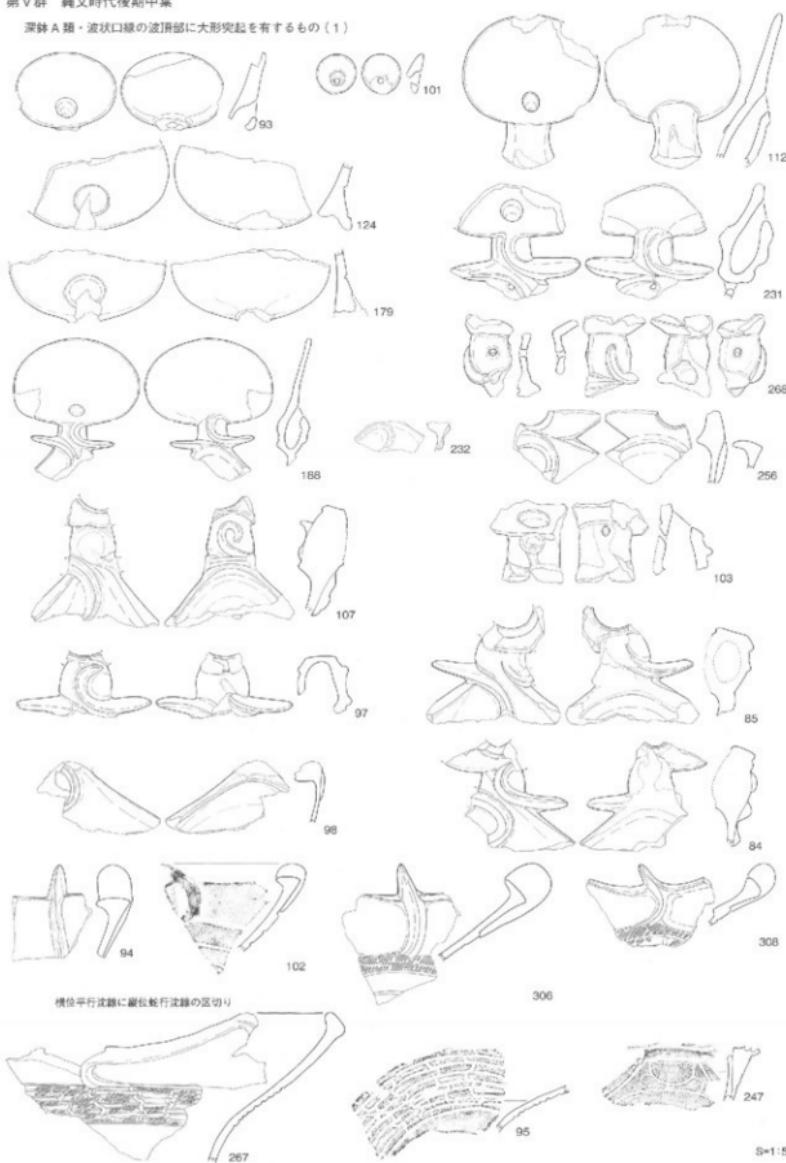
第 81 図 南区遺物包含層土器出土量分布図



第82図 土器集成図(1)

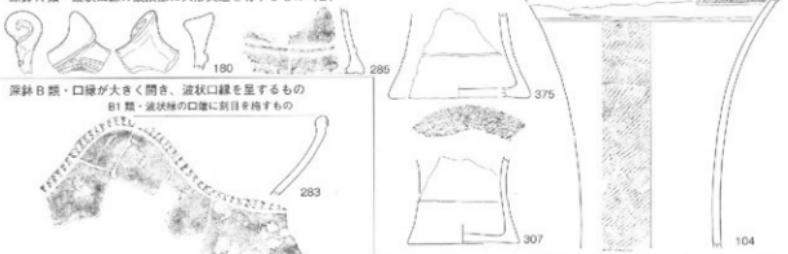
## 第V群 縄文時代後期中葉

深鉢 A種・波状口縁の波頂部に大形突起を有するもの(1)



第83図 土器集成図(2)

## 深鉢 A 類・波状口縁の波頂部に大形突起を有するもの (2)



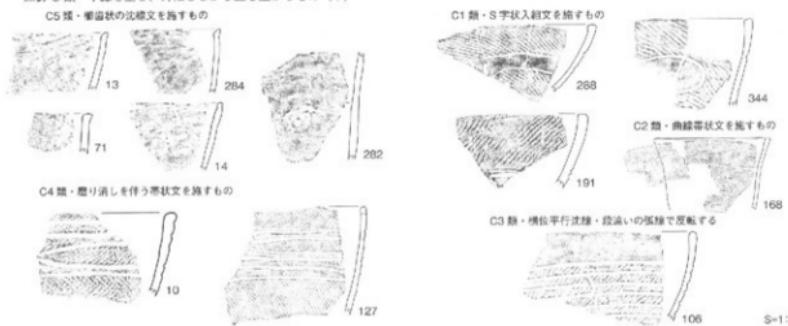
B2 類・横位平行沈線を複数平行沈線で区切る



B4 類・曲線帶状文を施すもの



## 深鉢 C 類・平縁を呈し、外縁ながら立ち上がるるもの (1)

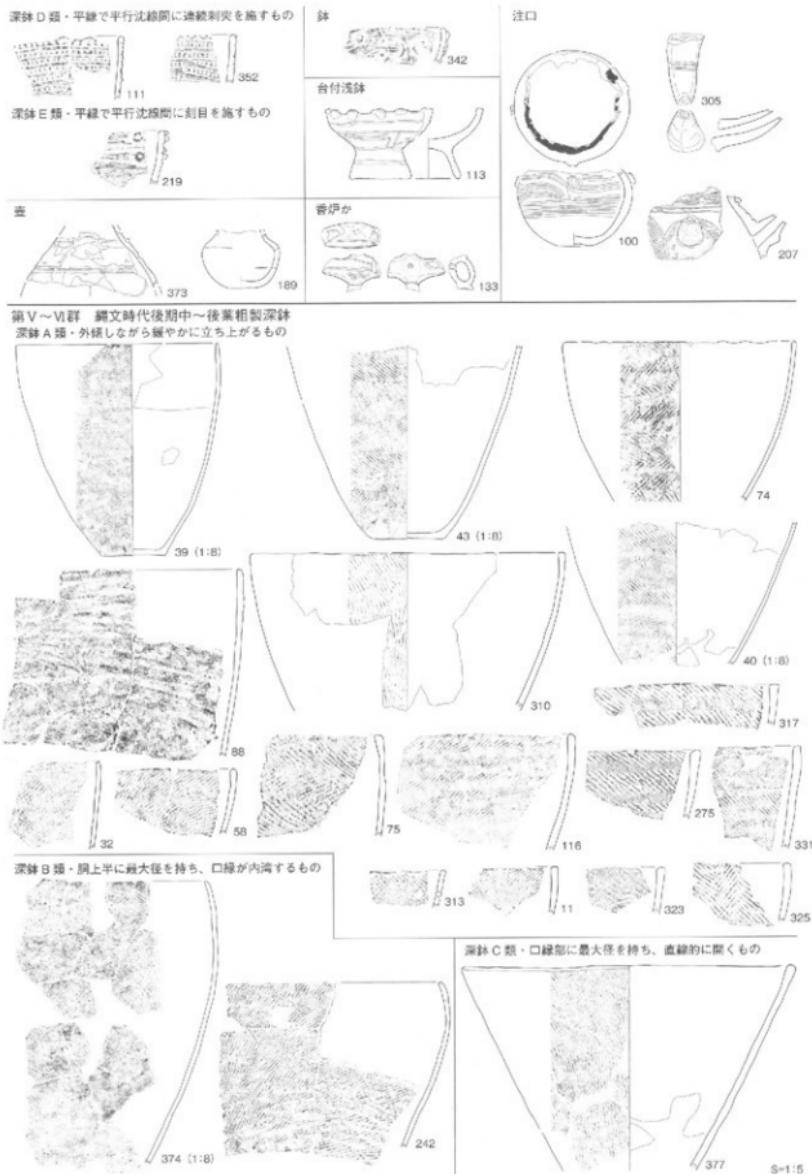


第 84 図 土器集成図 (3)

1 純文時代



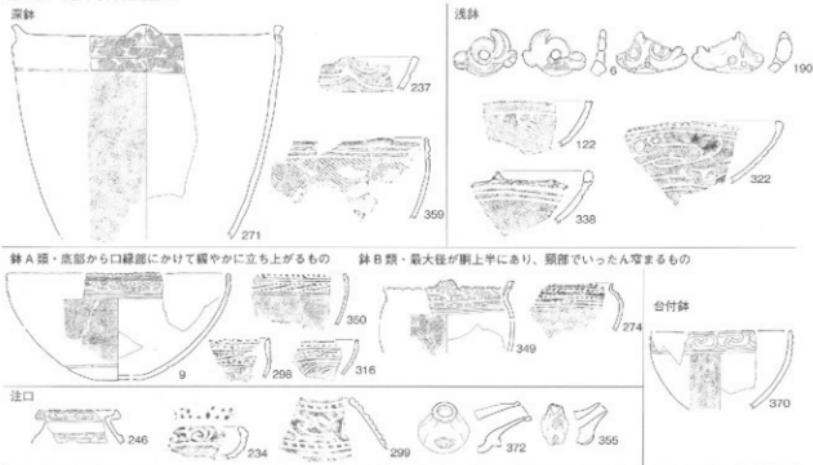
第85図 土器集成図（4）



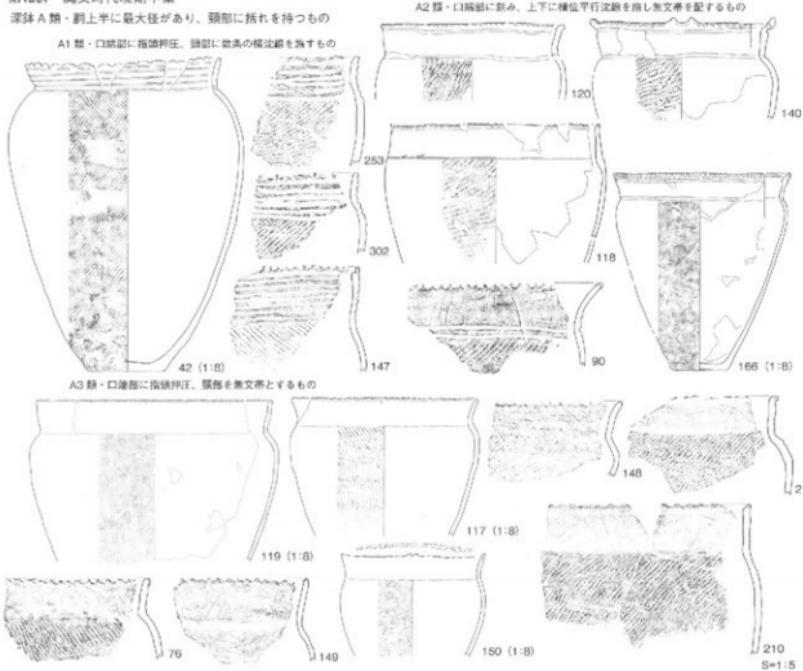
第 86 図 土器集成図 (5)

1 純文時代

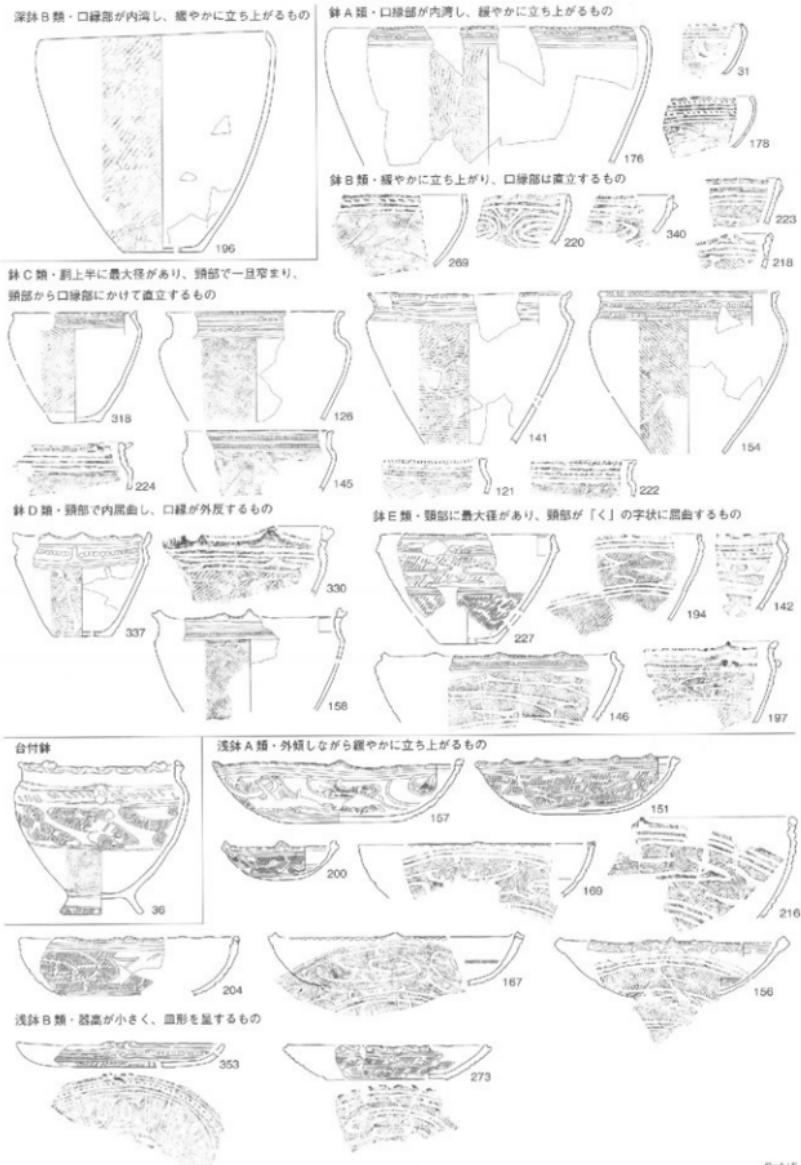
第VI群 純文時代晚期前葉



第VII群 純文時代後期中葉

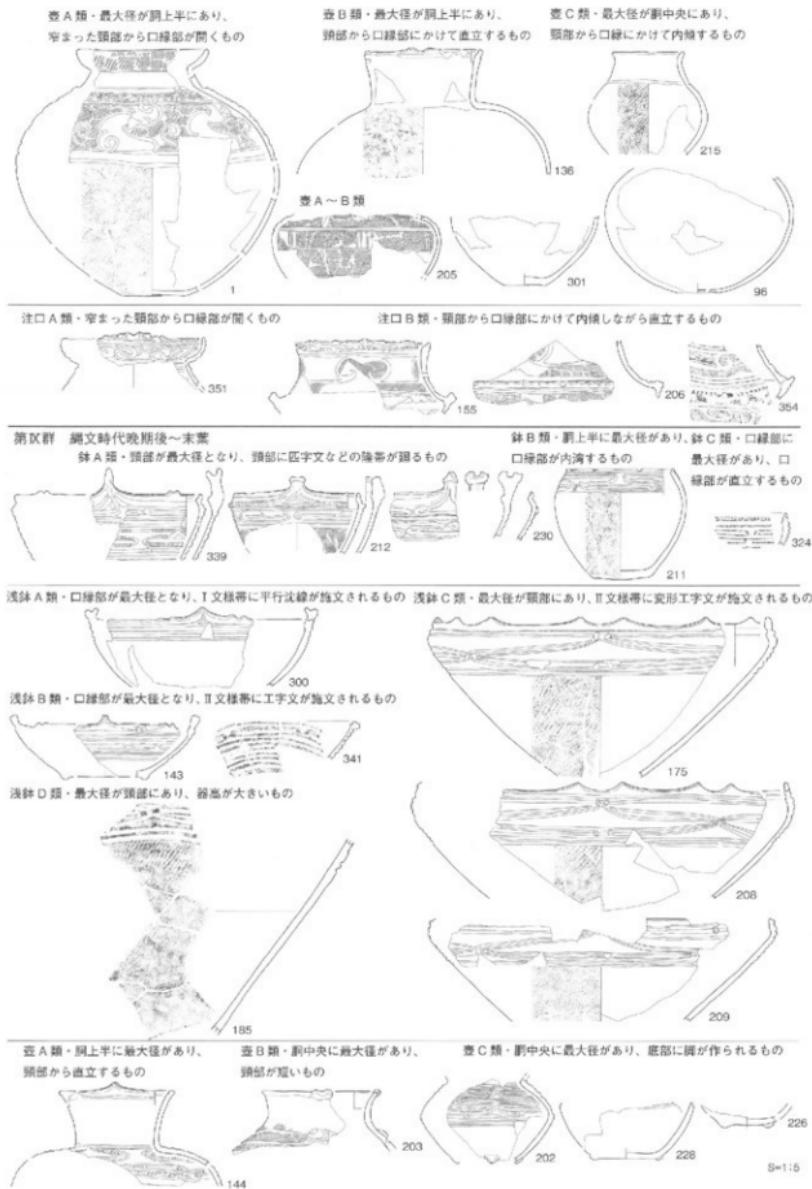


第87図 土器集成図（6）



S=1:5

第 88 図 土器集成図 (7)



第89図 土器集成図(8)

立ったピークは形成されず、全域に散在している。層位ごとに見ると、Ⅲa層は8B23や9B3付近、9B23や10B3付近に小さな集中域がある。7B11～8B11ラインは個体数が減少する。Ⅲb層は10B2～4・7・8付近にやや高まりがあるが、その他はばらつきがある。土器出土量分布は個体数に比べて分布域に差が出来づらい。

北区及び南区遺物包含層を合わせて概観すると、集中域は大田代川に下る斜面下位の北区に存在し、Ⅲb層特に顕著な分布が表される。Ⅲa層に至ると南北の高低差が少くなり、小規模な高まりしか見られなくなる。Ⅲc・d層は北区に限定されるものであり、急激に下がった斜面に部分的に堆积したものである。平坦面における密度差は入為的な廃棄行為によるものと考えられる。ほぼ斜面地の北区は一概に言えないが、斜面上方に廃棄された遺物が自然に下方へ拡がったものである。このため、斜面上方の4B1・2・6～8・11～14・16～19の土器出土量は高い数値を示している。

## B 石器

今回の調査で出土した石器総数は9,242点(141,791.12g)である。第3表に石器石材分類別組成表を示した。器種は尖頭器・石鎌・石錐・石錐・石匙・箆形石器・楔形石器・スクレイバー類・二次加工ある剥片・剥片・石核・異形石器・石斧類・礫器類・敲撲器類・砥石・石錘・石皿台石類が認められる。

成品が1,080点(72,849.42g)で全体の11.69%(重量中51.38%)、剥片・石核が8,162点(68,941.7g)で全体の88.31%(重量中48.62%)である。

成品のうち、最も多いのは石鎌296点(433.06g)で成品中27.41%(重量0.59%)、次いで二次加工ある剥片218点(2594.28g)で成品中20.19%(重量3.56%)、楔形石器72点(617.40g)で成品中6.67%(重量0.85%)と続く。成品では石鎌の出土量が突出している。

次に石材に着目すると、最も多いのは頁岩777点(12,580.78g)で成品中71.94%(重量17.27%)、次いで赤色頁岩56点(209.43g)で成品中5.19%(重量0.29%)、黒曜石41点(120.62g)で成品中3.80%(重量0.17%)である。重量で最も多いのは安山岩が28点(21,214.65g)で成品中29.12%、次いでデイサイトが28点(14,335.53g)で成品中19.68%、頁岩が777点(12,580.78g)で成品中17.27%、蛇紋岩が34点(10,267.89g)で成品中14.10%である。石材から見ると、数量的には剥片石器など小形の原石を用いるものの割合が高いが、礫石器など大形の原石を用いるものは重量が大きくなる。当然の結果と言えるが重量が大きい原石については遺跡近傍で採取している可能性が高く、重量が小さい原石についてはより良質で硬質な原石を遺跡から離れた場所から持ち込んでいると考えられる。頁岩はその両者に当てはまるが、石材不明とした剥片7,935点(60,829.38g)を報告者が肉眼観察した傾向から大半が頁岩質と認められ、これらを数量・重量比に当てはめるとどちらの觀点からも石器石材を獲得する上で最もポビュラーな素材であったと捉えることが出来る。

黒曜石については石核1点について産地同定を実施しており(V-3参照)、岩手県零石町小赤沢産の結果を得ている。また、出土黒曜石全点について明治大学文化財研究施設において蛍光X線による原産地推定を行った(V-4参照)。これによれば、測定点数202点中判別出来たのは174点。北上系A(零石・折居・花泉)166点、男鹿系(金ヶ崎・脇本)3点、月山系(田代・大越沢・長防山・上野新田)2点、深浦系(六角沢・岡崎浜)、湯ノ倉系・赤井川系(土木川)が各1点の結果が得られている。報告は岩手県立埋蔵文化財センターにて保管している。測定方法は異なるがいずれの報告においても零石町小赤沢・北上系A(零石・折居・花泉)の結果が得られており、遺跡から最も近傍の原産地であることから可能性は高い。ただし、同時期の河崎の櫛擬定地報告によれば、「零石系」は縄文人には広く認識されていなかった」とし、「理化学分析で「零石系」と判定されても、考古学

的には磐井郡方面からの供給の可能性を強く意識し、「花泉産」流通という視点から黒曜石の検討を行う必要があるとの指摘もある（岩文理 2006a）。データを蓄積することで今後未知の産地が現れ、流通経路が推定されるかもしれない。

遺物包含層における石器の出土状況を把握するために、第 90 ~ 93 回北区及び南区遺物包含層の石器個数分布図と右器重量分布図を示した。北区はⅢ a ~ d 層の計 4 層、南区はⅢ a・b 層の計 2 層で区分している。土器出土状況と同様に、北区及び南区遺物包含層は一連の遺物包含層と考えられる。このため、上位Ⅲ a・b 層は各々対応し、Ⅲ c・d 層は北区のみに存在する。

Ⅲ a 層のピークは北区 4 B 13・18 にあり、4 B 18 は 69 点 (1,604.60 g)、次いで 4 B 13 は 59 点 (303.09 g)、南区では 10 B 3 の 57 点 (394.54 g)、次いで 7 B 14 の 44 点 (245.76 g)、9 B 3 の 42 点 (1,844.27 g) と続く。突出する傾向はないが、所々に数値が高い範囲があり、重量分布によく現れている。上記に示したピークを中心北区では 4 B 8・13・18 付近、南区では 8 B 22 ~ 24・9 B 2 ~ 4、10 B 3・7・8、10 B 18・23、に高値が集中する。

Ⅲ b 層は最も多量に出土しており、特に北区が著しい。北区のピークは 4 B 8 の 310 点 (5,187.80 g)、次いで 4 B 13 の 292 点 (2,178.91 g)、4 B 6 の 271 点 (4,497.31 g)、4 B 18 の 269 点 (5,587.45 g)、4 B 11 の 250 点 (1,766.84 g) といずれも高値を示している。これに比べて南区は 100 点を超えるグリッドはなく、7 B 9 の 73 点 (322.82 g)、8 B 13 の 59 点 (374.87 g) に留まる。重量を見ると、北区は変わらず 4 B 7 の 7,670.44 g、4 B 8 の 5,187.80 g、4 B 6 の 4,497.31 g が高いが、南区の 7 B 18 の 4,326.74 g にも現れている。これは砾石器の集中した出土を示している。

Ⅲ c 層は最も少ない出土量であり、北区に限定される。4 B 8 の 61 点 (394.40 g)、4 B 6 の 49 点 (356.17 g)、4 B 13 の 47 点 (176.63 g) がピークとなるが、重量は 4 B 12 の 1,151.71 g が突出している。

Ⅲ d 層も北区限定であり、比して出土量も少ない。ピークにはばらつきがあり、4 B 13 の 84 点 (676.0 g)、4 B 8 の 81 点 (1,183.82 g)、4 B 16 の 75 点 (502.65 g)、4 B 19 の 62 点 (763.90 g) と続く。これは斜面傾斜が平坦に近く、遺物の抜がりが押さえられたためと思われる。

以上、平面分布を観察したが、今回の整理では時間の都合で接合関係の把握まで及ばなかった。数量的な理解は出来たものの、石器製作に係わる事象は今後の課題である。

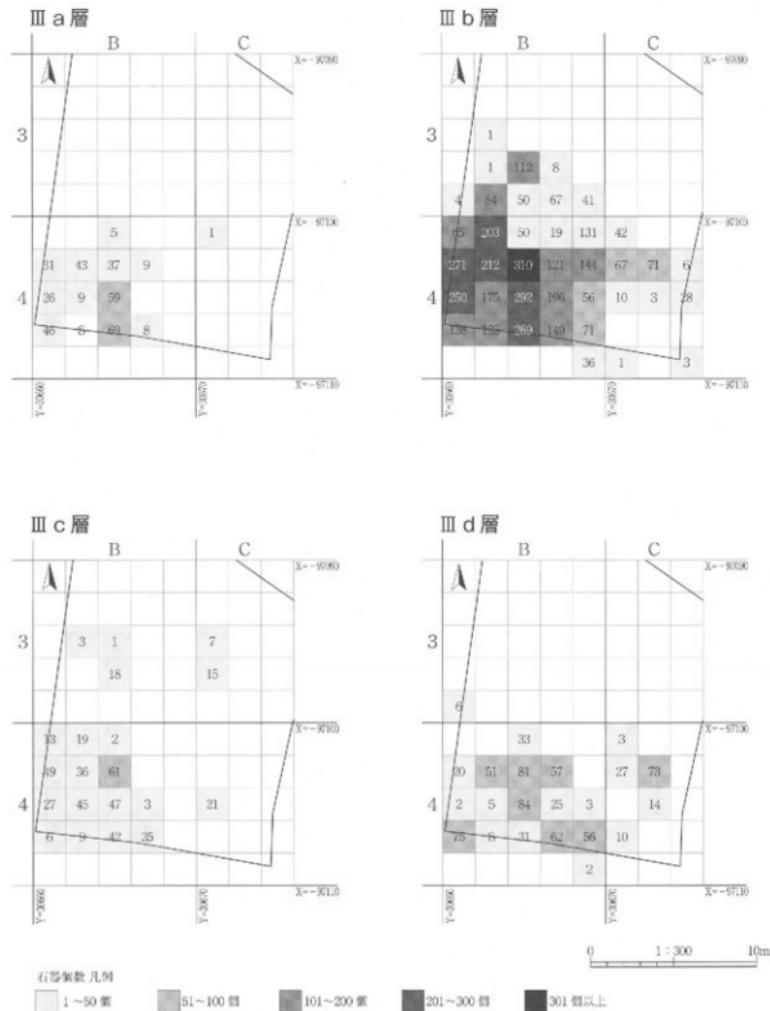
上段 下段

左側 右側

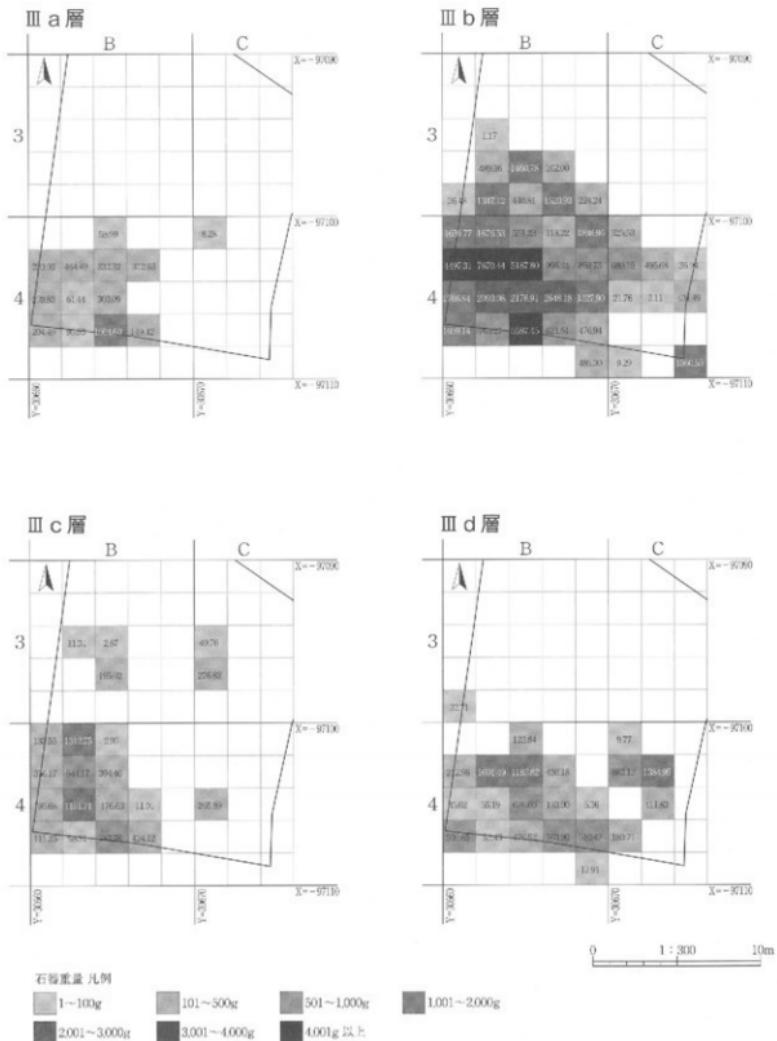
第30表 石器石材分類別組成表

	石林	火打石	石塙	石錐	火打石	焼成石器	スラング バーサイ	一次磨打 ある部分	微細加工 行	研片	石核	異形石器	石斧頭	磨石	右側	石器合計	合計
貝壳	12 (121.49)	134 (375.41)	42 (121.88)	62 <sup>2</sup> (69.19)	48 <sup>2</sup> (179.91)	63 <sup>2</sup> (584.83)	174 (2196.23)	90 <sup>1</sup> (709.96)	41 <sup>1</sup> (660.58)	41 <sup>1</sup> (10.47)	10 <sup>2</sup> (139.49)	782 <sup>2</sup> (1006.94)	3 <sup>3</sup> (106.45)	—	—	822 <sup>2</sup> (1920.51)	
赤色貝壳	1 <sup>1</sup> (3.51)	18 <sup>1</sup> (48.56)	17 <sup>1</sup> (42.17)	2 <sup>1</sup> (5.16)	2 <sup>1</sup> (51.65)	8 <sup>1</sup> (80.81)	—	—	—	—	—	—	—	—	66 <sup>1</sup> (69.60)	66 <sup>1</sup> (69.60)	
珪質貝壳	1 <sup>1</sup> (1.38)	18 <sup>1</sup> (26.32)	5 <sup>1</sup> (1.50)	—	—	3 <sup>1</sup> (18.37)	3 <sup>1</sup> (20.01)	—	—	—	—	—	—	—	—	30 <sup>1</sup> (80.78)	
珊瑚石	— (15.41)	— (—)	— (—)	— (—)	5 <sup>1</sup> (12.28)	2 <sup>1</sup> (2.20)	13 <sup>1</sup> (99.98)	1 <sup>1</sup> (0.62)	165 <sup>2</sup> (285.92)	— (29.90)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (414.46)	208 <sup>1</sup> (414.46)	
砂岩	— (5.00)	— (2.90)	— (—)	— (—)	1 <sup>1</sup> (3.23)	4 <sup>1</sup> (32.05)	6 <sup>1</sup> (37.37)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (5.83.06)	6 <sup>1</sup> (720.65)	
燧光岩	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 <sup>1</sup> (22.96)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (411.27)	18 <sup>1</sup> (49.88)	
赤紫泥灰岩	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 <sup>1</sup> (156.89)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (308.71)	2 <sup>1</sup> (308.71)	
绿色泥灰岩	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (138.89)	1 <sup>1</sup> (138.89)	
玉髓	8 <sup>1</sup> (9.75)	2 <sup>1</sup> (4.50)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	10 <sup>1</sup> (14.25)	
ダイサイト	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	2 <sup>1</sup> (294.75)	2 <sup>1</sup> (31.41)	5 <sup>1</sup> (120.06)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (799.00)	2 <sup>1</sup> (1438.52)	
花崗岩風化岩	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (2177.03)	2 <sup>1</sup> (2177.03)	
閃綠岩	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (240.72)	1 <sup>1</sup> (240.72)	
石英	6 <sup>1</sup> (1.95)	6 <sup>1</sup> (10.03)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (19.23)	8 <sup>1</sup> (19.23)	
安山岩	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (2124.65)	2 <sup>1</sup> (2124.65)	
凝灰岩	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (619.16)	1 <sup>1</sup> (619.16)	
チャート	1 <sup>1</sup> (0.77)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (0.77)	1 <sup>1</sup> (0.77)	
蛇紋岩	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 <sup>1</sup> (12.05)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (19.34)	8 <sup>1</sup> (19.34)	
石灰岩	— (0.38)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (1067.89)	2 <sup>1</sup> (1067.89)	
カルシナリルス	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	4 <sup>1</sup> (355.80)	1 <sup>1</sup> (85.90)	1 <sup>1</sup> (45.21)	1 <sup>1</sup> (33.21)	1 <sup>1</sup> (179.39)	5 <sup>1</sup> (380.71)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (2.34)	2 <sup>1</sup> (2.34)	
ムノウ	— (11.20)	— (—)	— (—)	— (—)	3 <sup>1</sup> (16.30)	5 <sup>1</sup> (33.94)	2 <sup>1</sup> (3.88)	— (—)	3 <sup>1</sup> (78.12)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (201.25)	1 <sup>1</sup> (201.25)	
下明	— (131.33)	296 <sup>1</sup> (1433.06)	51 <sup>1</sup> (155.95)	65 <sup>1</sup> (628.81)	57 <sup>1</sup> (2545.47)	72 <sup>1</sup> (617.40)	128 <sup>1</sup> (2326.78)	218 <sup>1</sup> (2594.28)	61 <sup>1</sup> (6029.80)	81/2 <sup>2</sup> (799.70)	60 <sup>1</sup> (781.90)	47 <sup>2</sup> (1073.41)	2 <sup>2</sup> (2124.81)	5 <sup>2</sup> (3388.01)	2 <sup>2</sup> (396.40)	6 <sup>2</sup> (1526.37)	2942 <sup>1</sup> (14179.12)
合計	15 <sup>1</sup> (131.33)	296 <sup>1</sup> (1433.06)	51 <sup>1</sup> (155.95)	65 <sup>1</sup> (628.81)	57 <sup>1</sup> (2545.47)	72 <sup>1</sup> (617.40)	128 <sup>1</sup> (2326.78)	218 <sup>1</sup> (2594.28)	61 <sup>1</sup> (6029.80)	81/2 <sup>2</sup> (799.70)	60 <sup>1</sup> (781.90)	47 <sup>2</sup> (1073.41)	2 <sup>2</sup> (2124.81)	5 <sup>2</sup> (3388.01)	2 <sup>2</sup> (396.40)	6 <sup>2</sup> (1526.37)	2942 <sup>1</sup> (14179.12)

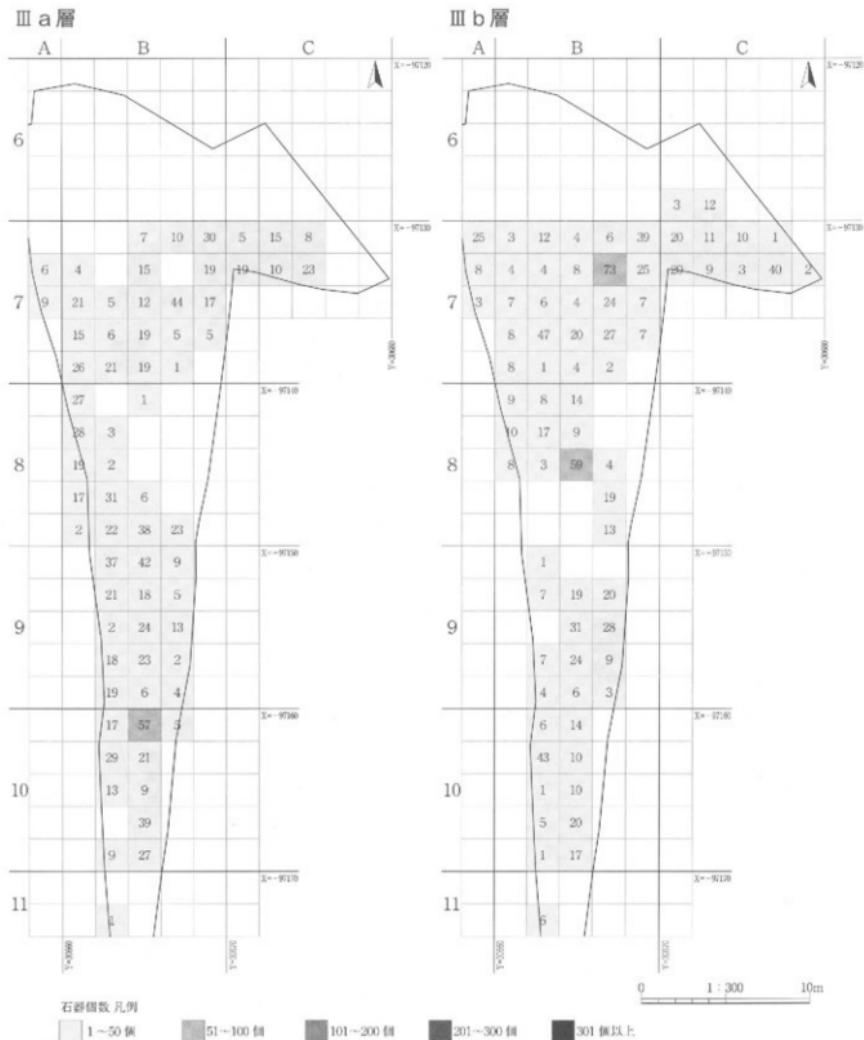
参考引の小字は、大字が実測値。



第90図 北区遺物包含層石器個数分布図

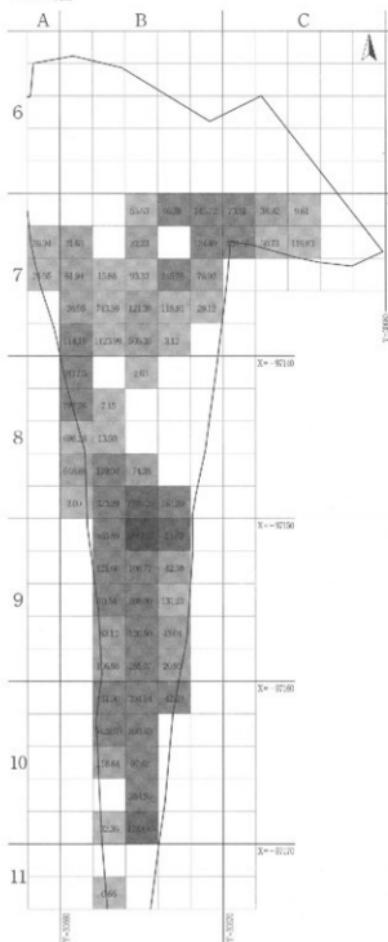


第91図 北区遺物包含層石器重量分布図

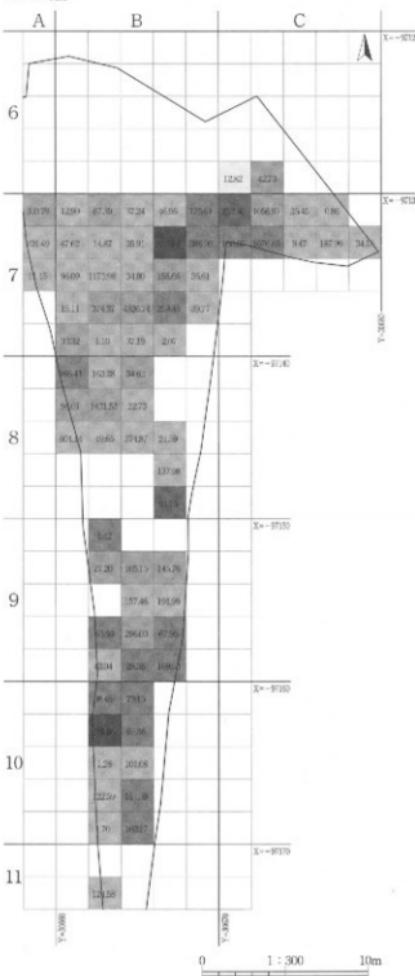


第92図 南区遺物包含層石器個数分布図

## III a層



## III b層



石器重量凡例

1~100g	101~500g	501~1,000g	1,001~2,000g
2,001~3,000g	3,001~4,000g	4,001g 以上	

0 1 : 300 10m

第93図 南区遺物包含層石器重量分布図

## (a) 尖頭器

先端部に二次加工を施し、鋭く尖らせた石器を尖頭器とした。基本的に長さ5cm以上を自らに尖頭器としたが、欠損品が多くそれ以下でも形態からそれを満たすと思われるものも含めた。計15点出土しており、このうち計5点を図示した（掲載率33.3%）。3点が3号堅穴住居跡出土、それ以外は北・南区遺物包含層からの出土である。

平面形態に着目して観察すると、3形態に分類される。全体に細身の葉形の器形をI類、最大幅が中央部にある木葉形の器形をII類、最大幅が上半部にある鉤形の器形をIII類とした。

I類3点、II類7点、III類5点である。いずれの分類も出土しているが、II類がやや多い。出土地点・層位別に見ると、3号堅穴住居跡からはII類のみが出土。包含層のIIIb層からは全類型が確認されるが、IIIa及びIIIc層出土はI・III類に限定される。

法量について確認するために第94回長幅比率を作成した。縦軸に長／幅、横軸に厚／幅を設定し、指標による比較を行った。2点のみが計測可能である。完形資料が少數のため不明だが、長さについてはやや規格的かもしれない。先端角について着目すると、3点が計測可能である。第32表分類別先端角集計表によれば、I類は41～50°、II類は56～60°にあり、全体形状にもよるがI類は細身銳角である。

石材については、第31表にまとめた通りである。各類ともに頁岩が主で、I・III類については頁岩製のみである。

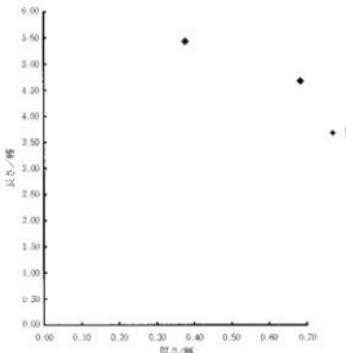
## (b) 石鎚

先端部に二次加工を施し鋭く尖らせた、扁平の石器を石鎚とした。基本的に長さ5cm未満のものを石鎚としたが、それ以上でも形態から石鎚と認められるものも含んでいる。計296点出土しており、32点を図示した（掲載率10.8%）。

茎部の有無により、2形態に大別される。有茎（I類）が123点、無茎（II類）が137点で、また欠損により分類不明なもの（III類）が12点、未成品と思われるものが21点である。

さらにそれぞれの基部形態について詳しく見ると、I類は凹基形（A類）、平基形（B類）、凸基形（C類）、尖基形（D類）に分けられる。数量はA類7点、B類16点、C類88点、D類12点とC類が突出している。C類は茎の長さに応じてさらに2細分され、茎の長いIC1類は6点、茎の短いIC2類は53点、茎が短く全体にハート形を呈するIC3類が29点である。

II類は凹基形（A類）、平基形（B類）、凸基形（C類）に分けられる。数量はA類79点、B類22



第94回 尖頭器長幅比率

第31表 尖頭器分類別石材表

	石材				計
	頁岩	赤色 頁岩	珪質 頁岩	石英	
I	3				3
II	4	1	1	1	7
III	5				5
計	12	1	1	1	15

第32表 尖頭器分類別先端角集計表

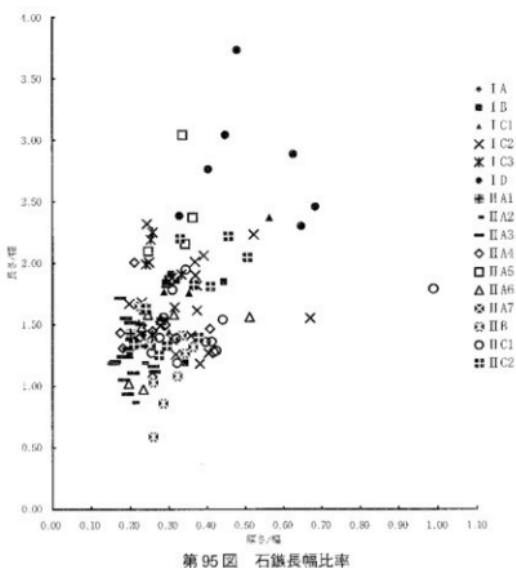
	41～ 45°	46～ 50°	56～ 60°	計
I	1	1		2
II			1	1
計	1	1	1	3

点、C類36点で、A類が最多となる。また、A類は器形によりさらに7細分される。II A 1類は全体に器形が細身のもので3点、II A 2類は小型で抉りの深い器形で3点、II A 3類は側縁が直線的な異形で26点、II A 4類は基部が小さくなる器形で11点、II A 5類は身部が長く、基部が小さい器形で11点、II A 6類は抉りが浅い器形で15点である。

III類は欠損のため、分類不明のもので12点、IV類は未完成と思われるもので24点出土している。

法量について観察するため、第95図に長幅比率

を示した。縦軸に長／幅、横軸に厚／幅を設定し、指標による比較を行った。127点について計測可能である。数値全体は長／幅0.59～3.73、厚／幅0.16～0.99の範囲に分布している。最も数値が大きかったのはI D類（計測数7）の長／幅2.30～3.73・厚／幅0.33～0.68、次いでII A 5類（計測数5）の長／幅1.87～3.04・厚／幅0.25～0.36などがある。全体にI類の長／幅の数値が大きいのは基部の長さが加わったためである。



第95図 石錐長幅比率

第33表 石錐分類別先端角集計表

	21～ 25°	26～ 30°	31～ 35°	36～ 40°	41～ 45°	46～ 50°	51～ 55°	56～ 60°	61～ 65°	66～ 70°	71～ 75°	76～ 80°	81～ 85°	86～ 90°	91～ 95°	96～ 100°	101～ 105°	121～ 125°	146～ 150°	計	
I A							1			2	1	1									5
I B					2	1	2	1	2	1	1	1	2			1	1				15
I C1							1		1	2									1		6
I C2	1	1 <sup>1</sup>	3	3	5	2	4	1	3	2	1		4	3	1			1	1	35	
I C3		2	3	1	5	4		2		1									1	19	
I D				3	2				1				1	1	1						9
II A1	1									1											2
II A2										1		1									2
II A3			1	3	4	5	6	1			1		1	1							23
II A4									2	1	1			1	2						7
II A5	2	3	2					1													8
II A6				1		1	2	2	2	1	1	1		1	1						13
II A7					2	1				1								1			5
II B			3		2		2		2		1	1									11
II C1						2	3	2	1	1	1	2	1					1			14
II C2						1 <sup>1</sup>		2	2	3	1	2			1						13
計	1	6	13	15	24	16	24	17	18	8	9	7	8	10	3	1	1	21	1	186	

さらに先端角について見ると（第33表分類別先端角集計表）、186点について計測可能である。 $5^{\circ}$ 刻みの数値で確認すると、大ピーカは $41 \sim 45^{\circ}$ ・ $51 \sim 55^{\circ}$ にあり、 $31 \sim 65^{\circ}$ の範囲が高い値を示している。分類別に見ると、I類は $50^{\circ}$ 以下の先端角が多く、特にI C 2・I C 3類はやや集中域が認められる。II A 3類は $31 \sim 55^{\circ}$ が高い値となっている。

使用石材については第34表分類別石材表を参照されたい。計10種類の石材が用いられている。頁岩はもちろんあるが、黒曜石・右英・玉髓・メノウなど硬質石材を多く用いている。大半が頁岩を用いており、全体の65.5%を占める。次いで、赤色頁岩30点（10.1%）、黒曜石20点（6.76%）、珪質頁岩18点（6.08%）。分類別では、I C 2・I C 3類はメノウを多く使用しており、II A 3類などは黒曜石の割合がやや高い。

## (c) 石錐

剥片の尖頭状の端部に両側縁から二次加工が施された石器を石錐とした。計51点出土しており、8点を図示した（掲載率15.7%）。

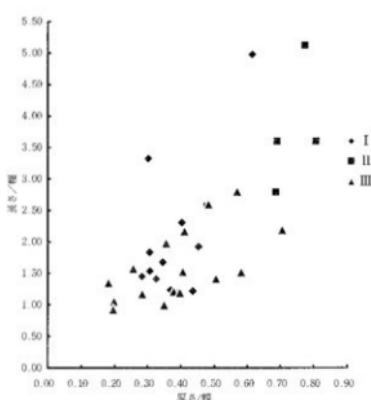
二次加工の頻度によって3形態に分けた。丁寧な二次加工が摘み部までの広範囲に見られるもの（I類）が21点、尖基形の直線的な形態を持つもの（II類）が9点、粗雑な二次加工が錐部のみに集中して見られるもの（III類）が21点である。

出土地点・層位から見ると、III a層はI・III類が大半で、II類は1点のみである。III b層も同様の傾向がある。III c・d層は出土量が限られる。

法量について観察するために、第96図長幅

第34表 石錐分類別石材表

分類	石材								計
	頁岩	赤色 頁岩	珪質 頁岩	黒曜石	凝灰岩	右英岩	石英	平歛	
I A	5	1							1 7
I B	10	1	4				1		16
I C1	3	1		2					6
I C2	35	5	4	2	1			1	53
I C3	21		2	1				5	29
I D	10	1	1						12
II A1	1						1	1	3
II A2	1	1		1					3
II A3	16	1	1	5			2		26
II A4	6	3					2		11
II A5	10				1				11
II A6	12	1		2					15
II A7	4		1	2	1		1	1	10
II B	13	3	1	3	2				22
II C1	16	5	1	1					23
II C2	8	1	1	1			1	1	13
III	7	1	1			1	1	1	12
IV	16	5	1					2	24
計	194	30	18	20	5	1	6	8	13 296



第96図 石錐長幅比率

第35表 石錐分類別先端角集計表

	21°～ 25°	26°～ 30°	31°～ 35°	36°～ 40°	41°～ 45°	46°～ 50°	51°～ 55°	56°～ 60°	61°～ 65°	66°～ 70°	71°～ 75°	76°～ 80°	81°～ 85°	101°～ 105°	121°～ 125°	計
I	1		2					1	2	1	2	1		1		11
II		1	1	3					2							7
III						5	3		2	2		2	2	1	1	18
計	1	1	3	3	5	3	1	4	5	2	3	2	1	1		36

第36表 石錐分類別石材表

		石材				計	
		頁岩	赤色 頁岩	珪質 頁岩	凝灰岩		
分類	I	19		1		1	21
	II	6		3			9
	III	17	1	1	1	1	21
	計	42	1	5	1	2	51

数5)、III類は最も小形の器形で長/幅0.93～2.80・厚/幅0.18～0.71(計測数17)である。先端角は36度で計測可能であり、III類は41°～50°にピークが認められる。I・II類はピークらしいものではなく、散在している。

使用石材については第36表分類別石材表に示した。計5種類の石材が確認されており、頁岩が最多となる。分類別では、III類は様々な種類の石材を用いるのに対し、I・II類は2種類程度である。

#### (d) 石匙

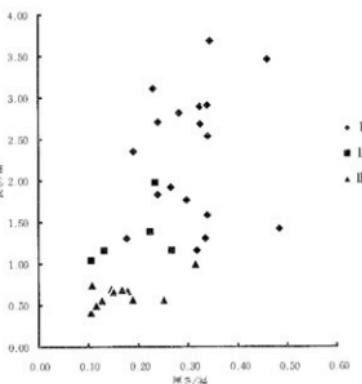
摘み状の突起を一端に有し、スクレイパー類と同様の刃部を作出している石器を石匙とした。計65点出土しており、9点を図示した(掲載率13.8%)。

摘み部を上にして置き、抉り部が水平になるようにした場合(摘み部の軸を垂直に位置させた場合)、形状が縦長の形になるものをI類、斜めに長くなるものをII類、横長になるものをIII類、分類不明をIV類、未成品をV類とした。I類は32点(49.2%)、II類は9点(13.8%)、III類は17点(26.1%)、IV類は6点(9.2%)、V類は1点(1.5%)である。

さらに刃部形態が両刃のものをA類、片刃のものをB類とすると、IA類が18点と最も多く、全体の27.7%を占め、IA類が14点、IIA類4点、IIB類5点、IIIA類5点、IIIB類12点と細分される。

法量について観察するために、第97図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指標による比較を行った。34点について計測可能である。I～III類は平面形態に比例して、3傾向に分かれる。I類は長/幅1.17～3.69・厚/幅0.18～0.48と縦長の範囲、II類は長/幅1.05～1.99・厚/幅0.10

比率を作成した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指標による比較を行った。33点について計測可能である。I類は縦長形状のため、数値が縦に延びており、長/幅1.22～4.98・厚/幅0.28～0.61(計測数11)、II類は3形態のうちで最も大きい器形で長/幅2.57～5.12・厚/幅0.48～0.81(計測数5)、III類は最も小形の器形で長/幅0.93～2.80・厚/幅0.18～0.71(計測数17)である。先端角は36度で計測可能であり、III類は41°～50°にピークが認められる。I・II類はピークらしいものではなく、散在している。



第97図 石匙長幅比率

~0.27と狭い範囲、Ⅲ類は長/幅0.43~1.01、厚/幅0.10~0.31と最も少ないが横長の範囲になる。また類型ごとの刃角に着目すると、Ⅰ A類は30~79°で50°台後半の値が多い。Ⅰ B類は30~70°で40°台後半~50°台前半にピークがある。Ⅱ A類は30~56°で40°台後半~50°台前半。Ⅱ B類は44~74°、Ⅲ A類は44~74°、Ⅲ B類は25~87°で値にばらつきがある。

使用石材については第37表分類別石材表に示した通りである。計3種類あり、頁岩が62点(95.3%)を占める。他に赤色頁岩・蛇紋岩があるが少ない。

#### (e) 篠状石器

左右の側縁がほぼ対称で基部側が狭く、刃部側に広がりを持つ石器を篠状石器とした。計57点出土しており、このうち9点を図示した(掲載率15.8%)。

平面形態に着目すると、3形態に大別される。基部から端部にかけて、ほぼ直線的な形態の短圓形となるもの(Ⅰ類)が12点、端部にかけて幅広になる形態の撥形(Ⅱ類)が36点、端部が丸く渦形の形態(Ⅲ類)が9点である。

法量について観察するために、第98図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指標による比較を行った。47点について計測可能である。Ⅰ類の数値が最も大きい(計測数8)、長/幅1.38~2.88、厚/幅0.39~0.63の範囲に認められる。次いで

Ⅱ類は値に差があり、長/幅1.08~2.76、厚/幅0.19~0.67と範囲が広く、サイズにばらつきがある。Ⅲ類は長/幅1.65~1.65、厚/幅0.22~0.41と範囲が狭く、規格性を持っている。

さらに刃部形態が両刃のものをA類、片刃のものをB類とすると、Ⅱ A類が20点(35.1%)と多く、Ⅱ B類16点、Ⅰ A類7点、Ⅰ B類5点、Ⅲ A類4点、Ⅲ B類5点と続く。両刃が31点(54.4%)とやや多いが、両形態とも併存する。作出された刃部の角度に着目すると、50~60°台に平均値があると思われるが、やや散在する。

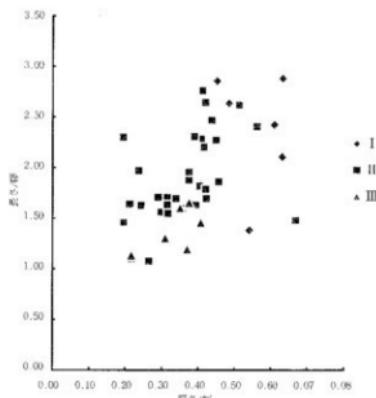
使用石材については第38表

表分類別石材表に示した。

計6種類の石材が用いられているが、大半が頁岩で48点(84.2%)を占める。Ⅲ類はすべて頁岩製、Ⅱ類は特に割合が高い。

第37表 石匙分類別石材表

分類	石材			計
	頁岩	赤色頁岩	蛇紋岩	
I	31	1		32
II	9			9
III	16		1	17
IV	5	1		6
V	1			1
計	62	2	1	65



第98図 篠状石器長幅比率

第38表 篠状石器分類別石材表

分類	石材						計
	頁岩	赤色 頁岩	赤紫 凝灰岩	緑色 凝灰岩	デイサ イト	ホルン フェルス	
I	10	1		1		1	12
II	30		1		2	3	36
III	8			1			9
計	48	1	1	1	2	4	57

## (f) 横形石器

両極剥離痕と2個一対または4個二対の刃部を有する石器を横形石器とした。剥片生産時の両極打法の痕跡のみが残された剥片はここには含んでいない。計72点出土しており、6点を図示した（掲載率8.3%）。

刃部の作出位置から2形態に分けられる。2個一対の剥離痕を持つもの（I類）が54点、4個二対の剥離痕を持つもの（II類）が17点、分類不明（III類）が1点である。

法量について観察するために、第99図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指標による比較を行った。全点について計測可能である。I類はやや広い範囲に散在する傾向があり、長/幅0.55～1.89・厚/幅0.15～0.57である。対して、II類はその中でも狭い範囲にまとまる傾向があり、長/幅0.69～1.17・厚/幅0.19～0.54の範囲となる。四辺を調整することにより、より定形化されたと見られる。

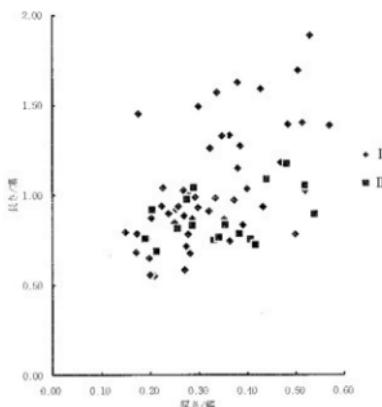
使用石材については第39表分類別石材表に示した。大半が頁岩であり、63点（87.5%）を占める。石材は4種類が用いられており、黒曜石が5点出土している。

## (g) スクレイパー類

定形石器以外で、機能部として刃部を有し、切る、削る、搔く作業に使用されたと見られる石器をスクレイパー類とした。計128点出土しており、7点を図示した（掲載率5.5%）。なお、二次加工ある剥片も同様の機能が考えられるが、全縁の1/2以上に二次加工が施されている場合を本分類とし、それ以下を二次加工ある剥片とした。いずれも遺構外出土である。

素材である剥片の形状から2形態に分けられる。縦長の剥片を素材とするもの（I類）が74点、横長の剥片を素材とするもの（II類）が54点である。さらに刃部形態が両刃のものをA類、片刃のものをB類とすると、IA類24点、IB類50点、IIA類24点、IIB類30点となる。

法量について観察するために、第100図長幅比率を示した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指標による比較を行った。77点について計測可能である。I・II類は平面形状が縦長と横長



第99図 横形石器長幅比率

第39表 横形石器分類別石材表

	石材				計
	頁岩	黒曜石	凝灰岩	メノウ	
I	51	2	1		54
II	12	3			17
III				1	1
計	63	5	1	3	72

第40表 スクレイパー類分類別石材表

	石材							計	
	頁岩	赤色 頁岩	珪質 頁岩	黒曜石	凝灰岩	デイ サイト	ホルン フェルス		
I	57	6	3	2	2	1	1	2	77
II	46	2			2	1		3	54
計	103	8	3	2	4	2	1	5	128

に分かれるため、結果も明確に 2 條向が表された。I 類は長／幅 0.96 ~ 3.11・厚／幅 0.16 ~ 0.69 と広い範囲となり縦長形状、II 類は長／幅 0.49 ~ 0.99、厚／幅 0.11 ~ 0.37 と狭い範囲に集中し、やや横長形状である。I 類はサイズにばらつきがあるが、II 類はまとまっている。

刃角について着目すると、分類別では IA 類 34 ~ 88°、IB 類 42 ~ 91°、II A 類 42 ~ 88°、II B 類 37 ~ 84° の範囲である。平均では、I 類は 50 ~ 60° で II 類は 50 ~ 70° の範囲となり、II 類がやや広い範囲となる。

使用石材については第 40 表分類別石材表に示した。全体の 80.5% (103 点) を頁岩が占める。石材は計 8 種類が認められ、硬質石材が多い。

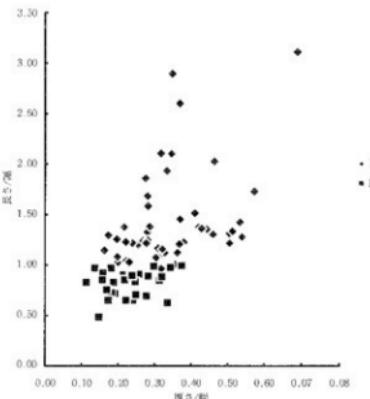
#### (h) 二次加工ある剥片

スクレイパー類に比べて刃部の作出範囲が狭い（全縁辺の 1/2 未満）が、同様の機能を有する石器を二次加工ある剥片とした。計 218 点出土しており、6 点を図示した（掲載率 2.8%）。

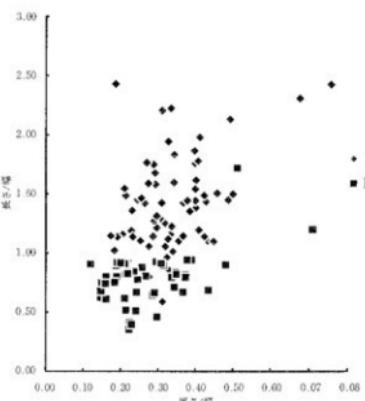
素材である剥片の形状から 2 形態に分けられる。縦長の剥片を素材とするもの（I 類）が 128 点、横長の剥片を素材とするもの（II 類）が 90 点である。さらに刃部形態が両刃のものを A 類、片刃のものを B 類とすると、IA 類 28 点、IB 類 100 点、II A 類 12 点、II B 類 77 点、II 類だが刃部不明のものが 1 点となる。

法量について確認するために、第 101 図長幅比率を示した。縦軸に長／幅、横軸に厚／幅を設定し、指標による比較を行った。118 点について計測可能である。I 類は長／幅 0.59 ~ 2.43・厚／幅 0.17 ~ 0.76 の範囲、II 類は長／幅 0.35 ~ 1.72・厚／幅 0.12 ~ 0.71 の範囲に認められ、I 類が II 類に比べて大きめの形態を呈する。刃角について見ると、IA 類は 35 ~ 103° の範囲で平均 50 ~ 60° 前半、IB 類は 31 ~ 94° の範囲で平均 40 ~ 60° 台、II A 類は 34 ~ 95° の範囲で平均 50 ~ 60° 前半、II B 類は 28 ~ 100° の範囲で平均 40 ~ 60° 台となり、両刃（A 類）の範囲は 40 ~ 60° 台とやや広く、片刃（B 類）の範囲は 50 ~ 60° 前半とやや狭い傾向にある。

第 41 表に分類別石材表を示した。全体の 79.8% (174 点) を頁岩が占める。石材は計



第 100 図 スクレイパー長幅比率



第 101 図 二次加工ある剥片長幅比率

第41表 二次加工ある剥片分類別石材表

	分類	石材								計
		頁岩	赤色頁岩	珪質頁岩	黒曜石	石灰岩	凝灰岩	デイサイト	ホルンフェルス	
I	99	8			11		4	4	1	128
II	75	5	3	2	1	2	1		1	90
計	174	13	3	13	1	6	5	1	2	218

9種類で、次いで赤色頁岩や黒曜石が多い。分類別では黒曜石は大半が1類で用いられている。

#### (1) 微細剥離痕ある剥片

剥片剥離工程において産出された石器製作に不適な剥片であるが、縁辺部に微細な剥離痕が観察される剥片を微細剥離痕ある剥片とした。計61点出土しており、6点を図示した（掲載率9.8%）。

素材である剥片の形状から2形態に分けられる。縦長の剥片を素材とするもの（I類）が36点、横長の剥片を素材とするもの（II類）が25点である。

第102図長幅比率を作成し、法量の相違を観察した。縦軸に長/幅、横軸に厚/幅を設定し、指數による比較を行った。48点について計測可能である。I類は長/幅1.02～3.82・厚/幅0.12～0.83の広い範囲に散在、II類は長/幅0.39～1.00・厚/幅0.09～0.33の狭い範囲に集中する。

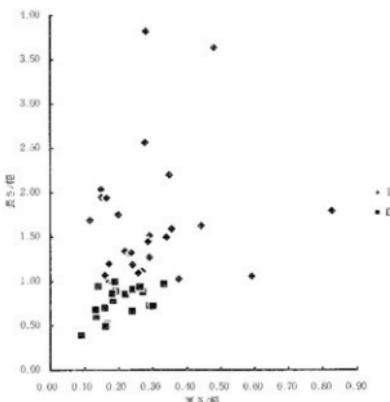
使用石材については第42表分類別石材表に示した。全体の98.4%（60点）を頁岩が占め、その他は黒曜石が1点のみである。

#### (1) 石核

剥片剥離作業が行われて産出されたと考えられるすべての残核を石核とした。計60点出土しており、11点を図示した（掲載率18.3%）。

今回は整理時間の都合上、石核及び剥片の接合は行えなかった。よって、本遺跡の剥片剥離作業については石核から類推するに留めたい。なお、石核の分類については新潟県清水上遺跡（新潟県教委1990）、新潟県アチャハ遺跡上段（新潟県・朝日村教委2002）を用いた。

剥離作業の手順から6分類した。第16表に石核分類別石材表を示した。I類は同一打面から同一作業面に同方向の剥離を行うもので、2点（3.3%）である。石材は頁岩・メノウを用いている。II類は同一作業面に別々の打面から剥離を行うもので、34点（56.7%）である。石材は3種類用いられており、頁岩が主である。II類はさらに3細分され、90°ずれるもの（A類）が4点、180°ずれるもの（B類）はA類と共に見られ2点、全面的に見られるもの（C類）は11点ある。III類は同一打



第102図 微細剥離痕ある剥片長幅比率

第42表 微細剥離痕ある剥片分類別石材表

分類	石材		計
	頁岩	黒曜石	
I	36		36
II	24	1	25
計	60	1	61

面から別々の作業面に同方向の剥離を行うもので3点(5%)である。すべて頁岩が用いられている。IV類は棱線上の交互剥離がほぼ全周するもので4点(6.7%)である。これもすべて頁岩を使用している。V類は打面が2面、羽離作業面が2面あるもので15点(25%)である。石材は4種類用いられており、頁岩が8点、次いで赤色頁岩が5点である。V類はさらに3細分され、別々の打面・作業面に約90°ずれる剥離を行うもの(A類)が1点、古い作業面を打面とする剥離を行うもの(B類)が6点、別々の打面・作業面に約180°ずれる剥離を行うもの(C類)が2点あるがいずれもA・B類を併用する。その他にA・B類を併用するもの1点、分類できないものが5点ある。VI類は両極技法による剥離を行うもので2点(3.3%)、頁岩・黒曜石がある。

第103図長幅比率を作成し、法量の相違を観察した。縦軸に長／幅、横軸に厚／幅を設定し、指歎による比較を行った。60点について計測可能である。I類は長／幅0.64～0.79・厚／幅0.59～0.66の範囲、II類は長／幅

0.50～1.21・厚／幅0.30～1.16の範囲、III類は長／幅0.71～1.39・厚／幅0.32～0.99、IV類は長／幅0.68～0.96・厚／幅0.42～0.67の範囲、V類は長／幅0.49～1.03・厚／幅0.37～0.89の範囲、VI類は長／幅0.78～1.11・厚／幅0.50～0.58の範囲に散在している。全体にはば同サイズの石核が产出されている。

使用石材については前述の通りであるが、黒曜石2点について蛍光X線による产地同定分析を行つたところ、零石町小赤沢産及び北上系Aの結果を得ている(V-3・4参照)。

#### (k) 剥片

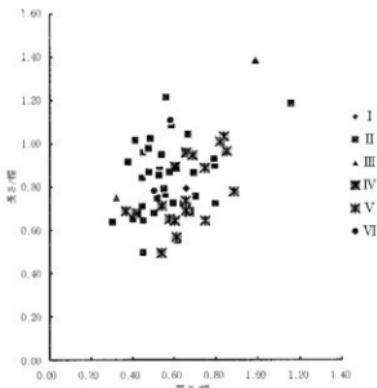
剥片剥離作業において产出された石器製作に不適な剥片や加工の施される属性を有した剥片を一括した。計8,269点(重量61,390.22g)出土しており、グリッド分布図及び重量分布図のみを掲載した。

整理時間の都合上、剥片に関する詳細な分析は行えなかった。石材については、大半が頁岩である。その他に黒曜石165点、水晶、石英などの石材種が出土している。

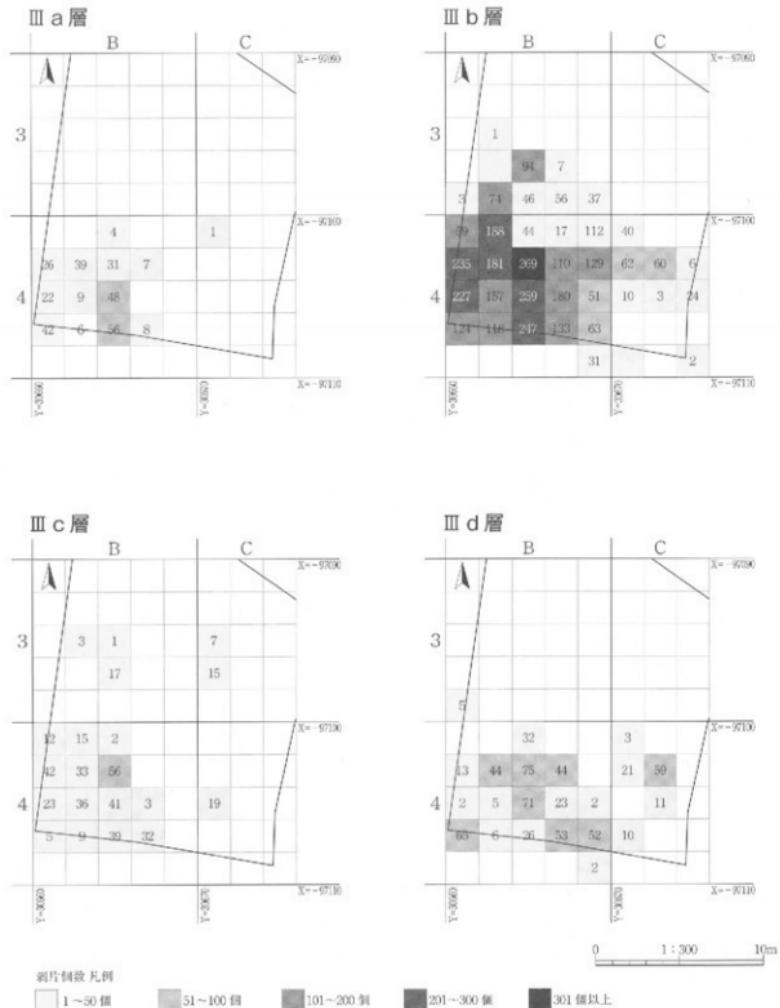
遺構内出土については各遺構事実記載で述べた通りである。ここでは主に遺物包含層出土の剥片に

第43表 石核分類別石材表

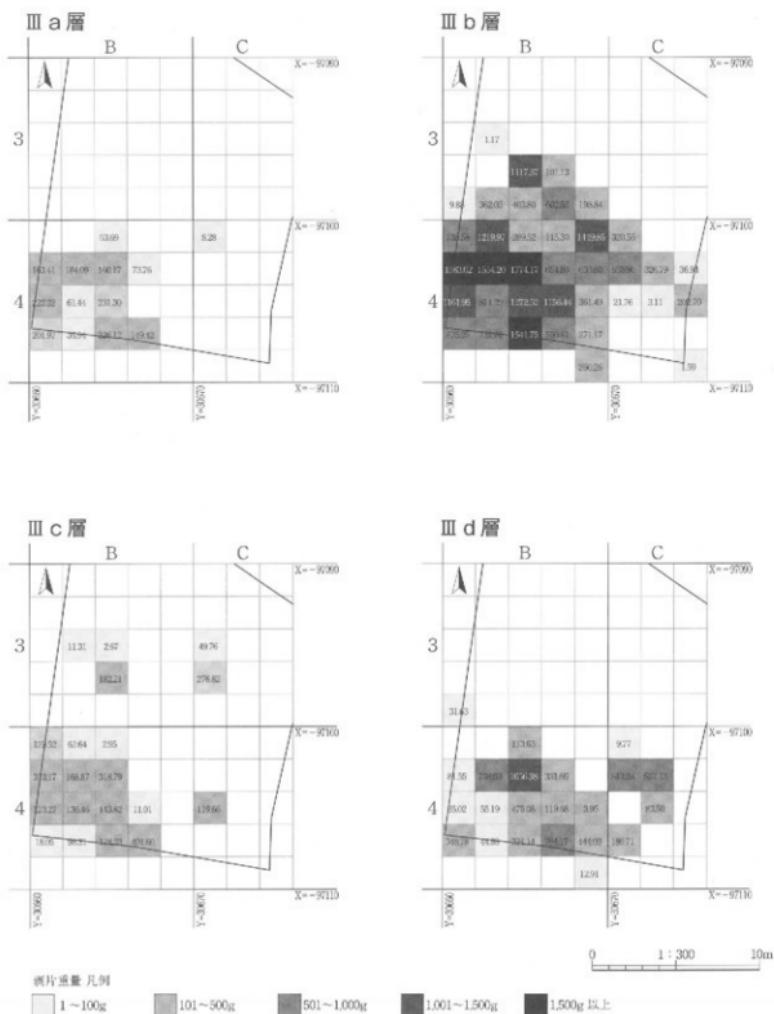
分類	頁岩	石材				計
		赤色 頁岩	黒曜石	ホルン フェルス	メノウ	
I	1				1	2
II	27	5			2	34
III	3					3
IV	4					4
V	8	5	1	1		15
VI	1		1			2
計	44	10	2	1	3	60



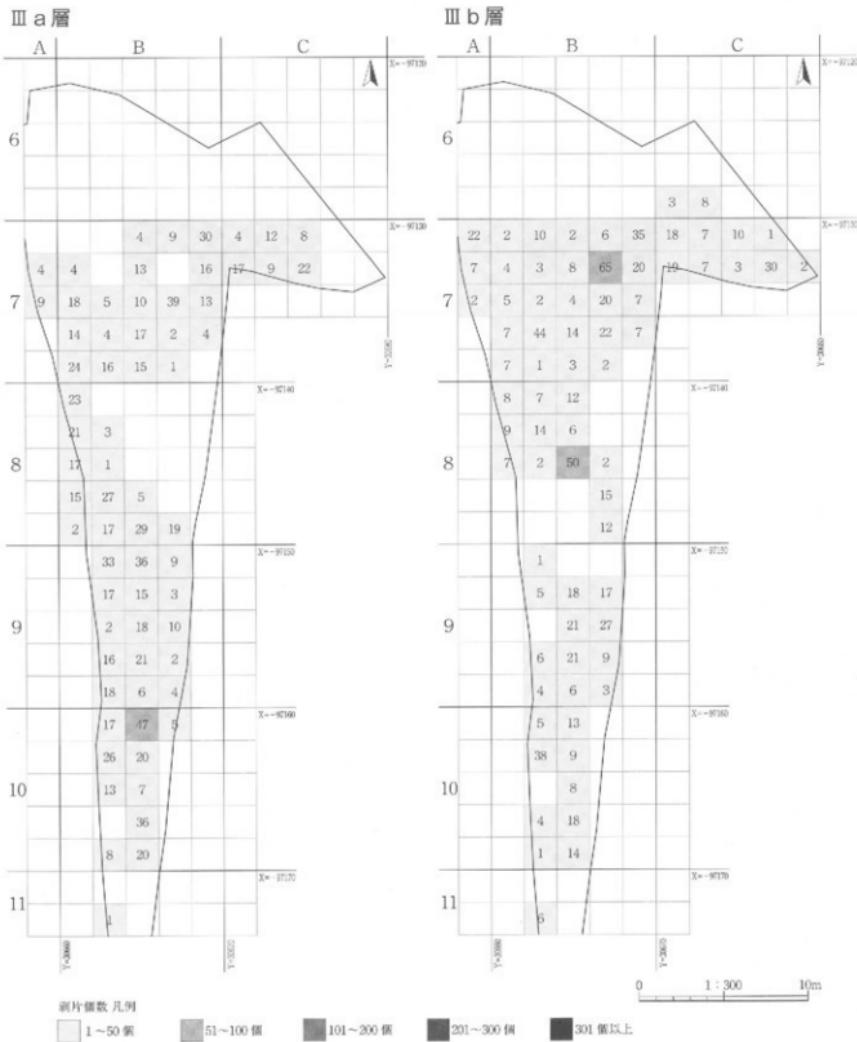
第103図 石核長幅比率



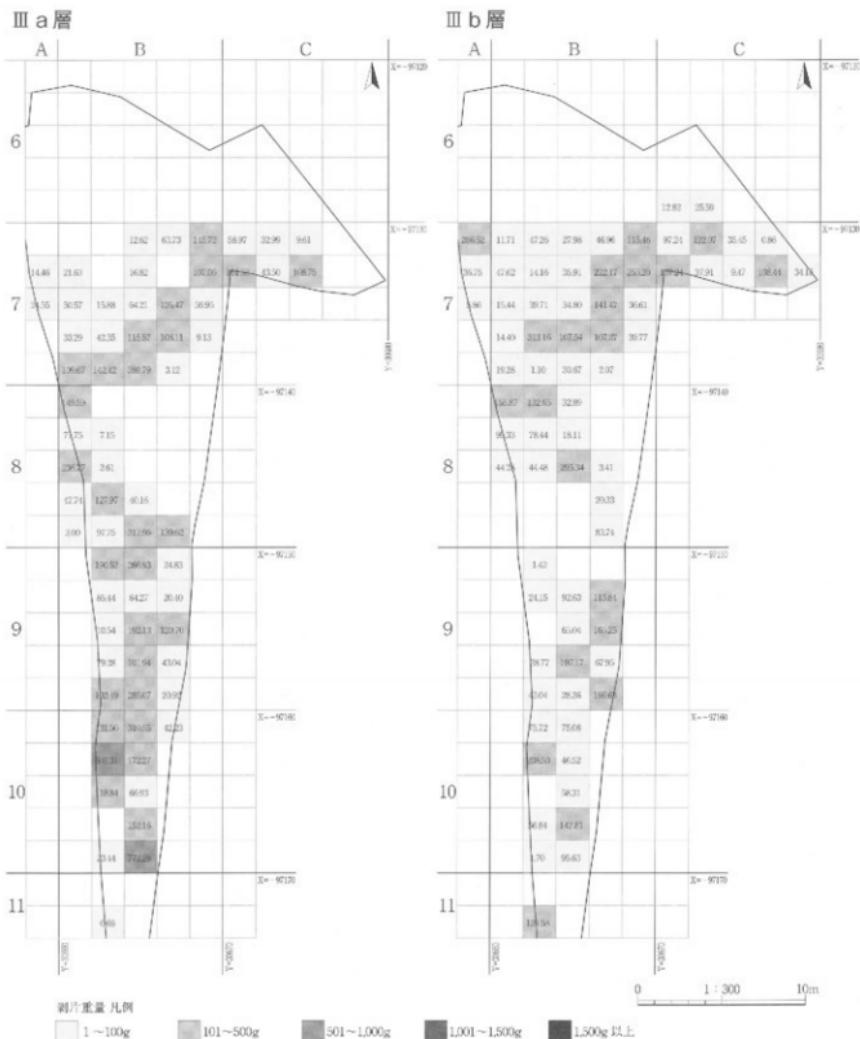
第 104 図 北区遺物包含層剖片個数分布図



第105図 北区遺物包含層剥片重量分布図



第106図 南区遺物包含層剥片個数分布図



第107図 南区遺物包含層剥片重量分布図

について、第103～106図に剥片出土分布図・重量分布図を作成した。北区(2～4区)・南区(6～10区)の層位ごとの平面分布を示している。全体の出土量は第3表に示した。

北区遺物包含層はⅢa～d層に区分される。Ⅲa層は計299点(1872.81g)出土している。グリッド別では4B18が56点(326.12g)と最多で、隣接する4B13が48点(231.30g)、4B16が42点(201.97g)、4B7が39点(184.09g)、4B8が31点(160.17g)と続く。集中域は4B6～9・11～13・16～19の8×6mの範囲に認められる。Ⅲb層は計3,459点(23,220.5g)出土している。4B8が269点(1,774.17g)、4B13が259点(1,272.52g)、4B18が247点(1,541.75g)のグリッドが最も出土数が多い。次いで、4B6の235点(1,583.02g)、4B11の227点(1,161.95g)がある。4B区が集中域を形成しており、3B区・4C区に至ると希薄になる。Ⅲc層は計410点(2,699.18g)出土している。4B8が56点(318.79g)と最多で、4B6が42点(313.17g)、4B13が41点(143.82g)と続く。4B6～8・11～13・18・19が集中域を形成している。4B16・17は風倒木による擾乱のため少ない。Ⅲd層は計624点(6,515.23g)出土している。4B8が75点(1,056.38g)と最も多く、4B13が71点(475.08g)、4C7が59点(527.13g)、4B16が65点(348.78g)と続く。4C区での出土は崩落土に含まれることが多い。

南区遺物包含層はⅢa・b層に区分される。Ⅲa層は計941点(7,293.96g)出土している。グリッド別に見ると、10B3が47点(310.55g)と最多で、次いで7B14の39点(126.47g)、9B3及び10B18の36点(266.93・152.16g)と明確な集中域は形成されず、散在する傾向にある。Ⅲb層は計856点(5,777.57g)出土している。7B9が65点(222.17g)と最多、8B13が50点(295.34g)、7B17が44点(313.16g)、10B7が38点(208.50g)、7B5が35点(115.46g)と続く。Ⅲa層同様、明確な集中域は形成されず、散在している。

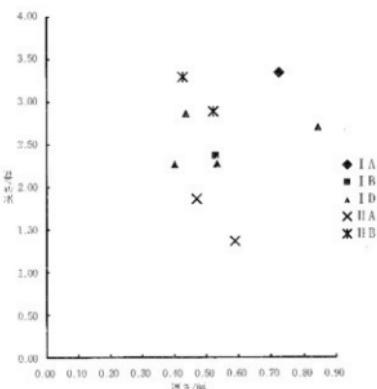
#### (1) 石斧類

器面全体または一部を研磨・敲打・剥離などで成形した刃部を有する斧形の石器を石斧類として一括した。計47点出土しており、12点を図示した(掲載率25.5%)。

成形段階の敲打・剥離・研磨などの加工から2形態に分けられる。器面全体を研磨して成形している斧形石器(磨製石斧)がI類で33点、敲打・剥離のみで成形している斧形石器(打製石斧)がII類で14点である。

I類について細分すると、最大幅が中央付近にあるもの(A類)が7点、最大幅が刃部付近にあるもの(B類)が5点、分類不明なもの(C類)が4点、未完成と思われるもの(D類)が4点である。II類は側縁中心に全周的に調整を施し、中央に自然面を残すもの(A類)が9点、片側縁に全周しない調整を施すもの(B類)が4点、全面に調整が施されるもの(C類)が1点である。

刃部形状に着目すると、I類は平面12点、断面14点について観察可能である。平面形は



第108図 石斧類長幅比率

円刃が11点と主体的で、他は偏刃1点、断面形はすべて両刃である。II類は平面・断面ともに12点について観察可能である。平面形は円刃6点・直刃6点、断面形は両刃9点・片刃3点である。

法量について確認す

るために、第108図長幅比率を示した。縦軸に長／幅、横軸に厚／幅を設定し、指標による比較を行つた。5分類10点について計測可能である。IA類（計測数1）は長／幅3.34・厚／幅0.73の範囲、IB類（計測数1）は長／幅2.37・厚／幅0.53の範囲、ID類（計測数4）は長／幅2.27～2.87・厚／幅0.40～0.84の範囲、IIA類（計測数2）は長／幅1.36～1.86・厚／幅0.47～0.59の範囲、IIB類（計測数2）は長／幅2.88～3.29・厚／幅0.43～0.52の範囲である。

第44表に分類別石材表を示した。蛇紋岩の使用率が最も高く全体の44.7%（21点）、次いで頁岩10点・デイサイト8点・ホルンフェルス5点が続く。分類別ではIB類は18点中11点が蛇紋岩を使用、IIA類は全7種類、IIB類はホルンフェルスのみを使用している。

#### (m) 碓器類

礫または大形で厚手の剥片の一部に、片面・両面から二次加工を施し、刃部を作り出した石器を碓器類とした。計5点出土しており、1点を図示した（掲載率20%）。出土が少量であるため、分類はしない。長幅比率を観察すると、長／幅0.82～2.30・厚／幅0.39～0.86の範囲に収まるが、サイズは素材の大きさに左右される。

第45表に分類別石材表を示した。石材は計4種類で頁岩が2点であるが、偏りは見られない。

#### (n) 敗磨器類

礫の表面に残された使用痕跡を敲打痕・磨痕・凹痕の3種類に規定し、これらの痕跡のいずれかが認められるものを敗磨器類とした。計53点出土しており、10点を図示した（掲載率18.9%）。敗磨器類は上器などの出土量と比べて、かなり少ない。

使用痕跡（敲打痕・磨痕・凹痕）の組み合わせにより10分類できる。A類は敲打痕だけを有するもので6点、B類は磨痕だけが認められるもので3点、C類はいわゆる「特殊磨石」と呼称されるものの2点、D類は凹痕だけが認められるもの24点、E類は礫器の機能と敲打痕が複合して見られるものの1点、F類は磨痕と敲打痕が複合して見られるもの2点、G類は凹痕と敲打痕が複合して見られるもの2点、H類は凹痕と磨痕が複合して見られるもの10点、I類は特殊磨石の機能と凹痕が複合して見られるもの1点、J類は凹痕・磨痕・敲打痕すべての機能が複合して見られるもの2点が出土している。D類が全体の45.3%（24点）を占め、次いでII類が18.9%（10点）と続く。

第109図長幅比率を作成し、法量の相違を観察した。縦軸に長／幅、横軸に厚／幅を設定し、指標に

第44表 石斧類分類別石材表

	頁岩	蛇紋岩	石材				計
			赤紫 碧玉岩	閃綠岩	安山岩	デイ サイト	
分類	IA	4				3	7
	IB	3	11			4	18
	IC	3	1				4
	ID	2	2				4
	IIA	1	3	1	1	1	9
	IIB					4	4
	IIC	1					1
	計	10	21	1	1	8	47

第45表 碓器類分類別石材表

	石材				
頁岩	蛇紋岩	デイサ イト	ホルン フェルス	計	
2	1	1	1	5	

より比較を行った。38点について計測可能である。全体に長／幅1.11～1.56、厚／幅0.44～0.98の範囲に散在する。A類(計測数5)は長／幅2.03～4.16・厚／幅0.43～0.77の縦長の範囲、B類(計測数3)は長／幅1.19～1.43・厚／幅0.59～0.68の狭い範囲に密集、D類(計測数14)は長／幅1.03～2.53・厚／幅0.36～0.84の広い範囲、F類(計測数2)は長／幅1.11～1.26・厚／幅0.68～0.84の範囲、H類(計測数10)は長／幅1.15～1.56・厚／幅0.44～0.97の横長の範囲、J類(計測数2)は長／幅1.37～1.45・厚／幅0.70～0.98の範囲、1点のみ計測可能なC・G類はそれぞれC類は長／幅2.21・厚／幅0.83、G類は長／幅3.96・厚／幅0.85の範囲である。これら

から、敲打痕が残る素材は縦長、磨痕が残る素材は長幅が較ったもの、凹痕が残るものは素材に厚みがあるものを選択していることが分かる。

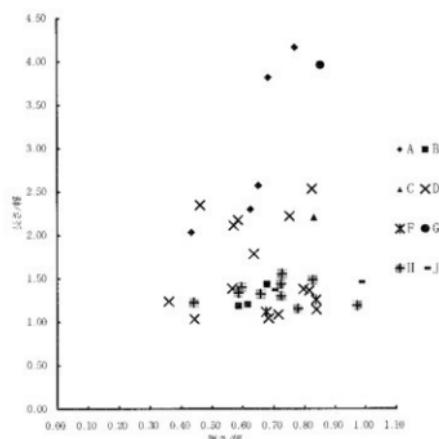
第46表に分類別石材表を示した。石材は計8種類。最も多いのは安山岩で、45.3% (24点) を占める。次いで、蛇紋岩が18.9% (10点) 、ダイサイトが15.1% (8点) である。使用痕跡別に見ると、磨痕が残るB・F・H・J類では安山岩が良く用いられている。また、分類別ではD・H類は安山岩の割合が高い。

#### (o) 砥石

礫の表面に溝状の痕跡が認められるものを砥石とした。計2点出土しており、1点を掲載した。いずれも頁岩素材で、長軸方向に縦となる線状痕が残る。

#### (p) 磨石錐

礫の両側縁または片側縁を打ち欠き、「紐掛け」を作出したと考えられるものを磨石錐とした。計2点出土しており、1点を掲載した。23は上下1箇所に紐掛けと思われる剥離がある。蛇紋岩使用。



第109図 敗磨器類長幅比率

第46表 敗磨器類分類別石材表

	石材							計
	頁岩	蛇紋岩	凝灰岩	花崗 閃綠岩	安山岩	砂岩	ダイサ イト	
A	1	2		1			2	6
B					2		1	3
C		1					1	2
D	2	5	1		12	3	1	24
E		1						1
F					1		1	2
G						1	1	2
H		1			8			10
I							1	1
J				1	1			2
計	3	10	1	2	24	4	8	53

## (a) 石皿台石類

表面に使用痕跡（敲打痕・擦痕）が認められる扁平礫で、擦るまたは敲く際の台として使用されたと考えられるものを石皿台石類とした。計6点出土しており、3点を図示した（掲載率50%）。加工の有無によって2形態に分けられる。加工有り（I類）は1点、加工無し（II類）は5点である。

第47表に分類別石材表を示した。計3種類の石材が用いられており、I類は安山岩、II類は砂岩・安山岩・デイサイトを使用している。

## C 土製品

## (a) 土偶

今回の調査で出土した土偶は21点である。すべて破片資料であり、完形はない。頭部・胴・腕・脚の部位ごとに形態と文様の特徴を記す。

頭部は2点出土している。いずれも中実で、593は鼻を欠損、眼と口は隆線で表現。耳は尖っており、結髪が見られる。頭部裏にLRが施文される。頭頂部に盲孔1箇所が穿たれている。606は三角形状を呈し、眼・鼻・口が隆線で立体的に表現される。

胴部は8点出土している。いずれも中実で、胴の上半から下半まであるのは595のみである。正面縞が施されるのは597のみで列点が付けられている。胴下半に沈線によって山形文が施され、これより下位にLRが回転される。594・595の2点には乳房が表現される。25・597・601・604の下腹部にはいずれも突起を有する。44・595は胸部の首部分に凹形のソケットが作出されている。

腕は4点出土している。いずれも中実で、50は左肩、598は右肩で沈線とLRが施される。600は右腕で、手首を折り曲げて表現している。608は左肩は表裏に列点、表に粘土貼付が施される。

脚は5点出土している。599右脚は押引沈線によって渦巻文が描かれている。364・602・605右脚は足首を折り曲げている。

この中で51・596・601は脚がしっかりとしており、バランスが良いことから自立する。アスファルトなど補修を行ったものは認められなかった。

出土地点・層位は、599・600・601～608の7点がIIIa層（599・600が北区でその他は南区）、364・593～598・603の8点がIIIb層（603が南区でその他は北区）である。形態で見ると、51は縄文時代後期前～後葉、597は縄文時代後期中葉、593・606は縄文時代後期後葉であろう。

## (b) 鐘形土製品

1点のみ出土している（609）。上部に貫通孔が1箇所あり、表裏に弧線文が施されている。南区10B・II層から出土している。

## (c) 動物形土製品

1点のみ出土している（610）。鼻部のみが出土しており、裏以外にLRが施文されている。正面から見ると三角形状を呈し、鼻孔が2箇所空けられている。いずれも盲孔である。また、欠損部に2箇所の孔の痕跡があるが、形状などは不明。北区4B13・IIIb層から出土している。

第47表 石皿台石類分類別石材表

	砂岩	安山岩	デイサイト	計
分類	I			
	II	2	1	2
計	2	2	2	6

## (d) スタンプ形土製品

1点のみ出土している(611)。弧線文が組み合わされた文様が施されている。2箇所孔が空けられているが、貫通せず盲孔である。南区9B8・Ⅲa層から出土している。

## (e) 耳栓

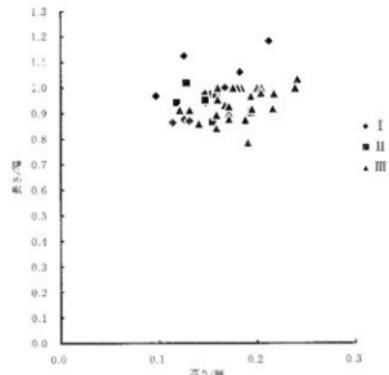
1点のみ出土している(612)。放射状に8本の刻みが施され、精緻な作りである。南区9B3・Ⅲa層から出土している。

## (f) 土製腕輪

2点出土している(613・614)。いずれも完形ではなく、全周しない。文様など装飾もされておらず、簡素な作りである。いずれも北区4B8・4B12のⅢb層から出土している。

## (g) 土版

4点出土している(615～618)。615・616は重層的な弧線文と沈線に沿う刺突列。615の側面には列点が施される。617はC字状と渦巻状のモチーフが描かれており、側面に2列の刺突列が認められる。618は列点による正中線が描かれ、C字状・渦巻状のモチーフが配される。側面には617同様刺突列が認められる。いずれも晩期に比定され、617・618は晩期中葉と考えられる。615と616はそれぞれ北区4B15・Ⅲb対応層、北区24～25・Ⅱ層から出土。617・618は南区7B11・Ⅲa層から出土している。



## (h) 土器片円盤

第110図 土器片円盤長幅比率

47点出土している(45・52・619～663)。

加工の有無により、3種類に分類する。I類は貫通孔を施すもの15点、II類は盲孔を施すもの7点、III類は加工しないもの25点である。I類の622には貫通孔から各辺に向かって真っ直ぐに黒色粘着物が付着している。孔に紐を通して結ぶ際に固定したものと思われる。帰属する時期はいくつかありそうだが、後期中～後葉が多い。

## (i) 不明土製品

1点出土している(668)。貫通孔が1箇所施されている。地文はR.L。土製品もしくは土器突起の可能性もある。

## D 石製品

## (a) 石棒類

棒状の素材礫に敲打や剥離、研磨などにより成形したもので、反りを持たない劍状のもの、反りが

ある刀状のもの、棒状のものを石棒類として一括した。計35点出土しており、13点を図示した。

形状と成形方法により3形態に分けられる。I類は胴部が直線的で、断面形が円形を呈するもの、いわゆる石棒で、19点出土している。頭部形状により3細分され、A類頭部を作出有りが3点、B類頭部作出無しが1点、C類頭部形態不明が15点である。II類は胴部がカーブする形態で、断面形が楕円形を呈するもの、いわゆる石刀で5点出土している。III類は胴部が直線的で厚みがあり、左右対称の形態を呈するもの、いわゆる石剣で11点出土している。669は頭部が平坦の円柱状に整形されており、頭部の突带上に刻みを有するもので、IA類に属し「成興野型石棒」と思われる（後藤1986）。成興野型石棒については新潟県元屋敷遺跡上段の報告に詳細なデータが掲載されている（朝日村教委2002b: pp485-493）、後藤氏によれば東日本を中心に分布すること、縄文時代後期中葉に出現し、後期後葉に盛行することが指摘されている。本資料はIIIa層から出土しているが、伴出土器から後期中～後葉の可能性が高い。本資料は頭部のみであるため全形は不明であり、単頭もしくは両頭かは定かではない。この他に678は岩手県北上盆地に濃密な分布域を持ち、縄文時代晚期後半に他出する「九年橋型石刀」（II類）、681は新潟県東部を含む東北地方に分布し縄文時代晚期前葉を主体とするもので「能登型石剣」に類似する（III類）。

#### (b) 独鉢状石器

中央に抉り部または隆帯を有し、先端部が斧状及び錐状の石器を独鉢状石器とした（新潟県朝日村教委2002b）。3点出土している。53は欠損しており確かにないが、鍔状の抉り部が見られる。682及び683は中央に抉りのみが施されたもので、先端部にそれぞれ整形がなされている。53は安山岩、682はホルンフェルス、683は頁岩が用いられている。

#### (c) 有孔石製品

貫通孔を1ヶ所またはそれ以上有する礫を有孔石製品として一括した。3点出土している。26は3号竪穴住居跡から出土している。欠損しているが、2ヶ所の貫通孔が施されており、落花生形の平面形を持つ小礫に並ぶように穿たれていると考えられる。684はやや大振りな扁平礫の上面から斜めに貫通孔が1ヶ所穿たれている。718は平安時代の2号竪穴住居跡から出土したもので、円形の扁平礫の中央に方形の貫通孔が1ヶ所穿たれている。石錘の可能性もある。26・684は凝灰岩、718はホルンフェルスが用いられている。

#### (d) 円盤状石製品・板状石器

扁平礫に全周的な調整を施し、円形に整形したものを円盤状石製品とした。13点出土している。大半が3～4cm台の大きさに整えられている。表面と裏面には自然面を残しており、側面にも一部自然面を残すものもある。素材には主に頁岩が用いられ、他に赤色頁岩・ホルンフェルス・安山岩が認められる。IIIa層～IIIb層上位を中心に出土している。板状石器は扁平礫に全周的な調整を施し、方形に整形したものとした。1点出土しており、赤紫凝灰岩が用いられている。赤紫凝灰岩は一関市東山町近傍で算出される石材であり、搬入品の可能性もある。

#### (e) 不明石製品

全面に丁寧な研磨を施した石製品で、欠損のため全形が推定できず不明である。1点出土した。蛇紋岩が用いられていることから、磨製石斧などの一部の可能性もある。

## 2 平 安 時 代

### (1) 遺 構

今回の調査では南区に計2棟の竪穴住居跡、土坑1基、焼土遺構1基を検出した。1号竪穴住居跡は規模5.2m×(3.68)m、2号竪穴住居跡は規模3.5m×(2.72)mでいずれも東西壁がやや長い隅丸方形を呈すると考えられる。カマドはいずれも東壁のやや南寄りに設置されており、出土遺物からも同時期の住居と考えられる。住居はいずれも残存が悪く、カマドの形状などが不明であるが、床面には貯蔵用と思われるピットを有している。1号竪穴住居跡ピット2からは壺・高台付壺・鉢・壺など多量の遺物が出土した。過去の調査でも平安時代の竪穴住居跡が確認されており、詳細な地点は不明であるが、1号竪穴住居跡の西隣に隣接すると思われる住居址である（水沢市教委1965）。出土遺物からすると、今回調査のものと同時期と考えられる。また、1号竪穴住居跡と重複して1号焼土遺構と1号土坑が確認されている。土坑から出土した土器は1号竪穴住居跡とほぼ同時期と見られるため、時期差のない範囲の重複遺構と考えられる。北区ではTo-a テフラを堆積する旧河道（旧大田代川）が確認されており、河道は平安時代に埋没したものと考えられる。また、旧河道に注ぐ旧沢跡が現在の市道付近や県道付近に存在していたと推定されるため、集落の北限は地形の変換点である7A～C区に立地する2号竪穴住居跡であり、これより北側は大田代川に向かって急激に下り、洪水堆積層も確認されることから遺構は存在しないと考えられる。集落は旧沢跡付近（現県道付近）から西側の緩やかな丘陵地に点在していたものと思われる。集落の中心時期は出土遺物からおそらく平安時代中期の9世紀中～後葉であると見られる。

### (2) 遺 物

今回の調査で出土した平安時代の遺物は大半が土師器で、須恵器は僅かである。まとめた出土は上述の2棟の竪穴住居跡と土坑1基内からとなる。1号竪穴住居跡からはピット2を中心にまとまっており、出土器種は土師器壺（黒色）・高台付壺（黒色）・鉢・壺・須恵器大甕がある。壺・高台付壺の大半は内面黒色処理されたもので、底面にヘラケズリ再調整が加えられたものが数点混じる。鉢も内面黒色処理されている。甕はロクロ成形され、外側胴下半に縦位ヘラケズリ、内面はハケメが施される。2号竪穴住居跡は主にロクロ使用の土師器壺で、大半が内面黒色処理されたものである。壺は体部下半までヘラケズリ再調整の施されたものが主体的である。1号土坑からも同様の壺が出土している。以上の括土器の組み合わせから、多賀城跡第61次鴻の池地区第10層出土土器群に類似し、S E 2101 B井戸跡第Ⅲ層出土土器よりも新しく位置付けられる9世紀中～後葉頃、「多賀城跡C～D群土器」相当の範疇に収まるものであると考えられる（白鳥1980）。また、2号竪穴住居跡と1号土坑からはヘラケズリ再調整を施すものが主体的で、1号竪穴住居跡出土土器には少ないと見られ、前者は後者よりもやや新しく位置付けられると考えられる。

## 3 平 安 時 代 以 降

北区から検出した1号堀跡は北西から南東方向に直線的に延びる平面形を呈し、規模は調査区内で長さ17.5m以上、開口部幅は2.6m前後（実効堀幅）、底部幅0.85～1.0m、深さ1.22～1.36m（垂直高）、で底面はほぼ平坦に構築されている。断面形は逆台形である。出土遺物は遺物包含層からの

流入による縄文時代の遺物のみで、時期を特定できる資料は出土していない。しかし、第15回セクションCに示したように、堀跡を掘削した堆土と思われる27～32層が33a～c層To-aテフラ再堆積層の上に堆積していることから、To-aテフラ降下時期以降に遺構が形成されたと考えられる。また、すぐ北側には大田代川が流れおり、水路として利用するために本遺構を掘削したとは考え難く、防御を目的としたとするのが妥当であろう。

本遺跡の西隣に隣接する丘陵にはかつて鵜ノ木館跡があったと伝えられる。現在は昭和中期の開工事により欠われているが、安永風土記『江刺郡黒石村風土記御用書出』に依れば、「卯ノ木 古館右者城主相知不申候」とあり、詳細は不明であるが存在していたと推定される。立地をみれば、北に黒田助城、鶴沢館、南に鶴城館があり、大田代川に接し、北上川東岸の交通の要衝であることから好立地である。今回確認された1号堀跡は現在の赤羽根橋付近であることから、鵜ノ木館跡の一部とすれば、北側を押さえる外郭ラインの防御施設と見ることができる。

## 総 括

今回の調査は、昭和38年調査を第1次とすれば、鵜ノ木南台地遺跡と遺跡範囲拡大により遺跡名称が変更になり、実質の第2次調査となった。

検出した遺構は縄文時代の竪穴住居跡1棟・土坑3基・焼土遺構13基・埋設土器9基・配石遺構2基・遺物包含層2箇所（計590m<sup>2</sup>）、平安時代の竪穴住居跡2棟・土坑1基・焼土遺構1基・平安時代以降の堀跡1条・ピット21個である。

主体は北区及び南区遺物包含層で、北区は大別4層・細別9層、南区は大別2層・細別3層に区分される。遺物包含層は人為的廃棄行為による「捨て場」であり、縄文時代早期中葉～晩期末葉の遺物がある程度の層位的まとまりを持って出土した。

出土遺物は縄文土器大73箱・石器9,242点（うち成品1,140点・剥片8,102点）・土製品79点・石製品55点である。

縄文土器の主体は第V群縄文時代後期中葉で4～5割、第VI群縄文時代後期後葉は約1割弱、第VII群縄文時代晩期中葉は2割、残りは第I群縄文時代早期中葉、第II群縄文時代前期初頭～前葉、第III群縄文時代後期初頭、第IV群縄文時代後期前葉、第VII群縄文時代晩期前葉、第IX群縄文時代晩期後～末葉である。

石器は尖頭器15点・石鏃296点・石錐51点・石燧65点・箆状石器57点・楔形石器72点・スクレイバー類128点・二次加工ある剥片218点・微細剥離痕ある剥片61点・剥片8,102点・石核60点・異形石器2点・石斧類47点・砾器類5点・敲磨器類53点・砥石2点・石錘2点・石皿台石類6点である。

土製品は土偶21点・鐸形土製品1点・動物形土製品1点・スタンプ形土製品1点・耳栓1点・土製腕輪2点・土版4点・土器片円盤47点・不明土製品1点である。

石製品は石棒類35点・鉛錐状石器3点・有孔石製品3点・円盤状石製品13点・板状石器1点・不明石製品1点である。

平安時代の遺構から土師器・須恵器大1箱・土錘1点が出土した。時期は平安時代中期の9世紀中～後葉と考えられる。また、北区に堀跡1条を確認しており、鵜ノ木館跡との関連が指摘される。

## 参考文献

- 稻村晃嗣 2008 「門前式土器」『絶対、縄文土器』㈱アム・プロモーション
- 榎本剛治 2008 「十腰内 I 式土器」『絶対、縄文土器』㈱アム・プロモーション
- 岩文埋 1993 「新山権現社遺跡発掘調査報告書」 勧岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 188 集
- 岩文埋 2003 「久田遺跡発掘調査報告書」 勧岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 406 集
- 岩文埋 2006a 「河崎の櫛擬定地発掘調査報告書」 勧岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 474 集
- 岩文埋 2006b 「大橋遺跡発掘調査報告書」 勧岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 481 集
- 岩文埋 2007 「巣古原遺跡発掘調査報告書」 勧岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 499 集
- 岩文埋 2010 「雨滝遺跡発掘調査報告書」 勧岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 562 集
- 大分県別府産業工芸試験所 1991 竹編組技術資料「基礎技術編」
- 金子昭彦 1991a 「東北地方北半部における縄文時代後期中葉の土器 - 新山権現社遺跡Ⅲ群 1~3 類土器 - 」『紀要』 XIV 勘岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 金子昭彦 1994b 「十腰内 I 式と II 式の境界 - 東北地方北半部における縄文時代後期中葉から後葉への土器変遷 - 」『岩手考古学』第 6 号
- 金子昭彦 1995 「十腰内 I 式と大湯式における型式としての諸問題」『岩手考古学』7
- 金子昭彦 1996a 「十腰内 I 式（新）に併行する東北地方中部の土器（1） - 新古の分離についての考え方」『縄文時代』7 縄文時代文化研究会
- 金子昭彦 1996b 「十腰内 I 式の三細分についての考え方 - 新しい部分と最も新しい部分の分離 - 」『岩手考古学』第 8 号
- 金子昭彦 1997a 「十腰内 I 式（新）に併行する東北地方中部の土器（2） - 文様の系列化 - 」『縄文時代』8 縄文時代文化研究会
- 金子昭彦 1997b 「十腰内 I 式と「大湯式」における壺形土器の変遷」『岩手考古学』第 9 号
- 金子昭彦 1999 「東北地方 - 後期前半」『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
- 神原雄一郎 2009 「盛岡における縄文時代草創期・早期の土器」『盛岡の縄文時代草創期～早期の土器文化 資料集』 盛岡市遺跡の学び館
- 北田勲・平野祐 2007 「県内出土土器底部にみられる網代痕跡 - 県内資料の集成 - 」『岩手県における縄文文化の諸相 資料集』 岩手考古学会
- 興野義一 1967 「大木式土器理解のために（I）」『考古学ジャーナル』13 ニュー・サイエンス社
- 興野義一 1968 「大木式土器理解のために（II）」『考古学ジャーナル』16 ニュー・サイエンス社
- 熊谷當正 1986 「門前式」土器の検討」『岩手県立博物館研究報告』第 4 号 岩手県立博物館
- 後藤信祐 1986 「縄文後晩期の刀劍形石製品の研究（上）」『考古学研究』第 33 卷第 3 号 考古学研究会
- 後藤信祐 1987 「縄文後晩期の刀劍形石製品の研究（下）」『考古学研究』第 33 卷第 4 号 考古学研究会
- 小林圭一 1999 「東北地方 - 後期（瘤付土器）」『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
- 小林圭一 2003 「東北地方における縄文晩期前葉の口吐土器」『研究紀要』創刊号 勘山形埋蔵文化財センター
- 小林圭一 2004 「岩手県安代町畠田 I 遺跡出土の晩期縄文土器（前編）- E III-011 住居跡出土土器の再検討」『研究紀要』第 2 号 勘山形埋蔵文化財センター
- 小林圭一 2005 「岩手県安代町畠田 I 遺跡出土の晩期縄文土器（後編）- E III-011 住居跡出土土器の再検討」『研究紀要』第 3 号 勘山形埋蔵文化財センター
- 小林圭一 2008 「瘤付土器」『絶対、縄文土器』㈱アム・プロモーション
- 白鳥良一 1980 「多賀城跡出土土器の変遷」『研究紀要』 宮城県多賀城跡調査研究所
- 鈴木克彦 2008 「宝ヶ峯式・手縄式土器」『絶対、縄文土器』㈱アム・プロモーション
- 岸沢長介 1960 「石器時代の日本」 種地書館
- 高橋龍三郎 1999 「東北地方 晩期（亀ヶ岡式）」『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
- 新潟県朝日村教育委員会 2002a 「アチャキ平遺跡上段」奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書 X-III
- 新潟県朝日村教育委員会 2002b 「元屋敷遺跡（上段）」奥一面ダム関連遺跡発掘調査報告書 X-IV
- 藤沼邦彦 1989 「亀ヶ岡式土器様式」『縄文土器大観』4 後期 晩期 続縄文 小学館
- 藤沼邦彦・岡根達人 2008 「亀ヶ岡式土器（亀ヶ岡式系土器群）」『絶対、縄文土器』㈱アム・プロモーション

- 平凡社 1990 「水沢市」『岩手県の地名』 日本歴史地名大系第三巻
- 本間宏 2008 「南境式・網取式土器」『総覧 繩文土器』 クラム・プロモーション
- 水沢市教育委員会 1965 「鷹ノ木遺跡、鷹木住吉、南高台遺跡」『水沢の原始・古代遺跡』
- 宮城県 1961 「江刺郡黒石村風土記御用書出」『宮城縣史』28 (資料篇 6)
- 宮城県教育委員会 1986 『田柄貝塚 I 造構・土器、II 土製品・石器・石製品』 宮城県文化財調査報告書第 111 集
- 明治大学考古学博物館 1991 『縄文晩期の世界』 明治大学考古学博物館蔵品図録 2
- 山内清男 1930 「所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄紋式土器の終末」『考古学』第 1 卷第 3 号 東京考古学会
- 山内清男 1979 『日本先史土器の縄紋』 先史考古学会

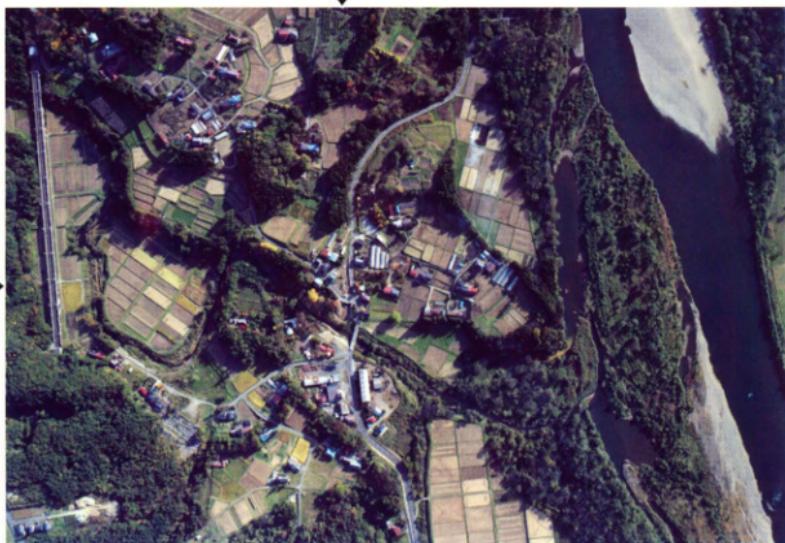
# 写 真 図 版





遺跡遠景（上が北）

►▼の交点が遺跡位置



遺跡遠景（直上・下が北）

►▼の交点が遺跡位置

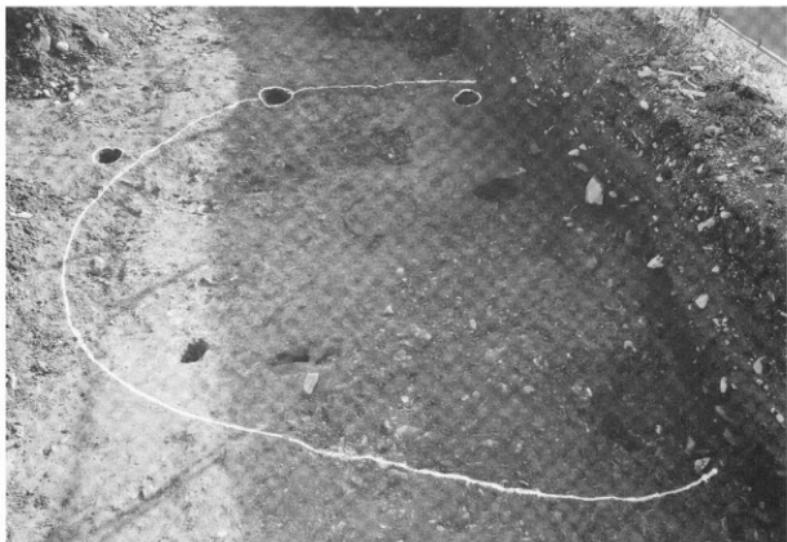


遺跡遠景（直上・左が北）



北区遺物包含層断面

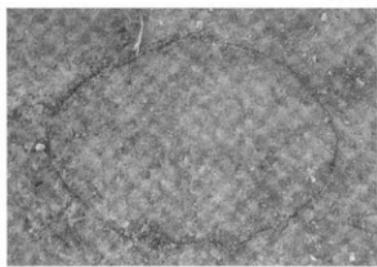
写真図版2 遺跡近景、北区遺物包含層



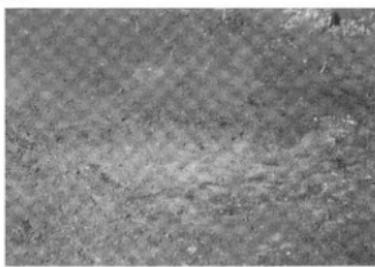
平面（北から）



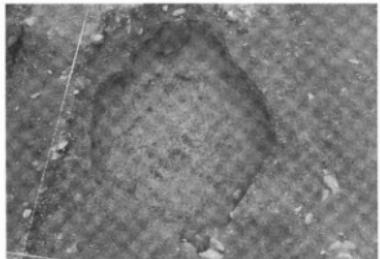
断面（北東から）



炉平面（東から）



炉断面（南東から）



2・3号土坑平面（北から）



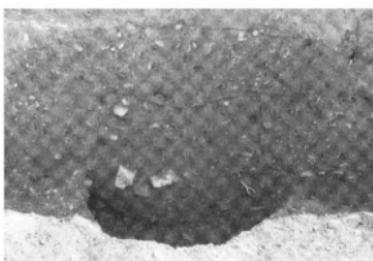
2・3号土坑断面（西から）



3号土坑遺物出土状況（西から）



5号土坑平面（西から）



5号土坑断面（西から）



2号焼土造構平面（北から）

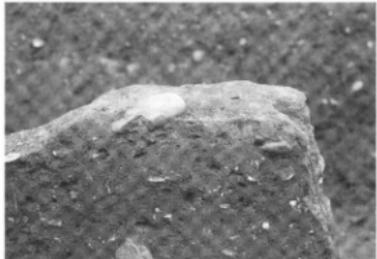


2号焼土造構断面（東から）

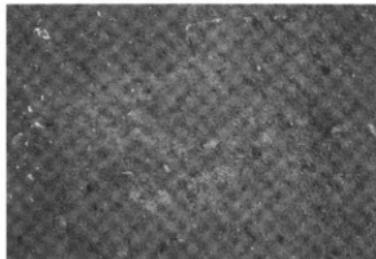
写真図版 4 2～5号土坑、2号焼土造構



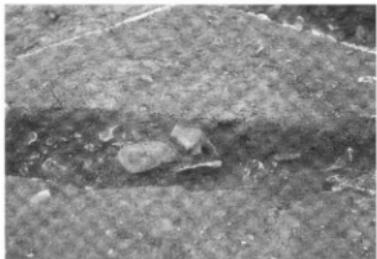
3号焼土遺構平面（北から）



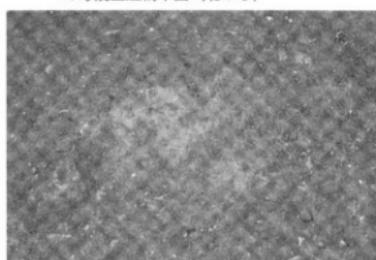
3号焼土遺構断面（西から）



4号焼土遺構平面（北から）



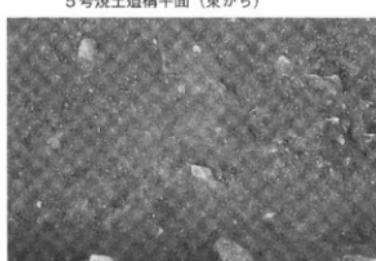
4号焼土遺構断面（南西から）



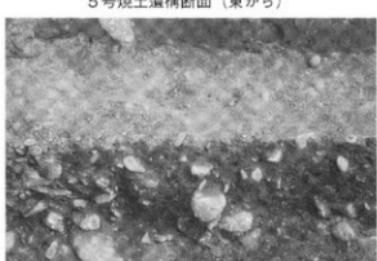
5号焼土遺構平面（東から）



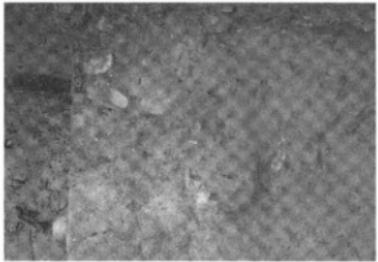
5号焼土遺構断面（東から）



6号焼土遺構平面（東から）



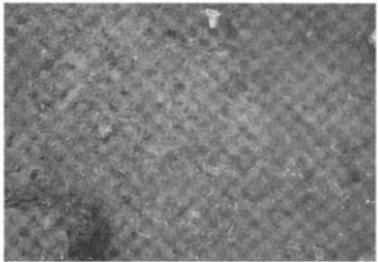
6号焼土遺構断面（西から）



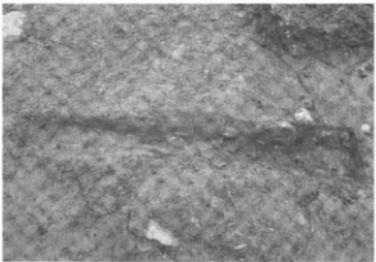
7号焼土遺構平面（北から）



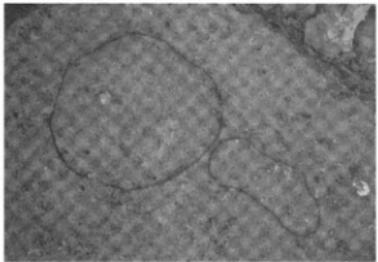
7号焼土遺構断面（東から）



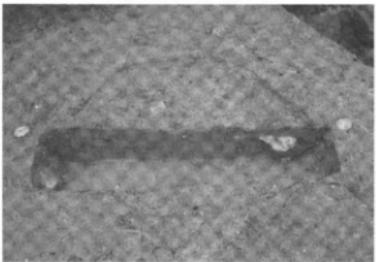
8号焼土遺構平面（北から）



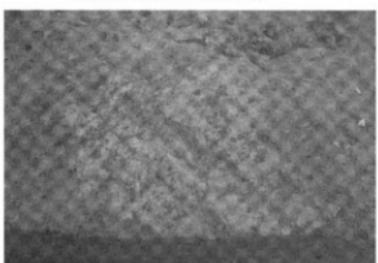
8号焼土遺構断面（南から）



9号焼土遺構平面（東から）



9号焼土遺構断面（東から）

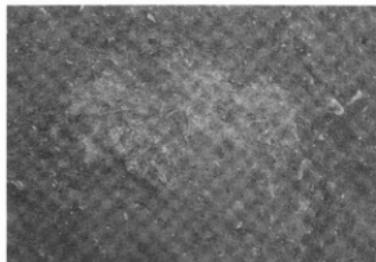


10号焼土遺構平面（西から）

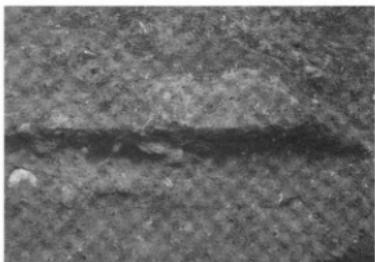


10号焼土遺構断面（西から）

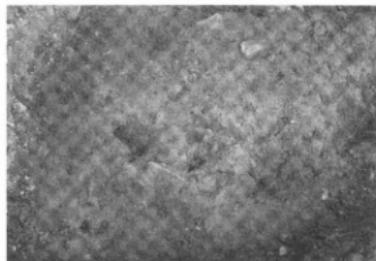
写真図版 6 7~10号焼土遺構



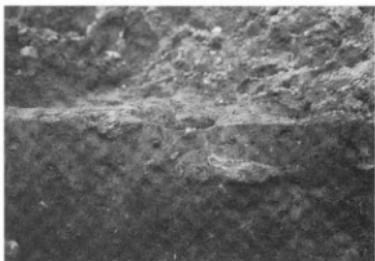
11号焼土遺構平面（南西から）



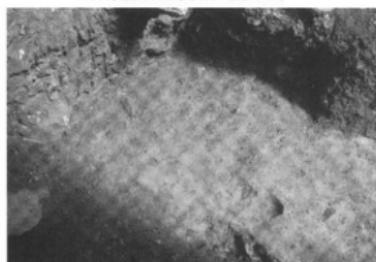
11号焼土遺構断面（南西から）



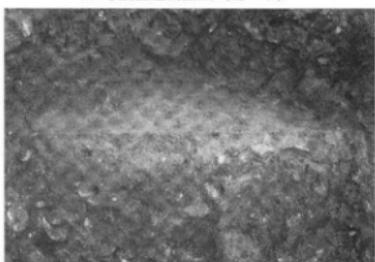
12号焼土遺構平面（南から）



12号焼土遺構断面（北から）



13号焼土遺構平面（東から）



13号焼土遺構断面（北から）



1号埋設土器平面（南から）



1号埋設土器平面（東から）

写真図版7 11~13号焼土遺構、1号埋設土器



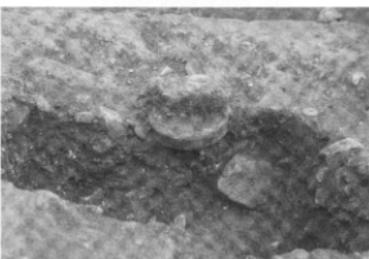
2号埋設土器平面（北から）



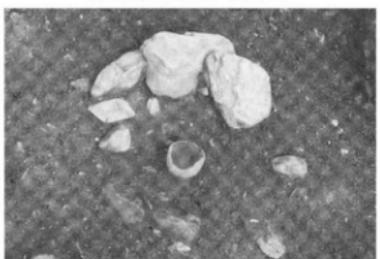
2号埋設土器断面（東から）



3号埋設土器平面（南から）



3号埋設土器断面（東から）



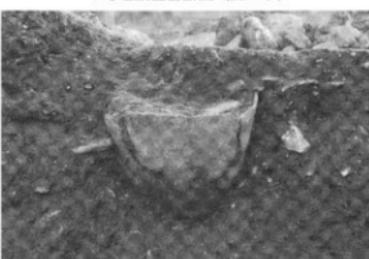
4号埋設土器平面（南から）



4号埋設土器断面（西から）

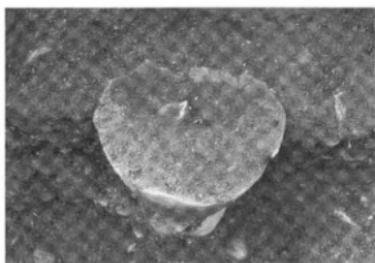


5号埋設土器平面（南から）



5号埋設土器断面（北から）

写真図版 8 2~5号埋設土器



6号埋設土器平面（北から）



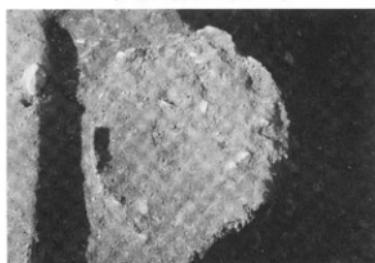
6号埋設土器断面（北から）



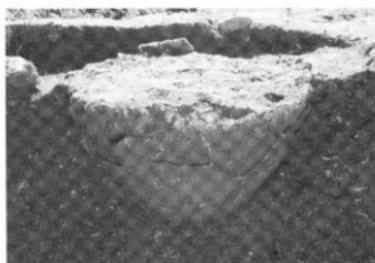
7号埋設土器平面（西から）



7号埋設土器断面（南東から）



8号埋設土器平面（東から）



8号埋設土器断面（北から）

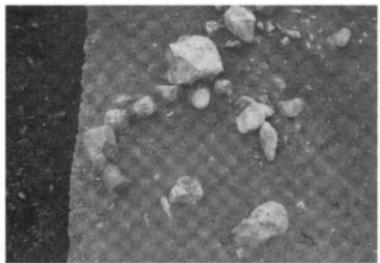


9号埋設土器平面（西から）

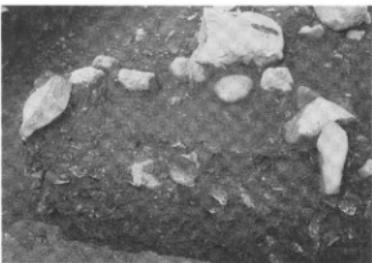


9号埋設土器断面（南から）

写真図版 9 6～9号埋設土器



1号配石遺構平面（南から）



1号配石遺構断面（南東から）



2号配石遺構平面（北から）



2号配石遺構断面（東から）



南区（11B）作業風景



北区（4B）作業風景



現地公開風景

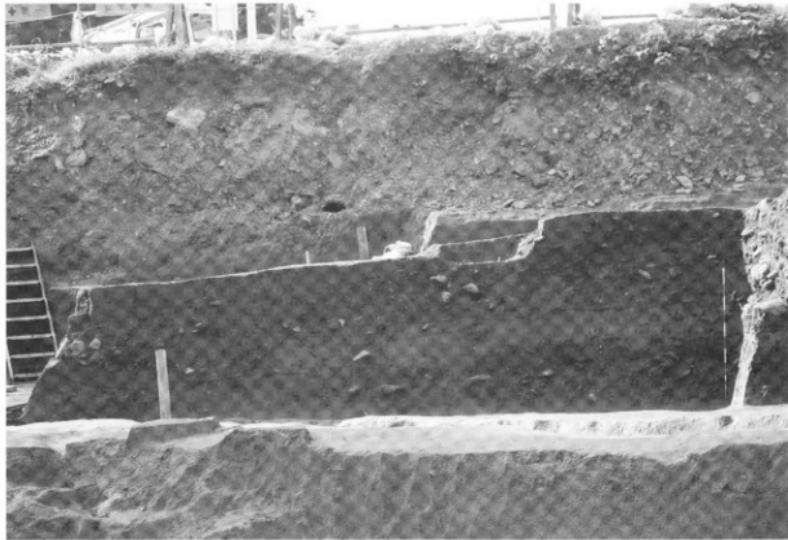
写真図版10 1・2号配石遺構、作業風景、現地公開風景



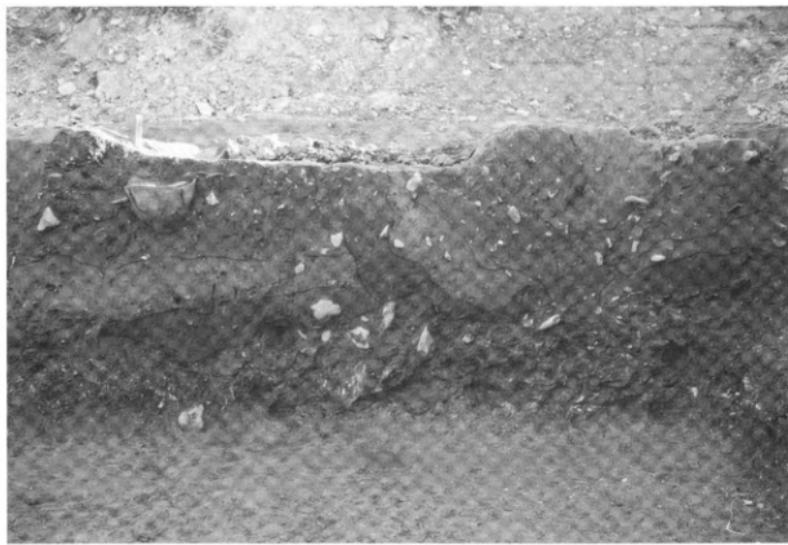
北区遺物包含層全景（東から）



北区遺物包含層N Sベルト断面（東から）



北区遺物包含層WEベルト中央断面（北から）



北区遺物包含層WEベルト西側断面（北から）



北区遺物包含層NSベルト谷部断面（東から）



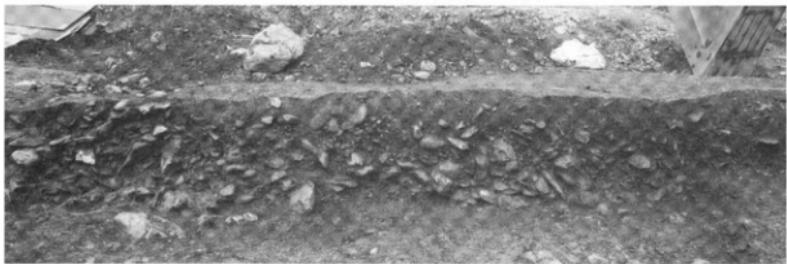
北区遺物包含層WEベルト東側断面（北から）



南区遺物包含層全景（東から）



南区遺物包含層N Sベルト断面（東から）



南区遺物包含層W Eベルト1断面（南から）

写真図版14 南区遺物包含層（1）



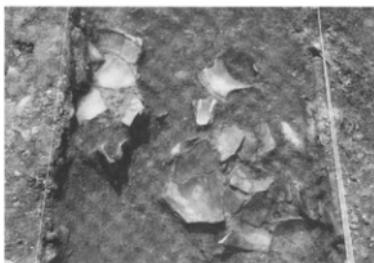
南区遺物包含層WEベルト2断面（南から）



南区遺物包含層WEベルト3断面（南から）



南区遺物包含層WEベルト4断面（南から）



4B13 III a層下位（北から）



4B12 III b層上位（北から）

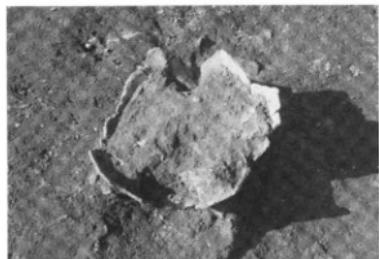
写真図版15 南区遺物包含層（2）



4B19 III b 層上～中位（北から）



8B16・24 III b 層下位（東から）



6C22 III b 層下位（南西から）



4B6 III b 層下位（東から）



4B25 III c 層上位（北から）



4B11 III b 下位（南から）



1号焼土遺構平面（東から）

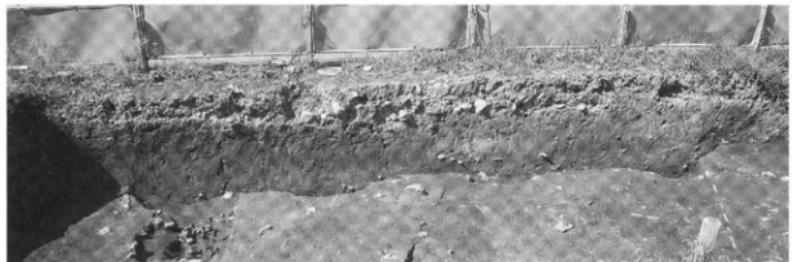


1号焼土遺構断面（東から）

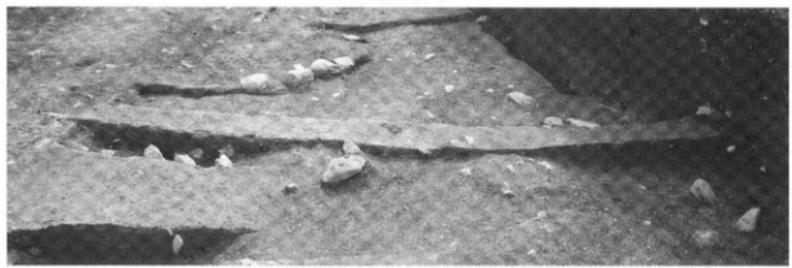
写真図版16 遺物包含層出土状況、1号焼土遺構



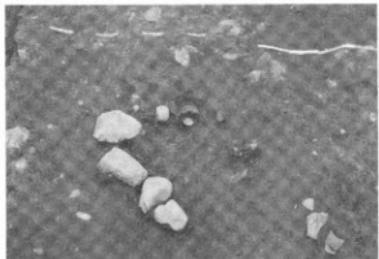
完掘（南から）



断面（東から）



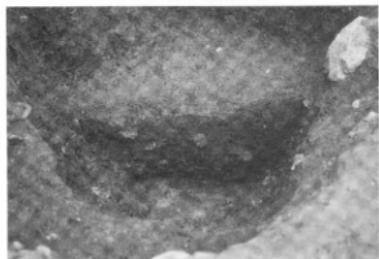
断面（北から）



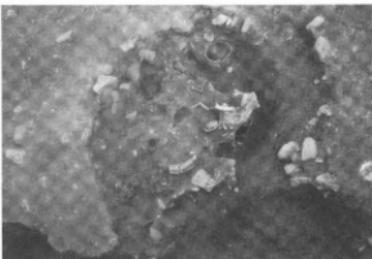
カマド平面（西から）



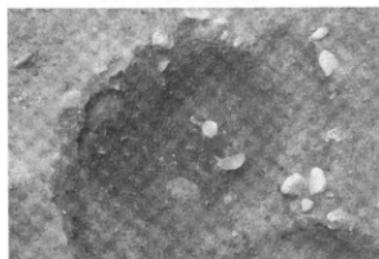
カマド断面（西から）



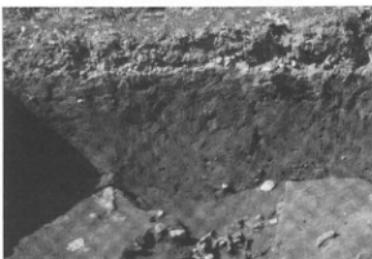
ピット1断面（北から）



ピット2遺物出土状況（南から）



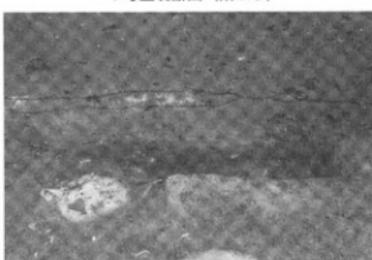
ピット2平面（西から）



1号土坑断面（東から）

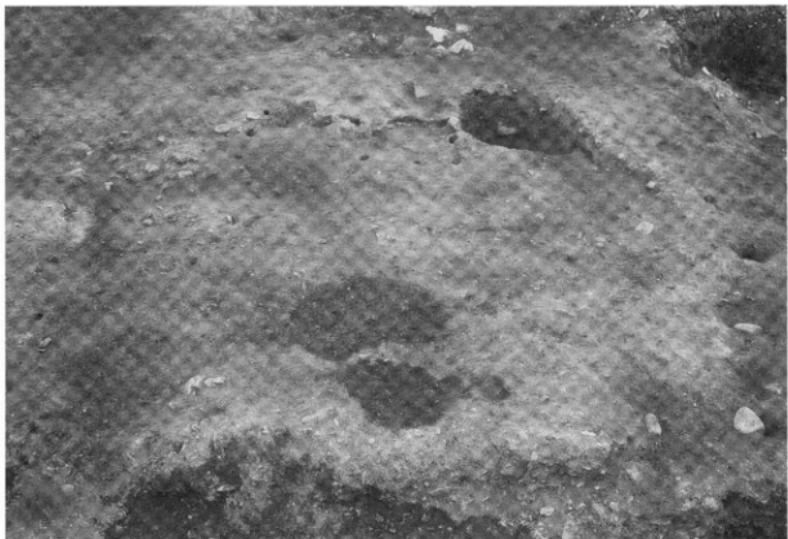


床面焼土平面（東から）

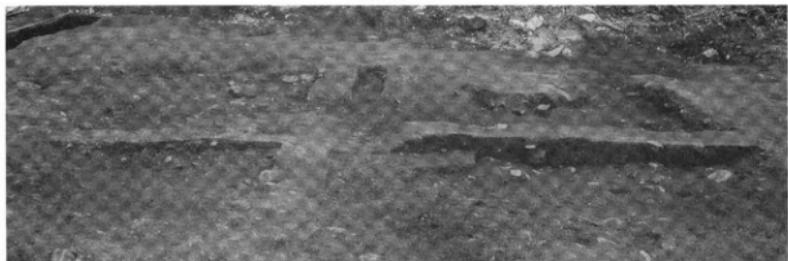


床面焼土断面（東から）

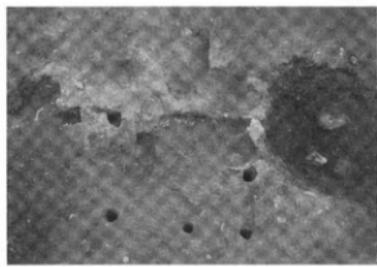
写真図版18 1号竪穴住居跡（2）



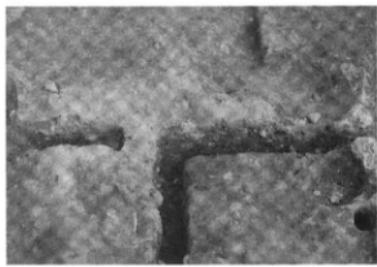
平面（西から）



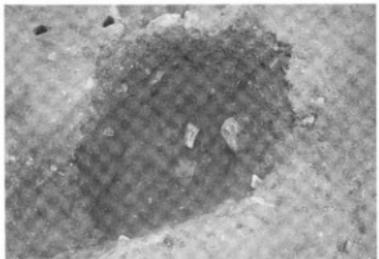
断面（西から）



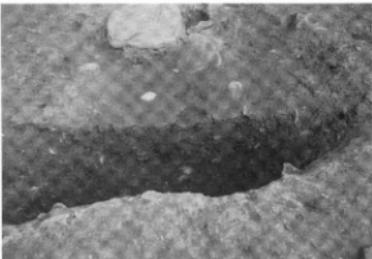
カマド平面（西から）



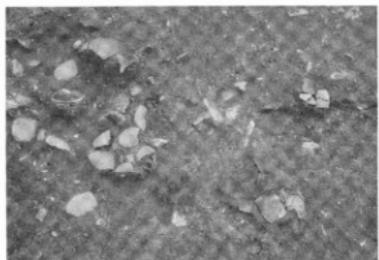
カマド断面（西から）



2号竪穴住居跡ピット1平面（南から）



2号竪穴住居跡ピット1断面（南から）



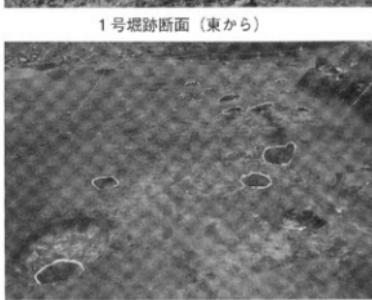
2号竪穴住居跡床面遺物出土状況（西から）



2号竪穴住居跡床面焼土・炭化物出土状況（西から）



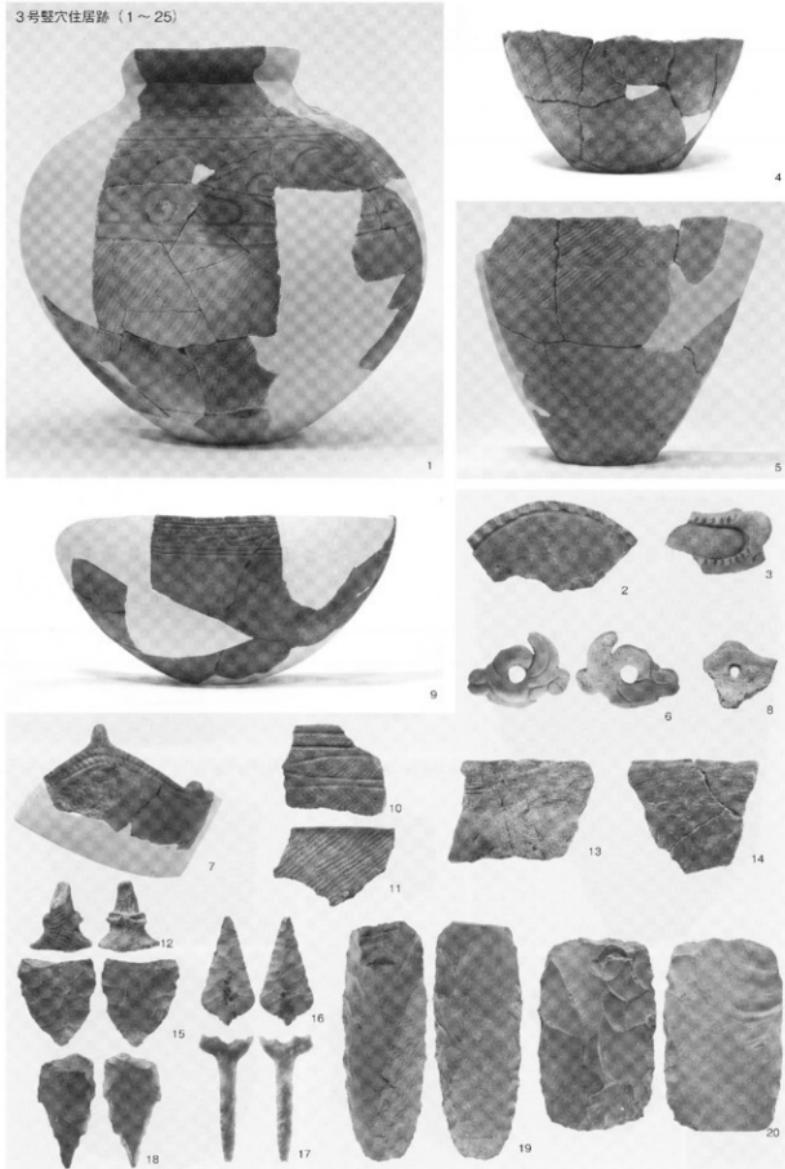
1号堀跡完掘（南東から）



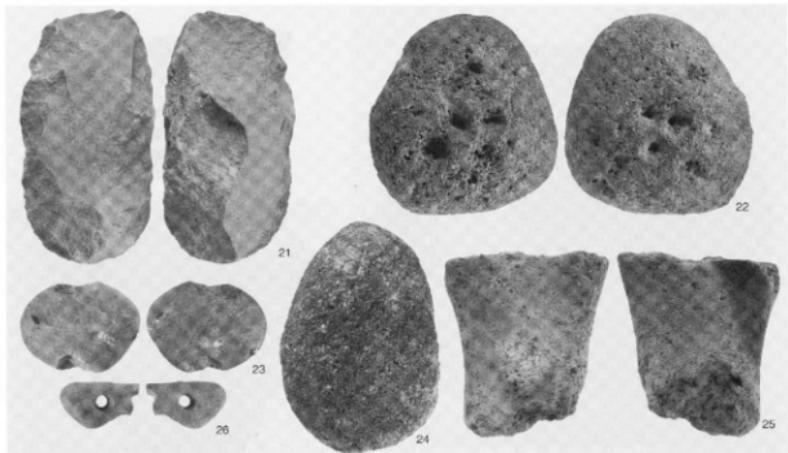
南区（7B～8B）柱穴状ピット平面（南から）

写真図版20 2号竪穴住居跡（2）、1号堀跡、南区柱穴状ピット群

3号竪穴住居跡（1～25）



写真図版21 3号竪穴住居跡出土遺物（1）



3号土坑 (27～29)



27



28

29

2号埋設土器



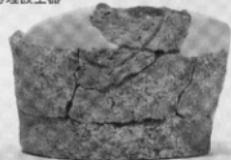
36

5号土坑 (30～34)



31

3号埋設土器



37



33



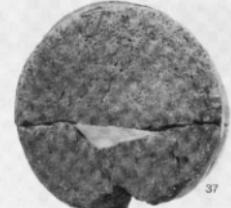
33



34



30



37

写真図版22 3号竪穴住居跡 (2)、3・5号土坑、2・3号埋設土器出土遺物

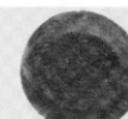
1号埋設土器



4号埋設土器



38



39

1号竪穴住居跡



44



45

2号竪穴住居跡

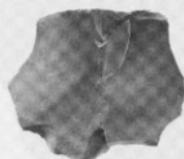


46

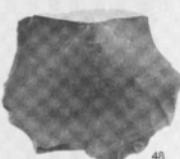
1号堀跡



47



48



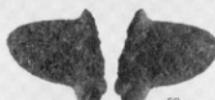
49



50



52



53



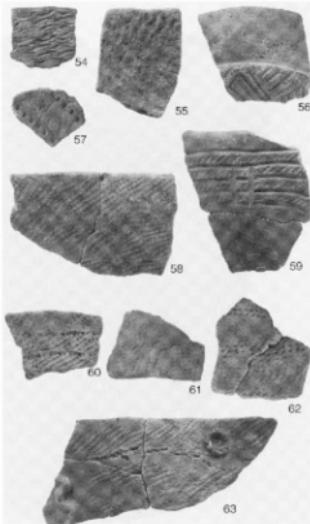
54



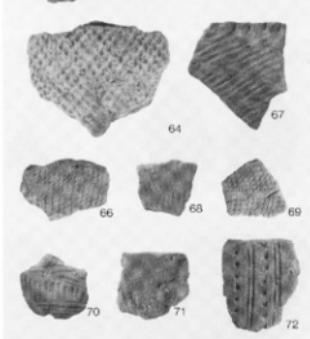
55

写真図版23 1・4号埋設土器、1・2号竪穴住居跡、1号堀跡出土遺物

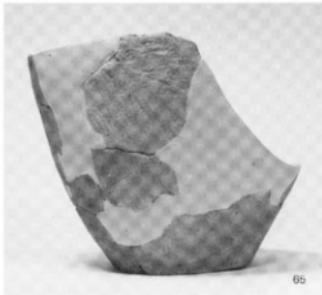
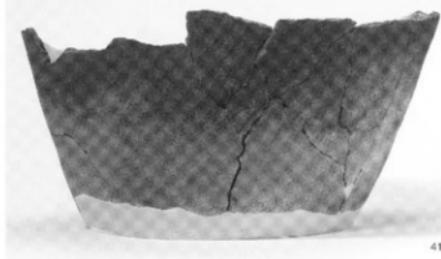
5号埋設土器



6号埋設土器



7号埋設土器



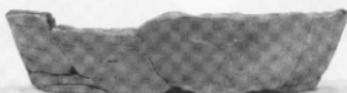
写真図版24 5～7号埋設土器出土遺物、北区遺物包含層出土土器(1)



73



74



78



77



75



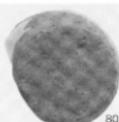
76



42

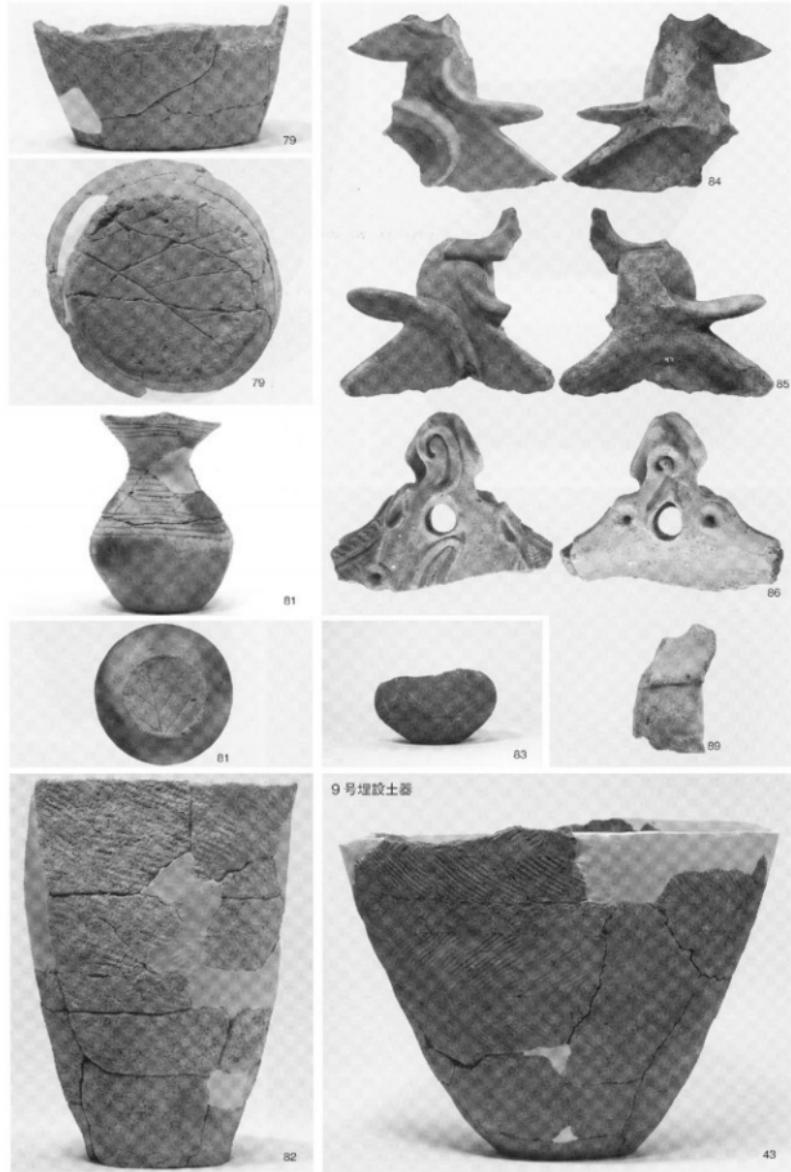


80

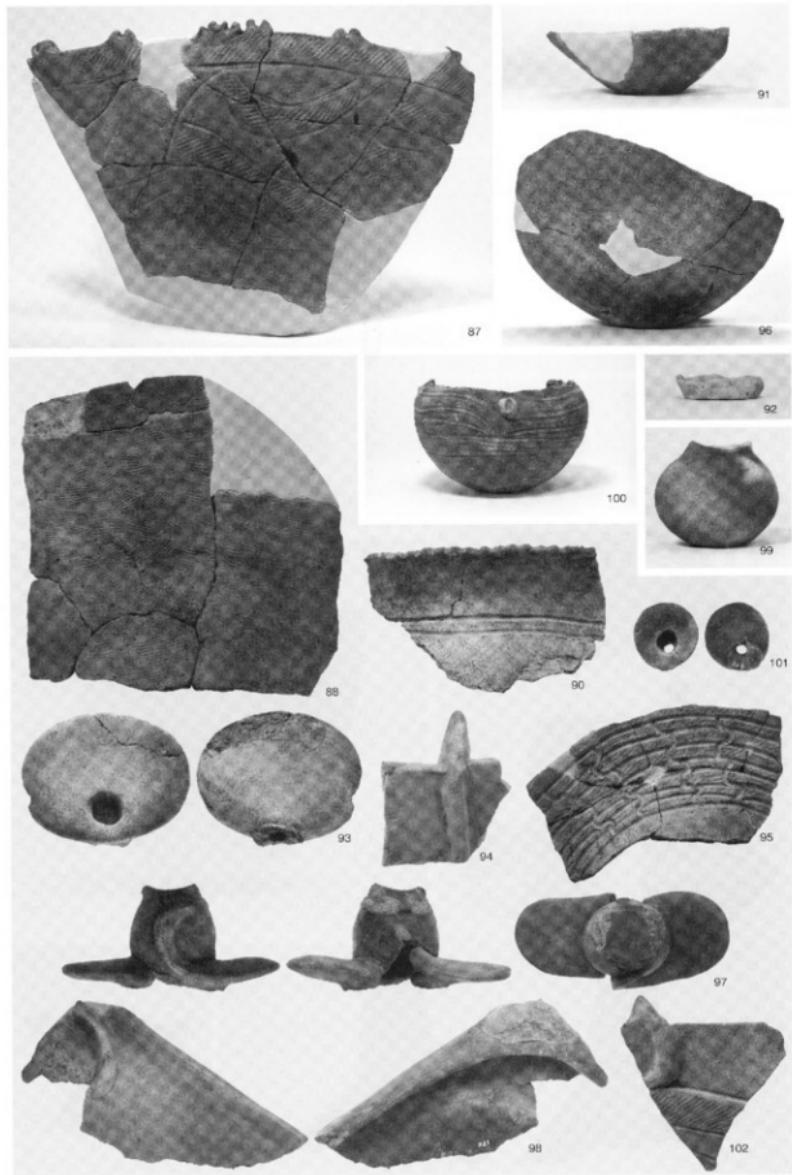


80

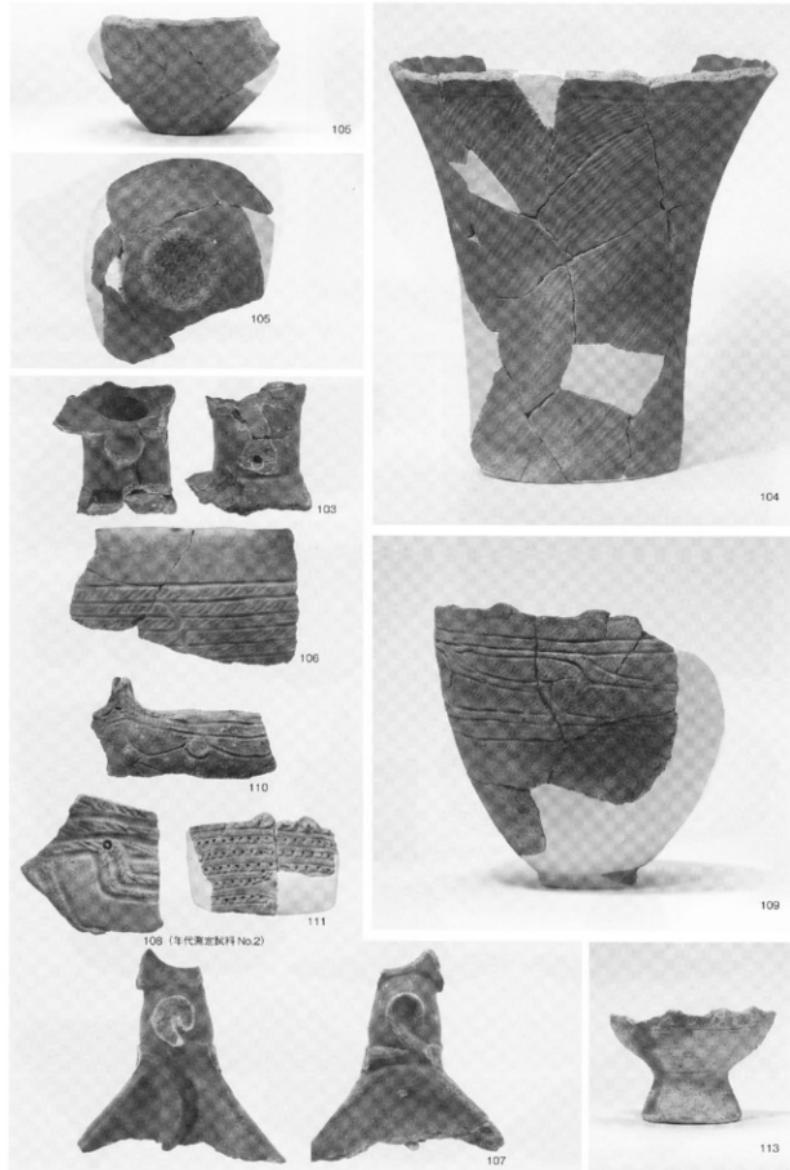
写真図版25 8号埋設土器、北区遺物包含層出土土器(2)



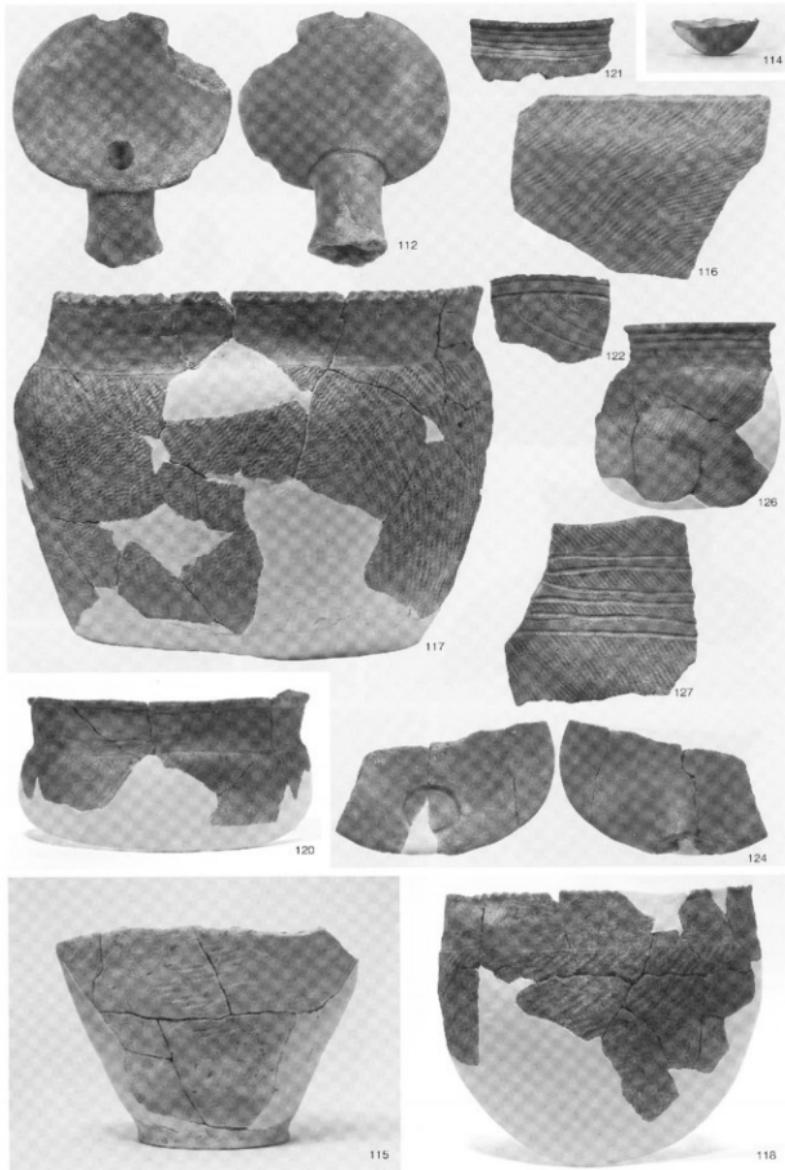
写真図版26 9号埋設土器、北区遺物包含層出土土器(3)



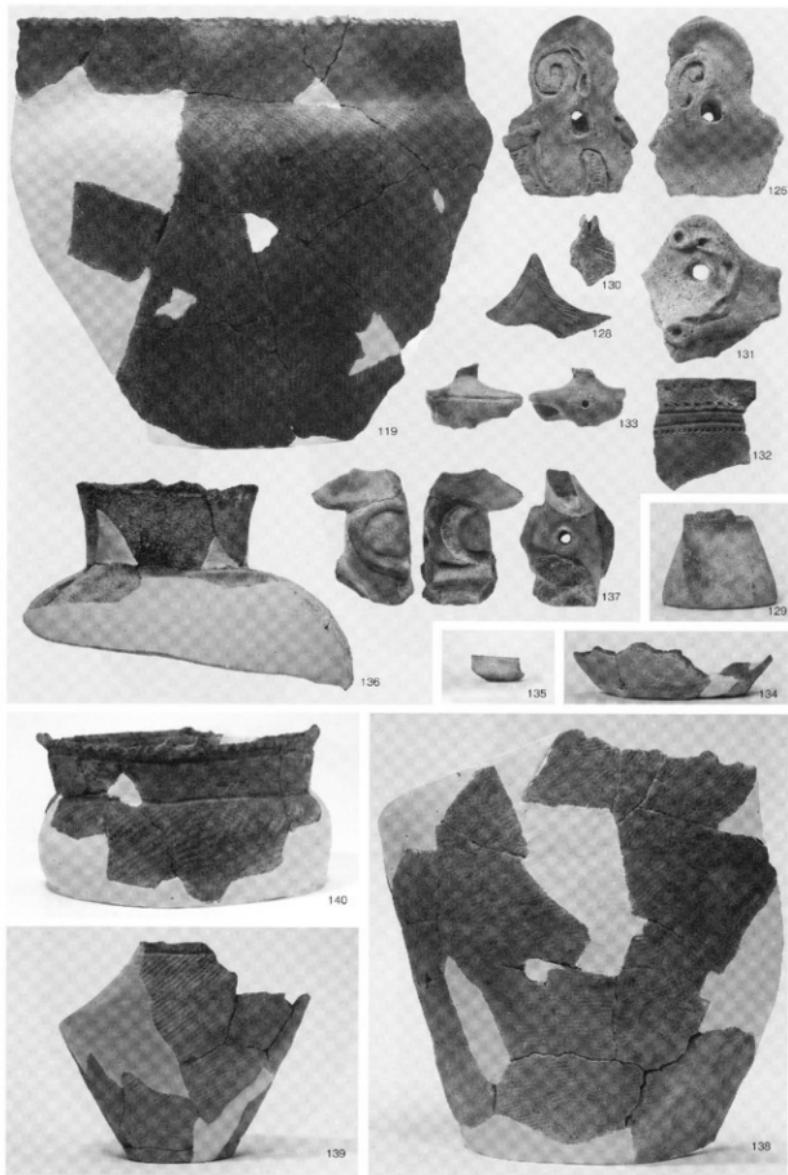
写真図版27 北区遺物包含層出土土器(4)



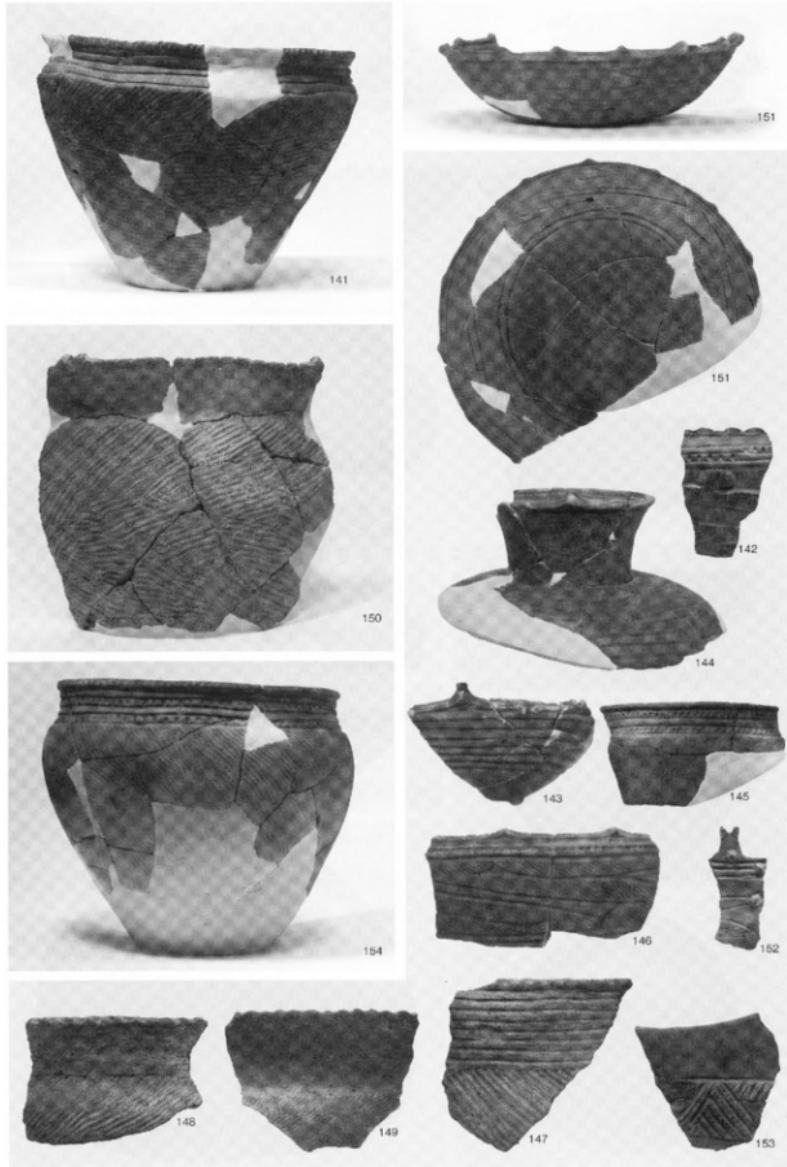
写真図版28 北区遺物包含層出土土器(5)



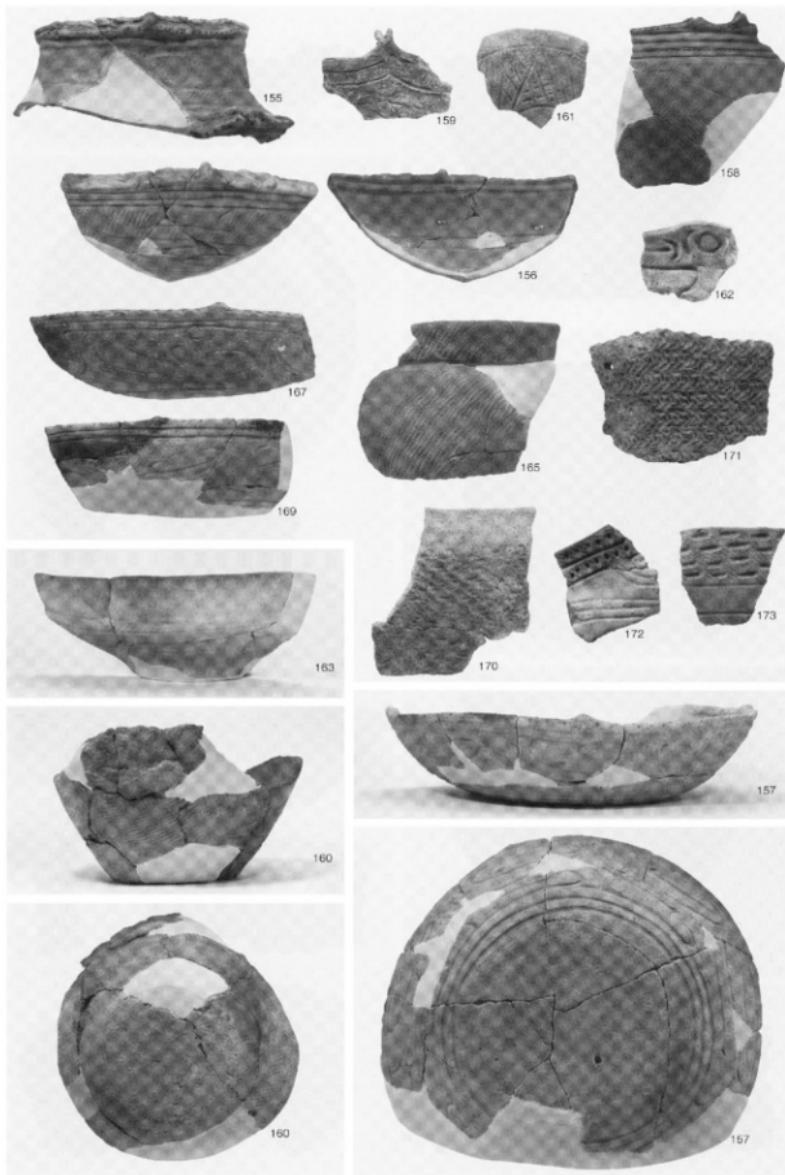
写真図版29 北区遺物包含層出土土器(6)



写真図版30 北区遺物包含層出土土器(7)



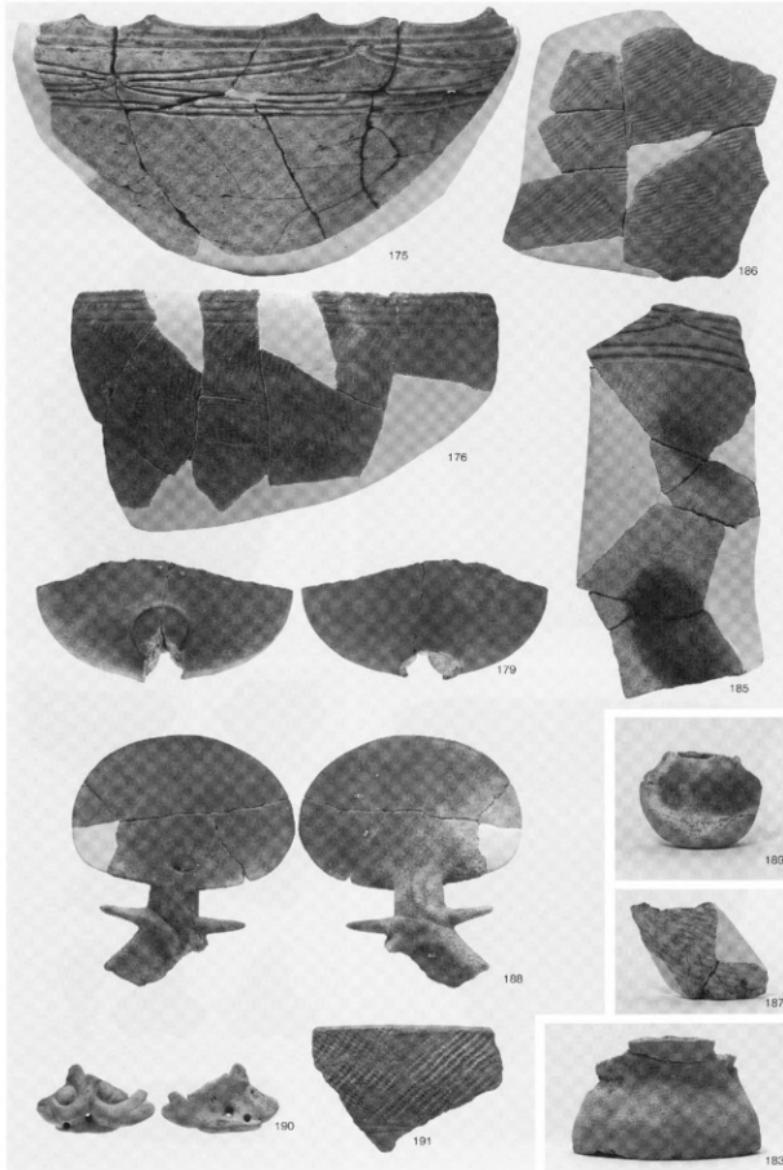
写真図版31 北区遺物包含層出土土器(8)



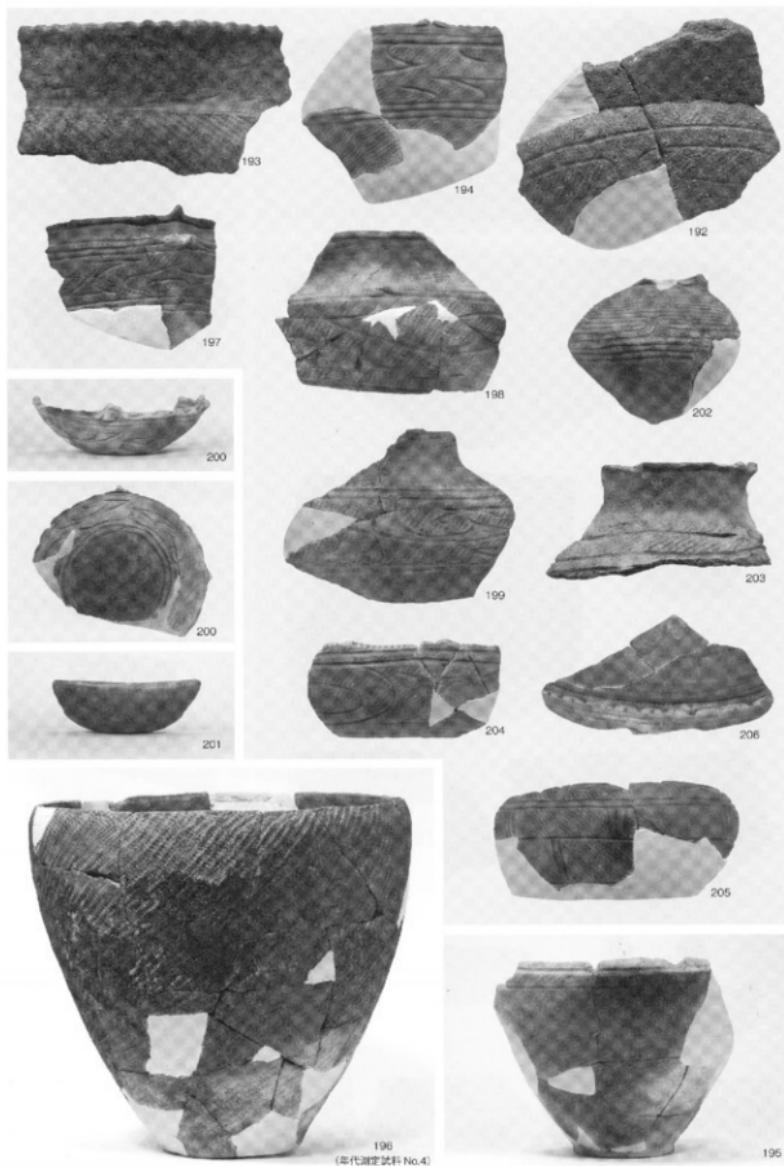
写真図版32 北区遺物包含層出土土器(9)



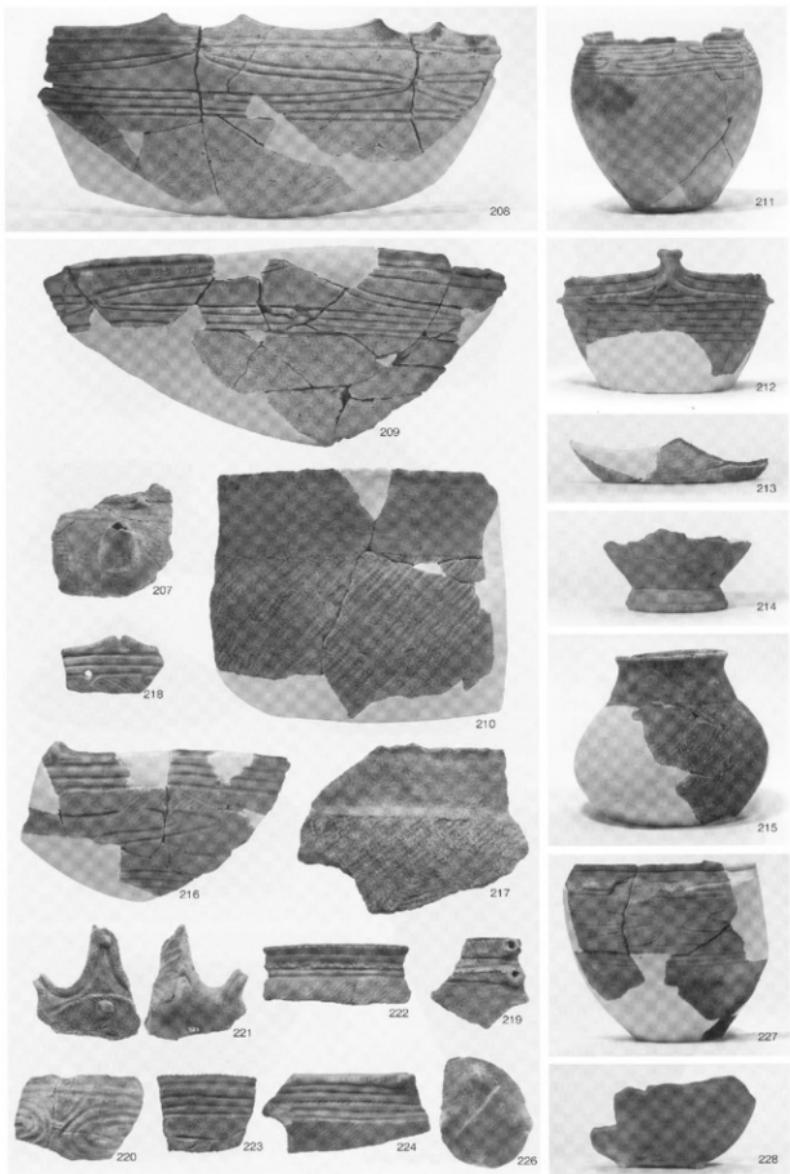
写真図版33 北区遺物包含層出土土器(10)



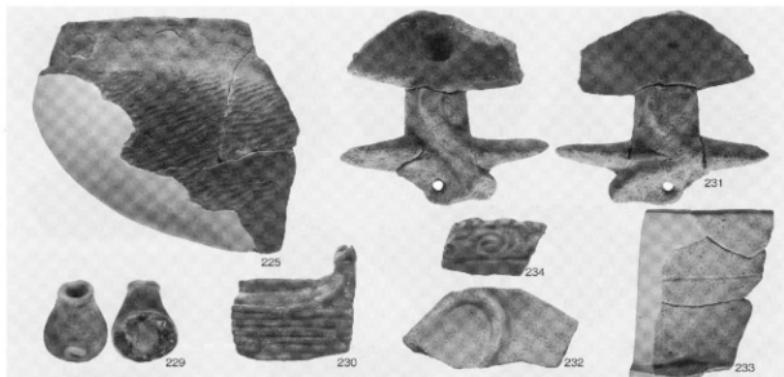
写真図版34 北区遺物包含層出土土器(11)



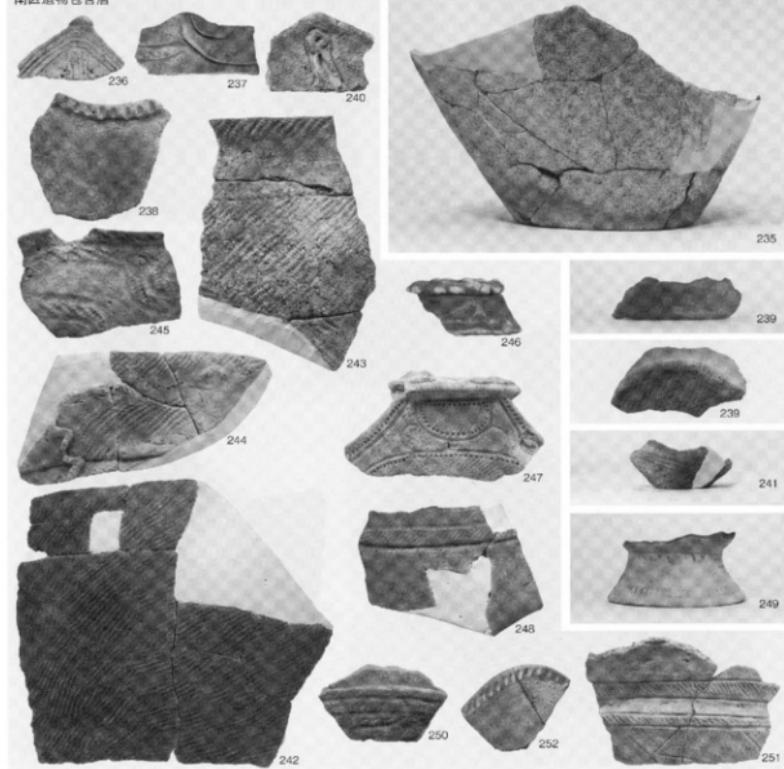
写真図版35 北区遺物包含層出土土器(12)



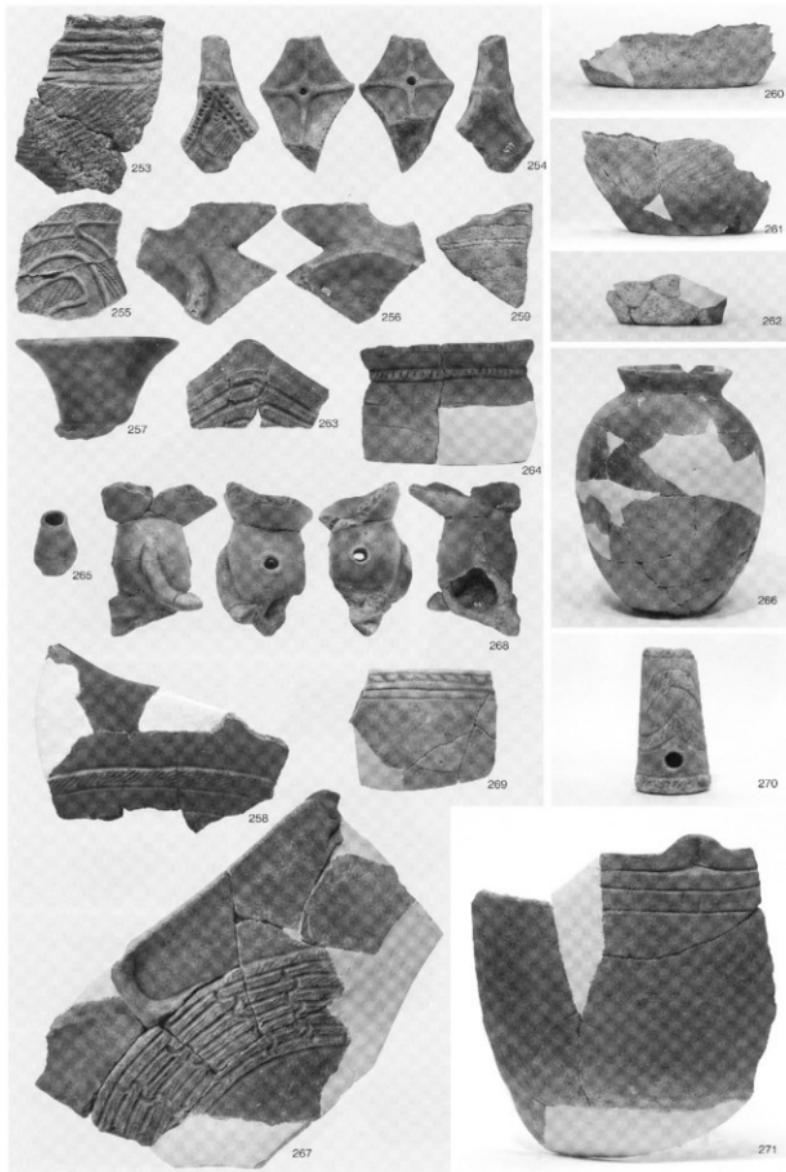
写真図版36 北区遺物包含層出土土器(13)



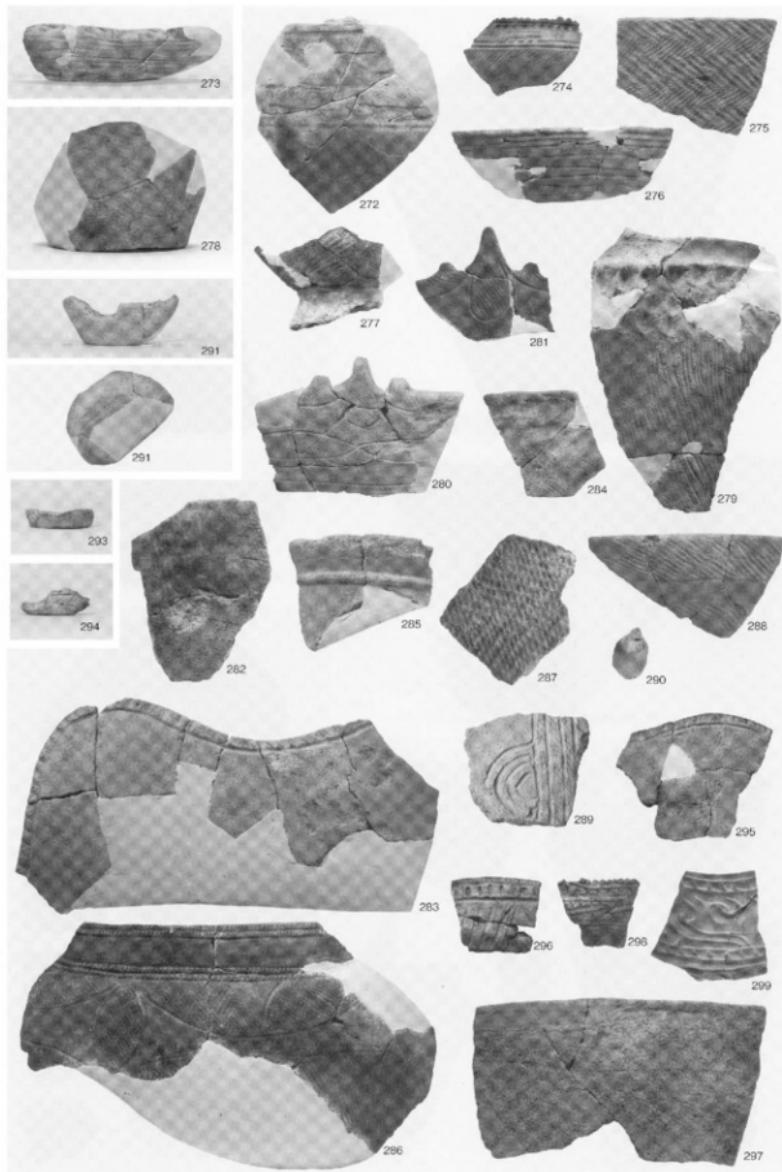
南区遺物包含層



写真図版37 北区遺物包含層出土土器(14)、南区遺物包含層出土土器(1)



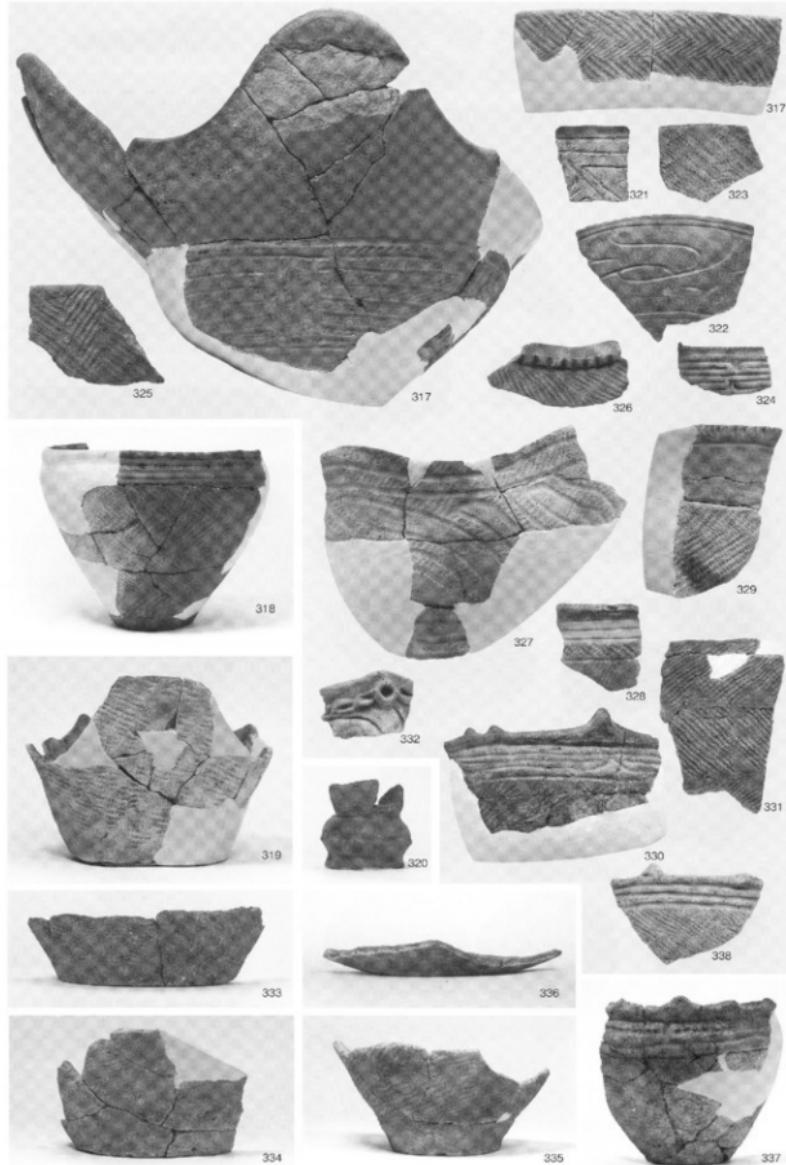
写真図版38 南区遺物包含層出土土器(2)



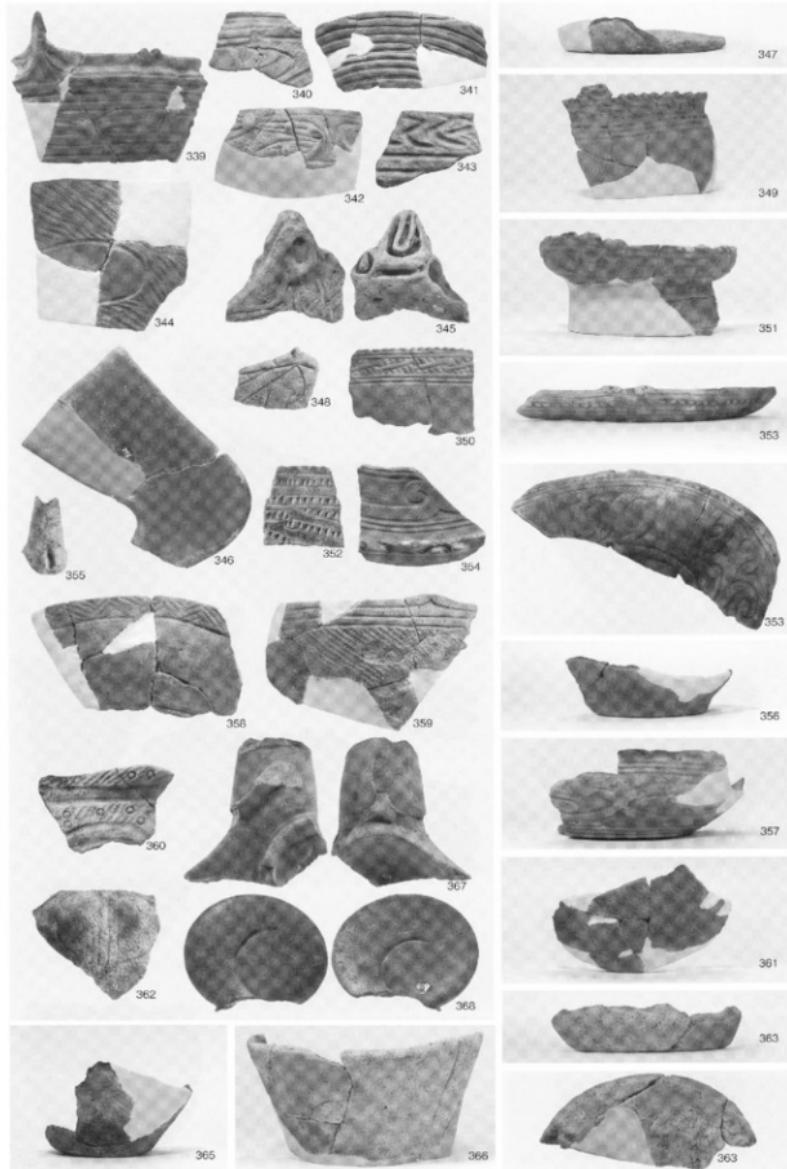
写真図版39 南区遺物包含層出土土器(3)



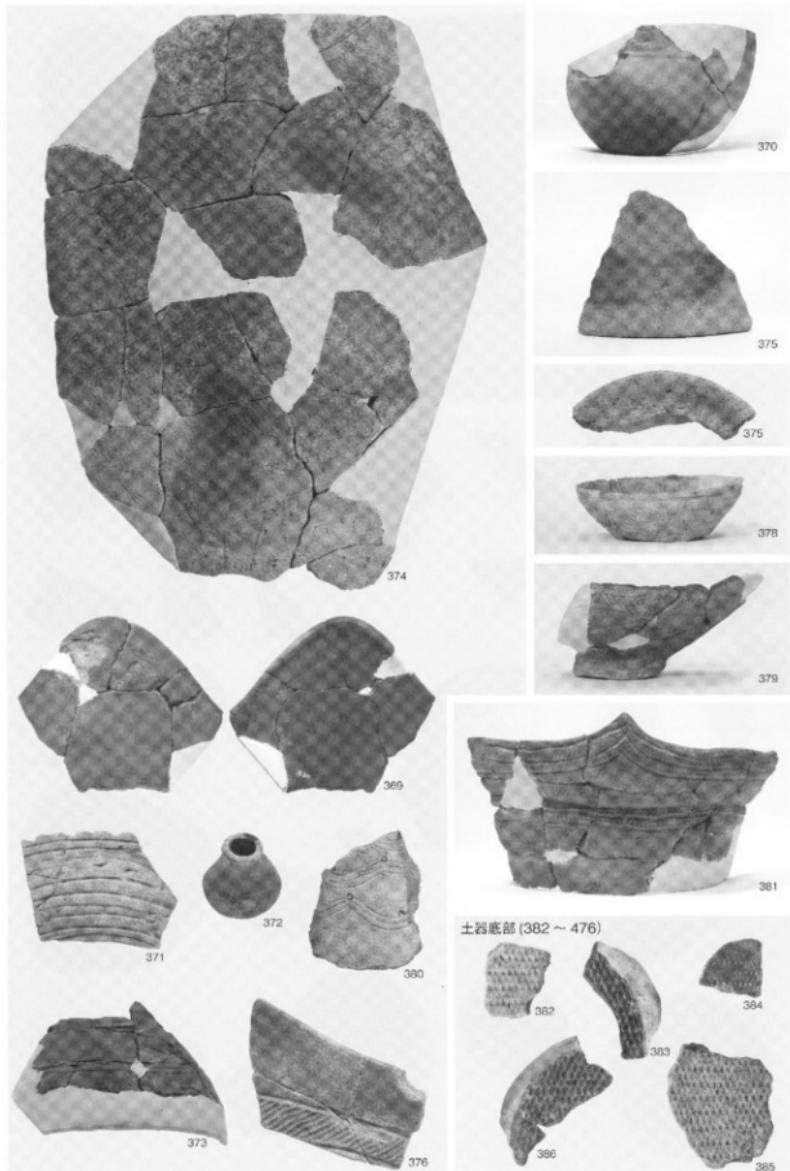
写真図版40 南区遺物包含層出土土器(4)



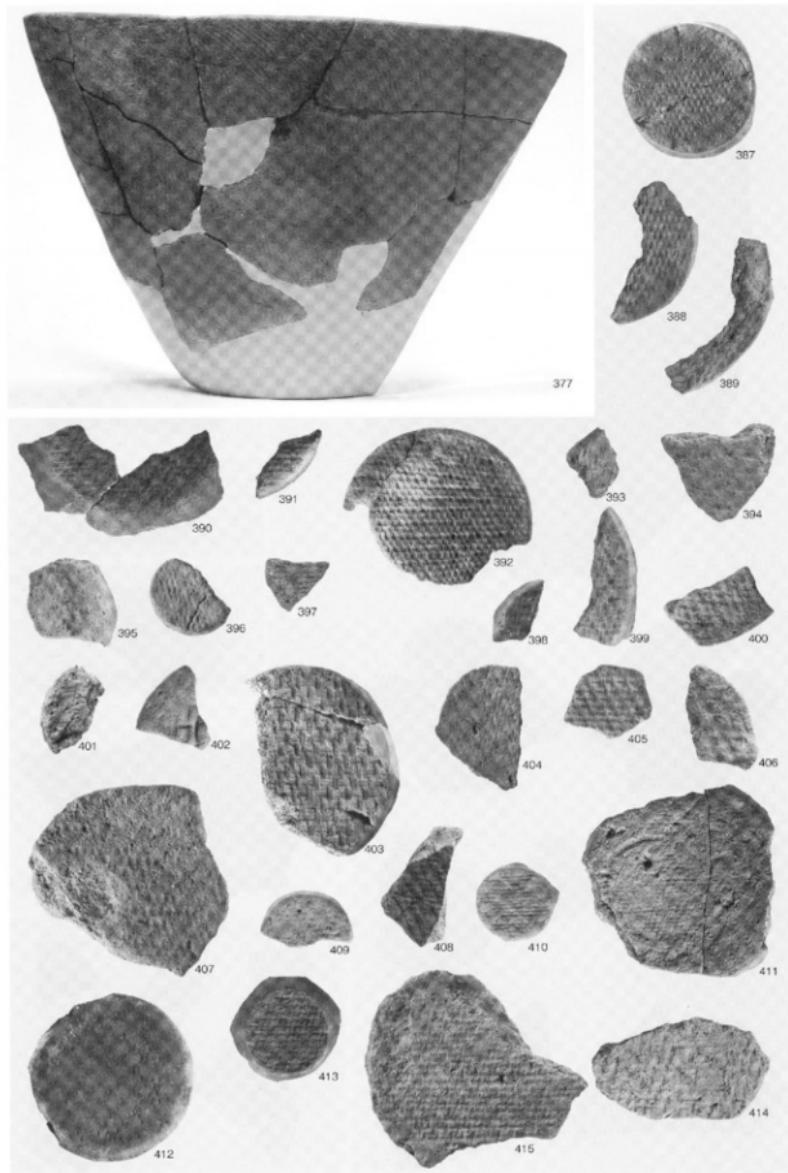
写真図版41 南区遺物包含層出土土器(5)



写真図版42 南区遺物包含層出土土器(6)



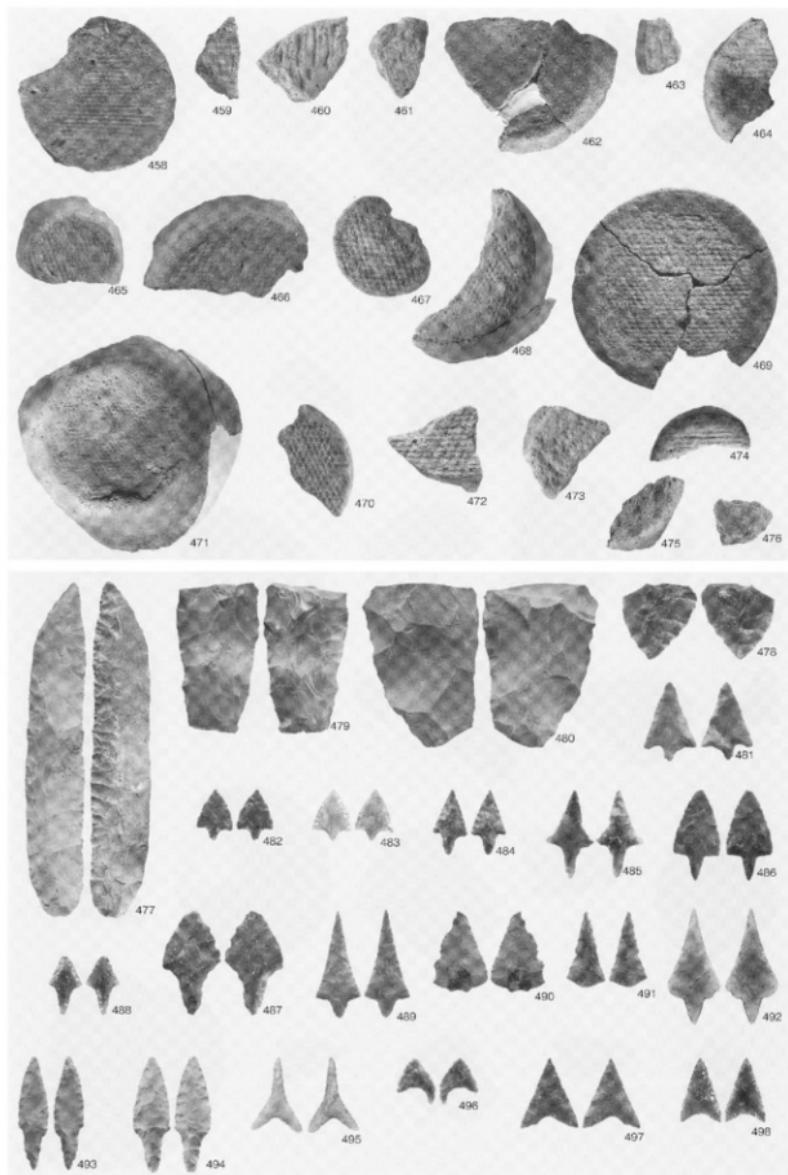
写真図版43 南区遺物包含層出土土器(7)、土器底部(1)



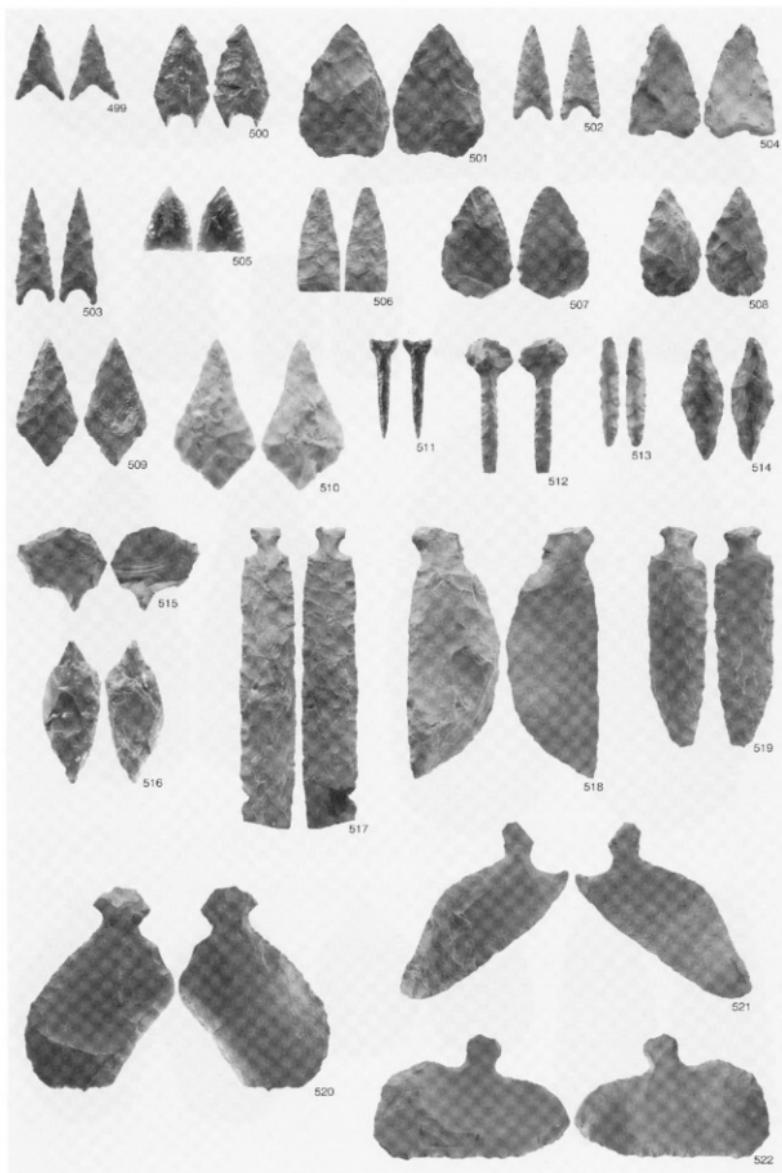
写真図版44 南区遺物包含層出土土器(8)、土器底部(2)



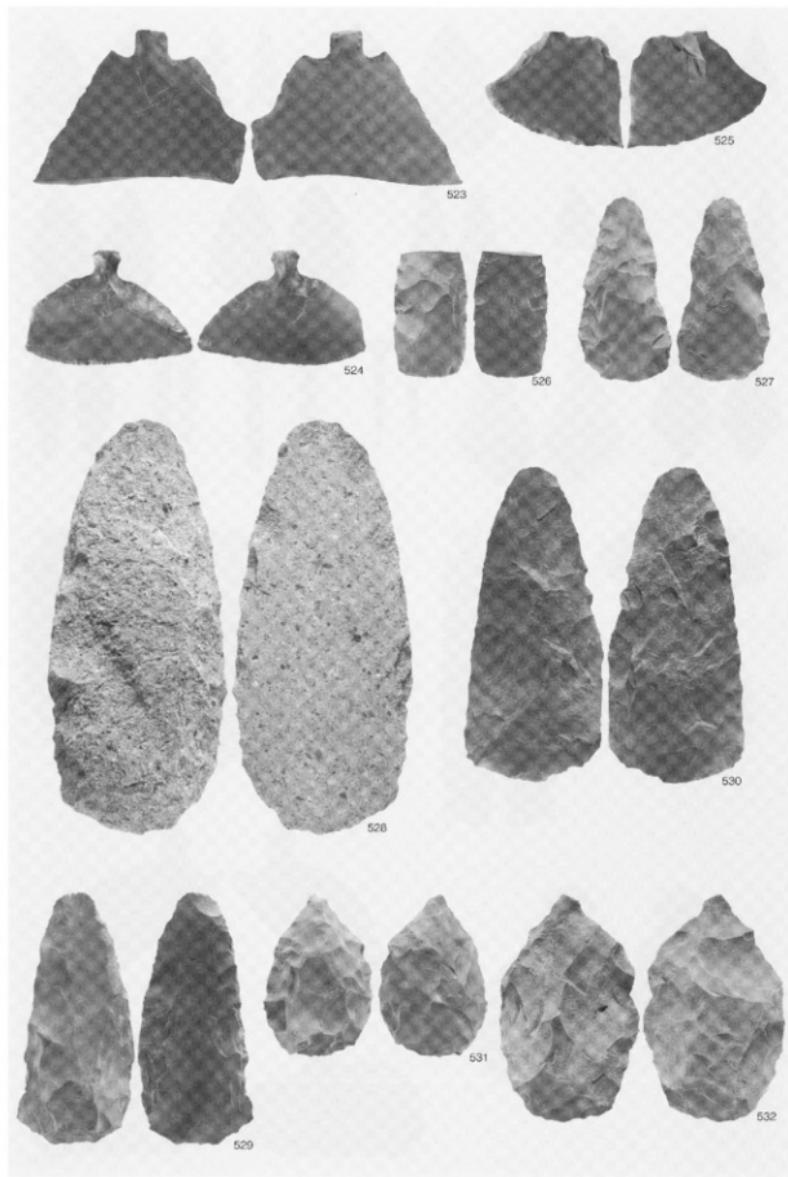
写真図版45 土器底部（3）



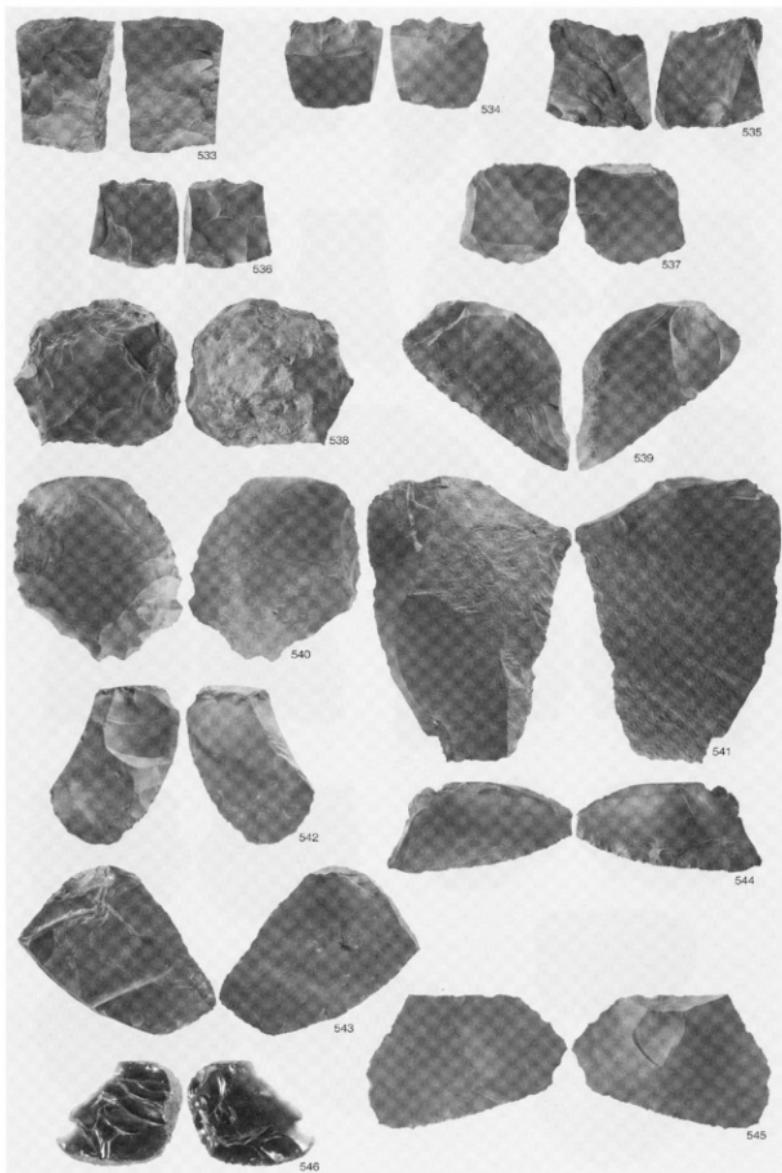
写真図版46 土器底部(4)、出土石器(1)



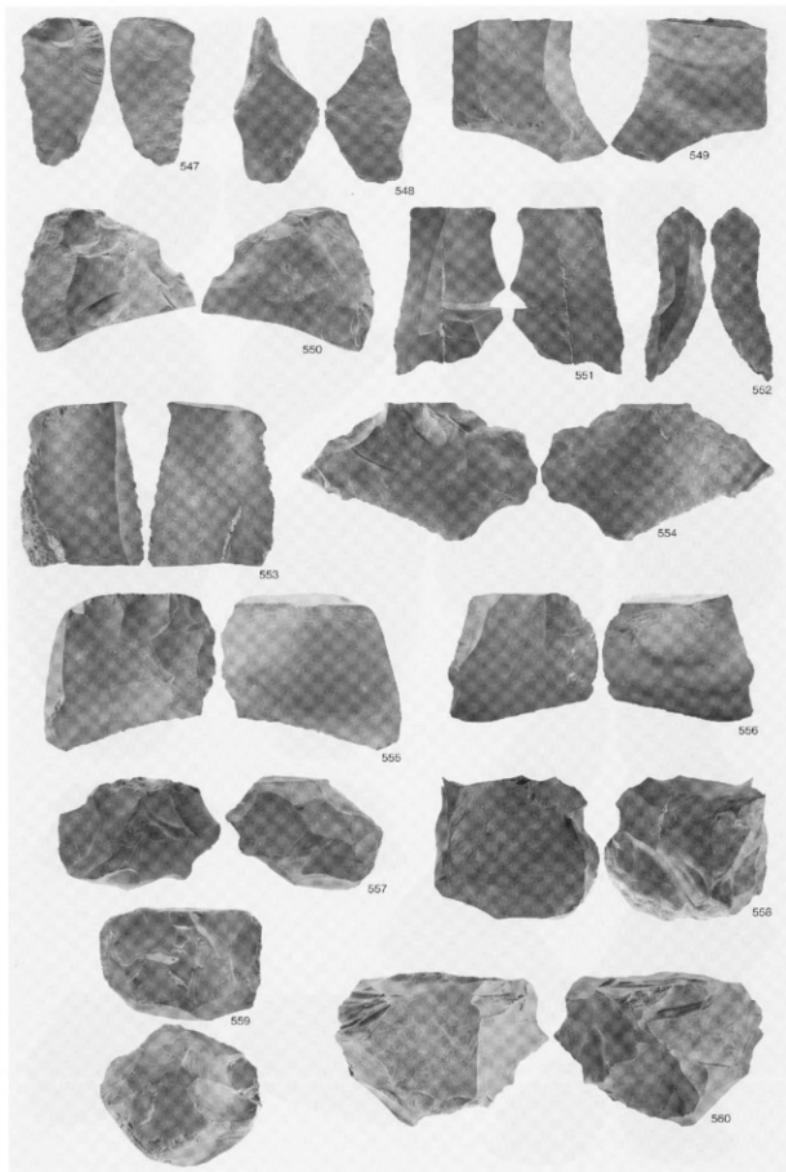
写真図版47 出土石器（2）



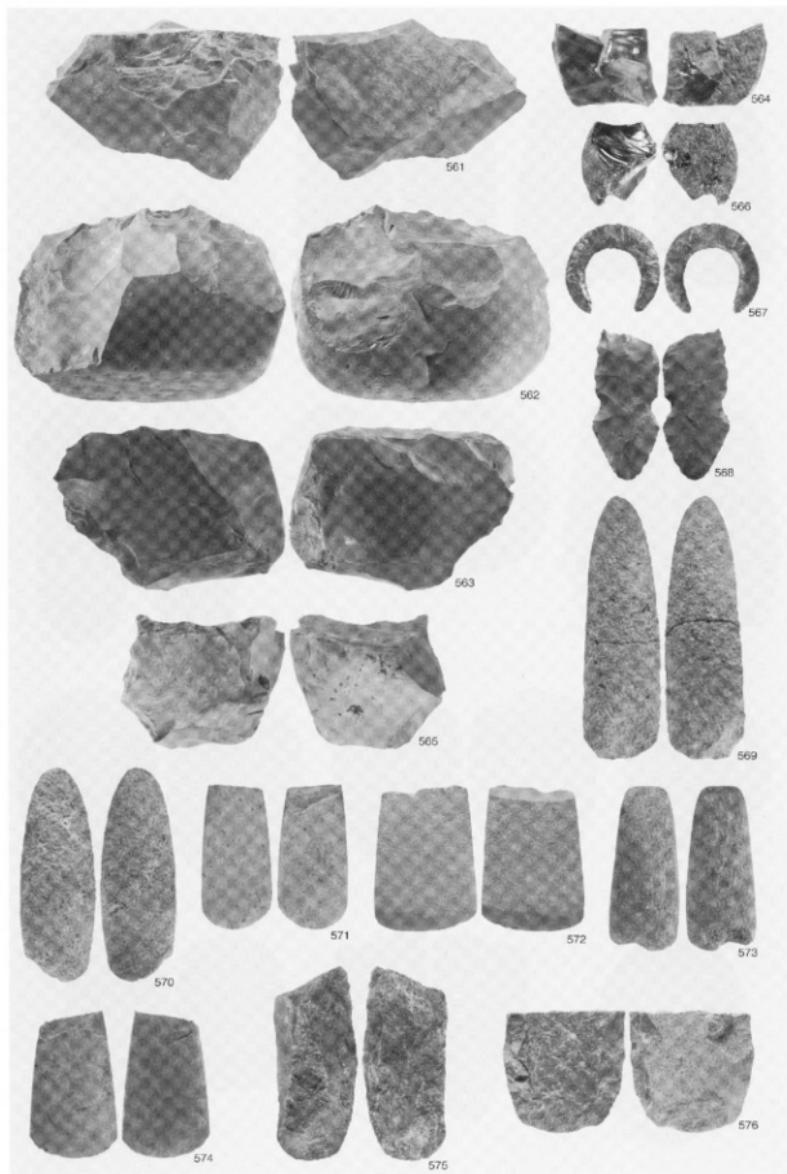
写真図版48 出土石器（3）



写真図版49 出土石器（4）



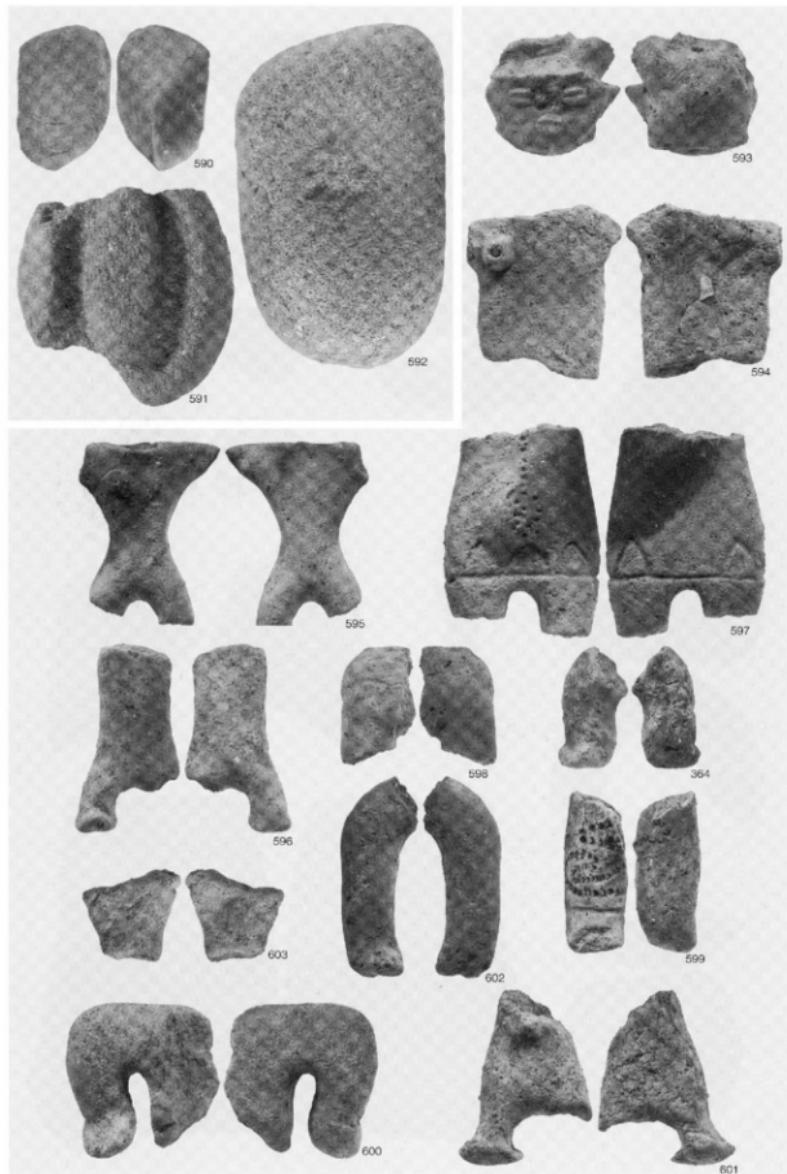
写真図版50 出土石器（5）



写真図版51 出土石器（6）



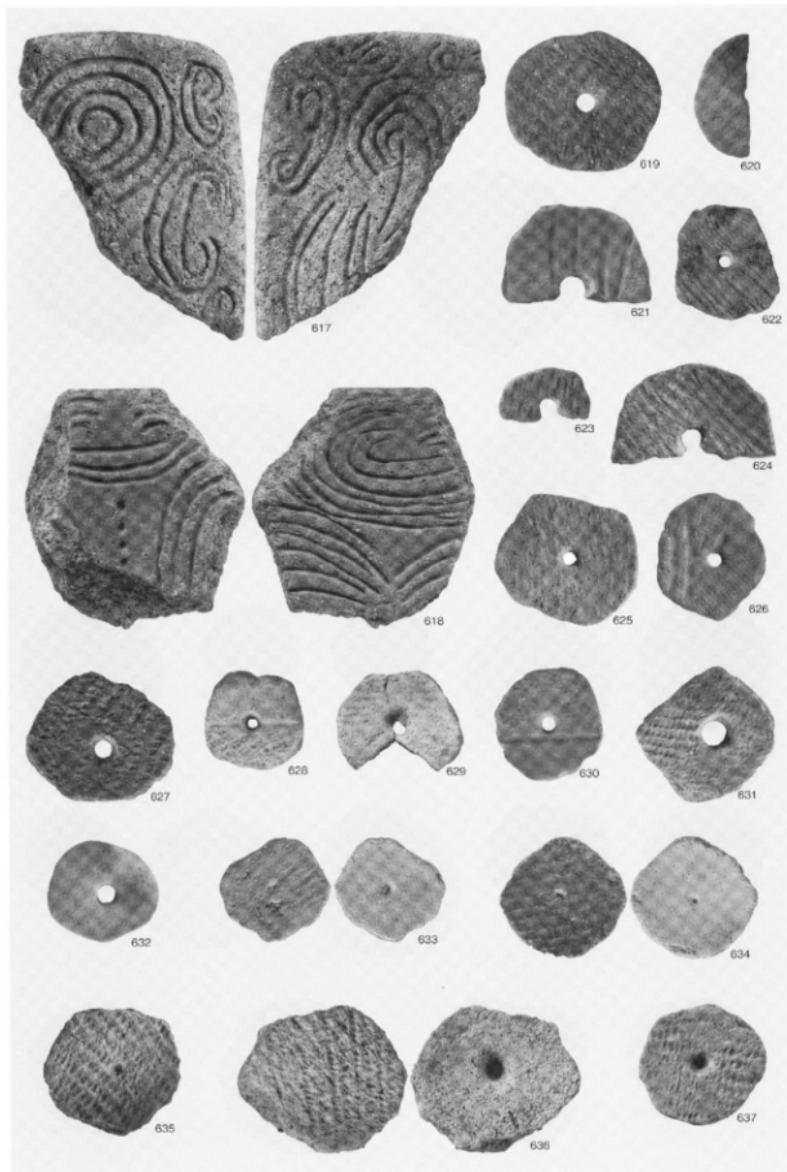
写真図版52 出土石器 (7)



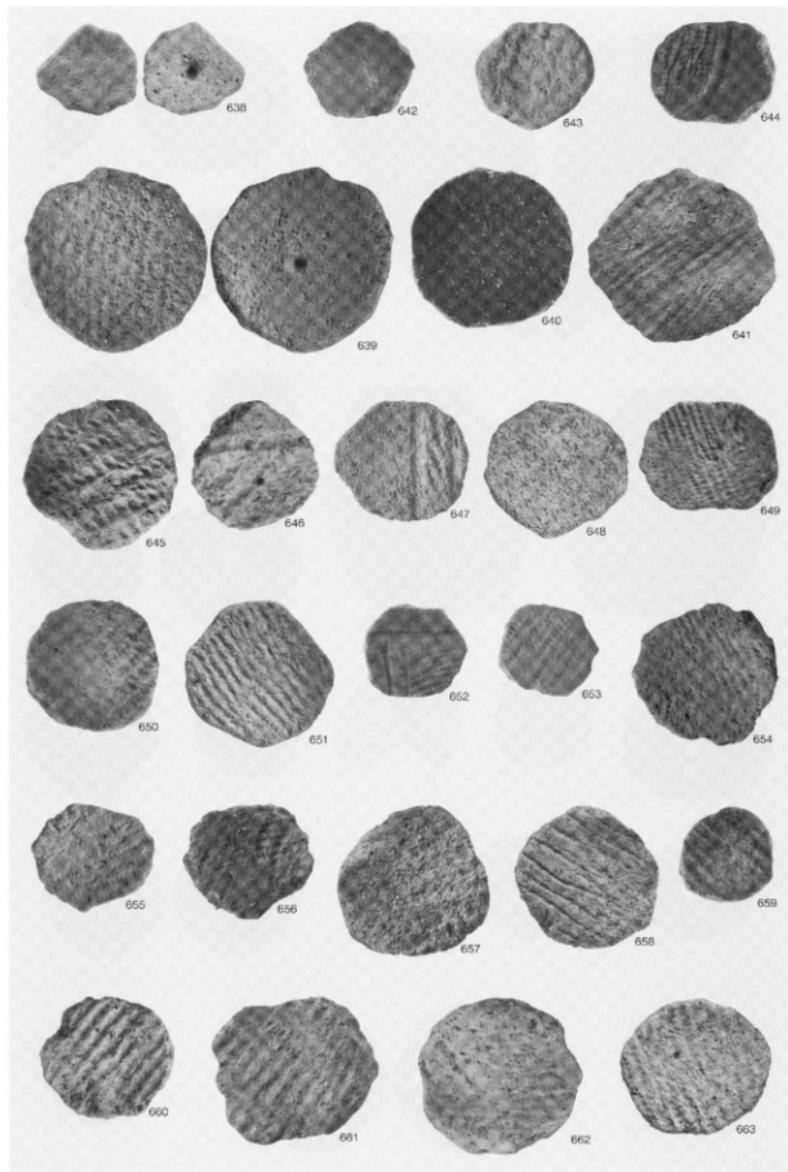
写真図版53 出土石器（8）、出土土製品（1）



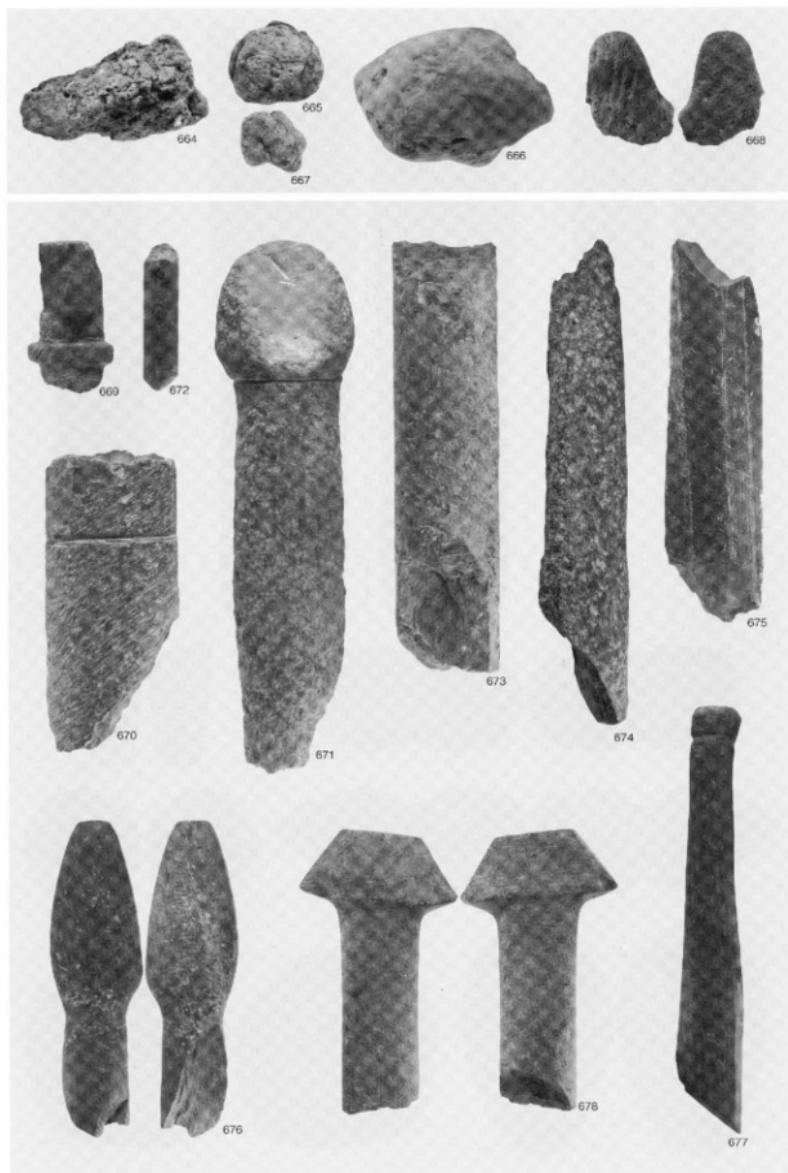
写真図版54 出土土製品（2）



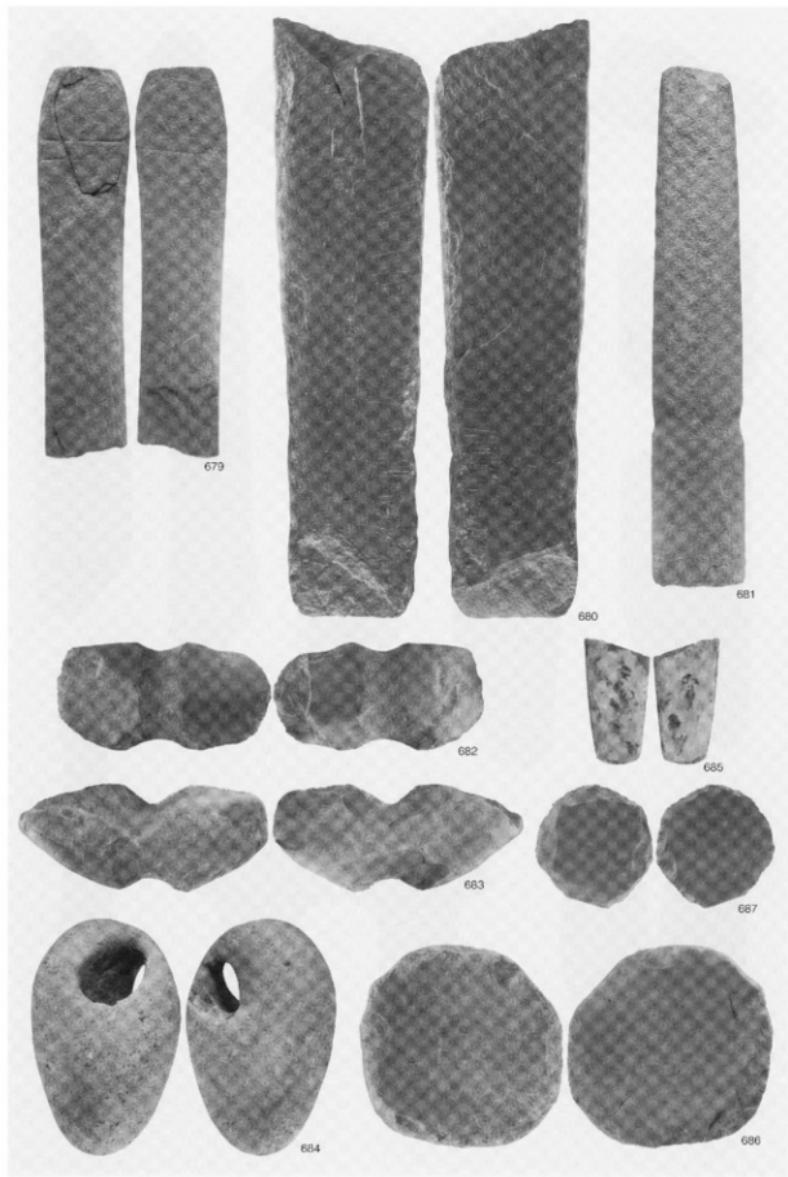
写真図版55 出土土製品（3）



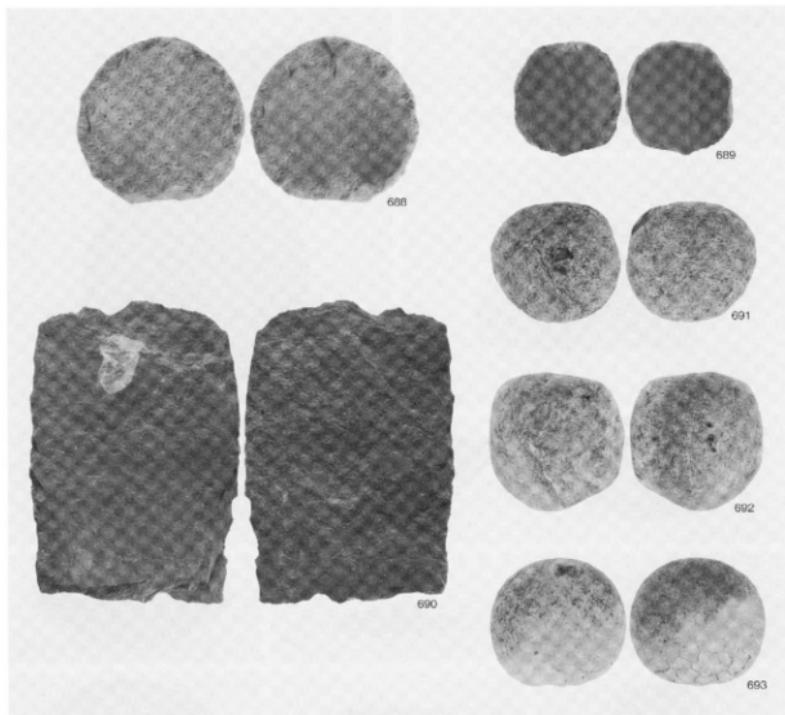
写真図版56 出土土製品（4）



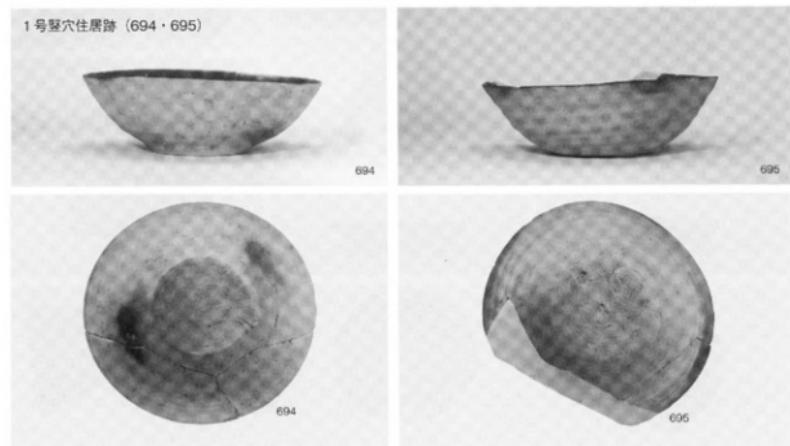
写真図版57 出土土製品（5）、出土石製品（1）



写真図版58 出土石製品（2）

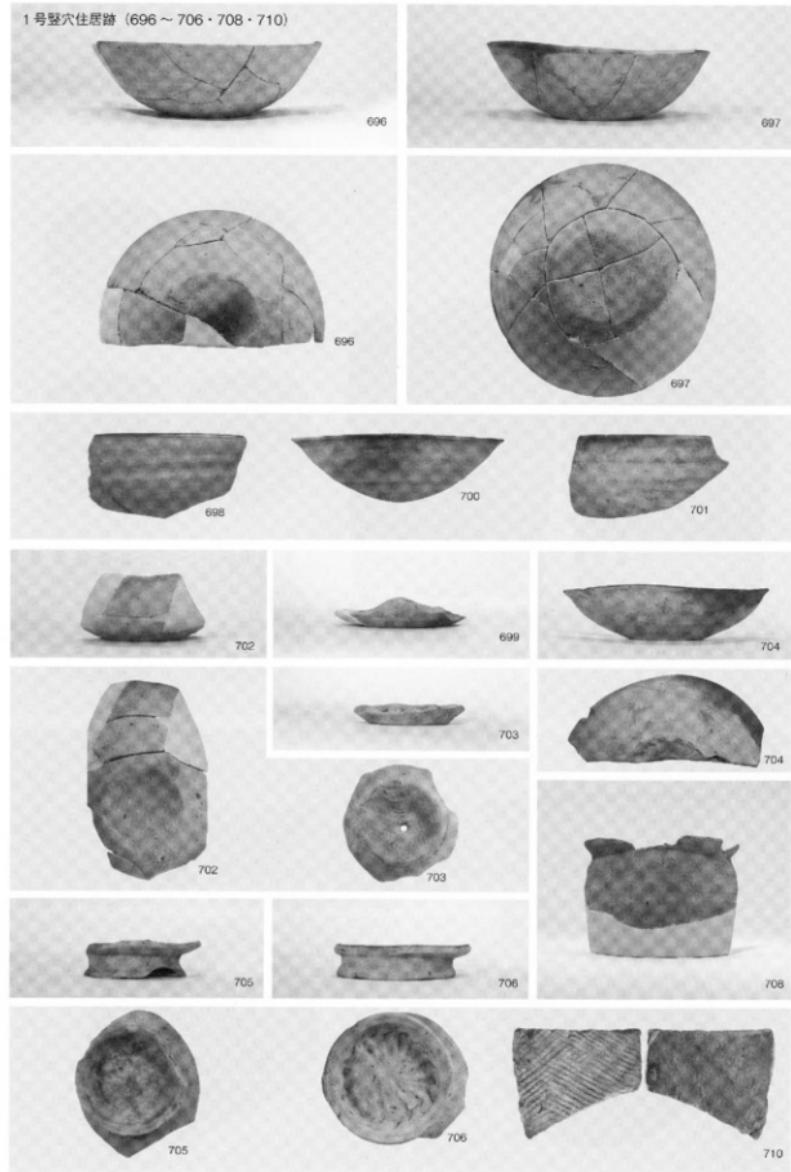


1号竪穴住居跡（694・695）



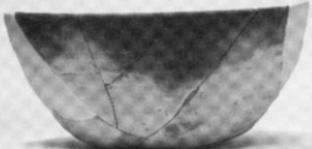
写真図版59 出土石製品（3）、1号竪穴住居跡出土遺物（1）

1号竪穴住居跡 (696 ~ 706・708・710)



写真図版60 1号竪穴住居跡出土遺物 (2)

1号竪穴住居跡 (707・709)



707



707



709

1号土坑 (712・713)



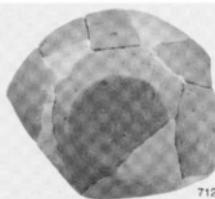
712



713



716



712



717



711

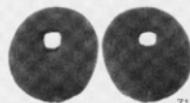
2号竪穴住居跡 (714～718)



714



717



718



715

遺構外 (719)



719



## 報告書抄録

ふりがな 書名 副書名 卷次 シリーズ名 シリーズ番号 編著者名 編集機関 所在地 発行年月日	うのきみなみだいちいせきはっくつちょうさほうこくしょ 鶴ノ木南台地遺跡発掘調査報告書 緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第 581 集 北田 熊・小林弘卓 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 普地 TEL (019) 638-9001 2011 年 3 月 25 日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積	調査原因	
鶴ノ木 南台地遺跡	岩手県奥州市 水沢区黒石町 字鶴ノ木 50-3	32158 NE27-1248	39 度 07 分 28 秒	141 度 11 分 16 秒	2009.08.03 ~ 2009.10.30	1,736m <sup>2</sup>	緊急地方道 路整備事業 に係る発掘 調査	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
鶴ノ木 南台地遺跡	集落跡	縄文時代	堅穴住居跡 土坑 焼土遺構 埋設土器 配石遺構 遺物包含層(捨て場)	1 棟 3 基 13 基 9 基 2 基 2 箇所	縄文土器(早期中 葉、前期初頭~前 期末葉、後期初頭~後 期末葉、晚期前葉~末 葉) 石器(剥片石 器、砾石器) 土製 品(土偶、動物形 土製品、スタンブ 状土製品、上・下版な ど) 石製品(石棒 類、独創状石器、 有孔石製品、円盤 状石製品など)	早期~晚期の遺物包 含層 590 m <sup>2</sup> を確認。 出土土器の主体は後 期中葉~後葉及び晚期 中葉。		
		平安時代	堅穴住居跡 土坑 焼土遺構	2 棟 1 基 1 基	土師器 上鍤	南区から堅穴住居跡 2 棟を検出。		
		平安時代 以降	壙跡 柱穴状ピット	1 条 21 個		鶴ノ木館に関わる遺 構と推定される。		
要約	昭和 38 年に発掘調査が行われた鶴木遺跡の際道を挟んだ東鶴隣接地が今回の調査範囲である。調査区北側の大田代川へ下る斜面を中心に縄文時代早期末葉~晩期中葉の遺物包含層(捨て場)が確認された。主体は縄文時代後期中葉~後葉及び晩期中葉で、大コンテナ総量で約 80 箱の遺物が出上した。平安時代は主に集落が営まれたと考えられ、堅穴住居跡 2 棟を検出している。調査区北側の大田代川へ下る斜面に幅 2.6 m、長さ 17.5 m 以上の堀跡 1 条を検出した。時期を特定できる遺物は出土していないが、本調査区西に鶴ノ木館跡が隣接することから、これに関連する遺構の可能性がある。							

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 581 集

## 鵜ノ木南台地遺跡発掘調査報告書

緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成 23 年 3 月 22 日

発 行 平成 23 年 3 月 25 日

編 集 財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地

電話 (019) 638-9001

発 行 岩手県県南広域振興局土木部

〒 023-0053 岩手県奥州市水沢区大手町 1 丁目 2

電話 (0197) 22-2881

財岩手県文化振興事業団

〒 020-0023 岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号

電話 (019) 654-2235

印 刷 山口北州印刷株式会社

〒 020-0184 岩手県盛岡市青山 4 丁目 10 番 5 号

電話 (019) 641-0585

